

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ 1限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ 2限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ 3限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 寝屋川キャンパス 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。 2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-beingを理解する。 3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。 4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。 <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-8.9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。 3) Well-beingを理解し、実践するよう努める。 			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間) ・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと(2時間)
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる(2時間)
	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: NPOについて調べること(2時間) ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)
	4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化の明暗について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間) ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)
	5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間) ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)
	6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	<ul style="list-style-type: none"> ・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間) ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> ・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること(2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること(2時間)
	8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。 ・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと(2時間) ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと(2時間)
	9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	<ul style="list-style-type: none"> ・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)
	10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	<ul style="list-style-type: none"> ・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間) ・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること(2時間)
	11	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	<ul style="list-style-type: none"> ・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修: ・テキストの指定箇所(pp.164-174)を熟読し、ノートにまとめること(2時間) ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。

				と (2 時間)
	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルを理解する。 マーケティングとコストの関係について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること (2 時間) 事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料 (スライド 12~13) をしっかり読み込むこと (2 時間)
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> 寄付行為の意味を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：寄付の意味を考え、まとめること (2 時間) 事後学修：寄付行為を行う基準を考えること (2 時間)
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 作成したビジネスプランに基づいて発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること (2 時間) 事後学修：ビジネスプランの再考をする (2 時間)
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> イノベーションの意味を再考する。 VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：この授業の学びをまとめること (2 時間) 事後学修を：新たな発見をすること (2 時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリング	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生へのメッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の研究室等	石井研究室 (寝屋川キャンパス、7 号館 5 階)			
備考	<p>予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p> <p>学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。</p>			

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01314a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない？</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめる練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>読解、内容理解、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
11	ローソクの進化①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テストの内容確認																																																																
13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テストの内容確認																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語読解 F II	科目名 (英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF02315a1		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。 																																																																		
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。(発音テストに変更する可能性有) ・Teams を使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>授業の進め方の説明 読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>統計と数字①</td> <td>読解、内容理解、内容をまとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>統計と数字②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>背理法①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>背理法②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>「待つ」こと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>「待つ」こと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>ついでに何を？①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>ついでに何を？②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>ウイルス発見！①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ウイルス発見！②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>大学で学ぶこと①</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>大学で学ぶこと②</td> <td>語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>何のために「学ぶ」のか</td> <td>読解、内容理解</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認	10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認	14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	統計と数字①	読解、内容理解、内容をまとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ (話す)	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
4	背理法①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
6	「待つ」こと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
8	ついでに何を？①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	ついでに何を？②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	語彙テスト内容確認																																																																
10	ウイルス発見！①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ウイルス発見！②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	授業内で使用したプリントを使い復習 + 語彙テスト内容確認																																																																
14	何のために「学ぶ」のか	読解、内容理解	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 新出語彙の確認など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	FF01318a1		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レポート・論文の文体で書ける。 読んだ内容を要約できる。 段落分けして書ける。 経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。 授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。 Teamsを使用する場合、授業内プリントをパワーポイントに変更する。 提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 日本語の文体</td> <td>授業についての説明 日本語の文体について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポート・論文の文体</td> <td>レポート・論文に使われる文体を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>記号の使い方</td> <td>句読点、各種記号の使い方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落①</td> <td>段落構成について学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>段落②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>経過説明①</td> <td>経過説明の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>経過説明②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>分類</td> <td>「分類」をする文の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>定義</td> <td>定義の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>分類・定義</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>引用</td> <td>引用の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>要約①</td> <td>要約の書き方を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>要約②</td> <td>実践練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>資料の利用</td> <td>資料の利用方法を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	段落①	段落構成について学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	段落②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	経過説明②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	定義	定義の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	分類・定義	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
11	引用	引用の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	要約①	要約の書き方を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	要約②	実践練習	授業内で使用したプリントを使い復習 作文課題																																																																
14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語表現作文F II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△○:DP8○		
科目ナンバリング	FF02319a1		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。 ・授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。 ・オンライン授業になった場合、プリントはパワーポイントに変更する。 ・提出物に関しては、提出物の内容を確認後説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>前期で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>発表のFBを元に復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習	13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	前期で使用したプリントを使い復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	序論②	序論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	本論③	本論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	結論②	結論を書く	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	発表のFBを元に復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(60%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう！																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3)作文やレポートなどの書き方の形式の確認および文法など学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A○, A 科: C○, M 科: B2○, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1○, DP7△, DP8△, D 科: DP1○, S 科: DP1○, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1○, DP8○, W 科: DP1○, DP7○, N 科: DP1○, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01316a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。																																																																		
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 ・Teams を使用する場合、授業内プリントはパワーポイントに変更する。 ・小テストのFB に関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち</td> <td>授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>渡り鳥はなぜ迷わない?</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>フリーズする脳</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>「科学」の定義①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>「科学」の定義②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>現代の若者のマナー①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>現代の若者のマナー②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>親孝行な男の子</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>言語と文化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>言語と文化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ローソクの進化①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ローソクの進化②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>「割り勘」は当然?①</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>「割り勘」は当然?②</td> <td>文法項目の解説と練習</td> <td>授業内で使用したプリントを使い復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td>総復習</td> <td>第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習	15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
2	渡り鳥はなぜ迷わない?	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
13	「割り勘」は当然?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
14	「割り勘」は当然?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習																																																																
15	総復習	総復習	第1回～第14回までの文法を中心としたプリントを使い復習																																																																
関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)																																																																		
学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週 1 時間。																																																																		

科目名	日本語文法FⅡ	科目名(英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:E○,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02317a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何をします?①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何をします?②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認(復習)。目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01312a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02313a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1)映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2)映像作品の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8○, W 科: DP1◎, DP7○, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01320a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。			
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。			
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 メモの取り方を学ぶ	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する
	2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
	11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
	12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
	13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
	14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。			
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。			
担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)			
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。			

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ○,Ⅳ○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:Ⅲ○,Ⅵ○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	FF02321a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果(資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用する語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用する語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用する語彙を復習し、覚える	10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用する語彙を復習し、覚える	11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																														
3	トピック2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック4-1	ABDについて	授業で使用する語彙を復習し、覚える																																																														
10	トピック4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用する語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点(アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業において課される課題30%、授業への取り組み30%、発表40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室(2号館2階)
----------	--------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	--------------------

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	FF01322a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	乾 友紀
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF02323a1		

授業概要・目的	日本での就職活動及びビジネス場面において必要な表現や文型、言葉遣い等について学び、メールやエントリーシート、電話応対、プレゼンテーションなどで求められる日本語力を身につける。留学生が日本で働く上で直面しそうな問題を想定してその対処について考える。
到達目標	就職活動やビジネス場面で必要な日本語表現を使用することができる。 異文化接触場面における課題に対処することができる。
授業方法と留意点	教師が準備した資料をもとに講義、ディスカッション、ロールプレイ等を行う。
科目学習の効果 (資格)	日本の就職活動及びビジネス日本語・ビジネスマナーについて知識を得ることによって、日本企業で働く上で求められる知識や日本語力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 授業の説明 日本語のレベルチェック	授業の説明 日本語レベルチェックテストの実施
2	日本の就職活動の流れ 日本の企業文化	日本の就職活動について概観し、企業文化について学ぶ	授業で提示した課題
3	就職活動における(目上の人に対する)メールの書き方	就職活動における(目上の人に対する)メールの書き方を学ぶ	語彙、表現力の復習 授業で提示した課題
4	エントリーシート(履歴書、自己PR、志望動機)の書き方	エントリーシートの書き方を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
5	集団面接(グループディスカッション)	グループディスカッション	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
6	個人面接における日本語表現	面接での受け答えに使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
7	異文化コミュニケーション(間接的な表現)	異文化コミュニケーションについて学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
8	初対面での日本語表現	自己紹介をする、名刺交換をする	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
9	電話応対における日本語表現	電話応対に使用する日本語を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
10	アドバイスをする/受ける時の日本語表現	アドバイスをする/受ける時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現の復習 授業で提示した課題
11	会議に参加する時の日本語表現	会議で使用する日本語報告をする・自分の意見を述べる)を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
12	依頼をする時の日本語表現	依頼をする時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
13	許可を求める時の日本語表現	許可を求める時の日本語表現を学ぶ	語彙、表現等の復習 授業で提示した課題
14	発表準備	資料作成	発表資料を作成する
15	発表	授業を通して学んだ知識やスキルについて発表する	今学期に学んだことを振り返る。

関連科目 専門日本語 F I

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内での取り組み及び課題の提出物 (50%)、小テスト (30%)、発表 (20%)により総合的に判断する。
学生へのメッセージ	授業では積極的に発言することが求められます。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	(1) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。 (2) 受講生数や授業進度、参加学生のニーズによって授業内容を変更することがある。 (3) 授業外の質問等には、メールで対応する。

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	角田 麻美
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III○, IV○, R 科: A◎, A 科: C◎, M 科: B2◎, E 科: E○, C 科: III○, VI○, L 科: DP1◎, DP7△, DP8△, D 科: DP1◎, S 科: DP1◎, P 科: DP2△, DP4△, J 科: DP1◎, DP8◎, W 科: DP1◎, DP7◎, N 科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	FF01324a1		

授業概要・目的	この授業では身の回りの出来事やニュースなどを題材にし、身近な話題を分かりやすく人に伝えるとともにテーマに基づいて意見交換ができるように、日本語の表現力やコミュニケーションスキルを高めることを目的とします。 また、大学生活で必要となるプレゼンテーション能力の習得も目指します。																																																																		
到達目標	1. 身の回りの出来事やニュースを分かりやすく説明することができる 2. テーマに関する自分の意見を、根拠を示しながら述べるができる 3. 自分と異なる意見を聞き、それを取り入れながら話を進めることができる 4. 集めた情報を整理してプレゼンテーションを行うことができる 5. プレゼンテーションに対して適切なコメントを返すことができる																																																																		
授業方法と留意点	ペアワークやグループワーク等、受講生同士が話すことを中心に進めます。 教員は適宜フィードバックを行います。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 自己紹介</td> <td>授業の進め方と評価の説明 自己紹介</td> <td>自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッションの基本</td> <td>ディスカッションの表現や進め方を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ディスカッション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ディスカッション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ディスカッション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ディスカッション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中間課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中間課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>プレゼンテーションの基本</td> <td>プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>プレゼンテーション①</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>プレゼンテーション②</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>プレゼンテーション③</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>プレゼンテーション④</td> <td>ペアワーク/グループワーク</td> <td>授業内で指示する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>最終課題の準備</td> <td>資料作成</td> <td>発表の練習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>最終課題</td> <td>発表</td> <td>発表の振り返り</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく	2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する	3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習	8	中間課題	発表	発表の振り返り	9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する	10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する	14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習	15	最終課題	発表	発表の振り返り
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 自己紹介	授業の進め方と評価の説明 自己紹介	自己紹介の準備 自分の興味や関心について話せるようにしておく																																																																
2	ディスカッションの基本	ディスカッションの表現や進め方を学ぶ	授業内で指示する																																																																
3	ディスカッション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
4	ディスカッション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
5	ディスカッション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
6	ディスカッション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
7	中間課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
8	中間課題	発表	発表の振り返り																																																																
9	プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの技法や構成を学ぶ	授業内で指示する																																																																
10	プレゼンテーション①	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
11	プレゼンテーション②	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
12	プレゼンテーション③	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
13	プレゼンテーション④	ペアワーク/グループワーク	授業内で指示する																																																																
14	最終課題の準備	資料作成	発表の練習																																																																
15	最終課題	発表	発表の振り返り																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業への出席および取り組み 30%、中間課題 30%、最終課題 40%で評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等により内容や進度を調整することがあります。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前事後学習時間の目安は毎週1時間。																																																																		

科目名	日本語会話 F II	科目名 (英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V 科: III o, IV o, R 科: A o, A 科: C o, M 科: B2 o, E 科: E o, C 科: III o, VI o, L 科: DP1 o, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科: DP1 o, S 科: DP1 o, P 科: DP2 Δ, DP4 Δ, J 科: DP1 o, DP8 o, W 科: DP1 o, DP7 o, N 科: DP1 o, DP8 Δ0 : DP8 o		
科目ナンバリング	FF02325a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラを ON にすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体) を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	日本語文法R	科目名 (英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	佐々木 成美
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1329a1		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 主に講義形式で行う。教員による解説と練習を繰り返しながら進める。 オンライン授業に変更になった場合、プリントの代わりにパワーポイントを使用する。 小テストのFBに関しては、次週間違えた箇所を中心に説明を行う。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	8	ついでに何を？①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	9	ついでに何を？②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	10	ウイルス発見！①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	11	ウイルス発見！②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	14	何のために「学ぶ」のか	文法項目の解説と練習	授業内で使用したプリントを使い復習
	15	総復習	総復習	授業内で使用したプリントを使い復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語学校で教えた日本語教育経験、日本語教師としての経験を授業で生かします。日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。 (3) 授業内で使用したプリントを使い文法の確認 (復習)。目安は毎週1時間。
----	--

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1326a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	映画 1 : テーマ「大学生生活」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	映画 1 : テーマ「大学生生活」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	映画 1 : テーマ「大学生生活」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	映画 2 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	映画 2 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	映画 2 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	映画について発表 (1)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間)
13	映画について発表 (2)	発表、質疑応答	各自発表準備、フィードバック (計 2 時間) (計 2 時間)
14	映画について発表 (3)	発表、質疑応答	原稿修正、レポート (計 2 時間)
15	総まとめ	ディスカッション	サイトに投稿する (計 2 時間)

関連科目 日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社	
3				

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映像作品を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関で多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説をしながら、インタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情R II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー(DP)	V科:III○,IV○,R科:A◎,A科:C◎,M科:B2◎,E科:EO,C科:III○,VI○,L科:DP1◎,DP7△,DP8△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1◎,DP8◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎,DP8△0:DP8○		
科目ナンバリング	RRE2327a1		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画・ドラマなどの映像作品を視聴して観察したり考察したりします。またテキストの講読、映像作品の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	・各映像作品について次のように進めます。(1)映像作品についての情報・その他背景知識について説明 (2)映像作品の場面をいくつか視聴・内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3)テーマについてディスカッション (4)「書く」練習 提出されたレポートについては次の授業時間にフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (1.5 時間)
2	1 : テーマ「家族」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
3	1 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
4	1 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
5	2 : テーマ「教育」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
6	2 : テーマ「教育」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
7	2 : テーマ「教育」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備 テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) (計 2 時間)
8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
9	3 : テーマ「言葉」	映像作品についての情報・背景解説、内容理解	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (計 2 時間)
10	3 : テーマ「言葉」	内容理解、タスク	テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる)、プリントの課題 (1.5 時間)
11	3 : テーマ「言葉」	タスク、ディスカッション	テーマについてレポート (映像視聴、レポートを書く) テキスト予習 (2~3 ページ分読んで内容を理解する。漢字の読み方、語彙の意味を調べる) (計 2 時間)
12	日本での経験	内容について検討	テーマを考える、内容について調べる (計 1.5 時間)
13	日本での経験	ディスカッション、文章作成	受講生の文章にコメントする (計 1.5 時間)
14	日本での経験	作文内容についてグループワーク、文章修正	文章修正、発表準備 (計 1.5 時間)
15	発表 (新聞に投稿する)	発表、質疑応答、	文章修正、投稿する (計 1.5 時間)

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文、専門日本語、日本語会話
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
学生への メッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 海外、日本国内の日本語教育機関での多様な外国人日本語学習者に教えた経験を生かし、具体的に解説しながらインタラクティブに授業を進めていきます。
担当者の 研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本語総合R	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1331a1		

授業概要・目的	発表に適したレジユメの作成方法を学ぶ。 アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	資料を読み、内容を理解し、他者にわかりやすく発表できる。 発表に適した資料を作成することができる 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	様々な文章を読み、その内容をレジユメにまとめ、口頭で発表する。 課題のフィードバックは授業中に行う。

科目学習の 効果 (資格)																																																																	
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業概要説明 ウォーミングアップ</td> <td>授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について</td> <td>自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>トピック 1</td> <td>他者にわかりやすいレジユメ</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>トピック 2-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>トピック 2-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>トピック 2-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>トピック 3-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>トピック 3-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>トピック 3-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>トピック 4-1</td> <td>ABDについて</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>トピック 4-2</td> <td>本を読み、発表用資料を作成する</td> <td>授業で使用した語彙を復習し、覚える</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>トピック 4-3</td> <td>資料を用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>トピック 5-1</td> <td>文章を読み、レジユメを作成する</td> <td>レジユメ作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>トピック 5-2</td> <td>作成したレジユメを用い、発表する</td> <td>発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>トピック 5-3</td> <td>作成したレジユメの改善</td> <td>よりよい発表のために必要なことをまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの授業のふりかえり、今後に向けて</td> <td>注意点を復習する</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する	2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成	3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える	10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える	11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成	13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する	14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる	15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																														
1	授業概要説明 ウォーミングアップ	授業の進め方、自己紹介 レジユメ作成について	自己紹介での語彙や文体の選び方を復習する																																																														
2	トピック 1	他者にわかりやすいレジユメ	レジユメ作成																																																														
3	トピック 2-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
4	トピック 2-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
5	トピック 2-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
6	トピック 3-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
7	トピック 3-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
8	トピック 3-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
9	トピック 4-1	ABDについて	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
10	トピック 4-2	本を読み、発表用資料を作成する	授業で使用した語彙を復習し、覚える																																																														
11	トピック 4-3	資料を用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
12	トピック 5-1	文章を読み、レジユメを作成する	レジユメ作成																																																														
13	トピック 5-2	作成したレジユメを用い、発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する																																																														
14	トピック 5-3	作成したレジユメの改善	よりよい発表のために必要なことをまとめる																																																														
15	まとめ	これまでの授業のふりかえり、今後に向けて	注意点を復習する																																																														

関連科目	
------	--

教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田講師室 (2号館2階)
----------	---------------

備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1時間。
----	---------------------

科目名	専門日本語R	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	塩谷 尚子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△○: DP8○		
科目ナンバリング	RRE1332a1		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。 ハンドアウトを使用する。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	様々なコミュニケーションの形式の復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	Eメールで使われる形式、表現等の復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	レポート提出に必要な語彙、表現の復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	依頼メールに必要な語彙、表現の復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	依頼メールの書き方の復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	問い合わせ、質問メールに必要な語彙、表現の復習
	7	中間試験 話し方1	話題の変え方	話題を変える時に必要な語彙、表現の復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	話の終わらせ方で必要な語彙、表現の復習
	9	話し方3	話の広げ方	話の広げ方で必要な語彙、表現の復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	自己PRに必要な項目を復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	自己PRに必要な語彙、表現の復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	自己PRに必要な形式、書き方の復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	自己PRの書き方の復習
	15	期末試験 総復習	総復習	今学期で学んだことを振り返る。

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み、課題の提出物等 (40%)、定期試験 (60%) により総合的に判断する。
-----------	---

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。 またその際に必要な表現をしっかりと確認してください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。 (3) 事前事後学習時間の目安は毎週1時間。
----	---

科目名	日本語会話R	科目名 (英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	V科: III○, IV○, R科: A◎, A科: C◎, M科: B2◎, E科: E○, C科: III○, VI○, L科: DP1◎, DP7△, DP8△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1◎, DP8◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎, DP8△0 : DP8○		
科目ナンバリング	RRE1333a1		

授業概要・目的	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。
到達目標	まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができる。 適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。 オンライン授業になった場合は授業中はカメラをONすることを求めます。 カメラのない学生は、必ず事前に用意をしておくこと。 課題のフィードバックは授業中に行う。 ノートパソコンかタブレットを持参すること。(持っていなければスマートフォンでも可)
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック 1-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
3	トピック 1-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
4	トピック 2-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
5	トピック 2-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
6	トピック 3-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
7	トピック 3-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
8	トピック 4-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
9	トピック 4-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
10	トピック 5-1	内容を聞き取りメモを取る 発表に使われている表現を聞き取る	授業で使用した語彙を復習し、覚える
11	トピック 5-2	前回聞いた内容について発表する	発表の際の注意点 (アイコンタクト、身振り、文体)を復習する
12	発表資料の作り方	発表資料の作り方について学ぶ	発表テーマを決めておく
13	発表準備 1	発表資料の作成	発表資料の作成 (残り)
14	発表準備 2	発表資料の修正	発表練習 (文体に気を付ける)
15	口頭発表	発表 質疑応答 振り返り	質疑応答の仕方について復習する

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。 これまでの日本語教育の経験を生かし、受講生の希望によって、適宜、授業内容を変更します。
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習時間の目安は毎週 1 時間。 口頭発表は、最終授業日に行なう。

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通じて、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	中学校教員免許 (社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく(3時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく(1時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む(3時間)
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく(3時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく(2時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく(1時間)。事後、興味を持った実践について調べる(2時間)。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。

				り返りを行う (2 時間)。
関連科目	社会科学教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案 (50%) とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題 (50%) で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはない ということを知ってもらいたいと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法及び留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとにTeams上で共有する。
科目学習の効果(資格)	中学校教員免許(社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく(2時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
	2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく(1時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
	3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する(2時間)。
	4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく(2時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
	5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方/北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア/アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ/オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う(4時間)。	

関連科目	社会科学教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案 (50%) とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題 (50%) で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>自ら教材を見つけることで、社会科学の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</p>			
担当者の 研究室等 備考	7 号館 2 階 非常勤講師室			

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。

到達目標
本講義の到達目標は以下の通りです。
(1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。
(2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
(3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。

授業方法と留意点
まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。

科目学習の効果 (資格)
中学校 1 種「社会」、高校 1 種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う (事前課題)。
15	総括—社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目
社会科・公民科教育法 I、社会科・公民科教育法 II は「I → II」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。		
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。		

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育(主権者教育)の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育、シティズンシップ教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

到達目標
 本講義の到達目標は以下の通りです。
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
 (4) 政治教育、市民性教育(シティズンシップ教育)についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

授業方法と留意点
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

科目学習の効果(資格)
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目
 原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文芸出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文芸出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート(30%)、模擬授業(50%)、平常点:授業への貢献度等(20%)。 出席については全体の80%以上の出席(15回中12回以上)が必須。 出席率が80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。 ・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみる事が大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

到達目標
1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する

授業方法と留意点
講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果（資格）
教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目
すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。
到達目標	①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。 ④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域
授業方法と留意点	・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。 ・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事項についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。 ・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。 ・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。 ・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を
科目学習の効果(資格)	(1)高等学校教諭1種免許状 (2)中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目:教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項:教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変遷②	トラッキングやメリトクラシーの問題から、日本におけるキャリア教育について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間)

				事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
	15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題:授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間) 期末課題に備えて、先行研究涉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5時間)

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣
	2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣
	3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣

評価方法(基準) 授業後課題(45%)・期末レポート課題(55%)
※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。

学生へのメッセージ	
担当者の研究室等備考	3号館3階・竹中研究室

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1・第8章、配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第9章、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能、言語理解・言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	Teams コード 火曜 5 限: o3hr1s8 木曜 1 限: 9oex0u1 木曜 5 限: j4uz0u4 金曜 5 限: 8h3rwzd
----	---

	Moodle コース名と登録キー 火曜 5 限：2024 教育心理学 (火 5) あるいは 24 教心 (火 5) 2024EPTUE5 木曜 1 限：2024 教育心理学 (木 1) あるいは 24 教心 (木 1) 2024EPTHU1 木曜 5 限：2024 教育心理学 (木 5) あるいは 24 教心 (木 5) 2024EPTHU5 金曜 5 限：2024 教育心理学 (
--	--

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めると遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第1章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝えるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめた発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝えるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)

			題点を明らかにする。																	
	15	発達障害等に対する指導技法 まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしく学ぶ教職課程特別支援教育</td> <td>是永かな子他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社	2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かな子他	学文社																	
2	特別支援学校幼稚部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程 (カリキュラム) は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも1冊は入手すること (栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと)。 (3) 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程 (カリキュラム) とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定 (成績づけ) とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特質、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
6	カリキュラム編成原理1: 経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特質と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
7	カリキュラム編成原理2: 系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特質と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
8	日本における学習指導要領の歴史1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
9	日本における学習指導要領の歴史2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを作成する (20時間)
12	総合的な学習 (探究) の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習 (探究) の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを改稿し提出する (10時間)
15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) 定期試験に向けた準備をする (15時間)

関連科目 同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	<p>(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。</p> <p>(2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。</p> <p>評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に依りて変更することがある。			

科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができる
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみる事が大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodology of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。
 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

到達目標
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。
 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成する

授業方法と留意点
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

科目学習の効果 (資格)
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グループワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をするをする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グループワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景のと関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グループワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

関連科目
 すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育社会学などの学習につなげることが大切である。

教科書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う(10時間)	
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用(デジタル教材を含む)に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間)	
15	総括：教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する(1時間) 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する(15時間)	

関連科目 同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では1単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および10分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせはTeamsを通して連絡します。必ずTeamsに登録してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を60時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>昨今、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通じたキャリア教育の実現に寄与する。</p>
到達目標	<p>本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は対面形式で行う。PowerPointを用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teamsのファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションやKJ法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の定義と目的 生徒指導の構造 (2軸3類4層構造) チーム支援による組織的対応 	教科書P.12～38 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達を支える教育課程 教科、道徳科、総合的な学習 (探求)の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連 	教科書P.39～67 学習課題：探求学習の4STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	<ul style="list-style-type: none"> チーム学校における学校組織と生徒指導体制 生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援 	教科書P.68～118 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策推進法 いじめに関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.119～140 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	<ul style="list-style-type: none"> 暴力行為に対する対応指針 暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造 関係機関等との連携体制 	教科書P.141～152 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	<ul style="list-style-type: none"> 少年法と児童福祉法 少年非行の基本的な対応 喫煙、飲酒、薬物乱用 特定少年 	教科書P.153～170 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> 児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律 学校の体制 虐待対応に対するアセスメント 	教科書P.171～188 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	<ul style="list-style-type: none"> 自殺対策基本法 自殺防止のための学校の組織体制と計画 関係機関との連携に基づく自殺予防の体制 	教科書P.189～208 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> 中途退学の関係法規と基本方針 インターネット問題への組織的取組 各課題に対する重層的支援構造 	教科書P.209～220, P.240～254 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	<ul style="list-style-type: none"> 不登校に関する関係法規と基本方針 不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画 関係機関との連携体制 	教科書P.221～239 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> 性に関する課題 発達障害に関する課題 支援を要する家庭状況 外国人児童生徒 	教科書P.255～289 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育とは何か 進路指導とキャリア教育の歴史的背景 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：4領域8能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4領域8能力」	<ul style="list-style-type: none"> 4領域8能力 基礎的、汎用的能力 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	<ul style="list-style-type: none"> 中学校におけるキャリア発達 高等学校におけるキャリア発達 校種間連携 	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の諸課題 進路指導とキャリア教育の結び付き 総括 	学習課題：第1～14回で最も関心のあるトピックを1つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			

科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と「問題」への対応について、実践的な取り組み方を考える。

到達目標
 ① 幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。
 ② 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。
 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。

授業方法と留意点
 講義と演習を組み合わせで行う。講義の資料は、事前に Moodle で配付するので、各自入手しておくこと。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造、チーム支援の意義、チームの作り方	テキスト第 1 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際 1	チーム支援のプロセス、アセスメント	テキスト第 1 講・第 10 講・第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際 2	チーム支援の実際	テキスト第 1 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講、配付資料を用いた予習・復習

関連科目 教職課程の科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 [第 2 版]	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) グループ発表 50%、期末試験 50%

学生へのメッセージ これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	<p>グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。 グループ内ではピア評価を行います。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</p> <p>Teams コード 月曜2限: xfdelyw 火曜2限: mi255ww 木曜1限: irmdqxv 木曜4限: ui2p7a7</p> <p>Moodle コース名と登録キー 月曜2限: 2024 教育相談 (月2) あるいは 24 教育相談 (月2) 2024ECMON2 火曜2限: 2024 教育相談 (火2) あるいは 24 教育相談</p>

科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得と課題対応能力の向上を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭・校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、レポートの提出を求める。質疑応答等についても対面講義の中でを行い、実践的な能力の向上を図る。また、小テストも実施する。
科目学習の効果 (資格)	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	工業教育の意義・歴史・法令関係 <意義・役割・目標・内容等>	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
3	工業教育の意義・歴史・法令関係 <意義・役割・目標・内容等>	工業教育における技術者倫理の育成について解説する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
4	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
5	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (新旧教育基本法の比較等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
6	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (学校教育法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
7	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (学校教育法施行規則、地教法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
8	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領総則関係)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
9	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (工業高等学校の目標等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
10	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (高等学校学習指導要領解説工業編)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
11	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代初期の工業の教育等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
12	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代中期以降の工業の教育等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
13	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
14	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	工業高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
15	教科・工業の内容関係 <教科・工業の共通科目>	工業技術基礎および課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議を行う。 工業科教育法 I で学習したことをまとめる。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)

関連科目	教職に関連する科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社
評価方法 (基準)	提出物 70%、小テスト 30%により評価する。			
学生への メッセージ	工業教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館			
備考	連絡は 3 号館 1F 教務課へ			

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
工業科教育法Ⅱでは外国や専門学校における工業教育、さらに、工業高等学校における学習指導・学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価・授業改善、進路指導等について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。
授業担当者の工業高等学校教諭・校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。

到達目標
工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。

授業方法と留意点
パワーポイントを併用した講義を行い、模擬授業も行う。

科目学習の効果 (資格)
高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(韓国)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
2	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(アメリカ)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
3	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(ドイツ)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
4	専修学校について	専修学校等などの工業教育の内容について説明する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
5	教材・教具と報告書について	工業高等学校における教材・教具と報告書について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
6	安全教育について	工業高等学校における安全教育について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
7	授業と学習指導案について	工業高等学校における授業と学習指導案について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
8	学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について	工業高等学校における学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 学習指導案の作成(2時間)
9	模擬授業1と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
10	模擬授業2と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
11	模擬授業3と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
12	模擬授業4と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
13	模擬授業5と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
14	模擬授業6と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
15	工業科教育法Ⅱのまとめ	工業高校における工業教育について研究協議を行う。	参考書等で事前学習(4時間)

関連科目
教職に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省		
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社	

評価方法 (基準)
提出物50%、模擬授業50%により評価する。

学生へのメッセージ
工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。

担当者の研究室等
非常勤講師室、図書館

備考
連絡は3号館1F教務課へ

科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する30分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけでなく、15回の授業の後半でのマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。加えて、レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視覚教材を用いた講義も行う。課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学)) 数学科教育法 I の内容は数学科教育法 II へつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数		学校図書

		学編 理数編		
	2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編		東洋館出版社
	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編		日本文教出版
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。			
学生へのメッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループ活動においては、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。			

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅱでは、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画を立て、学習指導案（指導細案）を作成し、約50分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	授業では、講義だけでなくグループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（高等学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、 学び方、ガイダンス、 全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだ と思うこと」とは、また「授業以外に学 ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはに ついて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、 論理的に考える態度の育成」とは、また 「人やものと関わる力を高めるための 体験」とはどのようなものであるかを考 える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識 が引き出されているか具体例を挙げ、教 学的思考の構成過程を振り返って、当初 の事象にどのように活用されているか を考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、 B、数学活用」や専門科目「理数」の各々 について、その理念と意義及び目標・内 容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識で テーマをたて「自分が求める数学教育」 を設定し、各自のたてた学力観から教授 モデルや評価のあり方についてさらに 考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身に つけさせることができる「各自の行いた い教育コースウェア」を開発するプロ ジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価につ いて考え、教育課程、年間指導計画、単 元計画、本時の学習についての学習指導 案・学習指導細案・ワークシート・板書 計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教 育コースウェアについてバズ式セッシ ョンで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自 の考えた教育コースウェアを修正し、 「50分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」 「ルーブリック」等で評価を行い、観点 別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題 解決学習を完結し、一人ひとりの 「Plan-Do-Check-Action のサイクル」 をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教 育力（授業改善力・評価力等）育成のた めの方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領に ついて体系的な知識を身につけ、「生き る力」や「確かな学力」について考えを	課題レポート

	まとめ、各自の「学力観」を立てる。			
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法 I を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編		学校図書
	2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編		東洋館出版社
	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編		日本文教出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。			
学生へのメッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。			
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。			

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>・数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。</p> <p>・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。</p> <p>・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ形成時にはその学習を協力的体制を重視し、プレゼンテーション・模擬授業を通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。</p> <p>・校種間の連携も考え、特に、小学校の学習・指導についても学ぶ。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導の理解 ・数学的な活動の理解と体得 ・授業力の理解とその育成 ・模擬授業の基礎力 ・評価と評定についての理解
------	--

授業方法と留意点	<p>受講生数によっては、グループ学習・活動を実施することもある。</p> <p>設定した課題（学習単元の指導法など）に積極的に取り組む。</p> <p>成果として、発表・レポートの提出を求める。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	<p>「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（中学校一種免許（数学））</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
2	数学教科書分析 (1)	学習指導要領などを基に教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
3	数学教科書分析 (2)	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
4	学習指導案作成	典型的な学習指導案の作成について学ぶ。(学習指導要領から目標などを学ぶ。)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
5	教科書分析・模擬授業に関わる考察 (1)	各自の発表に関して、該当単元設置の目的、注意点についてまとめ、発表する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
6	教科書分析・模擬授業に関わる考察 (2)	相互の準備状況について意見交換を行い、発表に備える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
8	模擬授業 (・プレゼンテーション)・グループ学習 (1)	各自の求める数学教育像の一つとして、「10or15 分間の模擬授業」をまとめ、実践する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
9	模擬授業 (・プレゼンテーション)・グループ学習 (2)	グループ員各々の模擬授業を「学ぶもの」の立場、「同僚 (教えるもの) としての立場」で相互評価し、自己評価を加えて総合的にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
10	模擬授業 (・プレゼンテーション)・グループ学習 (3)	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
11	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 学習指導要領の下、戦後の数学教育の発展に考察する。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
12	数学教材とその応用 (1)	教科横断型、学年・校種を越えた数学教育の探求授業について考察していく。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
13	数学教材とその応用 (2)	数学教材 (発展的内容を含む) の一分野を基に教育・指導観を吟味する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
14	数学教材とその応用 (3)	数学教材 (発展的内容を含む) の一分野を基に課題研究に取り組む準備を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (240分)

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中等数学科教育法序論</td> <td>黒田恭史</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中等数学科教育法序論	黒田恭史	共立出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	中等数学科教育法序論	黒田恭史	共立出版														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬授業関係を含む発表 (30%) ○ 受講生同士の連携など (10%) ○ 学習状況・レポート (60%) <p>※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う</p>																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ○ まずは、教育実習に対応できる教科指導法を身につける。 ○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、新しい教材開発など積極的な活動を求める。 																
担当者の 研究室等	<p>対応は、当該講義内が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、指定メールを利用してお問い合わせください。</p>																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。 ○ 第1回目に本授業に関する説明を行います。教科書準備などはその後に判断してください。 ○ 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 																

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>数学科教育法Ⅳでは、中学校・高等学校の数学科教員を目指し、実際に教科教育を担当できるようにするための高度な実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培ってきた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。</p> <p>具体的には、探求型授業の取り組みなど行うために自らが題材設定し、その題材を様々な角度から分析・教材開発していく。また必要に応じてグループ活動を学習形態に取り入れ、学習意欲が高まり、自ら学び自ら考える力を育てられるよう工夫を行う。また、高度化された教科内容あるいは教科横断的教科内容を 取り入れることもある。</p> <p>受講生は、それらを自己評価、あるいは相互に評価し合い、より完成度の高い授業を構築する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校学習指導要領 (数学) の内容の体得 ・数学的な活動を含んだ教育教育についての理解 ・学習指導案の作成力 ・マイクロティーチングの実践力 ・各領域における一層の理解 (高度化された教育内容・教科横断的学習を含む)
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養を目指す。
科目学習の効果 (資格)	<p>「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許 (数学))</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
2	・テーマ決め(1) (含:学習指導要領の概括)	中・高等学校数学の学習内容を改めて概括、領域の確認を行う。 発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
3	・テーマ決め(2)	発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
4	数学設定テーマ内容深化 (1)	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
5	数学設定テーマ内容深化 (2)	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
6	数学教材の応用	例示されたテーマで本授業の進め方を知り、各テーマのこれから進め方について確認する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
7	数学設定テーマと学校数学教材 (1)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
8	数学設定テーマと学校数学教材 (2)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
9	数学設定テーマと学校数学教材 (3)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第3グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
10	数学科指導案作成	これまでの学びを基に、テーマに沿って授業内容を構成する。 (予備発表を行うこともある)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
11	数学設定テーマの最終発表 (1)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
12	数学設定テーマの最終発表 (2)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
13	数学設定テーマの最終発表 (3)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第3グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
14	数学設定テーマ報告書について	設定テーマで報告書を作成し、その内容について、討議なども可能な限り行い修正の後、完成に近づける。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)	
15	まとめ	数学教育に必要な体系的な知識を身に	授業終了時に示す課題についてレポートの作成	

			つけ、「生きる力」や「確かな学力」についても考慮し、教育者としての基盤を確立、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	(240分)
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中等数学科教育法序論	黒田 恭史	共立出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 模擬授業関係を含む発表 (30%) ○ 受講生同士の連携など (10%) ○ 学習状況・レポート (60%) ※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校・高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し、問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。			
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。 ○ 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。 			

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

理科教育法は中等教育において理科教育を如何に行うかを考え、教育現場で如何に実践していくかを身につける科目である。理科教育法 I では、戦後からの理科教育の流れをみつめ、現代の理科教育のあり方を考えていく。中学校・高等学校学習指導要領に則った教育課程の編成や目標、内容、方法等の基本的必須事項を理解して教授法を身につけ、指導計画や授業設計ができるようになるための知識をつける。高等学校の授業を生徒の立場から体験してもらう目的で、授業担当者が授業展開の実際を示すサンプル授業を実施するので、自身が授業を行うときの参考にしてもらいたい。教育実習等で不可欠な学習指導案の内容、作成の方法にも触れる。

《一般目標》
楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。

《行動目標》

- ① わかりやすい文章が書けるようになる
- ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる
- ③ 授業に必要な知識を身につける
- ④ 授業計画・授業設計ができるようになる
- ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる
- ⑥ 適切な評価ができるようになる
- ⑦ 適切な板書ができるようになる
- ⑧ 学習指導案が作成できるようになる
- ⑨ 理科実験における安全管理

本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。毎回、授業用のノートを配布するので、授業で聞いたことや自身で調べたことなどを書いて提出してもらう。さらに授業終了後はMoodle のミニッツシートに、本時の学び、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問等を書いて提出し、授業の振り返りを行ってもらう

科目学習の
効果 (資格)
高等学校一種免許 (理科)
中学校一種免許 (理科)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	理科教育法のガイダンスと 論作文の書き方	本教科目(理科教育法 I～IV)のガイ ダンスを行う。理科教育法を学ぶ目的や意 義を知るために、授業の内容、特徴、学 び方、進め方についての解説を行なう。 今後、教員採用試験等で必要な論作文の 書き方に関して、解説する。	[事後課題] (4 時間以上) ・生徒から「なぜ、勉強しなければいけないか」の 質問に対する返答 ・「教育」とは何か ・ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
2	理科教育の目的	日本の理科教育と諸外国との違いにつ いて学び、自身はどのような理科教育を したいかについて考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・他者の「教育」とは何かの賛否意見を述べる。 ・ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
3	戦後の高校理科の教育課程 と授業時間数の変遷	高等学校学習指導要領に記載された理 科の各科目の単位数を比較することで、 高等学校の理科教育がどのように変遷 したかを考える。 授業では、新旧の教科書を比較して、そ の内容の変遷についても学びとる。GW またはPWによって気づいたことをWSに まとめる。	[事前課題] (3 時間以上) ・高等学校学習指導要領に記載された理科の各科目 の単位数を比較し、疑問点や改訂された理由等につ いて考える。 [事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
4	教育課程の変遷と歴史的背 景	中学校・高等学校の理科教育がどのよう にして変遷してきたかを時代の背景と ともに学び、近年ではOECDが実施し ているPISA調査から見えた問題点 や課題を受けて改訂されていることを 知る。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
5	PISA調査	PISA調査とはどのような調査であ るかを知り、実際に解いてみることによ って、新しい学力観、能力観とはどのよ うなものが求められているかを知る。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
6	学習指導要領理科の授業内 容の取り扱い	高等学校学習指導要領理科編理数編に ついて、その目標や内容について知り、 指導計画の作成や取り扱いの留意点に ついて学ぶ。	[事前課題] (5 時間以上) ・学習指導要領高等学校理科編理数編第 1 章を読み 各自でまとめる。 [事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
7	理科における評価の方法	評価についての教育的意義を知り、学習 指導とその評価について考える。また、 目標に応じた評価方法について学び、教 育評価を教育の改善に役立たせる方法 を考えてみる。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
8	年間授業計画とシラバス・授 業設計	授業を設計するにあたり、単元や年間授 業計画との関わりについて知り、年間を 通して効率の良い授業ができることを 学ぶ。学習目標を定めることにより、教 師の授業デザイン力の向上となるよう な授業設計を考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
9	理科の授業づくりと授業の 方法	具体的な授業の進め方を知るためにサ ンプルとなる高等学校の授業を授業担 当者が実際に行なう。終了後に疑問点や 課題について GW による話し合いを行 い、授業でのねらいなどについて考え	[本時課題] (2 時間以上) ・終了後に疑問点や課題について WS にまとめ、授 業でのねらいなどについて考える。 [事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。

			る。	ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	10	理科の授業づくり～指導計画～	理科の授業づくりの意義を知り、教材研究の進め方と手順、授業の工夫について学ぶ。	[事前課題] (5時間以上) ・学習指導要領高等学校理科編理数編第3章を読み各自でまとめる。 [事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	11	学習指導案の事例と研究	学習指導案について、その事例を用いて、授業の組み立ての基本について学ぶ。また、学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、指導案作成の準備を行う。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	12	授業における導入について	授業の進め方の中で導入部分の重要性を知り、魅力ある授業設計や授業計画を行うことを学ぶ。そのための導入部分の授業を実際に考える。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	13	授業における展開について	授業の展開において、発問の重要性は大きく、学習者に魅力ある学習活動ができるような指導方略を考える。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	14	授業におけるまとめについて	授業の締めくくりであるまとめの意義について考え、授業でのまとめの方法や効果について学ぶ。ガニエの9教授事象と導入・展開・まとめとの関連について考える。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
	15	授業における板書と話し方について	具体的に授業を進める際、板書の方法や話し方によって、学習者にもたらす効果は異なる。授業を行なうための適切な板書の方法について考え、授業を行うにあたっての板書計画・板書レイアウトなどについても学ぶ。また、授業を行なうための適切な話し方について学び、その効果を考える。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説理科編・理数編	文部科学省	
	2			
	3			
評価方法(基準)	筆記テスト(70%)、平常点 [ミニッツシート(15%)、課題・レポート(15%)]			
学生へのメッセージ	学習者の自己実現を支援する理科教員を目指すという自覚と目的意識を持ち、理科教育に関する理解を深め、理科教育に必要な基礎能力を習得して欲しい。			
担当者の研究室等	ラーニングセンター (2号館2階)			
備考	配布した講義プリント、資料は、理科教育法I～IVで相当な量になるので、ファイル(百円ショップにある数センチ幅のもので良い)に綴じていくこと。			

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
日本の教育問題の1つに理科離れがある。理科の面白さを引き出すためには理科の実験・観察の果たす役割は大きく、実験や手作業を通して身につく“見えない学力”は将来、技術者や研究者についたときの基礎力になる。理科教育法Ⅱは授業で実験・観察を行う意義をとらえ、理科の教科指導と授業力に関する資質と能力の育成をはかり、実験を取り入れた授業を組み立てることを前提に、授業計画や実験の方法について、具体例や実践例を挙げながら授業をすすめる。さらに理科教育法Ⅰと関連付けて指導計画、指導法などを実践の場で具体的に役立つ方法として身につけるために、各自に50分間の模擬授業を実施してもらう。

到達目標
《一般目標》
楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。
《行動目標》
① わかりやすい文章が書けるようになる
② 理解しやすい話(説明)ができるようになる
③ 授業に必要な知識を身につける
④ 授業計画・授業設計ができるようになる
⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる
⑥ 適切な評価ができるようになる
⑦ 適切な板書ができるようになる
⑧ 学習指導案が作成できるようになる
⑨ 理科実験における安全管理

授業方法と留意点
本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問をミニッツシートにて毎回提出する。次回の授業開始後に、ミニッツシートに記載されていた意見や質問に対して、問題提起や返答を実施し、前時の振り返りを行う。
後半には高等学校の模擬授業を実施してもらう。模擬授業は

科目学習の効果(資格)
高等学校一種免許(理科)
中学校一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	模擬授業の進め方と指導計画案の作成と留意点	本授業の中盤から実施する模擬授業の進め方についての解説を行う。また、学習指導案を作成するにあたっての留意点についての解説を行い、その作成手順についても学ぶ。	〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
2	教材・教具の研究とその重要性	学習者にとって魅力ある授業は教材がうまく配列されており、必要性に応じた教具が多用されている。教材・教具の必要性・重要性を知り、学習者により効果をもたらす教材や教具について考える。講義では教材・教具のサンプルも紹介する。	〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
3	理科の実験授業・その意義と方法及び理科実験における安全・管理	理科の授業における実験の意義について学び、探求的な活動としての理科実験のあり方を知る。また、課題のワークシートをもとに、実験室における危険な行動や器具の取り扱いについて考えた事を発表してもらい、安全管理・危機管理について学ぶ。さらに理科実験における事故・安全・管理について学び、事故防止やその対策について考える。	〔事前課題〕実験室における実験風景のイラストを見て、危険な行動や危険な器具の取り扱いを指摘する。(4時間) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
4	学校現場における理科実験の事故例	学校現場における過去に起きた事故の例から事故原因などを考え、事故防止をふまえた安全管理を身に付ける。	〔事前課題〕過去に実際に起きた事故事例から、事故発生の原因について考察する。(4時間) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
5	理科の実験観察とその授業計画・実施	安全管理、事故防止をふまえたうえで理科実験の計画を考え、予備実験の重要性についても学ぶ。さらに生徒実験における結果の分析方法や意義について知り、評価の方法についても学ぶ。	〔事前課題〕生徒実験を行うためにどのような準備や事前・事後指導をするかを考える。(5時間以上) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
6	模擬授業(1)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
7	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。

			<p>(2時間)</p> <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
8	模擬授業(3)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
9	模擬授業(4)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
10	模擬授業(5)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
11	模擬授業(6)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
12	模擬授業(7)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
13	模擬授業(8)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
14	模擬授業(9)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
15	模擬授業についての講評と	各自が実施した模擬授業についての講	〔課題〕志望理由書の作成〔10時間以上〕

	まとめ	評を行う。また、行った模擬授業の内容について改善点などの問題提起を行い、GW、PWにて討議し発表してもらう。教員採用試験を念頭に志望理由書を作成する。																	
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職教養科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法 I を履修のこと。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領 解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省		2				3					
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省																	
2																			
3																			
評価方法 (基準)	模擬授業(30%)、模擬授業評価表(ルーブリック)(10%)、学習指導案(10%)、課題(35%)、ミニツシート、模擬授業講評(15%)																		
学生への メッセージ	模擬授業を行うにあたって、事前準備に時間がかかり労力を要するが、教育実習に行き、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評を行えるようになって欲しい。																		
担当者の 研究室等	ラーニングセンター (2号館2階)																		
備考	高等学校の教科書は各自が使用していたものでよいが、持っていない人は貸し出しします。																		

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 高等学校の理科は選択制が導入されており、中学校理科の果たすべき役割は大きい。そのため、第1分野、第2分野の内容の特徴と小学校、高等学校の接続や内容との関連性について学び、物理、化学、生物、地学の各分野の特徴についての知識も必要となる。理科教育法Ⅲでは中学校の理科教師を目指す学生に、理科教育の内容、指導法に関する基本事項を再確認し、中学校で授業を行うために必要な授業作りの方法を身につける。また、楽しく、わかりやすい授業を行うための知識や技術を習得するとともに、簡単な実験・観察やグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業を行うことを目標としている。また、聞き手である生徒が授業をよりわかりやすく受けることができるための方法や工夫を研究する。

到達目標
 《一般目標》
 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。
 《行動目標》
 ① わかりやすい文章が書けるようになる
 ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる
 ③ 授業に必要な知識を身につける
 ④ 授業計画・授業設計ができるようになる
 ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる
 ⑥ 適切な評価ができるようになる
 ⑦ 適切な板書ができるようになる
 ⑧ 学習指導案が作成できるようになる
 ⑨ 理科実験における安全管理

授業方法と留意点
 本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。授業の前半は座学を、中盤から中学校の模擬授業も実施してもらう。模擬授業は、事前打合わせ(10分)、授業(50分)、研究協議(25分)、授業担当者の講評とまとめ(5分)で進める。模擬授業を行う学生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授

科目学習の効果(資格)
 高等学校一種免許(理科)
 中学校一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	新学習指導要領(平成29年告示)中学校理科①様々な調査	中学校学習指導要領の改訂の経緯に様々な学力調査や学習状況調査がある。それらの調査問題を実際に解き、それぞれの調査のねらいなどを考察する。また、改訂の基本方針について理解する。	〔事後課題〕(3時間以上) 学習ノートに纏める ミニッツシートを記入して提出する。
2	新学習指導要領(平成29年告示)中学校理科②総説、指導計画の作成と取り扱いと理科の目標	中学校学習指導要領に基づいて、改善の要点、指導の留意点などの内容について学ぶ。指導計画の作成、観察、実験の時間や探究する時間の設定、ものづくりの推進などについて、実施の方法や取り扱いについてのヒントを紹介する。	〔事前課題〕(5時間以上) 理科の目標について学習指導要領を読んでまとめる。 〔事後課題〕(2時間以上) ミニッツシートに記入して提出する。
3	理科における教育機器の活用	コロナ禍以降、教育現場におけるICTの普及が急激に進んだ。国が行ってきた様々な調査からも授業にICTを取り入れている場合には教育効果が高いという結果が出ており、今後はさらなる進展が考えられる。本講義では理科教育とICTの活用の現状や課題について理解し、その活用事例について学ぶ。	〔事後課題〕(3時間以上) 学習ノートに纏める ミニッツシートを記入して提出する。
4	模擬授業(A1)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
5	模擬授業(A2)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
6	模擬授業(A3)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》

				・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
7	模擬授業(A4)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
8	模擬授業(A5)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
9	学習者から高い評価を受ける授業の実践例とその分析	達人が行う中学校の授業のビデオを視聴する。授業づくりや教材研究、授業の展開の工夫や教授法について学びとったことをレポートする。		〔事後課題〕(4時間以上) レポートを作成して提出する。 ミニツシートに記入して提出する。
10	教授フローチャートによる授業	指導案を共同利用する目的で考案された教授フローチャートについて、その特徴や利点について学ぶ。		〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める ミニツシートを記入して提出する。
11	模擬授業(B11)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
12	模擬授業(B12)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
13	模擬授業(B13)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
14	模擬授業(B14)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
15	理科教育法 III のまとめ	各授業者の行った模擬授業についての振り返りを行い、改善点について提案する。		〔事後課題〕(3時間以上) ミニツシートに記入して提出する。

関連科目 本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法Ⅰ・Ⅱは履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	模擬授業講評と課題レポート、小テスト(50%), 模擬授業「授業(30%), 学習指導案(10%), ルーブリック評価(10%)」			
学生への メッセージ	模擬授業を行うにあたって、事前準備や事後処理に時間がかかり、労力を要するが、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。模擬授業ではグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業が行えるようになって欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評が行えるように心がけること。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2号館2階）			
備考				

科目名	理科教育法IV	科目名 (英文)	Science Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法IVでは、教育実習時に十分通用するような授業実践力を培うことを第一目標とする。指定された単元の模擬授業を実際に行うことで、授業の難しさ、教材研究の重要性を知る。さらに、模擬授業に対する研究協議によって、授業計画や指導法の改善を行う。
到達目標	《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。 《行動目標》 ① わかりやすい文章が書けるようになる ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる ③ 授業に必要な知識を身につける ④ 授業計画・授業設計ができるようになる ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる ⑥ 適切な評価ができるようになる ⑦ 適切な板書ができるようになる ⑧ 学習指導案が作成できるようになる ⑨ 理科実験における安全管理
授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、講義内容は教材プリントにまとめたものを配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。ミニッツシートに本時の取獲(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて提出する。次回の授業の最初に、前回の学習ノートに記載されていた意見や質問に対して、問題提起や返答を行って前時の振り返りを行う。 授業の中盤から教育実習で授業を行うことを主眼に

科目学習の効果 (資格)	高等学校一種免許 (理科) 中学校一種免許 (理科)
--------------	-------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	教員を目指すために(教員採用試験では)	教員になるために超えなければならない2つのハードルがある。それが何かを考え、今後の取り組みや準備すべき事を考える。	〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニッツシートに記入して提出する。
2	中学校理科の授業づくりと授業の進め方	中学校の具体的な授業の進め方を知ってもらうために、授業担当者がサンプルとなる授業を行なう。サンプル授業終了後に疑問点や課題について討議する。また、高等学校と中学校との教授法の違いについて考え、授業づくり、教材研究、授業の工夫について役立てる。	〔事後課題〕(4時間以上) 課題レポートを提出する。 ミニッツシートに記入して提出する。	
3	中学校学習指導案について	教育目標、目的、内容、方法、評価についても考え、板書計画を含めた、指導細案の作成を行う。	〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニッツシートに記入して提出する。	
4	中学校模擬授業(B1)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)	
5	中学校模擬授業(B2)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)	
6	中学校模擬授業(B3)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)	
7	中学校模擬授業(B4)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上)	

				《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
8	教育現場の授業の実際	先輩が教育実習で行った研究授業のビデオを見て、学習指導案をもとに講評を行い、疑問点や課題について協議する。また、実際の教育現場や教室の雰囲気なども感じ取る。		〔事後課題〕(4時間以上) レポートを作成する。 ミニッツシートに記入して提出する。
9	教育実習へのヒント	教壇実習を行うことを意識した授業設計の方法について話す。また、教育実習に向けて準備しておくことや実習中についてのヒントを話す。		〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニッツシートに記入して提出する。
10	中学校模擬授業(A11)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
11	中学校模擬授業(A12)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
12	中学校模擬授業(A13)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
13	中学校模擬授業(A14)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
14	中学校模擬授業(A15)	指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。		《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
15	理科教育法Ⅳのまとめ	理科教育法Ⅰ～Ⅳを振り返り、到達目標の伸長について、自己評価や自己点検を行う。		自己評価と自己点検等をミニッツペーパーに書いて提出する。(4時間)
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。 理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	
	2	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	
	3			
評価方法	模擬授業(50%)、学習ノートと課題レポート(50%)			

(基準)	
学生へのメッセージ	理科教育法IVでは教育実習時に生徒たちが少しでも理科に対して興味・関心を持ち、授業を受けられて良かったと思えるような授業づくりをこころがけよう。そのため充分に時間をかけて教材研究を行ない、教材教具を多用し、アクティブラーニングを取り入れた価値ある授業展開ができるようになって欲しい。模擬授業では将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として、積極的な取り組みを期待する。
担当者の研究室等	ラーニングセンター（2号館2階）
備考	

科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材やICTの活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	第二言語習得と英語教育	第二言語習得とは 英語教授法の種類	第7章、第8章
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章
8	模擬授業と分析 (1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章
12	ICTを用いた活動	ICTを用いた活動例の紹介、実践	第16章
13	模擬授業と分析 (2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
14	模擬授業と分析 (3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1 (令和3)		開隆堂
2	Sunshine English Course 2 (令和3)		開隆堂
3	Sunshine English Course 3 (令和3)		開隆堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵 [編著]	大修館書店
3	英語リーディングの科学-読めたつむりの謎を解く	卯城祐司 [編著]	研究社

評価方法 (基準) ①小テスト・レポート (50%)
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

学生へのメッセージ
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。
★Sunshine English Course 1, 2, 3 (中学英語教科書) は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。
★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動

担当者の研究室等 7号館4階 齋藤研究室
備考 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「話す（発表）」及び「書く」）の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。 ・教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。 ・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニット
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。 ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・2024年度は、第8・9回以外にもICTを履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いに向き合えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。 ・連絡・教
科目学習の効果（資格）	英語教員免許（中・高） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	「5つの領域」と領域統合型の言語活動の指導 英語の発音指導	基本母音と子音・機材の利用について	発音記号の復習（読み方・聞き分け・調音の仕組み）
	2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（1）
	3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（2）
	4	教材研究と学習指導案の作成（1） 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習（3）
	5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン：英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く（1）
	6	模擬授業と分析（1） 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く（2）
	7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（1）
	8	教材研究と学習指導案作成（2） ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる（2）
	9	ICT活用と教授言語：学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書とICTの演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
	10	模擬授業と分析（2） 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（1）
	11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習（2）
	12	教材研究と学習指導案作成（3） ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
	14	模擬授業と分析（3）教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表、筆記テスト	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 (ISBN: 9784469246216)	望月 昭彦 編著	大修館書店																
	2	The History of the English Language (ISBN:9780194233972)	Brigit Viney	Oxford UP																
	3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>学習指導要領 (文部科学省 HP)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	学習指導要領 (文部科学省 HP)																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、</p> <p>(1) 模擬授業 100 (レクチャー作成 30%・授業時間中に行う実技 40%・模擬授業に関するレポート 30%)</p> <p>(2) 筆記テスト 100</p> <p>上記項目の両方の評価がいずれも100点満点中の60点以上で合格とする。</p>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習時に中高生にわかりやすくワクワクする授業を自力で立案・実施できるようになるには、「先生になりたい」気持ちだけでは足りません。言語に関する正確な知識と高い運用能力が必須です。教職課程の授業は全回、全力で予習・復習し、授業時間以外にも辞書をひいて英語を読み、英語の文法、語彙、スペル、発音等、基礎から復習をしてください。3年次終わりまでに英検準1級レベルに到達しましょう。 ・担当者は、日本の小学校に英語活動が導入された時期に数年間、ALTや小学校教諭と小学校で教えたり、寝屋川市・大東市・教員免許更新 																			
担当者の 研究室等	7号館4階 (齋藤研究室)																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 																			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に</p> <p>①リーディングとライティングの指導、 ②文字と文法に関する指導、 ③語彙・表現に関する指導</p> <p>に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。</p>
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。 ・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。 <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。 ・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。 ・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。 ・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足り

科目学習の効果 (資格)	<p>英語教員免許 (中・高)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導 (1) + 指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を聞き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導 (2) + 指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがひ	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第2言語習得と英語教育 音声指導 (3) + 模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導: リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導: 指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導: ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導: 指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業 (1): リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう: 学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業 (2): ライティング指導	授業づくり 授業の狙いと機器の価値: 実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	・社会が要請する外国語教育について、 報道記事を元に考え、討論する ・筆記テスト ・今学期の自分の変化を語る・今後の目	これまでの自分の学習を振り返る

		標と到達のための手がかりを探す	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ・教職科目全般 ・英語科目全般 		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著
	2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)	
	2		
	3		
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 100 (レクチャー作成 30%・15回の授業時間中に行う実技 40%・模擬授業に関するレポート 30%) (2) 筆記テスト 100 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。		
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな科目、好きな学校で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。 		
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。 ・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。 ・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 		

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。

到達目標
本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。

授業方法と留意点
・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。
・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。
・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。

科目学習の効果 (資格)
英語教員免許(中・高)
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目：教科及び教科の指導法に関する科目
各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1 (令和3)		開隆堂
2	Sunshine English Course 2 (令和3)		開隆堂
3	Sunshine English Course 3 (令和3)		開隆堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬教子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

評価方法 (基準)
①小テスト・レポート (50%)
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

学生へのメッセージ
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。
★Sunshine English Course1,2,3 (中学英語教科書)は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。
★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動

担当者の研究室等
7号館4階 齋藤研究室

備考
事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	商業科教育法	科目名 (英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井 宏幸
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。</p> <p>後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。</p>
---------	--

到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科・科目の構造について学びます。</p> <p>後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など)を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。</p>
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告書の記入	
	2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	4	経営学部・商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	5	経営リテラシーの構造的な理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	11	授業づくりの基礎(3)	ICTを活用する教材づくり	[事後] ミニツペーパーの作成(180分)
	12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	[事後] 学習指導案の作成(240分)
	13	学習指導案の作成と授業の実践(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	[事後] 学習指導案の作成(240分)
	14	学習指導案の作成と授業の実践(2)	授業の展開での板書・説明と発問	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	

関連科目	<p>大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。</p> <p>簿記、会計、原簿計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>課題レポート・ミニツペーパー 50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	全学教育機構
----------	--------

備考	質問等はメール等で対応する。
----	----------------

科目名	社会科教育法 I 【地歴分野】	科目名 (英文)	Social Studies Teaching Methods I (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法及び留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果(資格)	中学校教員免許(社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく(3時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく(1時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む(3時間)
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく(3時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく(2時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく(1時間)。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく(1時間)。 事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく(1時間)。 事後、興味を持った実践について調べる(2時間)。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。

				成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案(50%)とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題(50%)で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が2/3以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということ、一方で絶対に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。 ・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。 ・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。
授業方法と留意点	<p>模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。</p> <p>『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。</p> <p>中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。</p> <p>教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>中学校教員免許(社会科)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法1の第7回目までの学習内容を復習しておく(2時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく(1時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する(2時間)。
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく(2時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方/北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア/アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ/オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う(4時間)。

関連科目	社会科教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う(事前課題)。
15	総括—社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。		
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。		

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods IV (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育(主権者教育)の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育、シティズンシップ教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

到達目標
 本講義の到達目標は以下の通りです。
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。
 (4) 政治教育、市民性教育(シティズンシップ教育)についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

授業方法と留意点
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

科目学習の効果(資格)
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。
 【免許法施行規則に定める科目区分】
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目
 原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート(30%)、模擬授業(50%)、平常点:授業への貢献度等(20%)。 出席については全体の80%以上の出席(15回中12回以上)が必須。 出席率が80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調しておくこと（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること（2時間）
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと（1時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3時間）
14	模擬授業	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	<p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>平常点(30%)、(授業課題20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。</p>		
学生への メッセージ	<p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。</p>		
担当者の 研究室等	水野講師室 (7号館3階)		
備考			

科目名	職業指導Ⅱ	科目名 (英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談の際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること (1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること (3時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関して調査すること (2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること (2時間)
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関して調査すること (2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること (2時間)
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関して調査すること (2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること (2時間)
5	フリータートニートについて	グループ (またはペア) でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること (2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること (2時間)
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること (2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること (2時間)
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること (2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること (2時間)
8	高校生の就業力について職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること (2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること (2時間)。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること (2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること (2時間)
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること (2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること (2時間)
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること (3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること (1時間)
12	就業力向上計画立案②	1 1回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること (3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること (1時間)
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと (2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること (1時間)
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと (1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること (2時間)
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること (4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること (2時間)

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)		
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。 後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。		
担当者の 研究室等 備考	水野講師室（7号館3階）		

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の役割・職務 (チーム学校運営への対応を含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としての LTD について説明 教育における「公」と「私」 公教育の成立・展開	シラバス、テキスト第 1 章を読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。(1)教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2)教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習(教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育実習の意義、教育実習への準備と心がまえ等	教育実習の意義と目的、実習の形態と内容について 事前準備の必要性、教育実習の心がまえと教育実習の基本となる事項について	授業時に指示する
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際(1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際(2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における積極性・貢献度(30%)、模擬授業(40%)、提出物(30%)によって総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス7号館3階
----------	---------------------------

備考	教職フォーラム(10月最終土曜日)、教育実習総括講義(11月最終土曜日)には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	--

事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	栄養教育実習 I	科目名 (英文)	Practice in Teaching I (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習で行う事前指導は、教育実習を円滑かつ効果的に実施するために、実習校の担当指導教員と連絡、調整する基本的なマナーなどを理解するとともに、栄養教諭として身につけるべき専門知識と技術の統合をはかるものである。教育実習の目的や内容を習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。また、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導に必要な技能と態度を修得し、栄養教諭として行う食に関する指導の具体的な技能と方法を修得する。さらに、実習終了後の成果発表の方法やまとめ方を学修する。
到達目標	① 教育実習に主体的に取り組むことができる。 ② 実習受け入れ校と打ち合わせをすることができる。 ③ 実習校と打ち合わせた内容で指導案を作成することができ、教育実習に必要な知識と技術を身につける。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③食に関する指導の手引きから読み解く ④グループ討議とロールプレイング
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教育実習の意義と目的	オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解し、教育実習に対する意欲を高める。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
2	事前挨拶について	マナーを守った電話対応に必要な情報を得る。(ロールプレイング・グループ討議)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
3	身だしなみについて	礼儀作法、言葉使い、守秘義務、マナーについて学修する。(挨拶、礼状の書き方の演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
4	教育実習における注意点について	教育実習記録の記入方法や欠勤届けについて、事例をもとに学修する。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
5	学校・学級経営の研究について	学校経営や学級経営がどのように行われているかその方法について考える。	事後: レポート提出 (1 時間)。
6	食に関する指導の研究について	児童生徒の食生活に関する実態把握、教科等の指導、個別指導、連携調整、その他のポイントについてどのように調査・研究したらよいかグループで考え発表する。 (講義、グループ活動)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
7	学習指導案の立て方	食教育上の課題を発見し、その課題を解決するための指導案を作成する。	事前: プリントの熟読と食に関して懸念される事項や食料自給率の問題を調べる (1 時間)。 事後: 指導案提出 (1 時間)。
8	生徒指導について	生徒指導は子どもの理解から始まることを理解し、その方法をグループで考え発表する。(グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: レポート提出 (1 時間)。
9	栄養食事管理について	栄養食事管理の方法、集団と個別や合理的配慮を要する児童生徒の栄養管理の方法について話し合う。 (グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
10	給食の時間の指導について (偏食指導)	給食の時間における指導の特質について理解し、偏食等の問題のある子どもへのことばがけについて学修する。 (講義、ロールプレイング)	事前: 食に関して合理的配慮の必要な児童生徒について調べる (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
11	給食の時間の指導について (事故防止)	給食の時間中に起きると想定される窒息事故、ノロウイルスに対する処置ができるように学修する。(講義・演習)	事前: ノロウイルスによる二次感染の予防対策について調べる (1 時間)。
12	給食の時間の指導について (給食当番)	給食当番へ、協力の大切さと衛生の観点で指導ができるように学修する。(講義・グループ討議・演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
13	給食時のクラスの衛生管理について	給食時における衛生上の指導ができるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 給食時のクラスの衛生について調べる (1 時間)。 事後: ルーブリック表を提出 (0.5 時間)。
14	食事のマナーについての指導方法について	給食時の食事のマナーについて指導できるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 食に関する指導の手引 (食事のマナー) を熟読する (0.5 時間)。
15	成果発表会について	実習報告のまとめかたと発表の方法について学修する。 (講義・配布資料)	事後: レポート提出 (1 時間)。

関連科目	学校栄養指導論 I・学校栄養指導論 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き第一二次改訂版	文部科学省	東山書房
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—	金田雅代	建帛社
	2	配付資料		
	3			
評価方法 (基準)	提出物 70% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 30%			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。 ○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。 ○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。 ○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○教職課程の専任教員6名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。 ○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。 ○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義の目的、内容方法についての確認。 ・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。 ・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。 	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	<ul style="list-style-type: none"> 問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。 	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
3	いじめ問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。 配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。 	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
4	「よい授業」を探究する: 「わかる授業」と「たのしい授業」	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。 	(事前) 「よい授業」のイメージを考えておく。 (事後) 小課題を課す。	
5	学習指導案を読み解く	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の主眼的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。 ・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。 	(事前) 配付資料を読んでおく。 (事後) 小課題を課す。	
6	学校の危機管理 (1): 学校管理下の事件・事故	<ul style="list-style-type: none"> 学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
7	学校の危機管理 (2): 災害	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。 	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
8	学校における行動問題支援 (理論編)	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。 	(事前) 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 (事後) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。	
9	学校における行動問題支援 (実践編)	<ul style="list-style-type: none"> 持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。 	(事前) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 (事後) 2回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。	
10	カウンセリングマインドと生徒対応	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。 	(事前) カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。	

				(事後) 小レポート
	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導: 生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	13	進路指導: 保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。	
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します(87.5%(12.5%×7名))。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します(12.5%)。これらを合計し、最終的な評価とします。			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日、鎌田、西村、松浦、吉田) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	教職実践演習 (栄養教諭)	科目名 (英文)	Practical Seminar on Teaching (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子, 谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、栄養教諭となるために必要な知識技能を修得したことを確認するものである。よって、昨今の食に関する問題や教育実習でつかんだ児童・生徒の状況を踏まえ、これらの問題を解決するための手立てを、給食の時間や授業、家庭や地域との連携の場合について考えていく。さらに、考えた手立てを学習指導案や給食だよりといった具体的な指導に結び付け、模擬授業や親子料理教室などへ展開していく。児童・生徒が抱える食の課題に対する効果的な指導となるように実践的な手立てを修得し、豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①今までの学修を振り返り、各自の課題を発見することができる。 ②摂取する食品と健康との関連や毎日の食事と社会とのつながりについて、食育の視点で指導案を作成し模擬授業ができる。 ③児童・生徒が適量を食べようとするための指導ができる。 ④スポーツをする児童・生徒への個別指導の方法を考え、その一環として食品構成表を作成するなど食事提案ができる。 ⑤地場産物を活用した学校給食献立を考えることができ、そのメニューを活用した親子料理教室の企画書を作成することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントや配布資料を用いて授業をすすめる。 ②グループ討議では受身にならず、意欲的に意見交換を行い傾聴力や実行力を高める。 ③教育実習で経験した児童・生徒の状況を整理し、学校教育現場を常に想定しながら演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育実践演習について	教育実習の振り返りや「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づいて自分の課題を発見し、課題に取り組む。	予習：今までの教職科目を振り返る (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
2	教職の意義・役割について	「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」について各自振り返り発表、討議し、教職の意義や教員の役割、教職内容、児童・生徒に対する責任について考えを深め、自分の課題を克服する。	予習：「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
3	組織としての栄養教諭について	組織の一員としての自覚、食育のコーディネーターとしての在り方、保護者や地域の方々、児童・生徒との人間関係の構築等で自分の課題を発見し、克服しようとする手立てを考える。	予習：学校組織についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
4	食に関わる問題について	学校が目指す児童・生徒像に近づけるため食育でどう近づいていくか考え、食育の全体計画を作成する。	予習：児童・生徒の食に関する課題をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (3時間)。
5	全体計画の発表	児童・生徒の食に関する問題点、目指す児童・生徒像から食育の全体計画を作成し発表する。	予習：食育の全体計画の修正 (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
6	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (指導案と指導資料)	給食では必ず提供される牛乳を飲もうとする意欲を高める指導案作成と指導資料作り、家庭へのおたよりを作成する。	予習：牛乳と健康の保持増進について調べておく (2時間)。 事後：指導案提出 (2時間)。
7	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (模擬授業と評価)	健康を考えて牛乳を飲もうとする意欲を高める模擬授業を行い、意見交換や発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (2時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
8	学校安全で行う安全教育について理解する。	学校での安全教育の位置づけを理解し、栄養教諭としての役割を考える。	予習：安全教育の3つの領域について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
9	学校安全で行う食に関する災害安全学習について (模擬授業と評価)	災害時の食に関する学習の単元構成の発表と指導方法についてグループで考える。	予習：過去の災害時の食の問題について調べておく (3時間)。 事後：災害時の食についての学習指導案提出 (2時間)。
10	適量を食べようとするための取組み (授業、給食時間の働きかけ)	児童・生徒の肥満や、やせの問題についてグループ討議を行い、児童・生徒が適量を食べようとするためには、どのような手立てが必要か考え、それに基づく学習指導案や給食だよりを作成する。	予習：食品構成をまとめておく (2時間)。 事後：指導案提出 (3時間)。
11	障害のある児童生徒への食に関する指導について	障害のある児童生徒への食に関する指導の視点や展開を考える。	予習：特別支援学校について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (1時間)。
12	個別指導 (食物アレルギー対応・スポーツをする児童・生徒)	食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題を考え、個々に対応した食品構成を作成し、それを基に指導演習を行う。	予習：食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題について調べておく (2時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
13	学校給食管理について (施設見学・調査)	学校給食施設を見学し、衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査する。	予習：学校給食の給食管理について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
14	学校給食管理について (レポート作成)	学校給食における衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査したことや新たな発見・課題をまとめて発表する。	予習：学校給食の給食管理について課題点をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
15	家庭・地域連携について	児童・生徒の食の問題点を解決するための給食試食会を企画する。	予習：児童・生徒の食の問題点について調査しておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	全ての教職課程必修科目、栄養教諭免許状に関わる必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂	文部科学省	東山書房
	2	栄養教諭論Ⅱ 実践研究	金田雅代	建帛社
	3	プリント配布		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出物 60% 成果発表 30% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 10%			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で自らの実習の課題点を見出し、課題解決のための目標を設定し、授業やグループワークを通して克服し、栄養教諭として実践的力を身に付けましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動 I」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1~25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。			
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。			
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。			
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)
	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)
	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)
	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)
	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成
	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目	すべての科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ 20%である。			
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。			
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)			
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。			

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では理科教育の変遷などの学習を通じて、中学校、高等学校の教育課程の意義及び編成の方法について理解し、その上に立って理科教育の内容及び指導法の基礎的・基本的事項を学修します。授業は、上記のような基礎的・基本的事項を踏まえ、今日的な評価理論からくる評価の観点や評価基準の考え方を理解することで、授業づくりに関する講義とともに学校現場の授業指導案も参考にして、フルバージョンの学習指導案作成のポイントを理解できるようにします。その中で、学習指導要領に示された理科教育のねらいと現代の様々な諸課題等を踏まえ、如何にすれば効果的な理科教育を実践できるか、生徒の学習意欲を高め、生徒自身が学習の主体となるような学習指導を行うにはどうすれば良いのか等々について協議も行います。さらに、適時レポートを課し、それらについて学生間の討議なども取り入れて進めます。
到達目標	①小学校・中学校・高等学校の理科教育の学習体系を把握し以降の系統学習による模擬授業に活用できる知識を身に付ける。 ②中学校や高等学校での理科教育の授業指導案を作成する能力を習得する。 ③理科教育の授業展開に必要な基礎的実践力を養う。 ④グループワークや協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に図ることができる能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、約半分の時間を講義に費やしますが、加えて各自での調べ学習を前提とした演習や協議を行うこととなります。また3年次に開講される「理科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で必要となる基本知識を学びます。今日的な学習指導案では、単元計画に評価をリンクさせた単元の指導と評価計画を記載することが求められており、この点に関しても本講義の内容を十分に理解することで、以降の理科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおける模擬授業を計画することが可能となります。
科目学習の効果 (資格)	中学校教諭一種免許 (理科) 高等学校教諭一種免許 (理科)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	理科教員を目指すにあたって	協議： ・生徒として経験した理科授業 ・現在の学校教育における理科教員の役割等を講義とともに協議する。	中学校学習指導要領解説理科編及び高等学校学習指導要領解説理科編を準備しておく (1 時間)
2	理科離れについて	協議：ワールドカフェ方式のグループ協議を実施する	ワールドカフェの特徴を確認する (30 分) 協議に関する小レポートを作成する (1 時間)	
3	理科教育の歴史と変遷	講義： ・ルソーの自然主義教育 ・我が国の理科教育の変遷	ルソーの教育観について調べ学習をしておくこと (1 時間)	
4	中学校・高等学校学習指導要領①	講義： ・理科教育の目的について ・中学の内容詳細 ・高等学校の科目について	中学校学習指導要領解説理科編及び高等学校学習指導要領解説理科編より理科教育の目的を把握しておく (1.5 時間)	
5	中学校・高等学校学習指導要領②	講義： ・中学及び高等学校の理科単位数について ・高等学校のカリキュラムと標準単位数 協議：現在の理科教科書について	WEB 等で高等学校学習指導要領総則編の単位数に関する記述を読んでおくこと (1.5 時間)	
6	今日的评价について	講義： ・評価について ・相対評価と絶対評価 ・いわゆる絶対評価について ・観点別評価について	相対評価と絶対評価について調べ学習をしておく (1 時間) 観点別評価を確認する (30 分)	
7	評価基準と評価基準 (次回演習に向けて)	演習：次回演習で扱う単元や内容を教科書から選定する。グループで話し合いながら、単元の評価基準を考えてみる 協議：各グループの評価基準を検討する	配布資料の評価基準例を研究しておく (1.5 時間)	
8	学習指導案について	講義： ・フルバージョンの学習指導案における記述内容と指導三観 ・理科の学習指導案例	WEB 等で理科の学習指導案例を閲覧しておく (1.5 時間)	
9	理科学習指導案作成①	演習及び協議： ・教科書から単元を選定する ・単元目標を指導要領解説を参考に考える ・単元の指導と評価計画を考える	学習指導要領解説より各内容の目標を学んでおくとともに、学習指導案例の流れを確認する (1 時間)	
10	理科学習指導案作成②	演習及び協議： ・前回の演習に続いてシナリオ型等の展開案を話し合いながら計画する	次回講義時までに学習指導案を完成させ提出する (1.5 時間)	
11	理科学習指導案作成③	協議：作成した学習指導案に関して検討を加える	受講者の作成した指導案の考察を踏まえて小レポートを作成する (1 時間)	
12	理科教育における探究について	講義：中高の理科教育における探究の重要性とデュエイ探究の理論 演習：文部科学省探究授業事例	探究の理論について調べ学習をしておく (45 分) 講義をもとに小レポートを作成する (1 時間)	
13	理科における主体的・対話的な学習と構成主義学習理論	講義：構成主義学習理論の概要と羅生門的アプローチ	構成主義教育理論について調べ学習をしておく (1 時間)	
14	理科教育における ICT 活用	講義： ・文部科学省の動画視聴 協議： ・IT 化と DX 化 ・取り入れたい ICT 活用について	協議内容に関して小レポートを作成する (1 時間)	
15	理科 I 講義のまとめと考査	講義全体を振り返り、今後の理科教育の目標について考える 小テストによる学習到達度測定	単位認定用レポートを作成し、期限までに提出する (3 時間)	

関連科目	「理科教育法Ⅱ」, 「理科教育法Ⅲ」, 「理科教育法Ⅳ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編、理数編		文部科学省 (Web 閲覧可)
	2	中学校学習指導要領解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版 (Web 閲覧可)
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (毎時の参加状況と小レポート及び小テスト) : 50% 講義後の最終レポート : 50%			
学生への メッセージ	本科目は集中講義として開講することになるので、一日の受講時間がかかなり多くなりますが、単位認定の前提は全授業での出席と前向きな受講態度とします。学校の教員を真剣に目指す人は受講してください。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義テキストは初回の講義で頒布しますので、教科書としての中学校学習指導要領解説理科編と高等学校学習指導要領解説理科編・理数編について必ずしも購入する必要はありませんが、適宜必要部分を文部科学省 WEB サイトより PDF を入手しておいてください。			

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	既習の理科教育法Ⅰに続く形で理科教育の内容及び指導法の基礎的・基本的事項を学んでいきます。 前半においては、授業を行う教師として留意しておかなければならない諸問題や発問の意味するところ、板書の仕方について学習していきます。 後半では、修得済みの「理科教育法Ⅰ」の基礎的・基本的事項を踏まえ、学習指導案の作成と本講義前半部で取り扱う諸課題等を理解した上で模擬授業(全員)及び模擬授業研究を行います。それらを通じて、生徒の学習意欲を高め、生徒自身が学習の主体となるような指導方法を具体的に考察し、授業展開を工夫する態度を育成します。
到達目標	①理科教育のねらいと、今日の学校を取り巻く諸問題に対する理解を深め、教師として留意することを把握する。 ②理科指導法Ⅰで学んだことをベースとして、中学校理科の授業計画を立案し、学習指導案を作成できるようになる。 ③模擬授業を行い、その授業分析ができるようになる。 ④授業に必要な教材を作成できるようになる。 ⑤研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に図ることができる能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、前半部で講義をベースとしたグループワークや発表などを中心に進め、後半部で中学校理科と高等学校理科の二つの模擬授業を全員が実施し、その都度研究協議によって考察を行います。授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課題として事後に提出します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	理科等の教科指導上の留意点①	敬語講義： ・教師の言葉の問題(敬語・人権的な配慮) ・LGBTQ ・指導案等でのことばについて	学校における様々な今日的課題について項目を挙げておく(45分)
2	理科等の教科指導上の留意点②	演習：ケースメソッド(理科授業中における事例研究①)	ケースメソッドについて小レポートを作成する(1時間)
3	理科等の教科指導上の留意点③	演習：ケースメソッド(理科授業中における事例研究②)	ケースメソッドについて小レポートを作成する(1時間)
4	発問と板書	講義及び協議： ・発問の事例研究 ・板書とユニバーサルデザインと心のバリアフリー	ユニバーサルデザインの例を事前に調べておく(45分) 物理的バリアフリーと心のバリアフリーの違いを考察する(45分)
5	今日的な理科の学習理論	講義： ・行動主義から認知主義学習理論 ・構成主義学習理論	ブルナーの科学教育の功績について調べる(1時間) 構成主義の学習特徴を整理しておく(30分)
6	ブルナーによる理科の系統主義教育課程とデュイのコアカリキュラム	講義： ・単元の系統例 ・コアカリキュラムにおける理科 ・小学校における生活科	コアカリキュラムやバージニアプランについて下調べを行う(1時間)
7	模擬授業(中学理科)①	演習及び協議： ・中学理科の内容を教科書より選択し、略案を作成する	中学理科模擬授業で扱う単元を学習指導要領解説より選んで授業計画を立案する(2時間) 指導案の略案を完成させる(1時間)
8	模擬授業(中学理科)②	発表及び協議①： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
9	模擬授業(中学理科)③	発表及び協議②： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
10	模擬授業(中学理科)④	発表及び協議③： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
11	模擬授業(高校理科)①	演習及び協議： ・高校理科の内容を教科書より選択し、略案を作成する	模擬授業で扱う高校理科(科学と人間生活)の単元を学習指導要領解説より選び授業計画を立案する(2時間) 指導案の略案を完成させる(1時間)
12	模擬授業(高校理科)②	発表及び協議①： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
13	模擬授業(高校理科)③	発表及び協議②： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
14	模擬授業(高校理科)④	発表及び協議③： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
15	理科教育法Ⅱのまとめ	協議： ・講義全体を振り返ることで、理科教育の今日的役割とその方向性について考える ・テスト対策	研究協議内容に関して小レポートを作成する(1時間)

関連科目	「理科教育法Ⅰ」、「理科教育法Ⅲ」、「理科教育法Ⅳ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説理科編		文部科学省(Web閲覧可)
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編		文部科学省(Web閲覧可)

	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所
	2		
	3		
出版社名			東洋館出版 (Web 閲覧可)
評価方法 (基準)	定期考査 (50%) 模擬授業をメインとした実習, レポート (模擬授業とその事後レポートについて 50%)		
学生への メッセージ	この科目から模擬授業の実践に入るようになります。教材研究と授業計画研究並びに学習指導案作成に講義外でのかなりの学習が要求されることになります。受講者諸君にはそのことを十分に理解の上、真剣に授業づくりに取り組んでもらいたいと思います。模擬授業の実施に関してはかなりの教材研究と学習指導案等作成に労力が必要となりますが、時間をかけただけ諸君の授業力の向上につながることになります。		
担当者の 研究室等	なし		
備考	講義テキストは初回の講義で配付しますので、教科書としての中学校学習指導要領解説理科編と高等学校学習指導要領解説理科編・理数編について必ずしも購入する必要はありませんが、適宜関係部分を文部科学省 WEB サイトより PDF ファイル等でダウンロードして入手しておいてください。		

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
前半に実験の安全指導及び今日的な学習方法としての cooperative learning(協同学習) について講義を中心とした授業を進めていきます。協働・協同・協調の学習理論並びに構成主義の学習理論は世界的にもこれからの生徒の主体的学習を確立しています。この授業の実践編では特に理科教育法Ⅳとのコラボレーション講義を実施します。系統的には理科教育法Ⅲではその中において、cooperative learning(協同学習) の理解や学習方法の習得によって理科教育法Ⅳの模擬授業を立案実施することになり、また理科の授業における導入段階の展開を重視することで、教員採用試験(短時間模擬授業) に対する対策としても、その展開部に特化した模擬授業の実施を行います。加えて理科の授業では重要となる実験を想定した模擬授業を実施します。

到達目標
①理科実験を適切に指導する力を身につける。
②cooperative learning(協同学習) の手法を理解し、構成主義的な授業を考えることができるようになる。
③授業における導入部分の重要性を理解し、効果的な導入を行えるようになる。
④実験を伴う効果的な授業の立案・実施ができるようになる。
⑤他者の授業と自分の授業を的確に評価し、より良い授業に向けて考察できる力を身につける。
⑥研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に測れる能力を身につける。

授業方法と留意点
本科目では理科教育法Ⅳとコラボレーションした授業を行った行きます。前半部に関して講義をベースにグループワーク、協議などを中心に進めます。後半には理科教育法ⅠとⅡで身につけたスキルに本科目前半部での知識を生かしながら各自に実験を伴う模擬授業を実施し、また教員採用試験を見越しての導入部分に特化した模擬授業を各人が行うこととなります。授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課題として事後に提出

科目学習の効果(資格)
高等学校教諭一種免許(理科)
中学校教諭一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	理科教育法Ⅳとのコラボレーション講義概要オリエンテーション	講義: 両講義における実践的模擬授業の進め方について。	多くの理科研究授業を模擬的に行うための各自の構想を考えておく(1時間)
2	理科実験に関する安全指導	講義: 学校における実験の安全性 協議: 体験した実験の危険性について	経験した理科実験について印象に残っているものをピックアップしておく(45分) 協議をもとに小レポートを作成する(1時間)
3	今日的教育方法論(主体的で対話的な深い学び)と理科教育: 協同学習と協調学習の手法	講義: cooperative learning(協同学習)と collaborative learning(協調学習) 演習: 論文講読	講読した論文についての各自考察を小レポートにしあげる(1.5時間)
4	cooperative learning①	講義: ワールドワイドカフェ 演習: 理科教育に関するワールドワイドカフェディスカッション	協議をもとにテーマに関する考察を小レポートにする(1時間)
5	cooperative learning②	講義: オリジナルジグソー法と知識構成型ジグソー学習	東京大学知識構成型ジグソー学習について下調べを行う(45分) 協議をもとにテーマに関する考察を小レポートにする(1時間)
6	cooperative learning③	演習: 高校物理に関する知識構成型ジグソーの実際	運動方程式に関して予習しておく(45分) 知識構成型ジグソー学習の結果を個人で解答作成する(1時間)
7	導入部模擬授業の指導略案	演習: 中高の教科書より指導する単元を選び、導入部展開案の作成にとりかかる	中学校及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容(単元)を考え、授業計画を立案する(2時間) 次回講義時までに指導略案を完成させ提出する(1.5時間)
8	導入部模擬授業②	演習: 5~10分の導入部模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
9	導入部模擬授業③	演習: 5~10分の導入部模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
10	実験を想定した模擬授業の指導略案作成	演習: 中高の教科書より指導する単元を選び、指導略案の作成にとりかかる	中学校及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容(単元)を考え、授業計画を立案する(2時間) 次回講義時までに指導略案を完成させ提出する(1.5時間)
11	実験を想定した模擬授業①	演習: 20~30分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
12	実験を想定した模擬授業②	演習: 20~30分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
13	実験を想定した模擬授業③	演習: 20~30分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
14	実験を想定した模擬授業④	演習: 20~30分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1時間)
15	理科教育法Ⅲのまとめ	協議: 講義内容及び実施した模擬授業実践に関する考察 小テストによる学習到達度測定	導入部と実験を伴う授業に関する考察を行う。(1.5時間)

関連科目 理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅳ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
2	中学校学習指導要領解説 理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版（Web 閲覧可）
	2			
	3			
評価方法 （基準）	模擬授業（学習指導案、作成した教材・教具）（50%） 平常点（毎時の参加状況及び研究協議での参加態度と小レポート並びに到達度小テスト）：50%			
学生への メッセージ	この科目は理科教育法Ⅳとのコラボレーションにて行います。両科目とも内容の主体は模擬授業の実践とそれに伴う教材研究及び学習指導案の作成となります。模擬授業の準備には講義外でのかなりの学習時間を必要とすることになりますので、よくそのところを承知したうえで精力的に受講し授業づくりに取り組んでもらいたいと思います。時間をかけて研究したことは諸君の授業力の向上に直接関与することになります。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義部文のテキストは初回講義時に配布します。模擬授業の教材研究や学習指導案の作成にあたっては中学校並びに高等学校学習指導要領解説理科編及び参考図書の『『指導と評価の一体化のための学習評価』に関する参考資料』を必ずしも購入する必要はありませんが、文部科学省 WEB サイトより必要部分を PDF ファイル等でダウンロードしておいてください。			

科目名	理科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Science Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法Ⅳでは、模擬授業の発表とその考察を主な内容とします。前半では中学校理科の物理・地学の分野を授業内容として指定し、後半では理科教育法Ⅲで学んだ cooperative learning (協同学習) を用いた模擬授業の発表を行います。
到達目標	①中学校理科における物理と地学の分野で教材研究を実践的に行うことができる能力を身につける。 ②中学校理科の学習計画を立案し学習指導案を作成することができるようになる。 ③協同学習や協調学習の手法を用いた、理科の授業をデザインするための実践的な力を身につける。 ④協同学習等を用いた主体的で対話的な授業を指導する実践的な力を身につける。 ⑤研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に測れる能力を身につける。
授業方法と留意点	本科目では理科教育法Ⅲとコラボレーションした授業を行ったいきます。前半部に関して講義をベースにグループワーク、協議などを中心に進めます。 後半には理科教育法ⅠとⅡで身につけたスキルに本科目前半部での知識を生かしながら各自に実験を伴う模擬授業を実施することになります。本科目の全般を通して個人実施とグループ実施 (協同学習) とによる模擬授業を行います。 授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課
科目学習の効果 (資格)	中学校教諭一種免許 (理科) 高等学校教諭一種免許 (理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	理科教育法Ⅳのガイダンス・模擬授業準備 (中学校理科地学・物理分野と協同学習)	講義:理科教育法Ⅲとのコラボレーション演習について 協議:中学校理科内容から地学・物理分野と内容を選択して指導案作成にとりかかる	中学習指導要領解説より指導する内容 (単元) を考え、授業計画を立案する (2時間) 授業の学習指導案フルバージョンを計画する (2時間)
2	学習指導案作成 (フルバージョン)	演習:フルバージョンの中学校理科学習指導案を作成する	次回講義時までにフルバージョンの学習指導案を完成させ提出する (2.5時間)
3	中学校理科地学・物理分野模擬授業①	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
4	中学校理科地学・物理分野模擬授業②	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
5	中学校理科地学・物理分野模擬授業③	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
6	中学校理科地学・物理分野模擬授業④	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
7	中学校理科地学・物理分野模擬授業⑤	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
8	Cooprative Learning の復習	講義:理科教育法Ⅲで学習した協同学習の理論と方法を確認する	理科教育法Ⅲで学んだCooprative Learning (協同学習) と東京大学知識構成型ジグソー学習を復習しておく (1.5時間)
9	協同学習指導案作成 (フルバージョン)	演習:グループで話し合いながら、授業を計画し、準備する (受講者数によりグループ人数を2人~3人とする)	中学または高等学校の校理科内容から授業の単元を選択しておく (1時間) 中学及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容 (単元) を考え、協同学習を用いた授業計画を立案する (2時間) 授業の学習指導案フルバージョンを計画・完成させグループで共有する (2時間)
10	協同学習模擬授業 (グループ) ①	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
11	協同学習模擬授業 (グループ) ②	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
12	協同学習模擬授業 (グループ) ③	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
13	協同学習模擬授業 (グループ) ④	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
14	協同学習模擬授業 (グループ) ⑤	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
15	理科教育法Ⅳのまとめと振り返り	授業全体を振り返り、未来の理科教育の課題と展望について考える。	協同学習を用いた模擬授業に関する各自の考察を小レポートにまとめる (1時間)

関連科目 「理科教育法Ⅰ」、「理科教育法Ⅱ」、「理科教育法Ⅲ」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編、理数編		文部科学省 (Web 閲覧可)
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版（Web 閲覧可）
	2			
	3			
評価方法 (基準)	模擬授業（学習指導案、作成した教材・教具）(50%) 平常点（毎時の参加状況及び研究協議での参加態度と小レポート）：50%			
学生への メッセージ	この科目は理科教育法Ⅲとのコラボレーションにて行います。両科目とも内容の主体は模擬授業の実践とそれに伴う教材研究及び学習指導案の作成となります。講義外でのかなりの学習時間を必要とすることになりますので、よくそのところを承知したうえで精力的に受講するようにしてください。時間をかけて授業研究を行ったことが諸君の授業力に直接つながっていきます。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義部文のテキストは初回講義時に配布します。模擬授業の教材研究や学習指導案の作成にあたっては中学校並びに高等学校学習指導要領解説理科編及び参考図書の『『指導と評価の一体化のための学習評価』に関する参考資料』を必ずしも購入する必要はありませんが、文部科学省 WEB サイトより必要部分を PDF ファイル等でダウンロードしておいてください。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校における職業教育や進路指導の全容を理解することがねらいである。 現代日本の産業構造と雇用状況、教育における職業指導の意義、若者を取りまく諸問題、高校における就職指導の実際、キャリア教育と職業指導などのテーマを、講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学ぶ。高校の進路指導をする上で欠かせない内容であるとともに、自らの進路決定をする上で必要な内容も多々含まれる授業である。
到達目標	①キャリア教育（職業指導・進路指導）の目的と方法について理解できる。 ②職業教育の理論、職業指導に必要な実践的な技法が理解できる。 ③社会の変化と生徒の社会的・職業的自立に求められる資質・能力を正しく説明できる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、進路指導、職業教育の実際について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。 毎回の授業では、教科書を中心とした説明に加え、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	自己紹介および授業の目標や意義について (説明・グループワーク等)	事前：これまで自分が受けてきた職業指導、進路指導、キャリア教育について整理する。(2時間) 事後：配布資料等を確認する(2時間)
2	教員免許についてガイダンス	高等学校農業教員免許取得の意義について (説明・グループワーク等)	事前：学習指導要領総則においてキャリア指導や職業指導に係る箇所を調べる(2時間) 事後：自らの職業についての考えをまとめる(2時間)
3	職業教育・進路指導の歴史の変遷①	日本における職業指導の歴史の変遷について (説明・グループワーク等)	事前：日本の職業指導の歴史の変遷について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
4	職業教育・進路指導の歴史の変遷②	日本における進路指導の歴史の変遷について (説明・グループワーク等)	事前：日本の進路指導の歴史の編成について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
5	キャリア教育の歴史の変遷	日本におけるキャリア教育の歴史の変遷について (説明・グループワーク等)	事前：日本のキャリア教育の歴史の変遷について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
6	進路指導の意義と機能	進路指導の意義と機能について (説明・グループワーク等)	事前：進路指導の意義と機能について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
7	進路指導の組織体制と方法	進路指導の組織体制と方法について (説明・グループワーク等)	事前：進路指導の組織体制と方法について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
8	キャリア教育の意義と機能	キャリア教育の意義と機能について (説明・グループワーク等)	事前：キャリア教育の意義と機能について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
9	キャリア教育を充実させるための方策	キャリア教育を充実させるための方策について (説明・グループワーク等)	事前：キャリア教育を充実させるための方策について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
10	キャリア教育の今後の方向性	キャリア教育の今後の方向性について (説明・グループワーク等)	事前：キャリア教育の今後の方向性について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
11	キャリア教育の現状	全国調査からみるキャリア教育の現状について (説明・グループワーク等)	事前：キャリア教育の現状について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
12	大学におけるキャリア教育	大学におけるキャリア教育について (説明・グループワーク等)	事前：大学におけるキャリア教育について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
13	コンテンツを活用してのワークショップ	「対立する意見をどうまとめていくか？」(説明・グループワーク等)	事前：STEAM教育について調べる(2時間) 事後：提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
14	職業教育の現状①	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る(学外実習)	事前：府内の職業系専門高校について調べる(2時間) 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する(2時間)
15	職業教育の現状②	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る(学外実習)	事前：府内の職業系専門高校について調べる(2時間) 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する(2時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	進路指導・キャリア教育論	望月由紀	学事出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)			
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教員として職業指導(キャリア形成・進路指導)に関する実践的な知識を得ることがねらいである。高校(特に農業高校)を取り巻く社会の変化と生徒に求められる資質・能力について理解し、職業指導(キャリア形成・進路指導)の実践について講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学び、職業指導(キャリア形成・進路指導)に果たす教師の役割について考察する。
到達目標	①職業指導に関する基本的な概念や用語、役割や意義について正しく説明できる。 ②生徒理解に基づくキャリアガイダンス等の素養を身につけ簡単な指導計画の立案ができる。 ③キャリア教育に関わる実践上の課題について理解し教師としての主体的な基礎づくりができる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、特に農業高校生の進路指導の実践について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。毎回の授業では、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	授業の目標や意義、PBLについて(説明・グループワーク等)	事前:PBL学習導入のメリットについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
2	職業指導を踏まえた教育課程の編成	学習指導要領に基づく教育課程と評価の在り方について(説明・グループワーク等)	事前:学習指導要領のねらいについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
3	職業教育の魅力化①	文部科学省における産業教育振興策について①(説明・グループワーク等)	事前:産業教育や専門高校の現状について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
4	職業教育の魅力化②	文部科学省における産業教育振興策について②(説明・グループワーク等)	事前:産業教育や専門高校の課題について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
5	農業教育の持つ教育力①	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について①(説明・グループワーク等)	事前:課題研究について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
6	農業教育の持つ教育力②	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について②(説明・グループワーク等)	事前:学校農業クラブ活動について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
7	農業教育の持つ教育力③	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ①(学外実習)	事前:視察する高校の学校像について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
8	農業教育の持つ教育力④	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ②(学外実習)	事前:視察する高校の学校像について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
9	農業教育における職業的活動①	知的財産教育、GAP、HACCPの導入による職業的活動の充実について①(説明・グループワーク等)	事前:知的財産教育について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
10	農業教育における職業的活動②	知的財産教育、GAP、HACCPの導入による職業的活動の充実について②(説明・グループワーク等)	事前:GAP、HACCPについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
11	高等学校における進路指導の実際①	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について①(説明・グループワーク等)	事前:高校生の就職における現状について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
12	高等学校における進路指導の実際②	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について②(説明・グループワーク等)	事前:高校生の就職指導における課題について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
13	雇用と労働の在り方を探る①	ソーシャルビジネスの創出について①(説明・グループワーク等)	事前:社会起業家について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
14	雇用と労働の在り方を探る②	ソーシャルビジネスの創出について②(説明・グループワーク等)	事前:ソーシャルビジネスプランについて考える(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
15	まとめ	半期の授業についてまとめる(説明・グループワーク等)	事前:後期の授業全般について振り返る(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)

関連科目			
教科書			
番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)			
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	農業科教育法 I	科目名 (英文)	Teaching Methods of Agriculture I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	内山 知二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的
 農業教育の意味・目標、重要性、可能性等を考え、農業の持つ特徴と教育理念を理解し、高等学校農業科の教員として、必要な知識や素養、資質、技能を身につける。
 農業教育の発達と歴史的意義をふまえ、高等学校農業科教育の現状と課題、農業科教育の目的・教育課程、学習指導の理論と方法を理解する。そのため、農業教育の本質・教育理念について知り、次いで文部科学省学習指導要領に基づく幼稚園～中学校の教育現場における普通教育としての栽培・飼育教育や高等学校における専門教育としての農業科教育と、それに関わる社会教育的実践の実態を理解する。
 さらに学習指導に関する一般的な手法や諸課題について理解するとともに、学校現場の農業教育実践の情報などを通じて、農業科の教育上の実践法を習得する。

到達目標
 ①高等学校における農業教育の意義や学習指導要領の内容を正しく理解する。
 ②高校現場の現状と課題を理解する。
 ③理論や学習指導法および評価法に関する基本的な知識技能を、教科農業の授業で実践できる。

授業方法と留意点
 基本的に講義形式であるが、情報機器や教材を活用し、演習形式の授業を採り入れる。

科目学習の効果 (資格)
 教員免許 (高等学校 農業)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	農業教育の現状と諸問題	高等学校における農業教育の現状と諸問題	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
3	栽培・飼育学習	幼稚園、小・中学校における栽培・飼育学習、普通教科としての農業教育	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
4	栽培・飼育の実践	社会教育 (生涯教育) における栽培・飼育実践	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
5	農業教育	大学など高等学校における普通教育あるいは専門教育としての農業教育	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
6	高校生の現状	農業を学ぶ高校生の現状	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
7	高校農業科教育の特徴	学習指導要領における高校農業科教育農業科教育の特徴と普通教科との比較	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
8	学習指導要領詳解 －農業と環境、課題研究、総合実習、農業と情報－	学習指導要領における、農業と環境、課題研究、総合実習、農業と情報の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
9	学習指導要領詳解 －作物、野菜、果樹、草花、畜産－	学習指導要領における、作物、野菜、果樹、草花、畜産の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
10	学習指導要領詳解 －栽培と環境、飼養と環境、農業経営、農業機械、植物バイオテク－	学習指導要領における、栽培と環境、飼養と環境、農業経営、農業機械、植物バイオテクの内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
11	学習指導要領詳解 －食品製造、食品化学、食品微生物、食品流通－	学習指導要領における、食品製造、食品化学、食品微生物、食品流通の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
12	学習指導要領詳解 －森林科学、森林経営、林産物利用－	学習指導要領における、森林科学、森林経営、林産物利用の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
13	学習指導要領詳解 －農業土木設計、農業土木施工、造園計画、造園施工管理、造園植栽、測量－	学習指導要領における、農業土木設計、農業土木施工、造園計画、造園施工管理、造園植栽、測量の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
14	学習指導要領詳解 －生物活用、地域資源活用、植物バイオテクノロジー、水循環－	学習指導要領における、生物活用、地域資源活用、植物バイオテクノロジー、水循環の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
15	授業実践	農業科の授業実践を通じた実習授業の展開と学習指導	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説 農業編		文部科学省
2			
3			

評価方法 (基準)
 毎時の学習ノートで理解度を評価する。

学生への
 農業科教育法 I では、学生自身が普段研究している領域にとどまらず、より広範な視点から農業に関する理解を深められる機会にしていきたい。

メッセージ	と考えています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	農業科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Teaching Methods of Agriculture II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	内山 知二
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教育法Ⅰで修得した農業教育に関する基礎的知識を基に、農業教員としての基本的資質を養う。また、実際の教壇に立つて授業するための実践的能力も身に付ける。 農業教育を円滑・効果的に行うため、高等学校学習指導要領等に基づく「農業」の目標に沿った教科指導などについて学び、教科の特性の理解と、課題の克服に必要な知識・能力・技能等を学習する。 講義(座学)や実習の授業において、高校農業科の生徒を上手く指導するために必要な理論と技能を知識として理解するとともに、高等学校教科農業の教科書や教材、情報機器を使った学習指導案の作成、模擬授業を実践し、授業実践力を培う。
到達目標	①高等学校における農業教育の意義や学習指導要領の内容を正しく理解する。 ②将来、高等学校農業科の教員として活躍するための理論や学習指導法および評価法に関する基本的な知識技能を身につける。 ③教科農業の授業を実践することができる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式であるが、情報機器や教材を活用して演習形式の授業を採り入れる。 農業系高校や農業系短期大学の先輩教師による優れた教育実践の視察をはじめ、農業教育現場の認識を深める。
科目学習の効果(資格)	教員免許(高等学校 農業)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業の現状と課題	我が国農業の現状と課題、農業教育の特質－役割・目的・目標－	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
2	教育課程の編成と指導計画	農業科における教育課程の編成と指導計画－農業科の目標と内容構成－	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
3	学習指導案の作成と模擬授業(1)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
4	学習指導案の作成と模擬授業(2)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
5	学習指導案の作成と模擬授業(3)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
6	学習指導案の作成と模擬授業(4)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
7	学習指導案の作成と模擬授業(5)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
8	学習指導案の作成と模擬授業(6)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
9	学習指導案の作成と模擬授業(7)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
10	学習指導案の作成と模擬授業(8)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
11	学習指導案の作成と模擬授業(9)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
12	学習指導案の作成と模擬授業(10)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
13	学習指導案の作成と模擬授業(11)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
14	学習指導案の作成と模擬授業(12)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
15	まとめ、農業教育に求められるものとその展開	農業に関する様々な指導場面	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 農業編		文部科学省
	2	高校教科書「農業と環境」	編修：塩谷哲夫ほか	実教出版
	3			

評価方法(基準)	毎時の学習レポートで総合的に評価する。
学生へのメッセージ	農業科教育法Ⅰにおいて習得した内容を実践の場で生かせるようにするため、できるだけ教壇に立つ機会を設けたいと考えています。「教えることは最高の学びになる。」
担当者の研究室等	
備考	

科目名	学校栄養指導論 I	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。食育基本法や学校給食法を理解しながら、学校における食育推進の在り方や学校給食管理の方法について学修し、栄養教諭の職務内容について考える。また、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴う食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、食料自給率の問題、地産地消の重要性、食文化や郷土料理の継承といった面からも学校給食をどのように生かしていくべきなのかを考える。さらに、児童生徒の食生活に関する実態把握やその指導法など栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 児童生徒の食生活に関する課題等に栄養教諭として対応していこうとする意欲を高める。 ② 学校給食法から学校給食の意義や目的を読み取り説明できる。 ③ 学校給食の実施基準を活用して、個人を対象とした栄養食事管理ができる。 ④ 学校給食衛生管理基準に沿った調理業務の指導ができる。 ⑤ 食をめぐる社会的状況や食文化の継承等を視野に入れた学校給食献立を計画することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③グループ討論と発表（ループリック） ④演習
科目学習の効果（資格）	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 栄養教諭の職務	オリエンテーション 関連法令から栄養教諭制度について知る。栄養教諭の職務内容について中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備」から読み取る。	事前：食に関する指導体制の整備について熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
2	食育基本法	児童生徒の食生活ならびに栄養に関する課題や社会状況に対応した食に関する指導の必要性、意義について食育基本法から読み解く。	事前：食育基本法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
3	第4次食育推進基本計画	食育推進のために栄養教諭は何をすべきか第4次食育推進基本計画から考える。	事前：第4次食育推進基本計画を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：第4次食育推進基本計画についてまとめる（2時間）。
4	学校給食法	学校給食の意義と目的について学校給食法から読み解く。学校給食の基本計画の設定や調理指導、栄養教諭が行う学校給食全般を理解する。	事前：学校給食法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：学校給食の意義や目的についてまとめる（2時間）。
5	学校給食の栄養管理（学校給食摂取基準の考え方）	学校給食の栄養管理を学校給食摂取基準から考える。	事前：日本人の食事摂取基準2020と学校給食摂取基準2021を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
6	学校給食の栄養管理（個別対応）	クラス全体の食事管理と個別対応の方法ならびに評価について考える。	事前：個別的な相談指導を必要とする児童生徒の対象者について調べる（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
7	学校給食の衛生管理基準：給食施設及び設備の整理	学校給食衛生管理基準について理解し、学校給食調理場の施設設備をレイアウトする。	事前：学校給食衛生管理基準（施設設備について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
8	学校給食の衛生管理基準：調理過程	献立作成、食材の購入、検収、保管についてまとめる。	事前：学校給食衛生管理基準（献立作成、食材購入、検収、保管について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
9	学校給食の衛生管理基準：演習	調理過程、配送についてまとめ、二次汚染防止のための手立てとして作業工程表作業動線図を作成する。	事前：学校給食衛生管理基準（作業工程表と作業動線図の作成について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：作業動線図・作業工程表を作成する（2時間）。
10	学校給食の衛生管理基準：衛生管理体制	検食や保存食、衛生管理体制について学修する。	事前：学校給食衛生管理基準（衛生管理体制について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
11	学校給食の衛生管理基準：ノロウイルス対応	厚生労働省ノロウイルスに関するQ&Aを理解し、ノロウイルス対策として、様々な場合を想定したマニュアルを作成する。	事前：ノロウイルス食中毒について調べる（2時間）。 事後：学校給食衛生管理基準とノロウイルス対策についてまとめる（2時間）。
12	学校給食の現状	学校給食実施状況調査から、児童生徒の実態を把握するための方法をグループで話し合い発表する。	事前：学校給食実施状況調査から課題点をまとめる（テキスト）（2時間）。 事後：児童の食生活に関するアンケート調査を作成する（2時間）。
13	学校給食における食物アレルギー対応	学校給食における食物アレルギー対応指針から、対応のための体制づくりや準備すべき書類、調理現場での指導、クラスでの対応について考える。	事前：アナフィラキシーについて調べる（2時間）。 事後：食物アレルギー対応マニュアルをまとめる（2時間）。
14	食料の供給状況や食文化の継承と学校給食	食料需給表から日本の食品供給状況について検討する。また、食文化の継承や地産地消について考え、学校給食献立の在り方について考える。	事前：最新の食料需給表を考察し、まとめる（プリント）（2時間）。 事後：地域の食文化や特産物、郷土料理を活かした献立を作成する（2時間）。
15	自然災害と学校給食	自然災害に備えた学校給食について考	事前：自然災害と学校給食についてまとめる（2時

			え、栄養教諭の役割について考える。	間)。 事後:栄養教諭として自然災害にどう向き合うかまとめる(2時間)。
関連科目	学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論―理論と実際―第2版	金田雅代	建帛社
	2	食に関する指導の手引き―第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	学校栄養指導論Ⅱ	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。子供の発育や発達、あるいは行動特性や教科等の特性を学びながら、食育の全体計画を作成し、子供の発達段階に応じた系統立った食育の模擬授業を行う。また、学校、家庭、地域と連携し学校給食を生きた教材として活用した食育の推進や、肥満、るい瘦、食物アレルギーといった個別指導の実践につながる取り組みを行い、栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①こどもの発達段階が理解でき、発達段階に応じた内容の食育を考えることができる。 ②食に関する指導の全体計画の意義を説明でき、立案の方法がわかる。 ③教科の単元目標に沿った食育指導案を作成し、模擬授業をすることができる。 ④学校、家庭、地域が連携した食育指導を計画することができる。 ⑤学校給食を活用した食育の指導案を作成することができる。 ⑥個別指導の手法に基づいた栄養相談ができる。
授業方法と留意点	①パワーポイント及び配付資料による講義 ②グループワーク ③テーマに沿った指導案の作成と模擬授業を通して意見交換を行い、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し、その技能と方法を学修する。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食に関する指導 (指導案)	オリエンテーション。 学習発達理論について知り、小学校中学年における「食べ物の3つの働き」の授業でどう活用していくか考え、グループごとに指導案を作成する。	事前：ピアジェの学習発達理論を読む (プリント) (2時間)。 事後：振り返りシート提出 (2時間)
2	食に関する指導 (模擬授業)	第1回の指導案を基に、グループごとに模擬授業を行う。	事前：指導案・教材を作成する (ワークシート) (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)
3	食行動に関するステージ別指導	食行動に関するステージ別指導理論を知り、この理論に基づく野菜嫌いの子供への給食の時間の指導について考える。	事前：行動科学について調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
4	コミュニケーション技術の コーチング	栄養教諭としてまず、子供とラボールの形成をどう築いていくかをグループで話し合い発表する。	事前：コーチングについて調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
5	食に関する指導の全体計画の 意義	食に関する指導の全体計画の意義について知り、実態に即した食に関する指導の全体計画を作成する。	事前：食に関する指導の全体計画について調べる (テキスト) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
6	学習指導要領について	学習指導要領について知り、そのねらいが「生きる力」であることに気づき、そのねらいに沿った授業とはどのようなものか考える。	事前：学習指導要領総則を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
7	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (家庭科、技術 家庭科)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。(家庭科、技術家庭)	事前：家庭科、技術家庭の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
8	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (保健体育)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((保健体育)	事前：保健体育の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
9	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (道徳)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((道徳)	事前：道徳の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
10	食育指導の評価の方法	7回～9回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、食に関する指導の効果、児童生徒の理解、定着度を評価する方法を考える。	事前：模擬授業の練習ならびに教材作成をする。(3時間) 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
11	給食の時間における食育	給食の時間における食育の特性を理解し、ねらいをもった献立を作成し、指導媒体を活用した給食の時間の指導を行う。	事前：ねらいをもった献立作成と指導媒体の資料収集をする (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
12	総合的な学習の時間における 食育	総合的な学習の時間の目標を知り、食育の単元を構成する。	事前：総合的な学習の時間の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
13	給食だよりの作成と活用方法	給食だよりを作成し発表する。	事前：今月の献立をもとに給食だよりに掲載する資料をまとめる (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
14	学校給食の生きた教材の活 用法	地域の食文化や地場産物の活用という視点での家庭や地域との連携の必要性や地域との連携の方法について考える。	事前：地域の地場産物や郷土料理、食文化について調べる (2時間)。 事後：(2時間)。
15	肥満、るい瘦、食物アレルギー 等の個別指導	個々に応じた指導方法について知り、指導資料を作成し、グループ内でローリングプレーを行う。	事前：食品構成の作成法を調べる (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改	文部科学省	東山書房
	2	四訂栄養教諭論－理論と実際－第2版	金田雅代	建帛社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語るすることができます。しかし、「教育とは一体何だろう？」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう？」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か？」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキスト P.3 を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキスト P.59～63 を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキスト P.76～85 を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキスト P.69～73 を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキスト P.93～97 を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキスト P.86～90 を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.29～32 を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.50～54 を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキスト P.147～151 を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキスト P.169～178 を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか？	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか？	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか？どうやって減らすのか？	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか？どのように防犯対策を進めているのか？	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。
・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。
・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。
・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。
本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。

この授業を通じて学生には、
・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる
・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる
・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる
ようになることが期待される。

・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。
・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。
・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。
・教員から一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。
・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を

・身近な刑事法の問題を理解できる

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	・授業の進め方と文献紹介 ・刑法の意義 ・刑法の機能 ・刑法学とは何か	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	刑法の基礎	・古典学派と近代学派 ・わが国の刑法思想 ・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	刑法の解釈	・罪刑法定主義 ・刑法の法源 ・刑法の解釈	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	犯罪の基本概念	・犯罪の成立要件	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	薬物犯罪	・覚せい剤取締法 ・大麻取締法 ・向精神薬取締法	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	カンニング行為と偽計業務妨害	・阪大入試問題漏洩事件 ・明治大学替え玉入試事件 ・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件 ・大学入試共通テスト問題漏洩事件	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	・飲み会において生じうる犯罪現象	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	定期券の偽造と詐欺罪	・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	ストーカー行為規制法	・ストーカーにならないために ・ストーカーの被害者にならないために	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	DVとデートDV	・DVの類型	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	・各種性犯罪 ・家出と各種誘拐罪	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	・少年法の厳罰化 ・20歳未満の実名報道	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	犯罪被害者救済①	・告訴と被害届 ・証拠保全の重要性	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	犯罪被害者救済②	・被害者に対する種々の救済制度 ・被害者の実名報道と被害者バッシング問題	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%+課題の得点95%）。定期試験は実施しない。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。 ・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。 ・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。 			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館10階 小野教授室			
備考	<p>本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。</p> <p>オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。</p>			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第4章 「小春日和」の時代 (2) 第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2) 第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。 ・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。 			

科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的

自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める (貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす (投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。

早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金 (確定拠出年金) の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか? 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択し、実践するスキルや判断力 (=金融リテラシー) を若いうちから身につけておくことが必要です。

本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。

到達目標

ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。

具体的には

- ①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる
- ②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく
- ③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる

以上を到達目標とします。

授業方法と留意点

基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。

授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。

また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。

なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。

科目学習の効果 (資格)

日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解することができるようになります。

金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。

また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格取得にも役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。 (注) 課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることがを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

		いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題① キャッシュフロー表の作成 : 25% 課題② 株式投資ゲームの参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5% (注) 履修学生が多大会場、課題① キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 1階 (教務課) 寝屋川キャンパス 7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 郭 進, 加嶋 章博, 久保 貞也, 小林 健治, 後藤 和子, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也, 八木 紀一郎
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1○, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 15 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目~15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4で2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいるSDGsについて、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはず。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 寝屋川キャンパス 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGsの17の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	データサイエンス実践	科目名 (英文)	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

到達目標
 この講義の到達目標は以下の通りである。
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている
 (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

授業方法と留意点
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

科目学習の効果 (資格)
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について S科 久保教授	事前の学修進捗度 学修ノート作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノート作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノート作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノート作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノート作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノート作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノート作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノート作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	学修ノート作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	学修ノート作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノート作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S科 牧野准教授	学修ノート作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	学修ノート作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノート作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S科 久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進捗度

関連科目 データサイエンス展開

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進捗度(アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館7階 久保教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本准教授室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名 (英文)	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <p>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。 2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。 3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。 4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対する発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーン・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
4	日本の近代化	・大正期の白権派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GIDと SOGI と人権	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修: ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間)
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: DV とデート DV に関してレポートを作成 (2時間) ・事後学修: ワークシート#13 (2時間)

	14	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 政策提言プレゼンテーション 自由討議 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間） 事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2時間）
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：まとめのワークシート（2時間） 事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。			

科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦・石井 三恵・伊藤 譲・後藤 一章・瀬川 智広・横山 喬之・米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B△, C科：II◎, L科：DP2◎, D科：DP1◎, S科：DP1◎, J科：DP1◎, W科：DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科：TT01461a1～TT01465a1, L科：LT01366a1～LT01370a1, D科・S科：IT01371a1～IT01375a1, J科：JT01361a1～JT01365a1, W科：WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0 (データ駆動型社会) やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4)
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である (12回分)。 (外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。) ・事前学習として、関連動画を視聴 (もしくは資料を精読) し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果 (資格)	・AI・データサイエンスの実際を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前学習	事後学修
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説		事後学修：レポート (1時間)
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動や AI による最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスや AI 技術の活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AI のメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの活用を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべき DX 思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習：動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間)	事後学修：レポート (1時間)

関連科目	情報系科目すべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。			
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室			
備考	米本研究室 (7号館 5階)			

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないので注意が必要です。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	python 入門 (1)	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門 (2)	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門 (4)	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグラミング (4)	2値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグラミング (5)	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグラミング (6)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグラミング (7)	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグラミング (8)	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング (2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	OpenCVによる画像処理入門 (改訂第3版)	小枝、上田、中村	講談社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業内課題 (60%)、プロジェクト課題 (40%)
学生へのメッセージ	われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることに繋がります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。
担当者の研究室等備考	寺内研究室 (寝屋川キャンパス、11号館10階)、新居研究室 (寝屋川キャンパス、7号館5階)

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙、大川 謙蔵、大塚 正人、尾山 廣、佐藤 大作、白鳥 武、村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について学び、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使します。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、グループワークにより課題に取り組みます。授業の最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討論ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後 : CHAP1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw
6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動の対策 https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート
9	地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える ~ その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2 : 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える ~ その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2 : 前回も使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

				めてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えてPPT1枚にまとめること。																
	11	日本の国際貢献と法整備支援1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：目標6、9、13を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html																
	12	日本の国際貢献と法整備支援2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標16、11、10を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf																
	13	持続可能な企業経営とESG投資1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4を学び、ABDサマリを作成する。																
	14	持続可能な企業経営とESG投資2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5を学び、ABDサマリを作成する。																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)</td> <td>バウンド</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度確認クイズ(個人：10%) ・事前・事後学習課題・ABDサマリ(個人：15%) ・取組み姿勢(チーム：20%) ・成果発表・プレゼンテーション1回(チーム：10%) ・振り返りシート(個人：20%)、・レポート2回(個人：20%)、・授業資料管理(個人：5%) ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【枚方キャンパス】 大塚教授(薬学部1号館5F) 【寝屋川キャンパス】 村瀬准教授(1号館7F)、伊藤教授(1号館3F)、尾山教授(理工学部1号館9F)、白鳥准教授(12号館7階)、佐藤准教授(1号館3F)、大川准教授(11号館9F)																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 加嶋 章博, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的
 これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。

到達目標
 (1) まちづくりの課題を多面的に理解できる
 (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する
 (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている

授業方法と留意点
 本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。

科目学習の効果 (資格)
 学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりで担う役割	グループ発表 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題 (60%)、事後レポートの採点結果 (40%) とした上で、総合評価されます。

学生へのメッセージ
 ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。

担当者の研究室等
 寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																																																																		
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。																																																																		
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																																																																		
備考																																																																			

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	フーロオミット* サジヤト*
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.
到達目標	1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures. 2. Increase knowledge of both historical and recent global events. 3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen. 4. Acquire pr
授業方法と留意点	This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The c
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)

	11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues																
	12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
	15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】</td> <td>Julie Knutson</td> <td>Nomad Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の時は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%																			
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other. We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learn																			
担当者の研究室等	教員室1 (2号館2階)																			
備考																				

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。 当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。 異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 年度末にあたる2~3月に現地派遣さ
----------	---

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30%	(規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)		
	現地活動評価 40%	(現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)		
	事後授業評価 30%	(成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (寝屋川キャンパス 2号館 2階)			
備考				

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名 (英文)	Liberal Arts Basics II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	上野山 裕士, 川崎 訓昭, 金 政宏, 森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて (オンデマンド)	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについて (オンデマンド)	農学部 (食農ビジネス学科) 教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部 (食農ビジネス学科) について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて (オンデマンド)	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
7	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
8	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成 (オンデマンド)	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック (オンデマンド)	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い (ピア評価; 15%)、グループで作成するポスター (25%) のほか、個人で作成する事前学
------	---

(基準)	修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日(火)、4日(水)の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。 ・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。 ・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名 (英文)	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的
平成 28 年 6 月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが最大の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。

到達目標
①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する
②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす
③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ
④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる
⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う

授業方法と留意点
①授業は対面式で行う。ICT ツールは Teams を使用する
②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること
③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を学ぶ	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
6	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
7	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主に ADHD の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
10	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
11	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前に Teams 上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2 時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2 時間)

関連科目
心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのポジティブ行動支援	松山康成	明治図書
	2	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック	三田地真実他	金剛出版
	3			
評価方法 (基準)	授業の出席・積極的参加 60% レポート40%			
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階 松浦研究室			
備考				

科目名	人間関係論 (ファシリテータートレーニング)	科目名 (英文)	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関わり、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します
科目学習の効果（資格）	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習	
	2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
	3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
	4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
	5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
	6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
	7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
	8	体験学習④	コンセンサス実習① (正解のある課題)	体験での学びをまとめる
	9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
	10	体験学習⑤	コンセンサス実習② (正解のない課題)	体験での学びをまとめる
	11	体験学習⑥	POPO (グループを観察する)	体験での学びをまとめる
	12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
	13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
	14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
	15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
	2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
	3			

評価方法 (基準)	実習参加態度 (30%)、課題 (20%)、期末レポート (50%)
学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
担当者の研究室等	教員室2 (寝屋川キャンパス2号館2階)
備考	

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有崇, 加野 佑弥, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1357a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習: 『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習: 第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDG s とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習: 第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習: 第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(0.5時間以上) 事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み・ディスカッション 15% ・プレゼン相互評価・グループポスター 15% ・レポート 15% ・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸 (7号館5F)、加野 佑弥 (7号館5F)、中澤芽衣 (3号館3F)、松本恭幸 (3号館3F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的
この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。
本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。

- 到達目標**
- (1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。
 - (2) ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。
 - (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。
 - (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。
 - (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
 - (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。
 - (7) 自主学習の習慣を身に付けている。

授業方法と留意点
授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。

科目学習の効果 (資格)
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47: 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習: 第1回レポート
6	説明力を鍛えるヒント: 第一章「間違いだらけの数学観」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
7	説明力を鍛えるヒント: 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
8	説明力を鍛えるヒント: 第三章「数学的思考のヒント」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。
9	説明力を鍛えるヒント: 第四章「論理的な説明の鍵」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度) 事後学習: 第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2時間程度)
12	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 11~20章を読み, 事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 21~27章を読み, 事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)	教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度) 事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK 出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数学的思考法—説明力を鍛えるヒント</td> <td>芳沢 光雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK 出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み 15% ・プレゼン 15% ・レポート 20% ・振り返りシート 15% ・クイズ 15% ・事前学習シート 15% ・ファイリング 5% <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)、新居英志(7号館5F)、森亜貴(2号館2Fラーニングセンター)、加野佑弥(7号館5階)、米本研究室(7号館5階)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実にを行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。

担当者の研究室等 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠・森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にに行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等備考 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大久保 勇輔
ディプロマポリシー (DP)	D⑩		
科目ナンバリング	TDA1004a0		

授業概要・目的
線形代数学は、連立 1 次方程式の効果的な解法の研究に端を発した学問であり、ベクトルを一般化した行列という概念を取り扱う。現代理工学の多くは線形代数を基本言語として記述されているため、理工系学生には欠くことのできない数学的教養である。この講義では行列の基本的な知識を習得し、幾何ベクトルの性質についても学修する。

到達目標
(1) 行列の演算ができる。
(2) ガウスの消去法を用いて連立 1 次方程式を解ける。
(3) 基本変形で逆行列が求められる。
(4) 行列の階数について説明できる。
(5) ベクトルの内積・外積が求められる。
(6) 平面や直線の方程式を求めることができる。

授業方法と留意点
授業計画に挙げた内容を解説し、課題・演習で理解を深める。教科書や板書ノートなどを参考に予習復習も励行すること。課題の提出や返却には Moodle を利用する予定だが、コース名や登録キーについては初回の講義で説明する。

科目学習の効果 (資格)
これから学ぶ理工学関連の科目の基礎となる。これらの科目を履修予定のものは、この科目を学んでおく事が望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
5	2 次正方行列	・逆行列の計算	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	講義資料の予習復習、第 1 章の間、レポート
7	連立 1 次方程式(1)	・消去法	講義資料の予習復習、第 2 章の間、レポート
8	連立 1 次方程式(2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	講義資料の予習復習、第 2 章の間、レポート
9	連立 1 次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	講義資料の予習復習、第 2 章の間、レポート
10	連立 1 次方程式(4)	・基本解・特殊解	講義資料の予習復習、第 2 章の間、レポート
11	連立 1 次方程式(5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	講義資料の予習復習、第 2 章の間、レポート
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	講義資料の予習復習、第 3 章の間、レポート
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	講義資料の予習復習、第 3 章の間、レポート
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー 3 重積	講義資料の予習復習、第 3 章の間、レポート
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	講義資料の予習復習、第 3 章の間、レポート

関連科目
以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます：
微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、統計学
上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	線形代数	摂南大学数学教室編	共立出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
課題演習 40%、期末試験 60% で判定し評価する。(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)。

学生へのメッセージ
講義の時間以外にも予習・復習を行うことが重要です。積極的に講義に参加して、分からない点があれば気軽に質問してください。しっかりと線形代数の知識を身に着けましょう。

担当者の研究室等
5 号館 1 階 数学研究室

備考
事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。
また期末試験前には 7.5 時間以上の学習時間が必要である。
課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1004a0		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	(1) 行列の計算ができる。 (2) 基本変形で連立1次方程式を解くことができる。 (3) 基本変形で逆行列を求めることができる。 (4) ベクトルの内積・外積を理解する。 これらの知識は電磁気や回路を学ぶのに必要であり、複雑なシステムの解析や設計に役立つ。																																																																		
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限りし容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、諸々の数学及び専門科目の習得に引き継がれる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍、転置行列</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義、単位行列</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・正則行列の定義・性質</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>正方行列(2)</td> <td>・行列式・逆行列の計算</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・行列のべき乗</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>線形写像</td> <td>・線形写像</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・掃き出し法・階数</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(4)</td> <td>・同次連立1次方程式・基本解・特殊解</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(5)</td> <td>・正則行列となる条件</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル(1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル(2)</td> <td>・内積・距離・外積</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル(3)</td> <td>・スカラー3重積・直線の方程式・平面の方程式</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの問題</td> <td>・まとめの問題</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍、転置行列	事後：レポート課題を解く(1時間)	2	行列の定義(2)	・積の定義、単位行列	事後：レポート課題を解く(1時間)	3	正方行列(1)	・正則行列の定義・性質	事後：レポート課題を解く(1時間)	4	正方行列(2)	・行列式・逆行列の計算	事後：レポート課題を解く(1時間)	5	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・行列のべき乗	事後：レポート課題を解く(1時間)	6	線形写像	・線形写像	事後：レポート課題を解く(1時間)	7	連立1次方程式(1)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形	事後：レポート課題を解く(1時間)	8	連立1次方程式(2)	・掃き出し法・階数	事後：レポート課題を解く(1時間)	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	事後：レポート課題を解く(1時間)	10	連立1次方程式(4)	・同次連立1次方程式・基本解・特殊解	事後：レポート課題を解く(1時間)	11	連立1次方程式(5)	・正則行列となる条件	事後：レポート課題を解く(1時間)	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	事後：レポート課題を解く(1時間)	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離・外積	事後：レポート課題を解く(1時間)	14	空間のベクトル(3)	・スカラー3重積・直線の方程式・平面の方程式	事後：レポート課題を解く(1時間)	15	まとめの問題	・まとめの問題	事後：レポート課題を解く(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍、転置行列	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義、単位行列	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
3	正方行列(1)	・正則行列の定義・性質	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
4	正方行列(2)	・行列式・逆行列の計算	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
5	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・行列のべき乗	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
6	線形写像	・線形写像	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
7	連立1次方程式(1)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
8	連立1次方程式(2)	・掃き出し法・階数	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
10	連立1次方程式(4)	・同次連立1次方程式・基本解・特殊解	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
11	連立1次方程式(5)	・正則行列となる条件	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離・外積	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
14	空間のベクトル(3)	・スカラー3重積・直線の方程式・平面の方程式	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
15	まとめの問題	・まとめの問題	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト(20%)、レポート課題(10%)、期末試験(70%)の合計で成績を決める。																																																																		
学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	5号館1階(数学準備室)																																																																		
備考	小テスト・レポート課題を毎回返却する予定なので、きちんと確認すること。 事前事後学習としてレポート課題を解く																																																																		

科目名	線形代数Ⅱ	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大久保 勇輔
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1005a0		

授業概要・目的	線形代数Ⅰの続編である本講義では、行列式、固有値・固有ベクトル、そして行列の対角化などの計算法を学修する。これらの概念は、行列によって示される線形写像の本質的な特徴を理解する上で不可欠である。さらに、これらの知識を活用し、多様な二次曲線のグラフを描く能力も身につける。
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化ができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題・演習で理解を深める。教科書や板書ノートなどを参考に予習復習も励行すること。課題の提出や返却にはMoodleを利用する予定だが、コース名や登録キーについては初回の講義で説明する。
科目学習の効果 (資格)	工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められるため、それらの科目を受講する予定の場合は線形代数Ⅱを履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	線形代数Ⅰの復習、行列式(1)	・線形代数Ⅰの復習 ・2次・3次正行列の行列式 ・サラスの方法	事前：線形代数Ⅰの復習 事後：レポート課題を解く
2	行列式(2)	・偶順列と奇順列 ・一般の行列式の定義	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
3	行列式(3)	・行列式の基本性質	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
4	行列式(4)	・行列式の基本性質 ・行列式の公理	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
5	行列式(5)	・行列式の幾何学的な意味 ・余因子展開	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
6	行列式(6)	・余因子行列を用いた逆行列の公式	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
7	行列式(7)	・クラメールの公式	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
8	行列式(8)	・正則性と同値な条件 (階数、線形独立性との関係)	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
9	固有値と固有ベクトル(1)	・固有値, 固有ベクトルの定義と計算法	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
10	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの定義と計算法	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
11	固有値と固有ベクトル(3)	・固有値に関する諸性質	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
12	対角化(1)	・正行列の対角化	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
13	対角化(2)	・直交行列と直交変換	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
14	対角化(3)	・対称行列の直交行列による対角化	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く
15	対角化(4)	2次形式への応用 ・	事前：前回の講義の復習 事後：レポート課題を解く

関連科目
以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められます：
工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学
上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	線形代数の基礎講義	島田伸一、廣島文生	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
学生へのメッセージ	講義の時間以外にも予習・復習を行うことが重要です。積極的に講義に参加して、分からない点があれば気軽に質問してください。しっかりと線形代数の知識を身につけましょう。
担当者の研究室等	5号館1階
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 また期末試験前には7.5時間以上の学習時間が必要である。 課題は、適宜講義中に解説する。

科目名	線形代数 II	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神 貞介
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1005a0		

授業概要・目的	行列式の計算法と行列の固有値と固有ベクトルの求め方が本講義の目的である。																																																																		
到達目標	以下の 3 点について具体的な計算ができるようになることを目標とする。 (1) 行列式 (2) 固有値と固有ベクトル (3) 行列の 3 角化と対角化																																																																		
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 そのためには、第一に欠席をせず、毎回授業の前には復習をしておくこと、第二にどんなに些細でも不明なことは質問すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	以下の科目の講義は線形代数 II の知識とスキルを前提にして授業が進められます： 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学 上記科目を受講する予定の学生は形代数 II を履修すること。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・サラスの方法</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・交代性・多重線形性</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・正則性の条件</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメールの公式</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値, 固有ベクトルの計算(2)</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・正方行列の三角化</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化 ・直交行列</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめの問題</td> <td>・まとめの問題</td> <td>事後：レポート課題を解く(1時間)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	事後：レポート課題を解く(1時間)	2	行列式(2)	・行列式の定義・サラスの方法	事後：レポート課題を解く(1時間)	3	行列式(3)	・交代性・多重線形性	事後：レポート課題を解く(1時間)	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	事後：レポート課題を解く(1時間)	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	事後：レポート課題を解く(1時間)	6	行列式(6)	・正則性の条件	事後：レポート課題を解く(1時間)	7	行列式(7)	・クラメールの公式	事後：レポート課題を解く(1時間)	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	事後：レポート課題を解く(1時間)	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	事後：レポート課題を解く(1時間)	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の対角化	事後：レポート課題を解く(1時間)	11	固有値と固有ベクトル(4)	・正方行列の三角化	事後：レポート課題を解く(1時間)	12	固有値と固有ベクトル(5)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	事後：レポート課題を解く(1時間)	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	事後：レポート課題を解く(1時間)	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用	事後：レポート課題を解く(1時間)	15	まとめの問題	・まとめの問題	事後：レポート課題を解く(1時間)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・サラスの方法	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
3	行列式(3)	・交代性・多重線形性	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
6	行列式(6)	・正則性の条件	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有値, 固有ベクトルの計算(1)	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値, 固有ベクトルの計算(2)	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の対角化	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・正方行列の三角化	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケーリーの定理	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
15	まとめの問題	・まとめの問題	事後：レポート課題を解く(1時間)																																																																
関連科目	線形代数 I, 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト(20%)、レポート課題(10%)、期末テスト(70%)の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。																																																																		
担当者の研究室等	5号館1階(数学準備室)																																																																		
備考	小テスト・レポート課題を毎回返却する予定なので、きちんと確認すること。 事前事後学習としてレポート課題を解く。																																																																		

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2006a0		

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。																																																																		
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行できる。 専門基礎で用いられる数学的表現が理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関数のグラフ</td> <td>・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大値、最小値の計算</td> <td>・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>関数の積分</td> <td>・種々の関数の積分の計算法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ベクトル(1)</td> <td>・ベクトルの内積の図形的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ベクトル(2)</td> <td>・ベクトルの外積の図形的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式の計算</td> <td>・種々の行列式の計算方法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式の応用</td> <td>・平行 6 面体の体積の計算</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>一次独立、一次従属</td> <td>・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>速度・加速度(1)</td> <td>・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>速度・加速度(2)</td> <td>・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ベクトルを用いた物理量(1)</td> <td>・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ベクトルを用いた物理量(2)</td> <td>・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>重積分の計算(1)</td> <td>・重積分の逐次積分法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>重積分の計算(2)</td> <td>・ヤコビ行列を用いた変数変換</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>重心と慣性モーメント</td> <td>・重積分を用いた定義とその物理的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	講義中に配布する演習問題プリント	2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	講義中に配布する演習問題プリント	3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	講義中に配布する演習問題プリント	4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント	5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント	6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	講義中に配布する演習問題プリント	7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	講義中に配布する演習問題プリント	8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	講義中に配布する演習問題プリント	9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント	10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	講義中に配布する演習問題プリント	11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	講義中に配布する演習問題プリント	12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	講義中に配布する演習問題プリント	13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	講義中に配布する演習問題プリント	14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	講義中に配布する演習問題プリント	15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	講義中に配布する演習問題プリント
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>工業数学の基礎(2024年度版)配布予定</td> <td></td> <td>摂南大学 基礎理工学機構編</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	工業数学の基礎(2024年度版)配布予定		摂南大学 基礎理工学機構編	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	工業数学の基礎(2024年度版)配布予定		摂南大学 基礎理工学機構編																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習・小テスト 40%および期末試験 60%で成績評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽にください。																																																																		
担当者の研究室等	5号館1階 数学教室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	工業数学 II	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2007a0		

授業概要・目的	工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的な解法について学習する。
到達目標	変数分離系などの微分方程式を解くことができる。 線形微分方程式を理解して解くことができる。 専門分野で出てくる微分方程式で解くことができる。
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 理解の促進と達成の度合いをみるため、演習問題を配布する。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	講義中に配布する演習問題プリント
	2	1階常微分方程式(1)	・変数分離形1階微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	3	1階常微分方程式(2)	・定数変化法による1階線形微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	4	1階常微分方程式(3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント
	5	1階常微分方程式(4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	講義中に配布する演習問題プリント
	6	2階定数線形微分方程式(1)	・基本解の導出	講義中に配布する演習問題プリント
	7	2階定数線形微分方程式(2)	・基本解・解の表示	講義中に配布する演習問題プリント
	8	2階定数線形微分方程式(3)	・定数変化法による定数係数線形微分方程式の一般解について	講義中に配布する演習問題プリント
	9	2階定数線形微分方程式(4)	・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(\text{多項式})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	10	2階定数線形微分方程式(5)	・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(\text{指数関数})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	11	2階定数線形微分方程式(6)	・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(\text{三角関数})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	12	2階定数線形微分方程式の応用(2)	・強制振動など物理への応用	講義中に配布する演習問題プリント
	13	数値計算(1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	14	数値計算(2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
	15	総合演習	・応用問題	講義中に配布する演習問題プリント

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II, 工業数学 I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微分方程式の基礎(2023年度改定新版)「(教科書は配布予定)」		摂南大学 基礎理工学機構編
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習・小テスト40%および期末試験60%で成績評価を行う。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	5号館1階 数学教室
----------	------------

備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	代数学	科目名 (英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2008a0		

授業概要・目的	最近の電子社会の発展に伴い、「群」、「環」、「体」と言った抽象代数の知識の必要性が増している。抽象代数学においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開される。そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める：線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。 授業日の 2 日前を目安に Moodle のコースに講義録を上げていきます。講義録の pdf ファイルをダウンロードして、手元の端末でファイルを開いて読めるようにする。講義録を予習して授業に臨むこと。(可能なら印刷して、書き込んだり落書きしたりしながら、予習するのがベストだと思う)。Moodle のコースには演習問題も用意しています。問題演習を積極的にを行う予定です。授業は講義録と演習問題のファイルを手元において受講す
科目学習の効果 (資格)	代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	集合	・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 1
2	同値関係と商集合	・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 2
3	写像	・全射、単射、全単射 ・逆写像	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 3
4	群の定義と例 (1)	・2 項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 4 (前半)
5	群の定義と例 (2)	・群の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 4 (後半)
6	群と対称性への入門 (2 面体群で遊ぶ)	・2 面体群 ・生成元と基本関係式	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 5
7	部分群	・部分群の定義 ・部分群の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)
8	部分群と剰余類	・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値律	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)
9	要素の位数	・群の要素の位数 ・巡回群	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 7
10	正規部分群と剰余群 (商群) (1)	・正規部分群の定義と例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 8 (前半)
11	正規部分群と剰余群 (商群) (2)	・正規部分群による剰余類 ・剰余群 (商群) とその例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 8 (後半)
12	群の準同型写像 (1)	・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
13	群の準同型写像 (2)	・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
14	群の準同型定理	・準同型定理	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
15	群の同型定理	・準同型定理とその応用	・講義の予習 ・講義の復習

関連科目 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫
2	現代数学序説	松坂和夫	ちくま学芸文庫	
3	代数学 1 群論入門	雪江明彦	日本評論社	

評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
学生への メッセージ	毎回2時間以上の事前・事後学習が必要だろう。こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。レポート課題は採点して返却時に解説する。講義録、演習問題の配布やレポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしい。
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	

科目名	幾何学 I	科目名 (英文)	Geometry I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2009a0		

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの基本的な図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義形式です。講義内容の理解の確認として、ほぼ毎回、課題があります。ですので、課題レポートには十分時間をかけて取り組むことを心掛けてください。配付するプリントには、課題レポートの問題も含めて、練習問題をたくさん載せています。問題を解くことにより、論理的な文章を書く練習を積んでください。課題の提出と返却に Moodle を利用します。Moodle のコースへの登録を忘れず行ってください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>推論と証明(1)</td> <td>命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>推論と証明(2)</td> <td>命題の逆、対偶、必要十分条件について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>線分と角の合同</td> <td>合同の概念、線分と角の合同について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>三角形の合同定理</td> <td>3つの、三角形の合同定理について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>いろいろな角</td> <td>いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>三角不等式</td> <td>三角形の内角と外角、三角不等式について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>線分の中点</td> <td>直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>平行線の公理</td> <td>平行線の公理、三角形の内角の和について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四辺形</td> <td>いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中点連結定理</td> <td>中点連結定理、n等分点列の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>三角形の相似</td> <td>線分の内分と外分、三角形の相似について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>三平方の定理</td> <td>三平方の定理、中線定理、円、円の接線について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>三角形の五心(1)</td> <td>重心、外心、垂心について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>三角形の五心(2)</td> <td>内心、傍心について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>複素数平面</td> <td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について</td> <td>課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート	3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート	4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート	5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート	6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート	7	線分の中点	直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について	課題レポート	8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート	9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート	10	中点連結定理	中点連結定理、n等分点列の存在について	課題レポート	11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート	12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート	13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート	14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート																																																																
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート																																																																
3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート																																																																
4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート																																																																
5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート																																																																
6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート																																																																
7	線分の中点	直角三角形の合同定理、線分の中点、角の二等分線について	課題レポート																																																																
8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート																																																																
9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート																																																																
10	中点連結定理	中点連結定理、n等分点列の存在について	課題レポート																																																																
11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート																																																																
12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート																																																																
13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート																																																																
14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート																																																																
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート																																																																
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II など。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>幾何入門</td> <td>砂田利一</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>幾何への誘い</td> <td>小平邦彦</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>幾何のおもしろさ</td> <td>小平邦彦</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																																
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																																
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																																
評価方法 (基準)	課題レポート30%、定期テスト70%の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、ほぼ毎回の課題レポートでは、授業内容の理解を確認する問題を出題します。難しいものもあるかもしれませんが、いろいろ考えること自体に意義があります。じっくり取り組むことで次の回での課題レポートの解説がより分かります。このように課題レポートは授業内容を理解する上で重要です。できるだけ欠かさず提出してください。																																																																		
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	幾何学 II	科目名 (英文)	Geometry II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2010a0		

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。			
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： (1) 二次曲線の焦点・準線・極形式を理解する (2) 曲線と曲面に関する基本的な事項を理解する			
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II			
科目学習の効果 (資格)	教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	二次曲線 (1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	2	二次曲線 (2)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	3	二次曲線 (3)	楕円の焦点の性質、接線 (接空間)、パラメータ表示、面積	演習問題 (1 時間)
	4	二次曲線 (4)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	5	二次曲線 (5)	座標軸の回転と固有値、固有値による 2 次曲線の分類	演習問題 (1 時間)
	6	平面の曲線 (1)	弧長、曲率	演習問題 (1 時間)
	7	平面の曲線 (2)	曲率円	演習問題 (1 時間)
	8	空間内の曲線	曲率と振率、Frenet-Serret の公式	演習問題 (1 時間)
	9	中間試験	第 1-5 回の内容の中間試験、及び解答解説	演習問題 (1 時間)
	10	空間内の曲面 (1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	演習問題 (1 時間)
	11	空間内の曲面 (2)	曲面積分、曲面積、重心	演習問題 (1 時間)
	12	空間内の曲面 (3)	第一基本形式	演習問題 (1 時間)
	13	空間内の曲面 (4)	第二基本形式、平均曲率、ガウス曲率 (1)	演習問題 (1 時間)
	14	空間内の曲面 (5)	第二基本形式、平均曲率、ガウス曲率 (2)	演習問題 (1 時間)
	15	空間内の曲面 (6)	測地線、Gauss-Bonnet の定理	演習問題 (1 時間)
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II、幾何学 I、解析学、代数学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	曲線と曲面 (改訂版) -微分幾何的アプローチ	梅原雅顕, 山田光太郎	裳華房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	二次曲線に関しては高校の数学 C の参考書多数		
	2	曲線と曲面の微分幾何	小林昭七	9784785310912
	3			
評価方法 (基準)	レポート課題 20%、中間試験 30%、期末試験 50%で判定し評価する。			
学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。			
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。レポート課題は毎回採点して返却し、解答解説を行う。			

科目名	解析学	科目名 (英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2011a0		

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数のもつ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 授業では、課題レポートの問題も含めた授業に関するプリントを配付する。 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	数学教職免許取得に不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実数の構成と性質 (1)	論証の用語, 和集合, 共通部分 有理数と実数	課題レポート
2	実数の構成と性質 (2)	無限集合, 濃度の比較, 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
3	実数の構成と性質 (3)	実数の連続性, 実数の作る集合の性質 限・下限, 上極限・下極限, 数列の極限, $e-N$ 論法	課題レポート
4	実数の構成と性質 (4)	コーシー列, 実数の完備性, ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
5	関数の性質 (1)	関数の定義, 関数の極限, 関数の連続性と $\epsilon-\delta$ 論法,	課題レポート
6	関数の性質 (2)	中間値の定理, 最大値・最小値の存在	課題レポート
7	連続関数	逆関数の定義, 合成関数の連続性, 一様連続性, リップシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
8	微分と積分 (1)	微分係数の定義, 導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
9	微分と積分 (2)	リーマン積分可能性と定積分, 微積分の基本定理	課題レポート
10	平均値の定理とテイラー展開 (1)	ロルの定理, コーシーの平均値の定理, 有限増分の公式	課題レポート
11	平均値の定理とテイラー展開 (2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束,	課題レポート
13	関数空間	関数の作る空間, ノルム区間と完備性, アスコリ・アルツェラの定理,	課題レポート
14	関数方程式と関数空間 (1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
15	関数方程式と関数空間 (2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

関連科目 微積分 I・II, 線形代数 I・II, 力学, 物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリント教材を配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート 40%、定期テスト (期末) 60% で判定し評価する。 課題レポートは毎回採点して返却する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問してください。いつでも親切に答えるようにしています。また、スチューデントアワー (月金の 5 限目) には 5 号館 1 階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA2012a0		

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計学の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。
到達目標	到達目標: 1. データ整理の基礎的な統計量を求めることができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 4. 2項分布など離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布など連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定の考え方の理解と応用ができる。 7. 仮説検定や区間推定の基本的な技法の理解と応用ができる。
授業方法と留意点	データから母集団分布の特性を推論する統計的推測の基本的な考え方を学ぶ。そのため、確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を記述する確率分布モデルの学習して、正規母集団の場合の仮説検定や区間推定の基礎的な技法を習得する。各回の講義は2時間以上の事前・事後学習を前提として進める。また、講義内容を理解するにあたり、以下の科目を履修していることが強く望まれる：微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II。 なお、レポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。
科目学習の効果 (資格)	統計的推測の考え方を理解して、仮説検定や区間推定の方法が実践できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	データの整理 1	<ul style="list-style-type: none"> 講義の進め方 母集団と標本、無作為抽出 標本平均、標本分散、標本標準偏差 度数分布とヒストグラム 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第1回演習問題
	2	データの整理 2	<ul style="list-style-type: none"> 2変量データと散布図 標本共分散、相関係数 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第2回演習問題
	3	事象の確率	<ul style="list-style-type: none"> 全事象、積事象、和事象 事象の確率 条件付き確率 事象の独立性 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第3回演習問題
	4	離散型確率変数とその確率分布	<ul style="list-style-type: none"> 確率分布と確率変数 離散型確率変数の平均と分散 離散型確率変数の独立性 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第4回演習問題
	5	2項分布	<ul style="list-style-type: none"> 2項分布の定義 2項分布の平均と分散 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第5回演習問題
	6	連続型確率変数とその確率分布	<ul style="list-style-type: none"> 連続型確率変数 確率分布と確率密度関数 確率分布関数 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第6回演習問題
	7	正規分布	<ul style="list-style-type: none"> 正規分布の定義 正規分布の平均と分散 標準正規分布と標準化 正規分布の確率計算 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第7回演習問題
	8	標本平均と独立同分布確率変数	<ul style="list-style-type: none"> 同時密度関数と周辺密度関数 連続型確率変数の独立性 標本平均の平均と分散 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第8回演習問題
	9	独立確率変数の和の分布	<ul style="list-style-type: none"> 2項分布と正規分布の再生性 正規分布に従う独立同分布確率変数の標本平均 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第9回演習問題
	10	統計的推測の考え方	<ul style="list-style-type: none"> 母集団特性値の推定量と点推定 推定量の不偏性と一致性 大数の弱法則 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第10回演習問題
	11	鉱山で金を掘る。そして、別の鉱山でも金を掘る。	<ul style="list-style-type: none"> 仮説検定の考え方 母数の帰無仮説と検定統計量 検定の有意水準と棄却域 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第11回演習問題
	12	検定の過誤と検定力	<ul style="list-style-type: none"> 対立仮説と第2種の過誤 第2種の過誤と検定力 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第12回演習問題
	13	再び、鉱山で金を掘る。	<ul style="list-style-type: none"> 区間推定の考え方 仮説検定と区間推定 信頼区間 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第13回演習問題
	14	そのサイコロは公平か？	<ul style="list-style-type: none"> 2項分布の中心極限定理 正規分布による近似 	<ul style="list-style-type: none"> 講義録の予習・復習 第14回演習問題
	15	正規母集団の統計的推測	<ul style="list-style-type: none"> 母数の推定量の独立性 検定統計量と正規分布に関連する確率分布(カイ2乗分布、t分布、F分布)の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 講義の復習

関連科目 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	理工系のやさしい統計学 (仮題)	中津了勇	学術図書出版
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。			
学生への メッセージ	各回の講義は2時間以上の事前・事後学習を前提として進める。講義内容を理解するにあたり、以下の科目の学習内容を習得していることが強く望まれる：微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II。			
担当者の 研究室等	5号館1階数学研究室			
備考	レポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。			

科目名	物理学 I	科目名 (英文)	Physics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1013a0		

授業概要・目的	物理学は力学とともに理工系大学教育において、極めて重要な基礎科目である。物理学 I では「熱力学」を軸として、「力学」と関連した物理学の基礎を総合的に学ぶ。熱力学は建築設備における熱の発生及び伝導の仕組み、そして空調設備の動作原理等を理解する上で不可欠である。授業ではさまざまな熱現象を基本原理、基本原則から丁寧に講義する。
到達目標	力学を基礎として、熱の性質を基本原理から理解することができる。
授業方法と留意点	主として配布する資料 (プリント) を用いて授業を進める。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。小テストは採点後返却し、正答率の低かった問題を中心に解説する。なおビデオ等で予習をし授業時間に履修者が課題の解説をする、いわゆる反転授業を実施する場合がある。
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門科目で用いる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	物理学とは・数学的準備	物理学の役割を身近な例をとって分かりやすく説明する。数式化の基礎となる物理量の表し方や単位について学ぶ。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
2	運動の法則と運動方程式	力学の基礎となる運動の第 1~第 3 法則を学び、運動方程式のたて方およびその解き方について理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
3	仕事と運動エネルギー	物理での仕事の定義と重要性を示し、それをもとにエネルギーという新たな量を理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
4	運動量と力積	時間と力との関係から、衝突の問題を扱うのに便利な運動量という新たな量を理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
5	気体法則	気体の状態を記述するボイルの法則、シャルルの法則を学ぶ。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
6	理想気体の状態方程式	気体の状態を表す種々の量を示し、それらの間の関係を示す状態方程式を理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
7	気体の分子運動論	「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則を学ぶ。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
8	前半のまとめ	中間確認テストを実施し、問題の解説をする。	確認テストの復習 (1 時間以上)
9	温度と熱	温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
10	熱力学第一法則	力学的な仕事と熱量の関係を学び、熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
11	様々な状態変化	等温変化、定圧変化、定積変化、断熱変化のそれぞれについて、熱量と仕事の移動および圧力と体積の変化を定量的に理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
12	カルノーサイクル	カルノーサイクルを学び、熱エネルギーからどのように機械的なエネルギーを取り出すのかを理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
13	熱力学第二法則	熱現象の不可逆性を表す熱力学第二法則を理解する。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
14	エントロピー	熱力学第二法則を定量的に表現するための、エントロピーという新たな量を知る。	配布プリント・小テストの復習 (1 時間以上)
15	全体のまとめ	熱力学の応用技術例を解説しながら、これまでに講義で述べた重要事項を復習する。	—————

関連科目 物理学 II、力学 I、力学 II、物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 中間確認テスト、期末試験、小テストにより評価する。総合評価を期末試験 65%、小テスト及び中間確認テスト 35%の割合で算出する。

学生へのメッセージ この授業内容は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。

担当者の研究室等 8 号館 2 階 長島教授室

科目名	物理学Ⅱ	科目名 (英文)	Physics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	D⑩		
科目ナンバリング	TDA1014a0		

授業概要・目的	物理学は力学とともに理工系大学教育において、極めて重要な基礎科目である。授業はさまざまな電磁気的な現象を基本原理、基本原則から丁寧に講義する。物理学Ⅱでは「電磁気学」を軸として、「力学」と関連した物理学の基礎を総合的に学ぶ。 SDGs-9
到達目標	電磁気に関わる基礎的現象を説明できる。諸法則を用いて電磁気に関わる物理量を計算できる。具体的には 1. 点電荷のつくる電場・電位の計算ができて、電気力線・等電位面が描ける 2. 簡単な電気回路の解析ができる 3. 基本的な形状の電流が作る磁場が描ける 4. 電磁誘導の法則にもとづいて誘導電流・誘導電圧が求められる
授業方法と留意点	前半はスライドを使った解説を注意深く批判的に聴き、途中、Moodle を利用したクイズに回答する。後半は課題プリントに取り組み、指定時間内にオンラインで提出する。翌々日以降、添削された課題プリントを見て、不十分だった部分を次の講義までに直す。 この物理学Ⅱには、学籍番号の奇数と偶数で分割したイ組とロ組があるので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	数学的準備: 時間変化と位置ベクトル, 速度ベクトル, 加速度ベクトル	時間とともに変化する位置ベクトルから、その動きの速度ベクトルが求まる。速度ベクトルという概念を習得する。さらに速度の時間変化を追うことで、加速度ベクトルの概念を習得する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
2	運動の法則と運動方程式	力学の基礎となる運動の第1～第3法則を学び、運動方程式のたて方およびその解き方について理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
3	仕事と運動エネルギーと位置エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
4	クーロン力	質量による万有引力と対比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
5	電場	電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
6	電気的位置エネルギー	力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの対比。等電位線の概念を学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
7	導体中での電子の運動と電気抵抗	電気抵抗の原因は自由電子と金属イオンとの衝突であることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
8	電気回路で発生するジュール熱	電気回路において電気的位置エネルギーがジュール熱に変換されることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
9	コンデンサー	コンデンサーの機能を習得する。静電容量、コンデンサーを含む回路における静電エネルギーを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
10	電流が作る磁場	磁石だけでなく電流も磁場をつくることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
11	ビオ・サバールの法則	任意の電流が作る磁場を表すビオ・サバールの法則を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
12	磁場中の電流に働く力	磁場中の電流に力が働くことを学ぶ。電荷が電場及び磁場中で受けるローレンツ力を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
13	電磁誘導	回路を貫く磁束の時間変化によって生じる電磁誘導現象を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
14	自己誘導と磁性体	コイルに生じる自己誘導現象を調べ、コイルを特徴づけるインダクタンスを定義する。また、磁石の起源について学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
15	電磁波と交流	電場及び磁場の空間的・時間的振動である電磁波の性質を学ぶ。周波数による電磁波の分類について学習するとともに、電磁波の発生原理を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)

関連科目 物理学Ⅰ、力学Ⅰ、力学Ⅱ、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理 第2版	潮秀樹、上村洸	森北出版
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 70%、毎回の課題プリント 30% の割合で総合的に評価する。

学生へのメッセージ	この授業内容は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	模範解答は配布しません。 Moodle内のクイズにすべて正答していることが期末試験受験の前提条件です。 質問・相談時間：火曜14:20～14:50。 事前・事後学習総時間20時間以上。

科目名	基礎力学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1015a0		

授業概要・目的	物理学は近代の科学技術の基礎となっており、力学はこの物理学の基礎柱の一つである。力学はものづくりにも必要な日常的な現象をとらえることのできる学問であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方や取り扱い方を学ぶ。
到達目標	建築・都市工学技術者として専門知識の理解を深めるために、必要な数学や物理学の基本的な考え方ができる。 具体的に、下記のことを到達目標とする。 1：質点系のつり合いの方程式を記述できる。 2：剛体系のつり合いの方程式を記述できる。 3：物体の運動方程式を記述し、物体の運動を理解できる。
授業方法と留意点	前半はスライドを使った解説を注意深く批判的に聴き、途中、Moodle を利用したクイズに回答する。後半は課題プリントに取り組み、指定時間内にオンラインで提出する。翌々日以降、添削された課題プリントを見て、不十分だった部分を次の講義までに直す。
科目学習の効果 (資格)	理工学の基礎として必要不可欠な力学の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理を理解する上で基本となる単位についても説明する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
2	重力	重力の大きさと向きを理解し、図に正確に書き込む	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
3	ベクトルの合成と分解	ベクトルの合成と分解を理解し、丁寧に作図する	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
4	ベクトルの成分	成分で表したベクトルの計算を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
5	垂直抗力と張力	作用・反作用の法則に基づいて、垂直抗力と張力を理解し、図に正確に書き込む	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
6	力のつり合い	静止した物体について、力のつり合いの式をたてて解く	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
7	摩擦力	静止摩擦力・動摩擦力について学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
8	力のつり合い(2)	力のつり合いについての総合問題に取り組む	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
9	力のモーメント	回転させる働きを表す力のモーメントを導入する	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
10	力のモーメントのつり合い	回転していない物体について、力のモーメントのつり合いの式をたてて解く	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
11	位置・速度・加速度	運動を表現する基本量である位置・速度・加速度を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
12	運動の法則	力学の基本法則である運動の3法則を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
13	運動方程式	運動方程式をたてて物体の運動を調べる	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
14	仕事とエネルギー	外からされた仕事の分だけエネルギーが増えることを学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
15	力学的エネルギー保存則	重力だけが働くときの運動を力学的エネルギー保存則を使って調べる	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)

関連科目 微積分 I, 線形代数 I, 力学 I, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理 第2版	潮秀樹, 上村洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、毎回の課題プリント 40% の割合で総合的に評価する。

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や自らの経験をもとに考えると取り組みやすい学問です。この授業を通して、身近な物理現象を理解してみましょう。

担当者の研究室等 8号館2階 物理準備室

備考 定規を持参してください。
模範解答は配布しません。
Moodle 内のクイズにすべて正答していることが期末試験受験の前提条件です。
質問・相談時間：火曜 14:20 ~ 14:50。
事前・事後学習総時間 20 時間以上。

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 純子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1016a0		

授業概要・目的	物理学は現在の科学技術において基礎となる学問である。この物理学の基礎分野の大きな柱の一つである力学は、理工学部のものづくりを基本とする専門科目を理解するための必要不可欠なものとなる。「力学 I」では、ニュートンの運動方程式を基礎として、力(ちから)とはなにか? エネルギーとはなにか? を学ぶ。 SDGs グローバル指標との対応 : SDGs-9
到達目標	到達目標は、物体に加わる力(ちから)からニュートンの運動方程式を記述し、物体の位置や速度、加速度に関する運動が求められることが出来ること。さらに、エネルギーの概念が説明出来ること。
授業方法と留意点	講義は主としてプリントに沿って行う。プリントの配布、課題の提出は Moodle を利用するので、必ずアクセスすること。課題は必ず提出すること。 Moodle コース名 : 2024 年度前期 力学 I A 科 X 組 (松尾) 登録キー : 24arkgk1
科目学習の効果 (資格)	理工学の基礎として、専門で出てくる物理量の意味や多岐にわたる物理量の相互関係の理解に役立つ。例えば、質量と重量との違い、運動量とエネルギーとの違いなど。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	有効数字・単位	物理学の基本となる単位と次元の考え方を解説する。工学で重要となる有効数字の扱いについても説明する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
2	三角比	数学的準備として、ベクトルの合成・分解に利用する三角比について解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
3	微積分	数学的準備として、運動方程式を解くために使用する微積分に関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
4	方程式	数学的準備として、方程式の解き方を解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
5	運動の法則	力学の基礎となる、運動の法則に関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
6	様々な力	力学の基礎となる様々な力に関して説明し、図への記入のしかたを解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
7	力のつりあい	力学の基礎である力のつりあいに関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
8	運動方程式	簡単な運動に関して運動方程式の立て方を解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
9	運動方程式《解法》	簡単な運動に関して、微積分を利用した運動方程式の解き方に関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
10	力のモーメント	回転運動のに関して力のモーメントをもとに解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
11	仕事・運動エネルギー	仕事と位置エネルギーの違いを説明し、運動エネルギーに関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
12	力学エネルギー保存	力学的エネルギーを説明し、保存則に関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
13	跳ね返り係数	多体問題につながる関係である跳ね返り係数について解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
14	運動量保存	運動量に関して説明し、多体問題への応用として運動量保存に関して解説する。	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)
15	まとめ	講義のまとめ	事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上)

関連科目 微積分 I、線形代数 I、力学 II、物理学実験

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	やさしい基礎物理	潮 秀樹、上村 洸	森北出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 評価は期末試験(テスト課題)と小テスト(課題1~14)にて行う。
定期試験70%、小テスト30%

学生へのメッセージ 力学 I の考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、できるだけ授業に集中してください。また、力学 I では微分・積分の知識も必要となりますが、授業で力学 I に必要な微分・積分について簡単に講義しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。

担当者の研究室等 8 号館 2 階 物理準備室

備考 ノート等を読み直し、分からないところがあれば、そのままにしないで講義時間内に質問をすること。
事前 : プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後 : 課題の提出 (0.5h 以上) の学習時間が必要です。
質問・相談時間 : 授業時間外は Moodle のメッセージからお願いします。
小テスト(課題)は採点して返却します。コメント欄、PDF 注釈の確認をしてわからなければ質問してください。

科目名	力学 I	科目名 (英文)	Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	島津 浩哲
ディプロマポリシー (DP)	D⑩		
科目ナンバリング	TDA1016a0		

授業概要・目的	物理学は現代の科学技術において基礎となる学問です。この物理学の大きな柱の一つである古典力学は、建築学科をはじめ理工学系の専門科目を理解するために必要不可欠なものです。本科目では物体の形や大きさを考慮しない質点の運動について学習します。SDGs グローバル指標 9 に対応。
到達目標	この授業を通じて学生には、次のことができるようになることが期待されます。 1. 運動の三法則を理解し、質点に働く力の大きさと向きを図示し、つりあいの関係を理解できる。 2. 質点の運動の運動方程式を作り、積分をすることにより解くことができる。 3. 運動量保存則と力学的エネルギー保存則を理解し活用することができる。
授業方法と留意点	授業ではまず、各回の授業テーマについて講義をし、その後プリントによる演習をおこなうことで理解を確認します。前回の学習内容を確認する小テストを毎回おこないます。小テストは採点后、教室で返却します。
科目学習の効果 (資格)	理工学系専門科目を学ぶのに必要不可欠な基礎科目であり、専門科目で学習するさまざまな物理量の意味や相互関係の理解に必要です。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学とは	力学とは何かということについて身近な例から理解し、力学に必要な物理量や単位と次元について学ぶ。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
2	ベクトルの合成と分解	ベクトルの概念、三角比、および、ベクトルの合成と分解について理解する。さらに、ベクトルの差として相対速度を理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
3	ベクトルの成分表示と内積	三角比について復習をした上で、直角座標におけるベクトルの成分表示と、ベクトルの内積について理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
4	平均の速度と加速度	平均の速度、加速度について理解する。さらに、微分・積分の活用に向けて、その概念を学ぶ。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
5	瞬間の速度と加速度	平均の速度と瞬間の速度との違い、および、微分・積分と速度、加速度との関係を理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
6	速度ベクトルと加速度ベクトル	ベクトルの微分・積分について学び、位置ベクトル、速度ベクトル、加速度ベクトルについて理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
7	力とつり合い	万有引力、重力、垂直抗力、摩擦力、張力、ばねの力などいろいろな力について、さらに、それらの力のつり合いについて理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
8	運動方程式の立式	運動の三法則と、運動方程式の作り方を理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
9	運動方程式の解法	運動方程式を立て、積分をすることにより解く方法について理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
10	円運動と単振動	等速円運動と単振動について、角速度、周期、向心力、振幅、振動数の概念とそれらの関係を理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
11	運動量と力積	運動方程式を積分することにより、運動量と力積の概念を導き、運動量の保存則を学ぶ。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
12	仕事とエネルギー	仕事とエネルギーの概念を学び、力学的エネルギー保存の法則を理解する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
13	運動量保存則と力学的エネルギー保存則の活用	衝突現象を題材に、反発係数の概念、および、運動量保存則と力学的エネルギー保存則の活用について学ぶ。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
14	エネルギー保存則	日常生活における様々な物理現象を題材に、運動の法則やエネルギー保存の法則を考察する。	事前の授業内容に関する教科書の通読、および、事後の課題プリントの見直し(1時間)
15	まとめ	全体のまとめにより、これまで学んだ知識を整理し、活用ができるようになる。	事後の授業内容の見直し(1時間)

関連科目 微積分 I・II、力学 II、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹、上村 洸	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験 70%、毎回の小テスト 30%

学生への メッセージ	力学 I の考え方や物事の捉え方は、これから学ぶ専門科目で役に立ちますので、授業に集中して学習してください。 ベクトルや微分・積分についても基礎的なところから説明しますので、数学の苦手な方も不安にならずに履修してください。 授業で配布するプリントやノート、教科書等を復習し、理解できなかったところがあれば、そのままにしないで遠慮なく質問をしてください。 みなさんに役立つ知識と同時に、物理学の考え方やおもしろさも伝えます。
担当者の 研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	質問、相談時間：金曜 14:50-16:20

科目名	力学Ⅱ	科目名 (英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 純子
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1017a0		

授業概要・目的	<p>現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅰ」では形や大きさをもたない質点の運動を取り扱いましたが、この「力学Ⅱ」は剛体という形ある物体についての運動について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント（回転力もしくはトルクと呼ぶ）そして角運動量という新しい概念を習得する。</p> <p>SDGs グローバル指標との対応：SDGs-9</p>
到達目標	<p>「力学Ⅰ」の科目では、物体を小さな点で表し、その形や大きさは取り扱わなかった。実際、物体とは棒状の形もあれば、星形もあり様々な形状を持っているのは言うまでも無い。小さな点と形をもった物体との大きな違いは、その物体の回転を無視するか、取り扱うかの違いである。「力学Ⅱ」では、主に回転の力学を学習する。</p> <p>到達目標は、力のモーメント（トルク）、角速度や慣性モーメントという回転に関する量の概念が説明できること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義は主としてプリントに沿って行う。プリントの配布、課題の提出はMoodleを利用するので、必ずアクセスすること。課題は必ず提出すること。</p> <p>Moodle コース名：2024年度後期 力学Ⅱ A科X組（松尾） 登録キー：24arkgk2</p>
科目学習の効果（資格）	<p>物理は概念の学問です。小中学校にて、面積とは何か？体積とはなにか？という概念を教わります。これらの概念を習得してないと、言わずがな社会生活において、大変困ったこととなりますね。</p> <p>本大学にて教わる次の高度な概念は、「力のモーメント（＝トルク）」です。</p> <p>建築にたずさわるためには、この概念を理解する必要があり「力学Ⅱ」にて身につきます。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	力学Ⅰの復習：つりあい	力学の基本である力のつりあいについての復習をする。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	2	力学Ⅰの復習：運動方程式	力学の基本である運動方程式に関して復習する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	3	力学Ⅰの復習：便利な関係	力学的エネルギー保存則と運動量保存の二つの保存則が成り立つ条件などを見直す。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	4	モーメントのつりあい	回転運動を起こすモーメントのつりあいに関して解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	5	重心	剛体を考えるうえで重要になる重心の特性と合成について解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	6	密度	様々な場面で使う密度についてその種類と、積分を使った求め方を解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	7	回転運動の表記	回転運動を考えるうえで重要な角度や角速度に関して解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	8	回転の運動方程式	回転運動の運動方程式の立式の方法に関して解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	9	剛体の運動エネルギー	回転運動と重心の並進運動の比較をし、剛体の場合の力学的エネルギーに関して解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	10	慣性モーメント①	慣性モーメントの基本的な考えから、積分を使った慣性モーメントの求め方を解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	11	慣性モーメント②	平行軸の定理と垂直軸の定理を用いた慣性モーメントの求め方を解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	12	慣性モーメント③	これまでの慣性モーメントの求め方を利用して、球などの慣性モーメントの求め方を解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	13	振動	剛体の振動に関して解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	14	弾性体	弾性という観点から、物質を分類し、それらの性質について解説する。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）
	15	まとめ	講義のまとめをする。	事前：プリントの準備・書き込み（0.5h以上） 事後：課題の提出（0.5h以上）

関連科目 微積分Ⅰ，線形代数Ⅰ，力学Ⅰ，物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹，上村洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 期末試験（70%）と小テスト（30%）の割合で評価する。

学生へのメッセージ 数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。

担当者の 8号館2階 物理準備室

研究室等	
備考	ノート等を見直して理解出来なかったことは、早めに質問し、さらなる知識を積み上げること。 事前：プリントの準備・書き込み (0.5h 以上) 事後：課題の提出 (0.5h 以上) の学習時間が必要です。 質問・相談時間：授業時間外は Moodle のメッセージからお願いします。 小テスト (課題) は採点して返却します。コメント欄、PDF 注釈の確認をしてわからなければ質問してください。

科目名	力学Ⅱ	科目名 (英文)	Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1017a0		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅰ」では形や大きさをもたない質点の運動を取り扱ったが、「力学Ⅱ」では剛体という形ある物体の運動について学ぶ。ここでは剛体の運動を理解するために、力のモーメント (トルクとも呼ぶ) そして角運動量という新しい概念を習得する。 SDGs グローバル指標との対応 : SDGs-9
到達目標	1 : 剛体のつり合いの式を立てて解ける。 2 : 基本的な形状の剛体の慣性モーメントが導ける。 3 : 回転運動の方程式を説明できる。
授業方法と留意点	前半はスライドを使った解説を注意深く批判的に聴き、途中、Moodle を利用したクイズに回答する。後半は課題プリントに取り組み、指定時間内にオンラインで提出する。翌々日以降、添削された課題プリントを見て、不十分だった部分を次の講義までに直す。
科目学習の効果 (資格)	物理は概念の学問です。小中学校にて、面積とは何か? 体積とはなにか? という概念を教わります。これらの概念を習得してないと、言わずもがな社会生活において、大変困ったこととなりますね。本講義「力学Ⅱ」にて学習する次の高度な概念は、「力のモーメント (トルク)」です。特に、技術者はこの概念を理解する必要があり、「力学Ⅱ」にて身につきます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	力学Ⅰの復習	質点の力学について復習する。	課題プリントの復習 (1時間以上)
	2	力のモーメント (トルク) の基礎	回転させる働きを表す力のモーメントを導入する	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	3	力のモーメント (トルク) のつり合い	シーソー、天秤のつりあいについて学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	4	剛体のつり合い	並進、回転運動の静止条件から剛体のつりあいについて考える	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	5	重心とモーメント	重心の意味を理解し、様々な図形の重心の位置を求める	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	6	角速度	回転運動を表現する上で重要なラジアン表記、角速度、角加速度について学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	7	ベクトル積	回転運動を表現する上で重要なベクトル積について学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	8	回転運動の方程式	力のモーメントが角運動量の変化を生じさせることを学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	9	慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解し、慣性モーメントと角運動量の関係について学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	10	棒の慣性モーメント	棒状の物体の慣性モーメントを求める	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	11	板の慣性モーメント	板状の物体の慣性モーメントを求める	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	12	慣性モーメントの便利な定理	平行軸の定理、薄板の直交軸定理を証明し、利用する	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	13	角運動量保存則	角運動量保存則を利用して回転運動を調べる	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	14	剛体の固定軸まわりの回転運動	固定軸のまわりに回転する剛体の運動を調べる	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
	15	剛体の平面運動	剛体の転がり運動を調べる	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)

関連科目 微積分Ⅰ, 線形代数Ⅰ, 力学Ⅰ, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理 第2版	潮秀樹, 上村洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 70%、毎回の課題プリント 30% の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	力学Ⅰでは主に質点の運動を取り扱いましたが、力学Ⅱは実際の形ある物体についての運動を記述します。力学Ⅱの剛体の力学は日常の様々なところで使用されています。この授業を通して、どのようなところで剛体の力学が使用されているのか考えてみましょう。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	定規を持参してください。 模範解答は配布しません。 Moodle 内のクイズにすべて正答していることが期末試験受験の前提条件です。 質問・相談時間: 火曜 14:20 ~ 14:50。 事前・事後学習総時間 20時間以上。

科目名	物理学実験	科目名 (英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神嶋 修, 大上 雅史, 山崎 篤志
ディプロマポリシー (DP)	D②		
科目ナンバリング	TDA1019a0		

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。様々な装置を操作して、一連の基本的実験および計測手段を学ぶ。 SDGs グローバル指標との対応：SDGs-9
到達目標	以下の項目を習得し、説明できるようになる。 1) 国際単位系 (SI) 2) 各テーマの物理的内容 3) 計測機器の取り扱い法 4) 物理量の測定方法 5) 誤差の考え方と取り扱い方
授業方法と留意点	初回ガイダンスは、履修申請者全員が実験を始めるにあたって安全管理等の大切な注意事項を習得します。ガイダンスを無断欠席した場合、この科目を履修することができませんので注意するように。
科目学習の効果 (資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験をとおして、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	――
	2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	3	熱の仕事当量 J の測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量 J を求める。	事前報告書およびレポート課題
	4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 e/m の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
	6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク定数 h の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。液体窒素温度でみられる様々な低温現象を実験・観察する。	事前報告書およびレポート課題
	10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、光の回折、干渉現象を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
	14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

関連科目 理工学基礎実験, 基礎力学演習, 力学 I・II, 物理学 I・II,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗	森北出版
	2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	3			

評価方法 (基準)	1)実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。 2)レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。 3)レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。
学生への メッセージ	実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。
担当者の 研究室等	8号館2階 光物性研究室
備考	第1回ガイダンスのお知らせが9月初旬に掲示されます。受講希望者は第1回授業開始時までに、物理学実験室(8号館2階)掲示板または学科 掲示板(12号館1階)を確認すること。この第1回ガイダンスは、実験を行うための安全講習ですので、履修希望者は必ず出席すること。 やむを得ない事情により欠席した場合をのぞき、第1回ガイダンスの欠席者は履修不可となりますので特に注意するように。 この実験授業は、毎回レポート提出が課せられている。 自らが行う実験の事前学習として、 1.5時間以上をかけて教科書を読み、1)実

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	妹尾 史郎, 出口 寛子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDA1020a0		

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。(SDGs-11)
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィスペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Windows システム	・Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
3	電子文書の作成	・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題)
4	電子文書の作成	・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題)
5	表計算入門	・Excel の基本操作 ・セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題)
6	表計算とグラフ	・グラフの作成 ・簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題)
7	表計算と関数	・数学関数 ・統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題)
8	演習	・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
9	電子メール	・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習)
10	ネット技術と情報検索	・情報検索の方法 ・HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習)
11	演習	・情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
12	プレゼンテーションソフト入門	・PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
13	プレゼンテーション資料の作成	・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方	総合演習課題
15	総合演習 (2)	・演習課題とレポート作成	総合演習課題

関連科目 -

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	毎回の演習や小テスト (30%) と、演習レポート (70%) で評価する。
学生へのメッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身につけることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む。 提出物に対するフィードバックを適宜行う。

科目名	建築倫理	科目名 (英文)	Architectural Ethics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	飯田 匡・伊熊 昌治
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDA3024a0		

授業概要・目的	建築倫理とは、建築技術者が実務の場で直面するであろう諸問題への対処方法を考える際に、その拠り所となる普遍的な規準である。建築を取り巻く社会環境が大きく変化中、将来を支える優れた建築技術者は、こうした規準、すなわち専門家としての心構えを身につけることが不可欠である。そこで本講義では、リスク、責任、義務、技術等に関する具体的な事例の分析を通して、これからの建築技術者に求められる倫理的責任を学習する。また、事故や失敗を起こさないためには、どのように考え、行動すべきであるのかといった議論を通して、バランス感覚のとれた建築技術者の育成を図る。 (SDG s-11)
到達目標	これまでに技術者の関わる場で生じた倫理的な問題や事故、失敗等の発生した理由、およびその後の対処等を学ぶことにより、技術者がこうした状況でどのように責任を果たすべきかを理解できる。 また、自身がそうした問題に巻き込まれたり、引き起こしたりしないためには、どのような規準を頼りに行動すべきかを知ることができる。
授業方法と留意点	講義資料は学内のMoodleより配布する。 講義では、建築倫理の基本を学ぶと同時に、建築に限らず様々な工学分野における事故や失敗事例等の紹介を行う。事故・失敗事例に関しては、ディスカッション等を通してその原因の分析や対策等について考える。また、さらに理解を深めるために定期的にレポート課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	建築倫理は、技術的な知識だけではなく、人間の行動や社会状況に関する知識の活用が重要であることを理解し、良識ある建築技術者として、持てる技術を活かし、社会の要求に応えるために必要な普遍的なバランス感覚を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築倫理の概要	建築倫理とは何か、なぜ建築倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。	レポート課題1
2	倫理と倫理学	正しい意思決定のためのツールとも捉えられる倫理学の基礎概念を理解し、よりよく使う方法を学ぶ。	復習・予習課題
3	工学倫理の基礎1	工学は本質的には危険を伴う社会的実験という側面を持つことを理解し、そうした中で工学技術者が果たすべき責任はどうあるべきかを学ぶ。	復習・予習課題
4	工学倫理の基礎2	倫理的に問題を解決するための手段を学び、具体的な事例を対象に検討を行う。	レポート課題2
5	失敗事例に学ぶ1	構造計算書偽装事件、六本木ヒルズ回転扉事故、ジョン・ハンコック・タワーのガラス崩落事故等の事故事例の分析から、建築における事故発生メカニズムを理解する。	復習・予習課題
6	製造物責任	消費者の救済を目的とする製造物責任法の理念について学び、設計者・製造者が製品の設計・製造時に注意すべきことを理解する。	復習・予習課題
7	施工管理	基本的には一品生産であり、多種の材料や職種が関わるため、複雑にならざるを得ない建築の施工管理における問題点について学習する。	レポート課題3
8	事故事例に学ぶ1	手抜き工事による欠陥住宅や、構造計算書偽造事件等の事例分析から、建築における設計?施工?監理のシステムの問題について考える。	復習・予習課題
9	ヒューマンエラーとリスクマネジメント	人が介在することによって引き起こされるヒューマンエラーの発生メカニズム、およびリスクを組織的に管理し、効果的に危険や損失を回避するリスクマネジメントの基本的な概念を理解する。	復習・予習課題
10	事故事例に学ぶ2	明石花火大会事故ほか、過去に起こった群集事故等の事例から、建築や都市空間における事故発生メカニズムを分析し、より安全な建築・都市の設計方法を考える。	レポート課題4
11	倫理綱領	日本建築学会の定める倫理綱領等を参考に、技術者を対象とする様々な倫理綱領や行動規範を理解し、建築技術者に求められる倫理や社会的責任等について学ぶ。	復習・予習課題
12	知的財産権	特許や著作権といった知的財産権の概要と、建築分野における知的財産権の扱いについて具体的な事例から学習する。	復習・予習課題
13	失敗事例に学ぶ2	期待された性能を満たさない「がっかり建築」の事例分析から、建築の評価の難しさと建築技術者の立ち位置について考える。	レポート課題5
14	ビジネス倫理	経済最優先ではなく、企業の社会的責任が重視されるようになってきた今日、技術者といえども理解しておくべきビジネスの倫理について学ぶ。	復習・予習課題
15	応用倫理・総括	建築倫理と同様の技術倫理である、様々	

			な応用倫理の基本について学習する。また、本講義の総括として、教訓と戒めをまとめる。	
関連科目	建築法規はじめ、建築専門科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築倫理用教材	日本建築学会編	日本建築学会
	2	はじめての工学倫理 第2版	齊藤了文、坂下浩司編	昭和堂
	3	テクノリテラシーとは何か	齊藤了文	講談社
評価方法 (基準)	定期試験(70%)、レポート(5回)(30%)により評価する。 対面での定期試験が実施できない場合は、定期試験に代わるレポート課題を課す。			
学生への メッセージ	授業への主体的な参加を望む。			
担当者の 研究室等	8号館3階 (建築学科共通準備室)			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。			

科目名	造形演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	伊熊 昌治, 大谷 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2026a0		

授業概要・目的	建築は建物だけを考える分野ではなく、それをとりまく屋外環境、ひいては、都市空間全体を対象に、より良い場所づくりを目指す分野でもあります。造形演習は、建築分野に必要なそうした空間計画に資する造形力を培うことを目指す科目です。造形演習 I では、平面構成や立体構成において、抛り所につきべき視点を修得し、実践的訓練を行います。また、平面や立体など様々な視覚要素の造形を考えるにあたり、言葉とのかたちの対応を通じて、言語的に整理する力も訓練し、計画から製作までの造形計画の説得性を高めることを目標とします。(SDGs-11)
到達目標	造形に関する多くの事例から学び、感性を磨き、オリジナリティのある造形の創造と説得力のある提案ができる。
授業方法と留意点	手を動かし、エスキースを重ねながら、造形を生み出す実践的な課題に取り組む演習です。ICT ツールも活用しながら、作業を進めます。全ての課題を展示し、作品合評会を行います。
科目学習の効果 (資格)	平面構成、立体構成の抛り所となるものを吸収することがこの科目に期待される効果です。本科目では、身近なスケールの造形を扱いますが、建築計画や空間デザインに資する知見を培います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	平面構成②	平面構成エスキース 1 情報の整理 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
3	平面構成③	平面構成エスキース 2 色の構成 スタディー小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
4	平面構成④	平面構成エスキース 3 複数案の比較検討 スタディー小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
5	平面構成⑤	平面構成エスキース 4 展示方法の計画 スタディー小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
6	平面構成⑥ 平面構成プレゼンテーション	作品のプレゼンテーション講評会 撮影、記録	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
7	立体構成①	サイン計画について 立体構成エスキース 1 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
8	立体構成②	立体構成エスキース 2 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
9	立体構成③	立体構成エスキース 3 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
10	立体構成④	立体構成エスキース 4 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
11	立体構成⑤	立体構成エスキース 5 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
12	立体構成⑥	立体構成エスキース 6 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
13	立体構成⑦	立体構成エスキース 7 展示空間の計画 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
14	立体構成⑧ 展示設営	展示場所の空間デザインの検討	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成
15	立体構成⑨ 展示・講評	作品のプレゼンテーション講評会 撮影、記録	事前：関連する事例について情報を収集する。事後：作業レポートの作成

関連科目	設計演習系の科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各演習課題のすべてのエスキース案提出物 (40%)、最終成果物の出来高・完成度 (60%) を総合し、評価を行う。
-----------	---

学生へのメッセージ	作品の完成度はもちろん大切ですが、様々な例を参考にし良いものをつくること、試行錯誤を続けることを大事にしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	道具類：設計系演習科目での製図や模型製作作業に準じた道具に加えて、エスキースや仕上げに必要な画材を各自で用意することが必要になります。
----	---

	<p>す。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む 他者の作品解釈、また自身の作品との比較考察を行うことが重要である。</p>
--	---

科目名	造形演習 II	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	小林 健治, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2027a0		

授業概要・目的	建築は建物だけを考える分野ではなく、それにとりまく屋外環境、ひいては、都市空間全体を対象に、より良い場所づくりを目指す分野でもあります。造形演習は、建築分野に必要なそうした空間計画に資する造形力を培うことを目指す科目です。造形演習 II では、身近な空間における造形を対象に、スケール、素材、色、製作方法、耐久性などを考える拠り所を学びます。空間デザインに資する実践的な課題を通して、造形力を培うことを目的としています。(SDGs-11)
到達目標	造形に関する多くの事例から学び、感性を磨き、オリジナリティのある造形の創造と説得力のある提案ができる。
授業方法と留意点	手を動かし、エスキースを重ねながら、造形を生み出す実践的な課題に取り組む演習です。ICT ツールも活用しながら、作業を進めます。全ての課題を展示し、作品講評会を行います。
科目学習の効果 (資格)	平面構成、立体構成の拠り所となるものを吸収することがこの科目に期待される効果です。本科目では、身近なスケールの造形を扱いますが、建築計画や空間デザインに資する知見を培います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 立体造形 1	授業に対する基本的態度、スケジュールの説明。 立体造形課題についての、事例分析 スタディ小課題 立体造形エスキース 1	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
2	立体造形 2	立体造形エスキース 2 素材と設置場所の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
3	立体造形 3	立体造形エスキース 3 素材と機能性・視認性の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
4	立体造形 4	立体造形エスキース 4 素材と加工法の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
5	立体造形 5	立体造形エスキース 5 素材と耐久性の検討	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
6	立体造形 6	立体造形エスキース 6 製作 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
7	立体造形 7	立体造形エスキース 7 製作・設営 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
8	立体造形 8 プレゼンテーション・講評会	展示・発表・記録 作品合評会	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
9	空間造形 1	空間造形エスキース 1 素材と機能性の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
10	空間造形 2	空間造形エスキース 2 素材と製作方法の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
11	空間造形 3	空間造形エスキース 3 空間演出の計画 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
12	空間造形 4	空間造形エスキース 4 素材と耐久性の検討 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
13	空間造形 5	空間造形エスキース 5 製作 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
14	空間造形 6	空間造形エスキース 6 製作・設営 スタディ小課題	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成
15	空間造形 7 プレゼンテーション・講評会	展示・発表・記録 作品合評会	事前：関連する事例について情報を収集し、整理する。 事後：作業レポートの作成

関連科目 設計系演習科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特に指定しない。		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各演習課題のすべてのエスキース案提出物 (40%)、最終成果物の出来高・完成度 (60%) を総合し、評価を行う。
学生への メッセージ	多様な材料、色、製作方法を調査し、手を動かして試行錯誤を重ねることが大切です。
担当者の 研究室等	8号館3階
備考	道具類：設計系演習科目での製図や模型製作作業に準じた道具に加えて、エスキースや仕上げに必要な画材を各自で用意することが必要になります。 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む課題等はすべて返却する。他の解釈と比較考察を自分で行うことが重要である。

科目名	建築情報処理基礎	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大木 裕介, カサド オマール, 小林 健治
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDA2025a0		

授業概要・目的	建築の企画・計画・設計・施行などの各種業務において必要となるコンピュータや建築系アプリケーションソフトウェアの基本的な操作方法を学ぶ。 本講義では全ての過程で必要とされているプレゼンテーション・製図の技能について Adobe Photoshop、AdobeIllustrator、AutoCAD を用いて実習を中心に学び、建築に関わる様々な情報を制作できる技術の修得を目的とする。 (SDGs-11)
到達目標	Photoshop および Illustrator を用いて、基本操作を学び、プレゼンテーションボードを作成するための加工・表現手法を修得する。 2次元 CAD (AutoCAD) を用いて、建築一般図を作成するための基本操作を修得する。
授業方法と留意点	講義と演習を随時組み合わせて進行する。 授業時間内に作業を進め、完了するためには、毎回の受講が必須である。
科目学習の効果 (資格)	専門系全科目で得た知識を活用する上で必要となる。さらに建設業界に必要なプレゼンテーション能力の基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Adobe Photoshop の概要、基本操作	授業概要・進め方、Adobe Photoshop の概要、基本操作	教科書の予習・復習 (p12, 13, 20 から 32)
2	建築写真・パース、建築図面の加工-1	色・明るさの調整と補正	教科書の予習・復習 (p186 から 216、p236 から p243)
3	建築写真・パース、建築図面の加工-2	背景・人物のトリミングと合成	教科書の予習・復習 (p218 から 234、p284 から 300)
4	建築写真・パース、建築図面の加工-3	パースの表現	配布資料の予習・復習 教科書の予習・復習 (p252 から 266、p302 から 322)
5	Adobe Illustrator の概要、基本操作	Adobe Illustrator の概要、基本操作	教科書の予習・復習 (p12, 13, 20 から 32)
6	建築図面の加工・表現-1	図形の作成とレイアウト	教科書の予習・復習 (p33 から 62)
7	建築図面の加工・表現-2	図形の加工と表現	教科書の予習・復習 (p118 から 138)
8	建築図面の加工・表現-3	図面の加工と表現	配布資料の予習・復習 教科書の予習・復習 (p168 から 184)
9	技法修得状況確認	Photoshop&Illustrator の操作修得の確認 (プレゼンテーションボードの作成)	配布資料の予習・復習
10	AutoCAD の概要、基本操作	AutoCAD の概要、インターフェース、基本操作	配布資料の予習・復習
11	基本図形の作図	基本的な図形の作図方法の操作	配布資料の予習・復習
12	一般図の作成-1	平面図の作図 (通芯・柱・壁)	配布資料の予習・復習 課題
13	一般図の作成-2	平面図の作図 (建具・設備)	配布資料の予習・復習 課題
14	一般図の作成-3	断面図の作図	配布資料の予習・復習 課題
15	技法修得状況確認	AutoCAD 操作修得の確認	課題の復習

関連科目	建築情報処理応用
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界一わかりやすい Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書 (2021/2020/2019 対応版)	ビクセルハウス	技術評論社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築インテリアのための Photoshop+Illustrator テクニック	長嶋竜一	エクスナレッジムック
2	Autodesk AutoCAD 2021 / AutoCAD LT 2021 公式トレーニングガイド	井上 竜夫	日経 BP
3			

評価方法 (基準)	【前半】 1-9 回：課題点 (30%)・確認テスト (20%) 計 50% 【後半】 10-15 回：課題点 (30%)・確認テスト (20%) 計 50%
-----------	--

学生へのメッセージ	本講義で学ぶことで操作修得のスピードが高まり、技能が向上し、建築設計などの演習科目において積極的に活用することができます。 受身にならず自ら調べる、見る、聞くことを意識して授業に取り組んで下さい。 また、自宅や自習室で作業する場合はパソコンが必要です。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前学習・事後学習：毎回 1.5 時間以上かけ、教科書や配布資料を見て作業手順を確認する。
----	---

科目名	測量	科目名 (英文)	Surveying
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	長岡 弘隆, 池内 淳子, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 川本 悠暉, 名草 一成, 森 義孝, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA1027a0		

授業概要・目的	測量 (Surveying) は、地球表面の異なる点の相対的な位置関係を決定する技術であり、測量学は流域計画、都市計画、建築物・道路等の設計や施工に欠くことのできない基礎的学問である。本講義は測量に関する知識、技術、計算方法および実測方法の修得を目的としている。講義を担当する教員は、実際に測量実務に携わる者、及び測量成果を基にした建築設計実務に携わる者の共同で行い、最新の測量技術や建築設計に活用している測量成果例の紹介を通じた知識の習得と、基礎的な測量機器の使用を通じた演習実施の二面から、幅広い技術・知識の習得を目的とする。(SDGs-11)
到達目標	学生が、距離測量、角測量、水準測量を理解し基本事項を説明できること、主な測量器具の原理と構造を理解すること、測量値の情報処理と調整計算ができること、測定結果を効果的に図示および表現できること、最新の測量技術の知識を習得すること、を到達目標とする。
授業方法と留意点	1～8回は講義を中心に授業は進め、必要に応じてレポート提出を行う。9～14回は実技指導を行い、その内、11～14回分については実際に測量器具を用いた演習を土曜日等に終日(具体的な日時および詳細は授業内で伝えます。)かけて行い、その成果品となる計算書と図面を提出する。提出物の内容が基準に満たない場合は再提出を求めることがある。講義には三角関数の計算ができる関数電卓を準備すること。
科目学習の効果 (資格)	さらに残された内容を自習することによって、測量士及び測量士補の国家試験の合格が期待される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、測量の定義、距離の測定	授業ガイダンス、測量の歴史・概要、距離の測定法と誤差の補正について	教科書(序章、第1章、第3章)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
2	各種測量方法とその結果の利用1	人工衛星、航空機、UAV、自動車等を用いた測量技術とその活用方法について	教科書(P87～90コラム、P220～P222航空レーザ測量、P303～309付録:測量の改革他)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
3	各種測量方法とその結果の利用2	写真測量の原理と空域・陸域における写真測量の実例について	教科書(第8章3空中写真測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
4	基準点(骨組)測量における角測定1	基準点測量の種類と多角(トラバース)測量の概要について	教科書(第4章角測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
5	基準点(骨組)測量における角測定2	測角機器の種類、水平角の測定法と現地での精度確認方法について	教科書(第4章角測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
6	基準点(骨組)測量における角測定3	多角(トラバース)網における座標展開とその精度確認方法について	教科書(第6章1概説、2多角測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
7	直接水準測量の方法1	高さの概念、水準測量の概要、種類と特徴、使われる機材について	教科書(第7章水準測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
8	直接水準測量の方法2	直接水準測量の具体的な記録と計算方法、精度・誤差の補正について	教科書(第7章水準測量)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
9	各種測量機器の使用方法1	少人数の班に分かれて、距離測量、水平角測量、直接水準測量に使われる測量機器の使い方を実技にて学ぶ	教科書(第11章基礎測量実習1～3)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
10	各種測量機器の使用方法2	少人数の班に分かれて、距離測量、水平角測量、直接水準測量に使われる測量機器の使い方を実技にて学ぶ	教科書(第11章基礎測量実習1～3)にて予習を行い、授業での資料をもとに復習を行うこと(目安2時間)
11	測量演習1	第10回までに学んだ知識を基に、少人数の班に分かれて構内で実際に簡単な基準点測量を行う。(12月の土曜日終日を予定。詳細は授業内にて説明。)	今までの授業内容の復習を行うこと(目安2時間)
12	測量演習2	第10回までに学んだ知識を基に、少人数の班に分かれて構内で実際に簡単な基準点測量を行う。(12月の土曜日終日を予定。詳細は授業内にて説明。)	今までの授業内容の復習を行うこと(目安2時間)
13	測量演習3	第10回までに学んだ知識を基に、少人数の班に分かれて構内で実際に簡単な基準点測量を行う。(12月の土曜日終日を予定。詳細は授業内にて説明。)	今までの授業内容の復習を行うこと(目安2時間)
14	測量演習4	第10回までに学んだ知識を基に、少人数の班に分かれて構内で実際に簡単な基準点測量を行う。(12月の土曜日終日を予定。詳細は授業内にて説明。)	今までの授業内容の復習を行うこと(目安2時間)
15	期末試験		

関連科目	建築専門科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂3版基礎測量学	長谷川昌弘、川端良和	電気書院
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業時の受講態度（投げかけられる質問に対する発言、呼応状態、積極性、授業後に提出するレポートの内容など）20%、測量演習における実施態度・計算書・図面の内容 30%、期末試験 50%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	測量は、古来からある位置を把握するための基礎的な技術であると共に、最新の技術によりデジタルに空間情報を把握するための最先端の技術でもあります。幅広く、かつ奥深い、現代社会を支える測量技術の一端を学んでください。授業には必ず三角関数の計算ができる関数電卓を用意してください。		
担当者の 研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室		
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組むこと。 教員は非常勤であるため、授業時間外での質問などに関しては、学内メールまたは建築学科共通準備室を通じてやり取りする。		

科目名	地球環境論	科目名 (英文)	Global Environment for Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA4028a0		

授業概要・目的	かつては地球の規模に対して人類の活動規模は小さく、人類の活動が地球環境やエネルギー・資源問題に及ぼす影響は考えられてこなかった。しかし、近年では CO2 の排出量や資源の浪費については国際的な問題となり、特に、建築業界の非効率性や資源の浪費が問いだされている。地球環境を考えた上での建築のあり方について、エネルギー・資源問題やライフサイクルという概念について講義を行う。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	今まで学んできた建築学 (環境・計画・構造) の知識を再構築することによって、建設が地球環境に与える影響を知り、その対策について議論する知識を身につける。
授業方法と留意点	対面での講義をします。サポート的に Teams 上の会議を使用します。Web Folder 内に、教科書に沿った課題を提示します。追加の指示などは対面での口頭または Teams 上に投稿します。講義を聞き、各課題を締め切りまでに Web Folder 内に提出してください。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のために有用である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	地球環境と建築	授業の概要・持続可能な社会の構築について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	地球環境建築の基本的視点	地球環境建築の2つの視点について・LCA についての要約	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	地球環境建築の基本的視点	バウビオロジーと地球環境・建築憲章について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	自然環境と地域・都市	自然 (生態系・風土) と都市との融合について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	地球環境とエネルギー	気候風土に適した建築物と都市化によるヒートアイランド現象について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	地球環境とエネルギー	住宅省エネルギー基準についての講義・バッシブデザインとアクティブデザインについての要約	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	地球環境と資源	建築物の寿命・SI 建築・資源の循環について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	安全と健康	建築空間の安全・健康について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	地球環境と建築環境工学との関係と中間試験	地球環境と建築環境工学との関係 中間試験	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。中間試験で解答できなかったところを復習すること。
10	世代・文化の継承	良い建築文化の継承について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	建築・立地環境の評価	気候風土に適した建築計画の評価法について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	環境計画の評価	建築環境性能の事前評価・事後評価について	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	社会の制度と建築専門家の役割など	建築の LC と環境マネジメントなどについて	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に j 記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関すること のなかで興味があることを調べること。
15	最近の研究紹介	地球環境に関する研究を紹介し、これから、どのようなことを明らかにしていかなければならないのかを紹介する	建築環境工学の視点からの地球環境に関すること のなかで興味があることを調べること。

関連科目 建築環境工学・建築計画学・建築構造学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地球環境建築のすすめ	日本建築学会	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	提出された課題 (30%) と中間試験 (30%) と期末試験 (40%) を総合的に評価する。
学生への メッセージ	地球規模の視点から建築物の有り方を考えるための授業です。縦割りに学んできた建築に関する知識を再構築して、これからの建築について考えていきます。
担当者の 研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、20 分以上してください。事後学習 (課題を含む) は、70 分以上してください。中間試験の内容は重要ですので、解けなかった問題は時間をかけて復習すること。

科目名	建築計画基礎	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治, 加嶋 章博
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA1033a0		

授業概要・目的	本講義では、人間とそのまわりにある環境（もの・家具・他者・建築・都市）の関係を主題とし、建築を計画する上で必要な検討項目・要件・知識に関する概説を行い、建築を計画するための基礎を学ぶ。併せて、人間と環境の関係を観察・記述・体験する演習を行い、建築を設計する上で必要な論理的思考を理解する。建築士資格相当の設計・計画の基礎知識、とりわけ用語と寸法に関する知識について修得することを目的とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、建築の設計・計画の基礎知識について、実例を紹介しながら、受講生に実務を意識した学びを提供する。(SDGs-11)
到達目標	1) 建築を計画するために必要な基礎知識（とりわけ、用語と寸法）を説明できる 2) 人間と環境の関係を示す事象に対して、論理的に思考し、提示できる
授業方法と留意点	講義と演習を随時組み合わせる。講義はスライドを用いたノート講義形式である。演習は環境や空間を自ら観察・実体験しながら行う形式である。また建築を計画するために必要な基礎知識（とりわけ、用語と寸法）に関する問題集を配布し、建築計画の基礎知識に関する確認テスト等を行う。
科目学習の効果 (資格)	設計演習系全科目、建築計画系全科目を学ぶ基礎となる。さらに建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築計画の礎 1	授業概要・進め方、建築計画の目標、環境の定義、環境と行動、人間の周囲に広がるみえない領域（パーソナルスペース）	建築とは何か、建築と建築以外の境界は何か、自身でひいてみる。環境と人間の関係を自ら体験する。
2	建築計画の礎 2	デザインの根拠・かたちと潜む背景	身近な建築の形態を観察し、その決定要因をみつける。
3	計画の手法 1	形態・構造・規模からのアプローチ（建築の形態、モチーフ、構造計画）	同用途で形態・構造・規模が異なる建築によって生じる違いを調べる。
4	計画の手法 2	機能からのアプローチ（動線計画）	さまざまな機能の空間における人間の動きの特徴を見出す。
5	計画の手法 3	寸法からのアプローチ（身体寸法・動作寸法・アキ寸法）	自身の身体寸法、動作寸法を測る。
6	計画の手法 4	空間知覚からのアプローチ（かたちと心理）	同じ空間に対して、自身の知覚と他者の知覚の違いを調べる。
7	環境と行動	アフォーダンス、行動セッティング、居方から読み解くデザイン	環境に身を置く際、かたち・他者の意味や価値を発見する。
8	住宅の計画 1	住宅に求められる条件、居室と室（室と場面）	自身が生活する（した）住宅と異なる住宅を探し、比較する。
9	住宅の計画 2	平面計画（動線・開口・建具）	住宅における生活行為のつながり・かさなり・へだたりと室名の関係を考える。
10	住宅の計画 3	断面計画（階段・吹抜・天井）	高さが異なる空間によって生じるふるまいの違いを挙げる。
11	住宅の計画 4	環境計画（庇・バルコニー等）・外構計画（外構・駐車場等）・詳細計画（水回り・収納等）	生活に影響する外部環境のエレメントを挙げる。自身の身体寸法、動作寸法をもとに、各種詳細寸法を導き出す。
12	環境とデザイン 1	環境の認知構造・居場所・使いこなし	環境の認知構造、居場所、使いこなしによる変化するもの／しないものを示す。
13	環境とデザイン 2	歴史・文化・地域	歴史、文化、地域により変化するもの／しないものを示す。
14	環境とデザイン 3	時間・属性・プログラム	時間、属性、プログラムにより変化するもの／しないものを示す。
15	総括	生活の質と環境デザイン、基礎知識の確認テスト、レポートの発表	本講義で示した理論や知見をもとに人間と環境の関係を論理的に思考する。

関連科目	建築概論、設計演習系全科目（特に建築基礎演習B）
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ワークブック 環境行動学入門	山田あすか・小林健治・村川真紀 編著	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	第4版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善出版
2				
3				

評価方法 (基準)	確認テストおよびレポート (80%)、演習課題 (20%) とする。
-----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	建築を学び、考え、つくるためには、自分が経験、体験することが必要です。講義内で示した視点を思い出ししながら、その場所で建築が生み出している場所の質を観察して、その背景について思考を巡らせてください。また幅広く本を読み、各種メディアにアンテナを張るようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 小林准教授室
----------	--------------

備考	事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけ、身近な環境がどうなっているか観察する。 事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1.0時間以上かけ、配布する資料集における関連分野の問題を解く。
----	---

科目名	都市・地域計画	科目名 (英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3033a0		

授業概要・目的	都市計画、都市デザイン、地域計画、まちづくりという広い領域にまず何があり、どんな課題があるのかを理解する。都市とはどのように形成され、どのようにプランニングされてきたのか、計画理論を概観し、「都市の読み方」とは何かを考えていく。都市で起こっている様々な課題に目を向け、都市や地域の良好な環境形成を促すための制度や事業を理解し、これからの計画のあり方や新しい発想を提案するための手掛かりを考える。出来るだけ身近な都市計画やまちづくりの事例に目を向ける。地域資源やシビックプライドといった近年着目されている「町の育て方」にも目を向け、都市づくりに自身がどう関わられるかを考える力を育むことを目的とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	都市計画・まちづくりにおいて重要な基本的な概念、制度、歴史、事業、日本と世界の動向等を捉え、都市計画に関わる基礎的事項を把握し、実際の都市計画や都市の課題に当てはめて考える力を培う。将来、一級建築士などの建築専門技術者として、都市環境や町並み、生活環境を改善していくうえで重要な基礎知識と視点を養い、都市に対する好奇心を拡げることが到達目標とする。
授業方法と留意点	都市で起こっている様々な事象に着目しながら、重要概念やトピックスに関連する都市計画や都市デザインの実践事例の理解に努める。授業進行に伴い、小課題を実施する。また、中間論述課題、期末復習テストを実施する。毎回授業教材を用意するが、詳細は、初回授業で資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士・宅地建物取引主任者など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 都市へのイメージ	ガイダンス 都市空間に対するイメージを整理する	身近な都市の評価を考える。
2	都市のモデル	・都市の発生と構造 ・モデルで都市の成り立ちを理解する	都市の構造に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
3	都市計画の歴史	様々な都市形成プロセスから、都市、都市計画への視点を育む	都市形成に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
4	都市と市街地	市街地形成における特性を把握する。	テキスト「現況と展望編 第2講」を理解する。
5	建築のコントロール	建築基準法と都市計画の関係を理解する。	テキスト「制度と技術編 第3講」を理解する。
6	地区の計画とデザイン	地区の歴史・文化を継承する地区ルール の存在を理解する。	テキスト「現況と展望編 第4講」を理解する。
7	都市の再生と交通システム	道路ネットワーク、歩行者ネットワーク、 交通ネットワークから都市を考える。	テキスト「現況と展望編 第5講」を理解する。
8	都市と自然	都市計画の観点から生活環境に必要な 自然との関係について歴史的な事例から 理解する。	テキスト「現況と展望編 第6講」を理解する。
9	都市を再生する	都市を再生するための具体的な制度や 動向から、都市の成り立ちを理解する。	テキスト「現況と展望編 第7講」を理解する。
10	都市と防災	復興都市計画の事例から、都市計画技術 を理解する。	テキスト「現況と展望編 第8講」を理解する。
11	都市の景観まちづくり	景観まちづくりがどのように進んで いるか関連する制度や事例から理解する。	テキスト「現況と展望編 第9講」を理解する。
12	シビックプライドの観点を 理解する (1)	シビックプライドとは何かを考える。関 連する都市事例から、住民と町とのコミ ュニケーションの可能性を考え、持続可 能性のあるまちづくりを考える。	シビックプライドという言葉の意味を理解する。 テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
13	シビックプライドの観点を 理解する (2)	地域資源とは何かを考える。シビック プライドの視点から寝屋川の都市空間を 捉え、地域資源の新たな価値付けについ て考える。	テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
14	都市のプロモーション	都市のプロモーションという視点から、 まちづくりの動向を把握する。	都市のプロモーションに関連する映像を鑑賞する。
15	参加・協働のまちづくり	身近な地域におけるまちづくりの事例 から、住民参加の多様性を学ぶ。	自身が都市とどのように関わられるかを考える。

関連科目 基礎科目、専門科目全般であるが、特に建築設計演習A・Bや卒業設計・卒業論文、大学院研究の導入とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初めて学ぶ都市計画	饗庭 伸ほか	市ヶ谷出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	都市計画	川上光彦	森北出版
2			
3			

評価方法 (基準) 授業進行に伴い実施する小課題 (20%)、中間論述課題 (40%)、期末復習テスト (40%) を総合し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 建築と都市計画の領域は切り離して考えられるものではありません。みなさんは、都市の魅力を創造していく分野に将来進まれることでしょうか。ような分野に進もうとも都市への関心をもっていただけだと思います。講義では、都市計画一般の理解だけではなく、身近な都市や地域に見せる課題を抽出し、それらを取り巻く多様な要素を踏まえた計画のあり方を検討したいと思います。卒業研究のテーマを模索する材料にもしてください。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室

備考	<p>【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上の時間をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて、教科書以外の資料に目を通す。出来るだけ視覚的資料も探すこと。</p> <p>授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。</p>
----	--

科目名	西洋建築史	科目名 (英文)	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	三木 勲, 加嶋 章博
ディプロマポリシー (DP)	F⑩		
科目ナンバリング	TDA2035a0		

授業概要・目的	西洋建築の歴史について、その理解に欠かせない様式を中心に、画期となった概念や理論また作品や人物などを紹介しながら、講義を行う。西洋建築の起源とされる古代ギリシア建築から、近代建築への転換期とされる19世紀の歴史主義と折衷主義の建築に及ぶ時代の建築を時系列的に扱う。ある時代の建築は、先立つ別の時代の建築から何を継承した何を刷新することで、そのある時代に固有のスタイル、すなわち、ゴシックやバロックなどと呼ばれる、時代様式を獲得するに至ったのか？この点を、全体を通じた大きな論点としながら、授業を展開していく。歴史上の過去の建築を対象とする。が、先人の知恵に学ぶとよくいわれるように、遠い昔の建築にこそ、現在の建築ひいては都市を考える上で有意義なヒントが潜在している場合が多々ある。そこで、各講義では、現代に繋がる論点を積極的に抽出しながら、解説していきたい。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供したい。(SDGs-11)
到達目標	1) 西洋建築の歴史について、学士レベルで最低限必要とされる専門的な知識を身につける。 2) 旅先などでふと目にした歴史的な建築の特性を見極められるようにする。 3) 過去の建築にこれからの建築にも活かせる点を見出し、歴史的な深みと厚みをもって、建築ひいては都市の今を捉えられるようにする。
授業方法と留意点	スライドや動画などの資料を用いて授業を行う。各自でノートを作成すること。毎授業の内容についてのまとめ(コメント課題)を求める。また中間試験(レポート課題)、期末試験(対面筆記試験)を行う。毎回授業教材(スライドや動画など)を用意する。各自でノートを作成し、しっかりと復習をすることが望ましい。
科目学習の効果(資格)	西洋建築の基本的な事柄を理解できる。歴史的な建築の価値を現代的な観点からの確に捉える眼を養える。得られた知見を建築計画や建築設計に役立てられる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:西洋建築史を学ぶ意義	授業の目的、概要、評価基準、注意事項などを確認する。その上で、現代日本の大学において、時代的にも地理的にも遠い、西洋建築の歴史を学ぶことに果たしてどんな意義があるのか？この点について、西洋と日本また過去と現在の建築に関わる接点に着目しながら学習する。	事前:西洋建築史について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
2	古代ギリシア建築:西洋建築のはじまり	西洋建築は、古代ギリシア建築にはじまるとされる。だが、古代ギリシア以前にも「建築」は、存在していたはずである。にもかかわらず、なぜ、西洋は、あえて非西洋であるギリシアの古代建築に対して自らの建築の起源を求めてきたのか？この点について、古代ギリシア人が最も重視した建築である神殿建築を中心に、オーダーやシュムメトリアといった構成上重要な概念に着目しながら学習する。	事前:古代ギリシア建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
3	古代ローマ建築1:『テルマエ・ロマエ』の舞台I	ヤマザキ・マリ原作漫画『テルマエ・ロマエ』というタイトルは、ラテン語で「ローマ人の浴場」を意味する。その主人公の浴場設計技師ルシウスが活躍する時代は、古代ローマ、より詳しくは、古代ローマ帝政期である。浴場を含め、従来にないあつと驚く壮観な空間を内包する建築が盛んに建設された時期に重なる。そうした壮大な空間が出現した建築学的な要因は何か？この点について、迫りアーチやローマ式コンクリートといった、古代ローマ人が編み出した画期的な構造や構法に着目しながら学習する。	事前:古代ローマ建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
4	古代ローマ建築2:『テルマエ・ロマエ』の舞台II	ヤマザキ・マリ原作漫画『テルマエ・ロマエ』にもあるように、古代ローマ帝国は、ハドリアヌス帝の時代に最大版図を築く。その各地には首都ローマにならって都市が整備された。各都市は、帝国の安定のために、「パンとサーカス」と形容される、手厚い福利厚生のサービスでもって運営されていた。その「パンとサーカス」なるサービスに関わる都市施設にはいったいどのようなものがあったのか？この点について、古代ローマ人が都市運営に伴い生み出した、浴場や闘技場また集合住宅などの建築タイプロジー(類型)に着目しながら学習する。	事前:古代ローマ建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
5	初期キリスト教建築(ビザンティン建築を含む):西方・東方教会建築の生成と展開	多神教の世界である古代ローマの地に唯一神を崇拝するキリスト教徒が到来する。その地で凄まじい迫害を受けるなど紆余曲折を経て、コンスタンティヌス帝の時代に、キリスト教は公認を得る。公認を契機に、初期キリスト教建築が出現しはじめる。その際、キリスト教は、どのように自らの教義に応じた建築をデザインしたのか？この点について、西方教会建築の原型となったバシリカ式と集中式という二つの形式、また、東方教会建築特有の展開を可能にしたスク	事前:初期キリスト教建築(ビザンティン建築を含む)について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習

			インチやペンデンティブという構法に着目しながら学習する。	
6	スボリア教会建築:異教の読み替え		古代ローマ帝政末期から中世にかけて生み出された西方教会(カトリック)建築は、古代ローマ建築の遺構から部材をスボリア(盗用)したものに富む。その場合、古代ローマ建築という異教の建築におけるボキャブラリーを、キリスト教の観点から、どのように読み替え採用していったのか?この点について、ローマを中心にキリスト教建築で展開されたボキャブラリーに着目しながら学習する。	事前:古代ローマ帝政末期から中世にかけて生み出された西方教会(カトリック)建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
7	ロマネスク建築:修行の場としての多様な建築		紀元千年紀を迎える頃、ヨーロッパは、カロリング朝の崩壊に伴い荒廃していた。荒廃からの復興を願い、修道士たちは自らの修行の場として人里離れた地に修道院を建設しはじめる。その際、修道会の戒律などの普遍的なものと、土着の技術などの特殊なものを併用することで、どのような建築が生み出されたのか?この点について、紀元千年紀を迎える中世ヨーロッパのさまざまな地域で展開された、修道院をはじめとするキリスト教建築に着目しながら学習する。	事前:ロマネスク建築やヨーロッパ修道院建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
8	ゴシック建築:建築における「聖的なもの」		12世紀に入り、フランスやドイツで従来と異なる新しいスタイルの建築が出現しはじめる。そのスタイルは、主として、都市に住まう市民に開かれたキリスト教会堂を建設する場合に適用された。なかでも、教会堂内部は、光を豊富に用いた空間演出のおかげで、神々しい聖なるものと化している。そうした建築における「聖的なもの」の正体とは、いったい何か?この点について、12世紀に入り中世ヨーロッパで出現した新しいスタイルの建築のなかでも、特にキリスト教会堂の社会的・宗教的な意味合いやデザインに着目しながら学習する。	事前:ゴシック建築やキリスト教会堂建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
9	教会堂を建てた人びと:建築専門家の変遷史		キリスト教会堂に関して、俗に大聖堂と解されるカテドラルとは、正式には司教座聖堂のことである。中世ヨーロッパで、司教座聖堂をはじめとする教会堂を建てた人びとの中心には、大抵、建築専門家がいた。その建築専門家は、職務上、今日の建築家とほとんど同様な役割を果たしていたとされる。そこで、そうした建築専門家は、いつ頃から存在し、その職能(職務上の役割)は、今日の建築家に至るまでどのように移り変わってきたのか?この点について、古代から現代に及ぶ画期となった人物や概念に着目しながら学習する。*中間試験としてレポート課題	事前:建築家という職能の歴史について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
10	ルネサンス建築1:古典主義のクリエイティビティ		古代ギリシアやローマの優れた建築は古典建築ないし古典古代建築といわれる。15-16世紀イタリアを中心にヨーロッパでは、そうした古典建築の再生(ルネサンス)を目指す、古典主義建築が展開された。その過去の模倣に創造が加わる創作態度は、創造的な模倣とでもいうべきものといえる。この創造的模倣という創作態度は、具体的にどのように理解することができ、建築などの創作においてどのように展開されたのか?この点について、15-16世紀の主にイタリアで展開された古典主義建築に着目しながら学習する。	事前:ルネサンス建築や古典主義建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
11	ルネサンス建築2:リノベーションとデザインの社会性		昨今、過去の古くなった建物を使用し続けるために更新することを意味する、リノベーションという概念が注目されている。とはいえ、そうしたリノベーションの営みは、古来、行われてきたことでもある。なかでも、数多の世界遺産を擁するイタリアは、リノベーションの歴史的な事例に富む。その歴史的なリノベーション建築では、リノベーションに際して、立地する社会の文脈にどのように応じたデザインが施されたのか?この点について、15-16世紀イタリアのリノベーション建築に着目しながら学習する。	事前:ルネサンス建築やリノベーション建築について参考書などをもとに情報収集 事後:自作ノートをもとに復習
12	バロック建築:対抗宗教改革		16世紀初頭、カトリックの本山、ロー	事前:バロック建築や対抗宗教改革について参考書

		に伴うデザイン	マの新サン・ピエトロ大聖堂建設資金を得るために、教皇レオ十世は免罪符（贖宥状）を濫造多売する。それに抗議するマルティン・ルターらプロテスタントによる宗教改革に対して、カトリックは、対抗（反）宗教改革を展開する。それに伴い建築は、宗教と同時に政治を体現するようになる。その場合、建築はどのようにデザインされたのか？この点について、15世紀後半から17世紀前半にローマで展開されたカトリックの建築に着目しながら学習する。	などをもとに情報収集 事後：自作ノートをもとに復習
13	デザインとツールの関係性：建築をつくりだすもの		古来、建築の創作は、建設に先立つ設計の段階で素描や図面あるいは模型といった何らかのツールを用いて行われてきた。言い換えれば、そうしたツールなくして建築はつくりだされてこなかったといっても過言ではない。であるならば、建築の創作に伴うツールは、建築のデザインに何らかの影響を及ぼしているのではないのか？この点について、15世紀から17世紀ヨーロッパでなされた建築の創作に着目しながら学習する。	事前：ルネサンス建築やバロック建築また古来の建築創作に伴うツールについて参考書などをもとに情報収集 事後：自作ノートをもとに復習
14	パラーディオ主義から新古典主義建築：「マス・メディア」としての建築		建築書が盛んに著されはじめたのは、15世紀イタリアにおいてとされる。15世紀半ばのグーテンベルグによる印刷機の発明を機に量産可能になった建築書は、建築の動向を占うもの、いわば「マス・メディア」として流通することになる。おかげで、建築書は、時代の主流となる建築を生み出す場と化する。そこで、この「マス・メディア」としての建築とでもいべき建築書には、どのようなものがあり、それぞれはどのように時代の主流となる建築を生み出したのか？この点について、18世紀後半から19世紀前半に著された建築書とそれに関わる建築の動向	事前：古来の建築書や印刷の歴史また新古典主義建築について参考書などをもとに情報収集 事後：自作ノートをもとに復習
15	歴史主義建築・折衷主義建築：過去のカタログ化		18世紀半ばに産業革命を契機に時代は、絶えず更新される「現在」をよしとする近代へと動きだす。それに伴い、現在から過去を俯瞰し続ける、近代的な視座が浮上してくる。おかげで、歴史上の建築スタイルやポキャブラリーは、随意に選択可能なカタログ上の商品のように扱われることになる。このことは裏返せば、従来と違って、建築をつくりだすための根拠が不在であることを暴露している。根拠をいかに捏造し、それにより、カタログ化された過去を組み合わせることで、どのような建築がつくりだされたのか？この点について、18世紀半ばから19世	事前：歴史主義建築と折衷主義建築について参考書などをもとに情報収集 事後：自作ノートをもとに復習

関連科目 設計演習、近代建築史、建築計画など、計画系科目の学習に資するよう、専門用語の使い方にも留意してください。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヨーロッパ建築史	西田 雅嗣（編）	昭和堂
	2	図説 西洋建築史	陣内 秀信ほか	彰国社
	3	リノベーションからみる西洋建築史	伊藤喜彦ほか	彰国社

評価方法（基準） 毎授業内容のまとめ（コメント課題）（30%）、中間試験（レポート課題）（30%）、期末試験（対面筆記試験）（40%）を総合し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 傑作とされる近現代の建築は、古くは古代まで遡る過去の建築の確かな学びのもとに生み出されてきたといっても過言ではない。歴史上の様々な建築の特性を確実に理解し、先人の知恵が込められた創意工夫をしっかりと学び取ってほしい。さらには、そうした過去の遺産を継承し、建築計画や設計を行う上で有効に活用する手立てを見出すきっかけとなれば幸いである。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室

備考 【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回30分をかけて内容を理解する。
【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間かけて、教科書以外の資料や実際の建築物に目を向ける。出来るだけ視覚的資料にあたること。
自作ノートをもとにできるだけ時間をかけて学習を行い理解を深めること。

科目名	福祉すまい環境	科目名 (英文)	Welfare Residential Environment Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 由紀子, 伊熊 昌治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2037a0		

授業概要・目的	人々が安全で、安心して暮らせる生活環境の計画に資する基本的な考え方を学ぶ。具体的には、福祉施設にとどまらず、超高齢化や多様化する現代社会において、福祉の観点から建築・都市を見直すと同時に、新しい住まい方やまちづくりの動向を学ぶ。(SDGs-11)
到達目標	多様な人々に配慮した住宅、公共施設の計画、まちづくりに関する基礎的知識、および、計画手法を理解できる。
授業方法と留意点	・テキストや資料を用いた講義を中心に、新しい事例やトピックスの紹介、および、授業テーマに応じた演習を行いながら進める。 ・事前に資料等を Teams で配布する。テキストでの学習、または、動画の視聴等を行い、事前に準備を行ったうえで受講する。
科目学習の効果 (資格)	設計演習、建築計画系座学のひとつであり、一級建築士、二級建築資格取得に必須の科目である。また、福祉住環境コーディネーター、インテリアプランナーなどの資格にも関連する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・社会変化と建築・都市	建築・まちづくりの基盤となる現代社会の動向、家族の変化について統計から読み取る	事前：事前に通知したテキスト該当頁を読みこむ 事後：授業内容を習する
2	多様な属性と環境への配慮	ユニバーサルデザインの考え方を学ぶ	事前：テキスト2章、3章、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
3	こどもの福祉と空間デザイン	児童福祉施設の計画における基本事項を学ぶ	事前：テキスト該当章、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
4	高齢者福祉と居住空間デザイン1	高齢期の心身特性を知り、在宅での暮らしとすまいの計画を学ぶ	事前：テキスト6章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
5	高齢者福祉と居住間デザイン2	高齢者向けサービスを組み込んだ集合住宅の計画を学ぶ	事前：テキスト6章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
6	高齢者福祉施設と空間デザイン	高齢者福祉施設の計画と近年の動向を学ぶ	事前：テキスト6章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
7	中間テスト	中間テスト	事前：6回目までの内容を復習する
8	中間テストの振り返り 現代家族と居住空間	前半 テストの振り返り、解説を行う 後半 家族の形と新しい住まい方を学ぶ	事前：事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
9	歩行空間、オープンスペース	円滑な移動と歩行空間、オープンスペースの計画を学ぶ	事前：テキスト4章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
10	公共空間1	教育施設におけるユニバーサルデザインを学ぶ	事前：テキスト5章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
11	公共空間2	文化施設におけるユニバーサルデザインを学ぶ 車いす体験	事前：テキスト5章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
12	さまざまな建築とユニバーサル化	地域のさまざまな建築のユニバーサルデザインを学ぶ	事前：テキスト5章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
13	サイン計画	公共空間における情報伝達、情報の種類、サイン計画を学ぶ	事前：テキスト5章該当頁、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
14	災害と住まい・まちづくり	災害とすまい、まちづくりの課題を学ぶ	事前：動画の視聴、事前に配布した資料を読み込む 事後：授業内容を復習する
15	まとめテスト	これまでの内容についてまとめテストを行う	事前：テキスト、資料をもとに、これまでの内容を復習する

関連科目	建築設計製図A、建築設計製図B、建築計画基礎、建築計画各論、都市地域計画など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築・都市のユニバーサルデザイン	田中直人	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ケア空間の設計手法：地域にひらく 子ども・高齢者・障がい者福祉施設	日本建築学会編	学芸出版社
2	福祉のまちづくりの検証	日本福祉のまちづくり学会 編	彰国社	
3	高齢者の住まい	浅沼由紀ほか	市ヶ谷出版	

評価方法 (基準)	中間テスト(30%)、演習課題(30%)、まとめテスト(40%)で評価し、合計100点満点の60点以上を合格とします。
-----------	---

学生へのメッセージ	みなさんの身近な生活空間が教材です。何気なく過ごしているいつもの空間も、問題意識をもって観察すると、これまで見えなかったさまざまな問題に気づきます。その気づきこそ、授業での学び、建築への興味を深めます。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 大谷教授室
----------	-------------

備考	<p>授業の進め方は1回目で説明する。学外での体験授業を行うが、日程等の詳細は授業内で通知する。</p> <p>事前学習：毎回0.5時間以上かけること、テキスト等の教材、建築雑誌、前回授業で宿題がある場合はそれも含めて学習する。</p> <p>事後学習：毎回1時間以上かけること、テキスト等の教材、メモをもとに授業内容を復習する。</p> <p>課題や中間テストは返却し、内容によって解説を行うので自身の学習にフィードバックしてほしい。自分で見直すことが重要である。</p>
----	---

科目名	建築環境工学Ⅱ	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA1039a0		

授業概要・目的	熱環境分野および空気環境分野の専門的内容を学習する。いずれも人間の生理的・心理的反応に着目しながら、建築計画に際して知っておくべき基本的要件と、解析法・測定法や評価法について理解を深める。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 (SDGs-11)
到達目標	熱環境と空気環境に関して、建築空間における現象を知り、問題点とそれに対する改善策や設計計画への応用が考えられる知識を得る。
授業方法と留意点	対面または Teams 上の会議を使用した講義をします。Web Folder 内に、教科書に沿った課題を提示します。追加の指示などは対面での口頭または Teams 上に投稿します。講義を聞き、各課題を締め切りまでに Web Folder 内に提出してください。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	風土と暮らしと建築環境	南北に長い日本の風土を知り、その風土に適し建築物が、どのように造られてきたのかを把握する。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
2	建築環境制御と地球・都市環境との関係	建築環境を快適に保つための建築部材や建築環境の制御についてを把握し、地球・都市環境との関わりについて大まかに把握する。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
3	温度と熱の移動 (1)	熱移動の基本原則である熱伝導と熱対流についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
4	温度と熱の移動 (2)	熱移動の基本原則である熱放射と熱貫流についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
5	熱貫流・熱負荷の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
6	断熱・気密と結露/人間の生理心理反応	結露のメカニズムについての基本的な知識を身につける。また、人間の生理・心理反応について把握する。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
7	温熱環境 (1)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するため測定法を把握する。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
8	温熱環境 (2)	人間の体温調節機能と熱環境、熱環境を評価するための温熱環境指標について専門知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
9	太陽の動き	日射・日照についての基礎知識を身につけて、熱環境の視点からの日射の利用と遮蔽について理解する。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
10	換気と汚染質濃度	流体力学の基礎式及び換気力学についての基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
11	重力換気・風力換気	重力換気と風力換気の原理について理解するとともに、換気計算手法についての知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
12	室内の温度分布と換気計画	気流の流れについて大まかに把握して、温度分布をイメージする。換気設備について基本的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
13	通風計画/気密性能と換気	通風による温熱環境の改善について基礎的な知識を身につける。また、気密性能などについて基礎的な知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
14	重力換気・風力換気の演習	一級建築士レベルの熱貫流や熱負荷についての計算問題を解きながら、知識を身につける。	事前学習は、授業テーマ (内容) が記述している教科書の部分の図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
15	復習	復習問題を実施し、理解不十分な箇所を補足解説を行う。	解けない復習問題があれば、教科書を見るなどをして、解けるようにすること。

関連科目 建築環境工学Ⅰ・建築環境工学演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 授業内の演習課題 (60%) と期末試験 (40%) により総合的に評価する。

(基準)	
学生へのメッセージ	講義には毎回必ず教科書を持参し、自宅学習でも教科書を用いて予習・復習を心がけてください。
担当者の研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、30分以上してください。事後学習は、60分以上してください。暗記をするのではなく、理解するようにしてください。

科目名	建築設備学	科目名 (英文)	Building Services
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一・岩見 康秀
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3040a0		

授業概要・目的	建築物における建築設備の役割を説明する。空気調和設備・給排水衛生設備とそれらに関する電気設備などの内容を説明する。地球環境負荷の低減に向けての建築設備設計の役割について説明する。 建築環境工学で学んだ知識を基に、地球環境への配慮した設備計画を提案できる能力を身につけること、またはそれらを理解したうえで建築計画を行なう能力を身につけることを目的とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 (SDGs-11)
到達目標	空気調和設備および給排水衛生設備を理解し、一級建築士の資格試験に出題される用語を理解して、建築設備の概略を説明することができる。
授業方法と留意点	教科書に沿った講義を行うため、第2回の授業までに、教科書を購入して、必ず持参すること。 感染症の影響で、入構ができなくなった場合は、オンライン授業で行いますので、連絡には注意してください。
科目学習の効果 (資格)	建築設備士、一級建築士、一級管工事施工管理技士、などの資格を取得するために重要な科目である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	空気調和・給排水衛生設備の概要	建築設備の必要性について学ぶ。	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	2	空気調和設備 1	空気調和設備の概要・負荷	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	3	空気調和設備 2	熱源システム	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	4	空気調和設備 3	空気調和システム・換気・排煙	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	5	空気調和設備 4	空気調和設備の省エネルギー技術	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	6	空気調和設備 5	空気調和設備の設計・現場業務	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	7	空気調和設備 6	大型プロジェクトの紹介	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
	8	空気調和設備の演習	一級建築士レベルの問題で理解を深める	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	9	給排水衛生設備 1	給排水衛生設備の概要・給水設備	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	10	給排水衛生設備 2	給湯設備・衛生器具設備	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	11	給排水衛生設備 3	排水通気設備	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	12	給排水衛生設備 4	排水・雨水処理設備	事後学習は、授業で解いた問題の理解を深めること。関連する内容を復習すること。
	13	給排水衛生設備 5	消火・ガス設備	事前学習は、授業テーマ (内容) の教科書の範囲に記述している図表を見てください。事後学習は、講義内容を教科書を読むなどして復習すること。
	14	給排水衛生設備の演習	一級建築士レベルの問題で理解を深める	事前学習は、教科書の図・写真を見てください。事後学習は、見学できた機器について教科書などで理解を深めること。
	15	建築設備の見学会	校内の機械室・電気室の見学	事後学習は、今までの授業の内容について体系的に復習すること。

関連科目	建築環境工学をはじめとする建築に関する専門知識が必要である。
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	空気調和・衛生設備の知識	空気調和・衛生工学会	オーム社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題の提出 (40%) と期末試験 (60%) を総合的に判断する。
学生への	建築設備の基本的知識を身につけるために、復習すること。教科書の図表を使用して講義を行うため、教科書を必ず持参すること。

メッセージ	
担当者の研究室等	宮本教授室
備考	事前学習は、20 分以上してください。事後学習は、70 分以上してください。暗記するのではなく、建築環境工学の知識と関連付けて理解すること。

科目名	日本建築史	科目名 (英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	中川 等・伊熊 昌治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2041a0		

授業概要・目的	日本の建築の歴史について、有史以前から古代、中世、近世、近代にいたる形成と展開の過程を講述する。各時代の寺院、神社、住宅など代表的な建築を写真と図面により具体的に紹介し、その空間構成と構造技法、意匠材料の特徴と変遷について通史的に解説する。当時の社会的な背景と生活様式、生産技術にも言及し、幅広い視野で総合的に建築を捉えるようにつとめる。あわせて、都市や集落、町並など集住環境の歴史についても考察する。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	日本の建築と集住環境の歴史及びその背景に関する総合的な理解に基づいて、建築・都市計画に必要な、計画・意匠・歴史・環境に関する基礎的な考え方が説明でき、それらを応用できる。
授業方法と留意点	講義中心で授業を行う。教科書を利用するので、毎回持参すること。原則として「キャンパス内教室での対面授業」を行う。
科目学習の効果 (資格)	建築や都市に関わる者の基本素養として、また一級・二級建築士の資格を取得するために、建築史の知識は必要である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	竪穴住居と高床建築	先史・原史時代の遺跡・遺物の特徴と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった遺跡・遺物について写真集等で再確認する。
3	神社建築の諸相	神社建築の起源と諸形式の特徴について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった神社建築について写真集等で再確認する。
4	仏教伝来と法隆寺	飛鳥・奈良時代の寺院建築の特徴と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
5	密教と浄土教の建築	平安時代の寺院建築の特徴と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
6	古代の都市と住宅	平京城・平安京の建設と宮殿・住宅について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった遺跡・建築について写真集等で再確認する。
7	鎌倉仏教と新様式	伝統的な和様と大仏様・禅宗様の特徴と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった寺院建築について写真集等で再確認する。
8	座敷飾りと書院造	寝殿造から書院造が成立した過程について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった住宅建築について写真集等で再確認する。
9	中世の神社と庶民住宅	中世の神社と都市・農村の庶民住宅について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった遺跡・絵画・建築について写真集等で再確認する。
10	城と城下町	城の変遷と天守の形式及び城下町の特徴について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった城と城下町について写真集等で再確認する。
11	近世の寺社と霊廟	近世の寺社と霊廟の特徴と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった寺社と霊廟について写真集等で再確認する。
12	茶室と数寄屋	茶室と数寄屋の形成と展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった茶室・数寄屋建築について写真集等で再確認する。
13	近世民家の成立	近世民家の地域分布と成立背景について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった民家建築について写真集等で再確認する。
14	近代の洋風・和風建築	近代化の進展と洋風・和風建築の展開について説明。	指定した教科書の該当部分を事前に読んでおく。興味をもった洋風・和風建築について写真集等で再確認する。
15	日本の伝統建築の特徴と現況	日本の伝統建築の特徴と、それらを保存・活用する考え方について論述。	日本の伝統建築を保存・活用する課題について各自で考察する。

関連科目 西洋建築史、近代建築史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本建築史図集 (新訂第三版)	日本建築学会編	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 (80%) と中間テスト (20%) により判断する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 日本建築史を理解するためには、歴史的な建築と環境に実際に接してその空間を体験することが大切である。京都、奈良、大阪など大学の周辺は史跡と文化財の宝庫であり、各所に伝統文化がいきづいている。現地に足を運んで自ら感得することが望ましい。

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習課題欄に示した内容について、事前学習は毎回0.5時間以上、事後学習は毎回1時間以上かけて取り組むこと。授業時間の前後に非常勤講師室で質問等に対応可能。

科目名	近代建築史	科目名 (英文)	History of Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	三木 勲, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3042a0		

授業概要・目的	近代建築は社会の変革とともに発展してきた。この授業では、その一連の流れを学習する。 産業革命がもたらした社会の変革は、都市や建築の風景を大きく変えていくことになった。激動の世紀末を迎え、20世紀に入ると現代建築の基礎となる概念が形成されていく。「近代建築」と我々が呼んでいるものとそれを取り巻く環境の変遷を通じて、巨匠たちの建築作品がどのような歴史的意義を持ち得たのかを考え、今日の建築につながる問題を考える。 授業担当者は、建築設計の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。 (SDGs-11)
到達目標	(1) 建築が今日に至るまでどのような展開をなしたか、(2) どのような建築家が近代建築の重要な位置を占め、彼らがどのような建築を生み出したのか、(3) 近代建築史の学習を通じて現代建築のデザインにどのような課題がみえるのか、を理解すること。
授業方法と留意点	授業は講義形式で実施する。 建築の図面や写真の映写を多用し、視覚的理解に重点をおく。各講義の内容は概ね教科書の各章に対応しているため、受講前に該当箇所を読んでおくこと。また、必要に応じて、自発的に参考資料を探し、知識の幅を広げるよう努めること。
科目学習の効果 (資格)	建築に携わる者としての基礎的知識ならびに建築に対する評価眼を養い、設計思想に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ル・コルビュジェ	ル・コルビュジェの建築理論の学習を通じて、近代建築が目指した理想像について理解する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
2	ミース・ファン・デル・ローエ	ミース・ファン・デル・ローエの設計手法の学習を通じて、近代建築の建築的特徴を把握する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
3	批判の対象としての古典主義	西洋建築史の見直しをおこない、近代建築の批判の対象となった古典主義建築について理解する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
4	近代建築の萌芽と曙光	19世紀のヨーロッパにおける都市と建築の変遷を概観し、近代建築の前提条件を把握する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
5	近代への多様な道のり その1	アントニオ・ガウディの建築を通じて、時代の転換期における建築事情を把握する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
6	近代への多様な道のり その2	オットー・ワーグナーやアドルフ・ロースなど、ウィーンの建築を通じて、時代の転換期における建築事情を把握する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
7	建築のアヴエンキヤルド	デ・ステイルを中心に、芸術運動と連動した20世紀初頭の前衛的な建築思潮について学ぶ。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
8	中間レポートの作成および提出	あらかじめ出題された内容に関するレポートを作成し、提出する。	これまでの出題に対する回答や教科書を見直し、知識を整理しておくこと。
9	近代建築の実験場としてのドイツ	先進的な教育を行ったバウハウスを手掛かりに、ドイツにおける建築の近代化について把握する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
10	アメリカにおける近代建築の形成	シカゴおよびニューヨークの建築の動向を通じて、アメリカにおける建築の近代化について学ぶ。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
11	フランク・ロイド・ライト	フランク・ロイド・ライトの作品解説を通じて、彼が追求した「有機的建築」についての理解を深める。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
12	近代建築のひろがりと変容	風土のなかの建築やイデオロギーとしての建築を通じて、近代建築の地域主義的展開を知る。	教科書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
13	近代建築への懐疑と超克	ルイス・カーンの建築を中心に、CIAMの終焉を告げた時代の建築の動向について学ぶ。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
14	建築のポスト・モダン	ポスト・モダン以降における建築の特徴を把握し、近代建築との違いを理解する。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。
15	21世紀につながる建築の動き	社会が急速にグローバル化し、コンピューターの普及による情報化が進んだ20世紀末における建築の動向を把握し、21世紀につながる建築の可能性について学ぶ。	教科書や参考書の該当箇所を通読し、特に作品や思想の特徴について解釈を試みる。

関連科目	西洋建築史、設計演習、卒業研究
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾 編著	学芸出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラー版 図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著	学芸出版社
	2	世界の建築家 解剖図鑑	大井隆弘・市川紘司・吉本憲生	エクスナレッジ

	3	日本の建築家 解剖図鑑	和田隆介 二村悟	エクスマレッジ
評価方法 (基準)	授業への積極的な関与や質問への回答 (20%)、中間レポート (40%)、期末レポート (40%) によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近代の建築・都市・デザインを理解することは、これから自分が創り出そうとする建築のコンセプトや空間そのものに大きなヒントを与えてくれます。単なる歴史の暗記ということではなく、自分が評価したい対象を模索するきっかけとなるはずです。			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む。			

科目名	建築環境工学Ⅲ	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	原 直也, 宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2043a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 健康で快適な生活を営む上で、重要な役割を果たす様々な環境要因の中で、日照・日射、光環境と音環境に着目して、それらと人間の生理的・心理的反応との関係を理解するとともに、建築計画や設計に際して、承知しておくべき基本的要因と、計画・設計の結果として得られる状況の解析法や評価法についての理解を深める。(SDGs-11)
到達目標	日照、光環境と音環境について、建築計画や設計において必要な基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	オンラインにより配布した講義資料を事前に予習として学習したことを前提とした対面の講義を行う。講義資料のストーリーは教科書とは異なり、一部教科書に無い内容を含む。教科書との参照を付記した講義内容となる。対面講義時には、時間内に事前予習内容に関する演習課題に取り組み、その課題の提出を求めることがある。 日常生活で経験する日照・日射、光環境と音環境に関する種々の事柄に関心を持つように心掛ける。
科目学習の効果 (資格)	一級、二級建築士の学科試験の受験において、必要不可欠な最低限の知識を習得できる。インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、照明士などの資格取得に有効である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	太陽の動きと日照	居住環境における太陽エネルギーの効果、太陽の運行と位置の表示と算定法、時刻の表現	指定教科書 (II7, II8) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
2	太陽放射と昼光光源	日照検討の項目・内容、日影曲線・太陽位置図・日照図表による検討	指定教科書 (III0.1, III2.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
3	視覚と表色、色彩の効果	視環境の構成、目の構造・機能、表色系、色彩、色彩の効果	指定教科書 (III1.1, III3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
4	測光量と視環境要件	光の量、基本測光量、見やすさ、明るさ・視野の輝度分布	指定教科書 (III2.2, 1.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
5	視環境要件と照明基準	グレア、光色と演色、光の方向性と立体感、照明基準	指定教科書 (III1.3) を参考に知った予習と、講義内容の復習を行なうこと
6	測光量の相互関係	点光源による照度、物体表面での光の反射、輝度の算定	指定教科書 (III2.2, 2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
7	照明計算	面光源による照度、立体角投射率の算定、間接照度の算定	指定教科書 (III.2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
8	室内視環境設計	照明の変遷、光源の特性、発光原理とランプ、照明用光源の特性、人工照明設計の方法、昼光光源の種類と特徴、昼光照度、昼光率、採光計画	指定教科書 (III1.4-6, 2.1, 2.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
9	聴覚と音環境	聴覚生理、聴覚心理、音環境計画の構成、建物の用途と着眼点	指定教科書 (V1, V3.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
10	音波と音響レベル	音波とその性質、音の実用単位	指定教科書 (V2) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
11	騒音レベルと音の伝播	音響レベルの合成と、等ラウドネス曲線、周波数補正、音の伝搬過程、	指定教科書 (V9) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
12	音響エネルギーの伝播	距離減衰、回折減衰、空気の吸収減衰、音響エネルギーの反射、吸収、透過と吸音	指定教科書 (V4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
13	騒音制御と遮音	遮音の性能表示、遮音の機構と特性、二重構造の遮音性能	指定教科書 (V7) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
14	室内音響と吸音	室内音場の特徴、吸音の機構と吸音特性、拡散音場、残響時間	指定教科書 (V5, 6) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
15	音響の評価と設計	最適残響時間、室内音響指標	指定教科書 (V.8) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと

関連科目 建築環境工学 I、建築環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 (演習問題) 30%、期末試験 70%で評価する。

学生へのメッセージ 日常生活環境で観察可能な現象を科学的に取り扱う学問である。講義内容を知識として修得するだけでなく、生活環境の工学的な取り扱うための考え方を身につけてもらいたい。

担当者の研究室等 非常勤講師室
8号館3階 宮本教授室

備考 事前学習・事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。

科目名	建築環境工学演習	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一・伊藤 佳乃子・土川 忠浩
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3043a0		

授業概要・目的	建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲで学んだ知識を基に、実務に沿った状況を想定した課題に取り組むことによって、理論と知識の理解を深める。具体的な数値を用いた演算処理を通して、各種の演算式の意味内容の理解や処理結果の考察などの実務対応能力の向上を図ることを目的とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	演習を通して、適正な建築環境の表現、ひいては、合理的な建築計画の実施に資する素養を身につける。
授業方法と留意点	課題と資料を配布し、課題の要点を解説を行った後、課題に取り組み、授業終了時に成果物を提出する。各課題におけるキーワードについての予習と復習を欠かさぬこと。また、熱環境、光環境、音環境の測定を通して理解を深めること。本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。ただし、感染症の影響で入構ができなくなった場合は、オンライン授業で行いますので、連絡には注意してください。
科目学習の効果 (資格)	建築の環境工学、建築設備の実務において、処理すべきさまざまな課題に対する解決能力が身につく。また、一級、二級建築士の学科試験の取り組みにおいて、学習契機の形成や学習意欲の向上を図ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日照の検討	日影曲線図を活用して、検討建物の日影図を描き、日影の面積を算定する。また、検討建物の天球上の射影図を描き、太陽位置図を活用して、日影となる時間帯を求める。	キーワード 【赤緯、時角、真太陽時、日影曲線図、太陽位置図、日影の範囲、日影の時間帯】 の理解を深める
2	熱環境測定計画	温度と湿度を測定する機器を用いて熱環境の測定を行うための計画を立案する。そして、測定を開始する。	どのような環境の温度・湿度を測定したいのか考えてくること。
3	熱移動の基礎	伝導、対流、放射による熱移動形態の違いを理解し、壁体の各部位および、壁体全体を流れる熱量の算定式を誘導する。この算定式を活用して、断熱処理の効果を検討する。	キーワード 【伝導、対流、放射、熱伝導率、熱伝達率、熱貫流率】 の理解を深める
4	結露の検討	多層壁体内部の温度および、絶対湿度(水蒸気分圧)の分布を求め、表面結露、内部結露の判定を試みる。また、断熱材、防湿材の位置と結露の発生の関係を考察する。	キーワード 【飽和水蒸気分圧、露点温度、表面結露、内部結露】 の理解を深める
5	熱環境測定分析	熱環境測定計画で計画して測定したデータを分析する。目的通りに測定できたかを確認する。	前半までに PP が完成できるように、エクセルで分析をしてくること。
6	昼光率分布の検討	矩形の高窓を持つ室の床面上の検討点における直接昼光率(立体角投射率)を、計算式及び、計算図表により算定し、床面の格子点の値に基づいて昼光率の分布図を作成する。	キーワード 【立体角投射率、昼光率】 の理解を深める
7	人工照明の設計	光の量を表現する諸量の関係を理解した上で、点光源で照らされた紙面の輝度を算定する。また、製図室を蛍光灯器具で照度基準を充足するように照明する場合の器具配置計画を試みる。	キーワード 【光束、光度、照度、輝度、照度基準、照明率、保守率、室指数】 の理解を深める
8	光環境測定分析	照度計を用いて、教室の照度分布を測定する。昼光のみ、人工照明のみ、昼光+人工照明の場合の差異を考察する。	照度について理解を深めておくこと。
9	換気の検討の基礎	室内汚染質の発生量と換気量を各種の組み合わせた場合の、汚染質濃度の変化過程を算定する。また、ベルヌーイの式を理解し、開口部の圧力損失と流量の関係を誘導する。	キーワード 【汚染質濃度、換気量、換気回数、ベルヌーイの式、圧力損失】 の理解を深める
10	換気量の検討	空気流量の算定式に基づいて、複数開口を持つ室の相当開口面積を算定する。また、重力換気と風力換気が複合する場合について、2つの開口を持つ室の換気量を算定する。	キーワード 【開口部流量、流量係数、圧力差、重力換気、風力換気】 の理解を深める
11	騒音レベルの検討	周波数特性が既知の電車騒音の距離減衰と回折減衰を考慮して、住居の窓前における騒音レベルを予測する。	キーワード 【音圧レベル、周波数帯域、距離減衰、回折減衰、聴感補正、騒音レベル】 の理解を深める
12	残響時間の検討	内装仕上げの面積と吸音率が既知である、簡単な舞台と平土間の客席を持つ集会室の残響時間を予測する。	キーワード 【残響時間、吸音率、吸音力】 の理解を
13	音環境測定分析	騒音計を用いて、交通騒音を測定する。距離元音について考察する。	騒音について理解を深めておくこと。
14	総合問題①	一級建築士試験の過去問から抽出した、環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	これまでの講義、演習の内容の理解を深める
15	総合問題②	一級建築士試験の過去問から抽出した、環境工学及び設備に関する基本問題の解答を試みる。	これまでの講義、演習の内容の理解を深める

関連科目 建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、建築環境工学Ⅲ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	各課題に対する成果物で評価（成果物 100%）する。定期試験は実施しない。			
学生への メッセージ	受講に際して準備するもの：建築環境工学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの授業における教科書、配布資料、ノート、関数機能付き電卓、20cm 程度の三角定規1組、A4判レポート用紙			
担当者の 研究室等	宮本教授室			
備考	<p>一級建築士試験の環境工学分野の理解を深めるために有用です。</p> <p>事前学習は、建築環境工学で使用した教科書やノートを見直すことを30分以上してください。</p> <p>事後学習は、演習で解いた内容の理解を深めることを60分以上してください。</p> <p>授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。</p>			

科目名	材料デザイン	科目名 (英文)	Building Texture and Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	岩田 恵, 伊熊 昌治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3044a0		

授業概要・目的	<p>建築を構成する材料の選択は空間やコンセプトの表現として重要な要素である。材料の種類と特徴を知り、適材適所に材料を選択し劣化を防ぎ快適で安全な居住環境を実現することを学ぶ必要がある。鉄、アルミといった金属・ガラス・木・コンクリートから建築を構成する様々な材料について紹介し、伝統的な材料から近年開発された新素材まで幅広い材料についての知識と使用にあたっての留意点、デザインの実現のための使用方法についての基礎知識を身につけるとともに、どんなデザイン意思が潜んでいるのかを探る。デザイン (意思) を表現し、実現する為に材料を選択する (デザインする) プロセスを学び実際の設計演習課題での作品のイメージの多様性の獲得や設計密度をあげることも目指す。主宰する建築設計事務所での実務経験をもとに、実際の材料選択についての実践的事例等の紹介を行う。(SDGs-11)</p>
到達目標	<p>現実の建造物の仕上げあるいは内装についての材料に関する知識を得ることで、町並みデザインや建築デザインへの関心を高めるとともに工業化製品の抱える問題点や、材料の経年変化による耐久性や耐火性、設計者の使用意図等についての理解を深める。建物の物理的質量とイメージによる重さ・軽さを作り出すディテールや、材料によるディテールの違いを理解し、簡単なディテールスケッチがフリーハンドできるようになることを目指す。軒先における雨樋のデザインはどのようになっているのか事例を通して学ぶ。また材料のもつ強度、物性やデ</p>
授業方法と留意点	<p>講義とプレゼンテーション、ミニレポート作成を中心とする。教材・課題提供型授業をメインとする。講義時にプリントあるいは資料を配布する。国内外の事例を中心とした紹介を行うが、課題について各自で事例を収集調査することも必要となる。復習とフィードバックを兼ねて毎回の最初に前回の課題事例を紹介する。 ①材料の見え方 (距離、肌理等) ②材料の使われ方 (設計方法、ディテール、材料の歴史性、意匠的・文化的価値) ③材料を選ぶ の3部構成とする。最終的に提出課題をまとめることとするので、毎回の各課題への取り組み</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>材料の経年変化に対する意識を高め、使用する材料に意識的になることで室内外の建築材料についての知識を得られるとともに実際に材料を選択することでリアリティを得ることができる。課題作成において、プレゼンテーションテクニックの向上が図れる。また著名な書物の原点 (翻訳) を眺めてみる機会を得る。高効率エネルギーや省エネルギーについて配慮した建築デザインについて理解を深めることができる。一級建築士資格取得やインテリアコーディネータ取得にも役立つ。一級施工管理技士試験にも役立つ。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 材料とデザイン 自分をとり囲む環境の中で、どのような材料が使われているか	材料を使ってデザインをするか。デザインを実現する為に材料を使うか。工業化にともなう材料の開発と新素材を使用した事例を近代建築史のなかから学び材料 (素材) をどのように使用・利用してきたのかの概略を学ぶ	(事前) 自分をとり囲む環境の中で、どのような材料が使われているかに注意を向ける。(0.5時間) (事後) ある建築物を選択して床・壁・天井・外壁等にどのような材料が使用されているか、また使用されている根拠を検討する。フロタージュ課題 (1時間)
2	①材料の見え方 材料とテクスチャー 距離によるテクスチャーの変化 (遠景・中景・近景) どんな距離で見られることを意識して設計されているか。	材料のテクスチャーと肌理 距離によるテクスチャーの変化 つつる・のっぺらぼう・でぼこ・さらさら等 (オノマトペ) の表現。どの距離からみてボリュームや設計を考えているのかに意識的になる。	(事前) 距離によってテクスチャーが変化する事例を探す。(0.5時間) (事後) つつる・デコボコ・サラサラ等の事例を探す。(1時間)	
3	①材料の見え方 材料と時間 時間と共に熟成する材料、腐敗していく材料 味わいと経年劣化	時間とは何か。 発酵する材料と腐敗する材料 長寿命の為の材料 経年価値と新しさの価値、歴史的価値と保存価値 価値と評価について	(事前) 時間と共に熟成する材料、劣化していく材料を探す。(0.5時間) (事後) 何をもちて熟成とするか、劣化とするかの判断について考える。(1時間)	
4	①材料の見え方 建築の軽さ・重さ 軽く見せる・重く見せる、暖かくみせる・冷たく見せるデザインと構法について検討	屋根・庇を軽く見せる 床・壁を薄くする 天井を軽くする 軽くみえるが重量は重い建物についての実例	(事前) 表層或いはボリュームとして軽くみえる、重く見える・薄くみえる・厚くみえるの実例を探す。(0.5時間) (事後) 実際には重量があっても軽く見えるデザインの存在をしる。(1時間)	
5	①材料の見え方 表層・皮膚・装飾 装飾はいけないことか。	見せかけのデザインとだましのデザイン 「装飾と犯罪」を読む。 衣服 (ファッション) の被覆との類似性 実物の材料とその特性透明性実現の為の材料 「模倣することはいけないことか」について考える。	(事前) アドルフ・ロース「装飾と犯罪」の「被覆について」を読む。(0.5時間) (事後) 装飾性とフェイクなデザインの是非について検討する。同一形態でも材料が異なる場合、材料は重要ではないのかどうか考える契機をつくる。(1時間)	
6	①材料の見え方 透明性・表層・模倣 虚の透明性と実の透明性 装飾・模倣・写し・見せかけ等について検討 模倣とフェイク	ガラスを床、壁、天井、屋根に使う事例。 装飾・模倣・写し・見せかけ等について検討 「著名なデザイナーの椅子に手を加えることはいけないことか」について考える。	(事前) 実物の材料を集める装飾・模倣について調べる。(0.5時間) (事後) ストールの発展形をデザインし、模倣とフェイクについて検討する (1時間)	
7	②材料の使われ方 システム・基準寸法 オープンシステムとクローズドシステム 黄金比・白銀比は美しいのか。	モジュール・プランニングでよい建物は設計できるか。 (実際の建物の寸法はどのように決められているか) プレファブリケーションと一品製品の功罪について 美学について考えてみる。	(事前) 基準寸法による建築の構成についてどのような寸法を用いて設計しているかを調べる。規格品を用いた材料デザインについて実例を調査する。(0.5時間) (事後) プレファブリケーションとデザインについて考える (1時間)	

			「匠名」を読んでみる。																	
	8	②材料の使われ方 材料の歴史性、意匠的・文化的価値 茶室はどのような構成になっているのだろうか。 利休の茶室	新素材導入時に旧来の構法に従い、時期を経て新素材に適した構法が考案される。 国宝茶室待庵での使用材料 待庵の起こし絵を作成。伝統建築の一つ、茶室を知る。	(事前) 国宝茶室についての知識の習得をおこなう (0.5時間) (事後) 「待庵」の起こし絵製作する。(1時間)																
	9	②材料の使われ方 構法・建築エレメント 軒先廻りのデザインを検討 軒先はどのように工夫されているか。	床・壁・天井はどのように構成されているのか。 一般 RC バラベットの納まり ファンズワース邸の軒先 フラットな軒先納まり 詳細図をトレースする。	(事前) 周囲の建築の屋根・庇まわりなどに関心を持つ (0.5時間) (事後) 屋根・庇まわりの詳細雨について標準図と建築家のディテールを比較してトレースを行う (1時間)																
	10	②材料の使われ方 構法・建築エレメント 雨仕舞い・雨樋のデザイン 雨樋の対応はどのようにしているのだろうか。	一般木造瓦葺の軒先 建築家の木造軒先の納まり 金属屋根の軒先納まり 詳細図をトレースする。	(事前) 一般木造瓦葺の軒先・雨樋について調査する (0.5時間) (事後) 工夫された、デザインされた雨仕舞いの事例を調査する。(1時間)																
	11	②材料の使われ方; 建物を構成する材料の特性 材料と色 色はどのように使われているか。	「建築に色をつけることは悪いことなのか」について考える。大理石の白とコンクリートのグレーとアクセントカラー。 現代建築は白い? 建築と色について 光と影	(事前) 周囲の建築・室内仕上の色に注目して調べる (0.5時間) (事後) 建築に色が有効に使われている事例を探し、どのように効果的かを検討する。(1時間)																
	12	②材料の使われ方; 建物を構成する材料の特性 材料と特殊機能について 「あの建築」の断熱性能はどのくらいあるのだろうか。	実際の建築の熱貫流率を算出・性能判断 耐久性・防滑性・断熱性・遮音性・音を反射する材料・防火材料について 劇場等での使用事例紹介 自分で省エネルギー対応の設計をすることが大切であることを学ぶ。	(事前) 建築の性能を表す数値にはどのようなものがあるか考える (0.5時間) (事後) 実際の建築の熱貫流率を算出し一般的外壁との比較を行い、性能判断を行い、その対策案を講じる検討 (1時間)																
	13	③材料を選ぶ 材料の具体的な説明と使用事例 実物を手にしての感触	コンセプトと使用材料との関係を考える。 今までと異なる場所に異なる材料を使う 素材から材料を考えだす。(ある素材を選択し、利用方法を考えてみる。)	(事前) 国内外の事例でコンセプトを明確に表現している材料を使用している事例を探す。(0.5時間) (事後) 建築材料の実物を収集する。(1時間)																
	14	③材料を選ぶ 意思を実現するための材料デザイン	設計演習での自分の作品について自分のコンセプトを表現する材料を選択し、プレゼンテーションを行う。	(事前) 実際の材料を収集する。(0.5時間) (事後) 仕上げ材料表としてパネルにまとめる。(1時間)																
	15	プレゼンテーション 最終課題として全ての課題をまとめて一つの資料にする	全ての課題をまとめて一つのデータにする。 表紙、目次、終わりにを記して一冊の冊子にまとめる。 まとめるという作業の重要性を認識する。	(事前) 全ての課題を整理する (0.5時間) (事後) 今までのミニレポートを一つのデータにまとめる作業 表紙・目次等を含めてまとめる。(1時間)																
関連科目	建築環境工学やデザインと材料は密接な関係にある。 建築基準法でも防火等安全面から多様な材料の指定が記載されている。 国内外の事例から建築家のコンセプトや考えを具現化するための材料の選択についても興味を持つ事は需要である。 実際の建物を訪れて、計画、デザイン、環境等の知識を総合する訓練を日々行うことを薦める。 建築構法に関する知識とも関連する。 参考資料や参考図書については逐次講義時に紹介する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	2 回生での教科書、建築材料、菊池雅史・小山明男著 (オーム社) 以外の本については適宜紹介をする																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ベーシック建築材料</td> <td>野口貴文他著</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>素材の系譜</td> <td>隈研吾監修/長井宏憲著</td> <td>グラフィック社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>テクニク・カルチャー</td> <td>ケネス・フランプトン著</td> <td>TOTO 出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社	2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社	3	テクニク・カルチャー	ケネス・フランプトン著	TOTO 出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ベーシック建築材料	野口貴文他著	彰国社																	
2	素材の系譜	隈研吾監修/長井宏憲著	グラフィック社																	
3	テクニク・カルチャー	ケネス・フランプトン著	TOTO 出版																	
評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上を成績評価の対象とする。 授業中での課題の提出と評価 60% 最終レポートの提出と評価 40% (画像データでのアップ等に対応)																			
学生へのメッセージ	授業担当者は居住施設、教育施設、宗教施設等の設計実務の経験を持ち、またアトリエ事務所、独立してからの実務における実践的体験を元に、材料とデザインの関係についての知識や見方、使い方の解説と実習を中心とした教育を行う予定である。 建築材料の知識を身につけることで実際の設計演習課題への取り組みも具体性を帯びプレゼンテーションに役立てることができる。さらに材料から喚起されるデザインからイメージの枠を広げることができる。 また表皮・表層のデザインの可否、装飾や模倣とフェイク、色等を含めた建築的問題について討論を																			
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室																			
備考	事前学習：事前事後学習課題に示した内容について毎回0.5時間以上の時間をかけること。 事後学習：事前事後学習課題に示した内容について毎回1.0時間以上の時間をかけること。 授業時間内での質問の受付を原則とする。 TEAMS、moode 等での質問機会も設ける予定である。 提出レポートについてはコメント付して返却あるいは講義中に紹介をしていく。 参考図書等を多数紹介するので自分の興味ある図書についての読書を薦める。																			

科目名	インテリア概論	科目名 (英文)	Introduction to Interior Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	大谷 由紀子
ディプロマポリシー(DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3045a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築の内部空間を身体、行動、環境、暮らしなど人の側からアプローチする科目である。内部空間の考え方、および基礎的知識について、事例を調べ、考えながら計画手法を学ぶ。(SDG s-11)
到達目標	[到達目標] 人々の身体、暮らし方、生活文化等と空間との関係を理解し、建築の内部空間の計画に必要な基礎知識を身につけることができる。
授業方法と留意点	・テキストを中心に講義、および、映像や専門誌を参照してリサーチを行う。また、テーマに即して演習課題に取り組む。 ・演習課題は返却時にコメントする。
科目学習の効果 (資格)	設計演習Ⅲa、計画系座学と同様に、一級・二級建築士資格試験取得のための重要な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	風土・歴史と住空間 1	近世までの暮らしと住空間を考える	事前・事後学習課題として、テキストや文献などで日本の住宅の歴史を勉強する
3	風土・歴史と住空間 2	近代以降の暮らしと住空間を考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌、WEBなどでライフスタイルについて勉強する
4	現代のライフスタイルと住空間	家族のかたち、ライフサイクル、ライフスタイルと住空間を考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌などで集合住宅のプランを勉強する
5	住まいから都市へ	地球環境、都市的スケールから住空間を考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌などで世界の住宅を勉強する
6	身体・行為と住空間	人々の行為と空間の関係について人間工学から考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌などで住宅の詳細図を勉強する
7	住空間の計画 1	住宅の構法を考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌などで住宅の詳細図を勉強する
8	住空間の計画 2	内装を考える	事前・事後学習課題として、テキストや建築雑誌などで色彩計画に関する知識を得る
9	住空間の計画 3	色と光環境を考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献などで家具に関する知識を得る
10	住空間の計画 4	家具の役割、家具がつくる空間を考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献でワークスペースの事例を勉強する
11	働く空間の計画	働き方とワークスペースを考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献で新しいワークスペースの事例を勉強する
12	商業空間の計画 1	購買行動と物販の空間を考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献で商業施設の事例を勉強する
13	商業空間の計画 2	飲食の形態と飲食の空間を考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献で新しい商業施設の事例を勉強する
14	居場所の計画	話題の事例から居場所を考える	事前・事後学習課題として、建築雑誌や文献で滞留空間について勉強する
15	まとめ	授業のまとめと課題の講評	これまでの復習をする

関連科目 専門科目全般、特に設計演習Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、材料デザイン、建築環境工学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	住まいとインテリアデザイン	住まいとインテリア研究会	彰国社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	世界で一番美しい建築デザインの教科書	鈴木敏彦	エクスマレッジ
2	カタチから考える住宅発想法	大塚篤	彰国社
3	手を練れ	宮脇壇講師室	彰国社

評価方法 (基準) 演習課題 50%、最終レポート 50%により達成度を評価、60 点以上を合格とする。

学生へのメッセージ 様々な建築空間の体験を通じて、人々のふるまいと内部空間を観察してください。空間の印象、特徴、居心地のよさ、問題点などが何に依るのか、体験し、考え、言葉と図で表現する力をつけてほしいと思います。答えのないことにチャレンジしてください。

担当者の研究室等 8 号館 3 階 大谷教授室

備考 授業の進め方は 1 回目で説明する。また、授業の詳細は Teams で事前通知、または、授業内に通知する。
事前学習：毎回 0.5 時間以上かけ、テキストや文献を読みメモを作成する。
事後学習：毎回 1 時間以上かけ、テキスト、メモ (書き込みしたもの)、建築雑誌等を読んで復習する。
演習課題は必要に応じて事前事後のリサーチを含み、自習にフィードバックしてほしい。
課題等は返却するので、見直して再考することが重要である。

科目名	空間表現論	科目名 (英文)	Spatial Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期集中	授業担当者	杉山 圭一・小林 健治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA4046a0		

授業概要・目的	本講義は、空間デザインを単なる形態操作の問題として捉えるのではなく、その空間を生み出している諸概念や建築家の思想について、歴史的背景や建築家の実例を参照しながら現代的な問題として学ぶことで、今後の建築の在り方や自身の建築に対する考えを模索するためのものである。授業担当者は、建築設計の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 (SDG s-11)
到達目標	近代以降から現代へと繋がる空間デザインの変遷を実例検証することで、その特徴や建築家の思想について説明できる。
授業方法と留意点	主にスライドを用いて講義を行う。各回の講義の終わりにワークシートを配布し、テーマや講義内容に関する気づきや考え、そしてそれらを踏まえてこれから取り組むことについて、記述を求める。レポート課題について、進め方の目安や評価の指標を出題時に示す。グループに分かれてプレゼンテーションを行う時間を設ける。
科目学習の効果 (資格)	近代以降の空間デザインについて、その特徴を理解し、自身の空間や建築に対する考えを言語化する力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	近代の空間表現手法 I	ル・コルビュジェの空間表現とその展開を読み解く	教科書 pp. 84-85 及び pp. 142-143
3	近代の空間表現手法 II	ミース・ファン・デル・ローエの空間表現とその展開を読み解く	教科書 pp. 90-91 及び pp. 104-105
4	近代の解体と継承 I	構造表現主義の空間表現とその展開を読み解く	教科書 pp. 156-157 及び pp. 188-189
5	近代の解体と継承 II	曖昧性、マネエリスム、ポストモダニズムの空間表現とその展開を読み解く	教科書 pp. 164-165 及び pp. 182-183
6	近代の解体と継承 III	近代以降の前衛の建築に見る空間表現について考察する	教科書 pp. 140-141 及び pp. 186-187
7	近代の解体と継承 IV	批判的地域主義の建築に見る空間表現について考察する	教科書 pp. 160-161 及び pp. 184-185
8	中間まとめ	中間まとめとレポート・プレゼンテーション	レポート課題 (1) の提出。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと
9	日本の空間表現 I	横文彦、谷口吉生の建築について、その表現方法を読み解く	関連する建築家について、基本的事項や作品の特徴を調べておくこと
10	日本の空間表現 II	村野藤吾、吉田五十八の建築について、その表現方法を読み解く	関連する建築家について、基本的事項や作品の特徴を調べておくこと
11	日本の空間表現 III	アントニン・レーモンド、吉村順三の建築について、その表現方法を読み解く	関連する建築家について、基本的事項や作品の特徴を調べておくこと
12	空間の構成要素 I	光と開口部について、建築家の多様な表現方法を考察する	関連する内容について、自身が興味を持つ作品の特徴を調べておくこと
13	空間の構成要素 II	断面とプロポーシオンについて、建築家の多様な表現方法を考察する	関連する内容について、自身が興味を持つ作品の特徴を調べておくこと
14	空間の構成要素 III	素材とディテールについて、建築家の多様な表現方法を考察する	関連する内容について、自身が興味を持つ作品の特徴を調べておくこと
15	まとめ	全体のまとめとレポート・プレゼンテーション、今後の展望を考察する	レポート課題 (2) の提出。受講前にはそのプレゼンテーションの準備も進めておくこと

関連科目	西洋建築史、日本建築史、近代建築史、設計演習
------	------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2	テキスト建築意匠	平尾和洋、末包伸吾編著	学芸出版社
3			

評価方法 (基準)	レポート課題 (1) (40%)、レポート課題 (2) (40%)、各回の授業中に行うワークシート (20%) の合計点により評価する。なお、いずれかのレポートが期限内に提出されない場合、その時点以降の提出物は評価しない。
-----------	---

学生へのメッセージ	近代以降の建築家の空間表現手法やその思想を包括的に捉えることで、自身の今後の建築に対する向き合い方を考えるヒントになればと思っています。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
----------	-----------------

備考	事前学習、事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む。課題等はすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。授業時間外での質問等の対応は学内メールを利用する。 初回授業は 5 月中旬頃を予定しています。詳細については連休明けにメールで通知します。
----	---

科目名	建築企画	科目名 (英文)	Management of Architectural Projects
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 正人, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA4047a0		

授業概要・目的	まちづくりとは、市民・行政・企業など様々な主体が協働し、ハードとソフトの両面から、まちの活力向上や身近な居住環境の改善によって、まちの魅力を高めるための活動である。昨今では、SDG s の目標にもまちづくりが位置付けられている。本講義では、まちづくりに関する概論と様々な事例紹介により、都市が抱えている課題の解決に資する幅広い知見について学習する。授業担当者が有している建築やまちづくりの実務経験を活かして、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDG s-11)
到達目標	①都市が抱えている多岐にわたる課題の包括的な理解を深める。 ②まちづくりに関連する実践的な理論・手法・技能について習得する。 ③予習や発表等を通じて、考える力、ディベート能力、プレゼン能力を高める。
授業方法と留意点	・まちづくりに関する説明・解説と、課題に対するレポートの作成・提出・発表を組み合わせた形で授業を行う。 ・ディベートを取り入れた授業と、完成した施設見学会（現地集合）を各1回予定している。 ・資料は Teams で配信、課題の提出は Moodle を使用する。
科目学習の効果 (資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	まちづくりとは何か	まちづくりの定義や都市計画との違い、まちづくりを担う主体、昨今の社会情勢とまちづくりの課題との関連等について説明を行う	自分の住んでいる地域の「まちづくり」について、優れた事例や課題・問題点をまとめる。
2	SDG s ・環境共生とまちづくり	・居住実験住宅 (NEXT 21)、ZEH、ZEH-M、ZEB ・地球温暖化問題への対応、SDG s とまちづくり、レジリエンスについて ・ビジョンやコンセプトとは何か解説を行う	第2講の授業ノートを提出する
3	まちづくりビジョンと建築プロジェクトのコンセプトについて	・Creative City スペイン・ビルバオの事例をもとにまちづくりと地域活性化について考える	SDG s に配慮したまちづくり、または地域活性化をめざしたまちづくり事例を収集・分析する
4	人口減少時代のニュータウン開発、ニュータウン活性化	・彩都のまちづくり、千里ニュータウンにおける等価交換事業によるマンション建替え、団地の減築等	授業で説明するテーマに対してディベートの準備を行う
5	フローからストックを重視したまちづくり、スクラップ & ビルドからの脱却	・指定されたテーマに関連するディベートを行う ・リノベーションとコンバージョンの違いについて ・ロンドン・テートモダン美術館、NY ハイライン等の事例紹介を行う	新たなまちづくりの核となることをめざして、自分がリノベ・コンバージョンしたい建物のコンセプトを作成する
6	TOD (Transit Oriented Development) によるまちづくり	・TODとは何か、交通政策とまちづくり ・ロンドン・キングスクロス駅、ニューヨーク・WTC、オキュラス、マドリッド・アトーチャ駅等の事例紹介	先週の課題 (自分がリノベ・コンバージョンしたい建物) の改修概要を作成する
7	利用者参加型バリアフリー (BF) とユニバーサルデザイン (UD)	・利用者参加型のバリアフリー駅建設の取組み (阪急伊丹駅震災復旧事業) ・THE TOKYO TOILET、だれでもトイレ ・BF と UD の違い	第1講～第7講の復習を行う
8	中間テスト、まちづくり論の復習	・中間テストを実施する (60分) ・その後、出題された内容について解説を行う	次回テーマに関する予習を行う (事前配布資料あり)
9	QUINTBRIGE (社会実装型オープンイノベーション施設) の見学会	クイントブリッジ (京橋) は、企業・ベンチャー・自治体・大学等が学び・繋がりが共創することで、新規事業の共創や地域課題の解決をめざす施設	見学会の内容について感想をまとめる
10	歴史的価値の活用・再生、まちづくりと景観	・古い小学校を改修したホテルや地域活性化施設の事例 ・古い町家等のリノベーション、まちづくりと景観 ・歴史的建築物を保存・活用する3条その他条例	まちづくりに関連する様々な主体について、その具体的な役割をまとめる
11	鉄道会社によるまちづくり～鉄道敷設からターミナル開発まで～	・民間鉄道会社における沿線不動産開発について ・都市再生緊急整備地域での施設整備について	指定されたテーマに対してレポートを作成する
12	民間活力を導入したまちづくり/PPP・PFI事業	・公営住宅の建替え等のPPP・PFI事業 ・立体都市公園制度を利用したまちづくり ・Park-PFI、指定管理者制度について	各自が考える「まちづくりの失敗事例」について、情報収集しその内容をまとめる
13	失敗事例から学ぶこと/経済情勢の変化への対応	・新国立競技場 (旧計画)、震災復旧再開発事業での赤字等、いわゆる失敗プロジェクトからまちづくりのヒントを探す	次週のテーマについて、予習を行う
14	ポストコロナ時代のまちづくり	・建築学会 SDGs 宣言や大阪のまちづくりグランドデザイン等をもとに、これからの都市・建築・まちづくりのあり方やスマートシティについて考える	第1講、第9講～第14講の復習を行う

	15	期末テスト、総復習	<ul style="list-style-type: none"> ・期末テストを実施 (60分) ・出題された内容について解説 ・まちづくり関連の資料説明 	配布資料をもとに、授業で取り上げなかった内容について各自学習する
関連科目	建築マネジメント論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物(課題) 30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%			
学生への メッセージ	現在の社会情勢に興味を持ち、まちづくりや都市・建築のあるべき姿について自ら考え、積極的な議論を望む学生を求めます。			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間程度取り組む			

科目名	現代作品論	科目名 (英文)	Issues in Modern Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	三木 勲, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3045a.		

授業概要・目的	<p>建築を取り巻く状況は常に大きく変貌し続けている。戦後の日本においても、目まぐるしい社会変動に翻弄されるかのように建築は移り変わってきた。そのなかで建築家たちは、テクノロジーの発展、ライフスタイルの変化など、人びとの価値観を揺るがす「時代の意思」を鋭敏に読み取り、それを建築作品に反映させようと多くの試みをおこなってきた。そして、このような先達の試みは現在第一線で活躍している建築家たちに多くの示唆を与えている。</p> <p>この授業の目的は、現代建築の潮流のなかでターニングポイントとなった作品やプロジェクト案、コンペティション案を振り返ることで、現代における建築と建築家のあり方を学ぶことにある。</p> <p>授業担当者は、建築設計の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。</p> <p>(SDGs-11)</p>
---------	---

到達目標	<p>1. 建築を取り巻く状況を把握するために必要な基礎知識を習得すること</p> <p>2. 自らの視点で建築について評価し、それを言語化できるようになること</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>授業は講義形式で実施する。</p> <p>現代建築のターニングポイントとなったトピックスを取り上げ、その象徴となる建築作品について図面や写真を用いて解説する。また、建築作品について自分で考える能力を養うための問いを出し、授業後に回答を提出してもらう。授業で扱う各トピックスに関連する内容を参考書などで事前に調べてから受講すること。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	現代社会における建築や建築家の役割についての理解力を高めるとともに、建築や都市空間に対する批評力を培う。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	長屋改修の実践と建築ストックの活用	建築ストックの活用は、人口減少社会における重要なテーマのひとつである。現代の社会事情を押さえて、建築ストック活用の実情について把握する。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
2	風景としての建築	ランドスケープとして風景に溶け込む建築。場所の特性を活かした建築作品を検証し、建築における場所性のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
3	表層の建築表現	環境との関係性のなかで表層的な意匠を重視した建築が生み出された。このような建築作品を検証し、環境のなかでの建築のあり方について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
4	アートと建築	アートと建築は互いの影響を及ぼしあってきた。同時代的なアートと関連づけて建築を検証し、アートと建築の関係性について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
5	脱構築からプログラム論	1990年代にはプログラム論が建築界を席卷した。これらの理論に基づく建築作品を検証し、既成のプログラムを組み直すことの建築的意義について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
6	道標としての近代建築	近代建築の巨匠たちの建築作品を検証し、日本における近代建築の継承とその意味について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
7	伝統性と地域主義	戦後日本建築界を牽引した丹下健三。彼の作品を中心に、伝統性や地域主義がどのような形で近代建築に加味されていたのかを学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
8	中間レポートの作成と提出	あらかじめ出題された内容に関するレポートを作成し、提出する。	これまでの出題に対する回答や教科書を見直し、知識を整理しておくこと。
9	日本の住まいとモダンリビング	戦後日本で模索された小住宅。その革新性を清家清の作品を中心に検証し、現代住宅に多大な影響をもたらすモダンリビングという概念について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
10	未来都市のイメージ	1970年の日本万国博覧会。そこで実現したプロジェクトを手掛かりに、未来都市を提起するという可能性とその限界について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
11	建築の解体という手法	1970年代以降に花開くポスト・モダン建築を検証し、近代建築の枠を超える新しい試みとして実践された建築手法について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
12	野武士と称された建築家	1970年代後半に「平和な時代の野武士たち」と称された建築家を検証し、現代の日本建築界をリードする建築家たちの建築思想について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
13	建築表現におけるテクノロジーの系譜	1970年代後半から80年代前半にかけて流行したハイテク建築。この検証を通して、時代を越えて繰り返し出現するテクノロジーの建築表現について学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
14	リノベーションという方法	建築に新たな役割を与えて生まれ変わらせるリノベーションという手法。リノベーションによる建築作品を検証し、現代社会における建築のアプローチについて学ぶ。	トピックスに関連する建築家や時代背景について、教科書や参考書などを活用して基本的事項を受講前に調べておくこと。
15	まとめ	現代社会における建築デザインのあり	教科書およびこれまでの出題に対する回答を見直

			方について整理し、今後の建築の可能性と展望について検証する。	し、現代建築についての知識を整理しておくこと。
関連科目	西洋建築史、近代建築史、設計演習など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	カラー版 図説 建築の歴史	西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎 編著	学芸出版社
	2	建築用語図鑑 日本篇	中山繁信ほか	オーム社
	3	建築用語図鑑 西洋篇	杉本龍彦ほか	オーム社
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト 建築の20世紀	本田昌昭・末包伸吾 編著	学芸出版社
	2	世界の建築家 解剖図鑑	大井隆弘・市川紘司・吉本憲生・和田隆介	エクスナレッジ
	3	日本の建築家 解剖図鑑	二村悟	エクスナレッジ
評価方法 (基準)	授業への積極的な関与および質問への回答 (20%)、中間レポート (40%)、期末レポート (40%) によって総合的に評価する。			
学生への メッセージ	建築のエッセンスを感じてください。建築家たちの鋭敏な感性は、今という時代を読み解くうえでのヒントになります。			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。			

科目名	建築関連法規	科目名 (英文)	Architectural Regulations and Policy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	松田 浩三, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDA4049a0		

授業概要・目的	<p>～なぜ建築関連法規を学ぶのか～</p> <p>①建築基準法を遵守するだけでは建物を建築することはできない。基準法以外の法令にも適合させることにより初めて建築することができる。建築の実務には、建築関連法規の知識が不可欠である。</p> <p>②それぞれの法律が制定、改正された背景を知ることにより、建築を取り巻く社会情勢の変化や業界の実情を理解することができる。</p> <p>③大学卒業後に受験が可能となる「一級建築士」試験の「学科Ⅲ (法規)」では、30問のうち10問程度が関連法規から出題される。在学中に関連法規の知識を習得すれば、受験に有利となる。</p>
到達目標	<p>○建築の実務に携わる上で必要となる関連法規の知識を習得する。</p> <p>○実社会に出て体験する「建築関連業界」の最新の状況を理解する。</p> <p>○一級建築士などの各種試験で必要となる知識を習得する。</p>
授業方法と留意点	<p>○講師が準備する資料を用いて、法律が制定された背景や法律の概要の説明を行うとともに、それぞれの法律に関連した最新のトピックスについても情報提供する。</p> <p>○授業で用いる資料を事前にWebFolderに掲載するので、予習をして授業に臨むこと。</p> <p>○毎回の授業終了後に、理解度を確認するための課題 (小テスト+レポート) の提出を求める。提出方法等は授業開始までにTeamsに掲載。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○建築の実社会に出て経験することになる建築関連業界の実情をいち早く知ることにより、社会人になるための心構えを養う。</p> <p>○一級建築士などの資格取得を目指す学生に対して、受験に向けた動機付けの機会を提供する。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方および注意点/なぜ建築関連法規を学ぶのか/建設業界の概要など/建築士試験について	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
2	建設・建築業界の現状	建設・建築業界 (ゼネコン、ハウスメーカー、不動産業、建築設計) の動向/業界の構図/業界の抱える課題/建築士試験対策 (学科Ⅲ-法規)	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
3	建設業法	建設業法概要 (許可制度、契約締結の原則、下請保護、施工体制の確保、技術者の配置など) /建設リサイクル法概要	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
4	建築士法	建築士資格について/建築士法概要 (設計監理資格、事務所登録、懲戒処分、新たな建築士資格など)	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
5	都市計画法	都市計画法制定の背景/都市計画法概要 (都市計画法制度の構成、区域区分・地域地区、地区計画、開発許可制度、53条許可など)	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
6	耐震改修促進法	最近の大規模地震/建築基準法の耐震基準/耐震改修促進法概要/耐震改修工事の例/南海トラフ巨大地震について	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
7	バリアフリー法	日本の高齢化の状況/障害者の現状/バリアフリー法概要/地方公共団体の条例/ユニバーサルデザインなど	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
8	省エネルギー関係法	近年の気象災害/地球温暖化対策/カーボンニュートラル 2050/建築物省エネ法概要/エコまち法概要/ZEB・ZEHについて	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
9	まちづくり関連法	日本の人口動向/中心市街地の衰退/まちづくり三法概要/消滅可能性都市/地方創生の取組みおよび事例	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
10	景観関連法 (景観行政)	景観法制定の背景/景観論争/景観法概要 (景観行政団体、景観計画、景観協定など) /屋外広告物法概要および屋外広告規制の事例	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
11	宅地・土地災害関連法	最近の土砂災害/気象警報について/土砂災害防止法概要/急傾斜地法概要/宅地造成及び特定盛土等規制法概要	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
12	消防法	最近の建物火災・市街地大火/消防法概要 (防火対象物の区分、建築同意、消防用設備、危険物施設、防火管理制度、査察制度など) /近年の火災発生件数・発生原因など	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
13	住生活基本法 (住宅政策)	戦後の住宅政策の変遷/住宅建設五箇年計画/住生活基本法概要 (住生活基本計画) /住宅対策に関する最近の話題	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
14	ストック対策関係法	フロー社会からストック社会へ/住宅品質確保法概要 (住宅性能表示、紛争処理、瑕疵担保特例) /長期優良住宅法概要/空き家対策概要/ストック対策に関する話題	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出
15	まとめ・建築士試験対策	重要な法律のポイント再整理/建築士試験受験の心得/令和6年建築士試験の結果/学科Ⅲ (法規) の試験問題解説	事前: 予習 事後: 課題 (小テスト+レポート) 提出

関連科目 建築基準法を中心とした『建築法規』

	社会経済の動きを知る『自然科学関連科目』、『社会科学関連科目』			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築基準法関係法令集 令和6年版	建築資料研究社ほか	建築資料研究社
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験：60%、毎回の課題（小テスト+レポート）：40%の割合で評価			
学生への メッセージ	建築関連法規は建築物を建築するための絶対条件であり、建築の実務では正確な知識が求められる。多岐にわたる法律を一読して理解するのは難しいが、その根本を知れば常識的なものも含まれている。常識の延長から事実にとどり着く道筋を、自らの知識として習得して欲しい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業時間外での質問、問合せは学内メールで受け付ける 事前・事後の学習に毎回1.5時間以上かけること			

科目名	緑地計画	科目名 (英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	吉永 規夫, 小林 健治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA4050a0		

授業概要・目的	緑地計画 (造園・ランドスケープ・自然等) に関する基礎的事項を理解させるとともに、緑や自然、まちづくりへの感受性を磨く手がかりを論じる。具体的なみどりのまちづくりや建築物事例を関西を中心に紹介する。 授業担当者は、建築設計の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 (SDG s-11)
到達目標	人の生活環境や地域の自然環境に関心を持ち必要な基礎知識を身につけることができる。
授業方法と留意点	資料に基づいた具体的な造園・ランドスケープ事例を中心とした講義を行う。講義以外に、見学(緑化事例建築物)や調査等も行う。身近な緑や自然に関心を深めてもらうため、毎回、講義テーマに基づいたミニレポート・課題を課す。 初回は対面授業であり、一部オンライン授業や対面授業もあり。授業方法は受講生に別途通知する。
科目学習の効果 (資格)	1・2級造園施工管理技師 (国土交通省)、環境再生医 (自然環境復元協会) 等の資格取得の参考となります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	緑地計画概論	造園・ランドスケープの対象領域を網羅的に概説。個人庭園から都市公園・自然公園、また街路樹などの都市緑化、里山など森林の保全、ビオトープなど自然環境再生、さらにはみどりのコミュニティデザインやマネジメント等。	緑地・造園・ランドスケープについて考えたうえで、知りたい対象を報告。
2	都市の自然観察	居住地やキャンパスなど身近な自然を観察し、季節感や自然の多様性を感じる力を養う。	季節を感じる事象の写真を持参。
3	植物と植栽	一般の植物の分類、形態、生態等。造園植栽の種類等。	自宅等に植えたい植物とその理由を報告。
4	里山・里地の保全	森林・林業の現状と課題、茅葺民家の保全、農山村・里山の保全活動、ビオトープ (生物生息空間) 等。	身近な自然樹木の現状調査を報告。
5	ランドスケープの歴史	近代ランドスケープの歴史とランドスケープアーキテクト等。	ランドスケープの歴史を調査し報告。
6	わが国の庭園の歴史	日本庭園、庭園材料、近代造園等。	好きな日本庭園とその理由を報告。
7	西欧の庭園の歴史	フランス整形形式庭園、イギリス風景式庭園等。	好きな洋風庭園とその理由を報告。
8	都市公園	都市公園の種類 (国営・総合・地区・近隣・街区・都市緑地等)、公園配置計画、緑の基本計画、都市公園法等。	好きな都市公園とその理由を報告。
9	自然公園	自然公園の種類 (国立・国定・県立)、自然環境保全法、自然公園法等。	あなたが体験した国立公園での行動事例報告。
10	公共空間とみどり	公共空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	公共空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
11	居住空間とみどり	居住空間に計画されたランドスケープ事例の紹介。	居住空間に計画されたランドスケープ事例を報告。
12	みどりのまちづくり	国内外のみどりのまちづくり事例の紹介。	身近なみどりのまちづくりの事例を報告。
13	ケーススタディ (1)	寝屋川市の緑地計画や都市公園等。	寝屋川市の緑地、都市公園の事例を報告。
14	ケーススタディ (2)	大阪市の緑地計画や都市公園等。	大阪市の緑地、都市公園の事例を報告。
15	緑地計画の課題と展望	緑地計画の現状と課題と先駆的活動等。	みどりと建築の課題について考え報告。

関連科目 都市・地域計画等、特に卒業研究・設計の導入とする。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 期末試験 (7割)、レポート課題 (3割) の合計100点満点の60点以上を合格とする。

学生へのメッセージ 講義のなかでは、造園・ランドスケープの基礎的理解とともに、身近なみどりや地域の自然へ関心を深めるためにグループ討議・発表を行い、建築や街の中のみどりの役割について一緒に考えていきたいと思います。

担当者の研究室等 建築学科共通準備室

備考 事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。
課題等はすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。

科目名	構造力学・構造基礎	科目名 (英文)	Introduction to Structural Mechanics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子・奥田 泰雄
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA1046a0		

授業概要・目的	建築の空間を自然災害から守り、安全に支えるために必要な要件の概説を行い、構造力学の基礎を学ぶ。また、特に構造力学修得に必要なとなる数学および物理学に対して、高校課程までの学習内容の補足を行うとともに、今後学習する構造系科目との関連付けを学ぶ。授業担当者は、建築構造設計の実務経験を有し、一級建築士資格を保有している。その実務経験を生かし、就職後の業務イメージがつかような授業展開を行う。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	1) 建築における構造の役割と重要性の理解 2) 静定骨組構造の反力を求める、3) 基本的な静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描く
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を行うため、遅刻・欠席をしないこと。やむを得ず、欠席をした場合には配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	構造力学 I や構造力学 II、鉄筋コンクリート構造、鋼構造など、構造力学系科目を学ぶ基礎となる。一級・二級建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 建築構造力学とは?	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、建築士試験と構造力学、安全を支える構造力学	(事前) 建築構造力学とはどのような学問であるかを調べる (事後) 配布資料等授業内容を復習する
2	構造力学に必要な基礎知識	三角比、三角関数、微分・積分、方程式とグラフ、質量と重量等について理解度を確認し、簡単な構造力学の演習を行う。	(事前) 高校課程の復習を行う、配布資料を読む (事後) 配布資料等授業内容を復習する
3	建物に作用する荷重 (1)	固定荷重・積載荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
4	建物に作用する荷重 (2)	雪荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
5	建物に作用する荷重 (3)	風荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
6	建物に作用する荷重 (4)	地震荷重とそのモデル化について学ぶ	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
7	静力学の基礎 (1)	ベクトル、力、合力と分力、力のモーメント	(事前) 高校課程の復習、配布資料を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
8	静力学の基礎 (2)	示力図、連力図	(事前) 高校課程の復習、配布資料を読む (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。
9	梁から学ぶ構造力学 (1)	外力・反力・応力について、支点と接点について	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
10	梁から学ぶ構造力学 (2)	反力算定 (1) 単純梁・片持梁	(事前) 配布資料を読む (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
11	梁から学ぶ構造力学 (3)	反力算定 (2) 静定ラーメン	(事前) 配布資料を読む (事後) すべての演習問題を解き直し内容の理解を深める。
12	静定梁の断面力 (1)	断面力・応力とは?	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定梁の断面力 (2)	単純梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定梁の断面力 (3)	片持梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定梁の断面力 (4)	断面力図の意味と符号の確認=力の流れを意識する=	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する

関連科目	専門関連科目 (微積分、線形代数、力学、物理等)、理工学基礎実験、構造力学 I、構造力学 II、その他建築構造関係の全科目
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説 構造力学入門	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
2			
3			

評価方法 (基準)	3つの課題 (30%) と期末テスト (70%) により判断する。
-----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	構造力学系科目の修得には、たゆまぬ努力が必要である。本講義は、これら構造力学系科目の導入に位置づけられており、必要に応じて高校課程までで学習した数学や物理等の補足も行う。積極的に取り組み、「理解できた喜び」や「解ける喜び」をいち早く感じる事が構造力学系科目の修得には近道である。
-----------	---

担当者の	8号館3階 池内教授室
------	-------------

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方については、1回目授業時に説明する。 ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。 ・レポート、小テストはすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。 ・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。また、教育支援センターでも構造力学の質問

科目名	構造力学実践	科目名 (英文)	Structural Mechanics for Design Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池内 淳子・奥田 泰雄・柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2054a0		

授業概要・目的	建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を復習し、実践力を養う。建築構造分野で用いる用語の定義や荷重・外力について二級建築士および一級建築士問題を用いて確かめる。また、静定梁の力のつり合い、断面力・応力、棒材の伸縮変形、曲げ変形について実践的な解法を学ぶ。さらに、建築骨組みに用いられる木材、セメント、鋼材等について、理解を深める。授業担当者は、建築構造の実務経験を有し、一級建築士資格を保有している。その実務経験を生かし、就職後の業務イメージがつくような授業展開を行う。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	1) 構造分野で用いられる用語を理解する、2) 荷重・外力・力のつり合い・断面力・応力・変形に関する実践的解法を理解し、基礎的な演習問題を回答できる、3) 建築構造物の各種材料について理解する。
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。頻繁に課される演習問題を次週までに必ず解答してくる。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・構造力学で用いる用語	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、構造力学で用いる用語	(事前) 構造力学Ⅰ・構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	荷重・外力	建物に作用する荷重と外力	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	力のつり合い (1)	梁の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	力のつり合い (2)	ラーメン構造の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	力のつり合い (3)	静定梁の断面力計算と断面力図まとめ	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	断面の性質	断面二次モーメントの算出	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	静定トラス	トラス構造物の実践的解法	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	断面に作用する応力 (1)	曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と2方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 構造力学Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
10	梁の変形 (1)	梁構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	梁の変形 (2)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	梁の変形 (3)	ラーメン構造のたわみ・たわみ角	(事前) 構造力学Ⅱで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	セメント・コンクリート	フレッシュコンクリートの性質と特徴	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	セメント・コンクリート	硬化コンクリートの性質と強度、特徴	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	鋼材・振り返り	鋼材の性質と強度・テスト	(事前) 建築材料Ⅰで学んだ内容の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する

関連科目 構造力学・構造基礎、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ他、 建築構造関係の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「図説 構造力学入門」	豊田正敏/島村和夫	東洋書店
2	「建築構造力学Ⅰ図説・演習」	中村恒善	丸善	
3	「鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計」	永坂具也・柳沢学	彰国社	

評価方法 (基準) 3回の講義内テスト (20%×3回) と期末試験 (40%) の成績を合計して評価する。

学生へのメッセージ 一級建築士・二級建築士資格取得のために構成した科目です。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組んでください。単に数式や計算手法を学ぶだけでなく、建築骨組みの力の流れや変形の様子などを理解できるよう心がけること。

担当者の研究室等 8号館3階・・・池内教授室、奥田教授室、柳沢教授室

備考

- 事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること
- 事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなす。特に授業で解答した問題は必ず解きなすこと。
- レポート、小テストはすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。

科目名	建築施工 I	科目名 (英文)	Construction Method of Buildings I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	尾崎 昌彦, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3056a0		

授業概要・目的	建築の主な構造体であるRC造、SRC造、S造で構成されている大型事務所ビルをモデルとしたイラストを多用した教科書を使用して、着工から竣工までの工事進捗に沿った工事の流れや建築用語、工法、工事管理ポイント等を学びます。工事の流れに合わせて経験談や失敗談を交えたり、実際の工事写真等を用いて実務内容がイメージしやすいように進めます。授業担当者は、建築施工の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	教科書のイラストとその内容説明また適時示す写真や関連資料により、各工事の概要やイメージをつかみ、建築施工とは、施工管理とは、どのようなもので何をするのかを学ぶことにより、建築施工管理技術者としての基礎知識を得ることを到達目標とします。
授業方法と留意点	授業の中で課題と小テストを実施します。いずれも下記「評価方法」とおおり、評価の対象とします。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士や一級施工管理技士の資格取得の学科試験「施工部門」に関係します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 授業内容について、建築生産の流れ	授業内容、進め方、評価基準等に関して説明する。 概要として建築生産の流れを説明する。	シラバスを良く読み、教科書全体に目を通しておくこと
2	建築生産	工事に携わる人と組織体制、役割、建築施工の工事管理について説明する。	教科書 p14～p25, p160～p164
3	準備工事	着工までの調査、現場事務所の設置等、仮設工事を含めた準備工事を説明する。 課題①	教科書 p28～p37, p165～p167
4	地業・土工事	山留め・杭・土工事について説明する。 課題①の解説	教科書 p38～p53, p168～p171
5	鉄筋コンクリート工事 1	RC 躯体工事の流れと型枠工事について説明する。 1～4回までの小テスト①	教科書 p54～p61, p172～p174
6	鉄筋コンクリート工事 2	RC 躯体工事の流れと鉄筋工事、コンクリート工事について説明する。 小テスト①の解説	教科書 p62～p71, p174～p178
7	鉄骨工事	地上躯体部分の鉄骨造における鉄骨製作から現場作業について説明する。 課題②	教科書 p72～p83, p179～p180
8	工程表作成演習	躯体サイクル工程の作成演習と発表を行う。 課題②の解説	教科書 p 54～ p 71, p 172～ p 178
9	防水、カーテンウォール工事	防水、シール工事、外装カーテンウォール工事について説明する。 5～8回までの小テスト②	教科書 p84～p91, p181～p184
10	石・左官・タイル工事	各工事の概要と管理ポイントについて説明する。 小テスト②の解説	教科書 p92～p99, p184～p187
11	建具・ガラス・塗装・軽量鉄骨下地・内装・ALC	各工事の概要と管理ポイントについて説明する。 課題③	教科書 p100～p113, p187～p190
12	電気・空調・給排水設備工事	各設備工事の概要と管理ポイントについて説明する。 課題③の解説	教科書 p114～p123
13	昇降機・機械駐車設備工事・防災・建築と設備	各設備工事の概要と管理ポイント、建築と設備のかかわりについて説明する。 9～13回までの小テスト③	教科書 p124～p131
14	外構・その他工事・竣工	外構工事の概要、検査・引渡しまでの業務について説明する。 小テスト③の解説	教科書 p132～p139
15	全体 まとめ	全体的なまとめを行う。	教科書全般

関連科目 建築材料系、その他構造関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	施工がわかるイラスト建築生産入門	日本建設業連合会編 イラスト 川崎一雄
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 小テスト30%、課題30%、期末テスト40%
 学生への 建築施工は建物を造る技術で、皆さんも日々建設の現場を目にされていると思いますが、業界の特殊用語が多く、言葉や文字だけではなかなかい

メッセージ	メッセージがわかりにくいと思います。今回イラストを多用した教科書を採用しますので、事前に目を通しわからないことや特に興味を持ったことなどを整理しておいて下さい。講義ではできる限り失敗談など経験談をまじえ、建築施工の面白さをお伝えしたいと思いますので、興味を持って授業に臨んでください。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室（柳沢教授室）
備考	授業の進め方については、1回目の授業時に説明します。 事前の学習は毎回0.5時間以上かけるようにしてください。 事後の学習は毎回1時間以上かけるようにしてください。 課題等はすべて返却します。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要です。

科目名	鉄筋コンクリート構造 I	科目名 (英文)	Reinforced Concrete Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2057a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造です。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられています。SDGs -11 に該当する科目です。
到達目標	[到達目標] 以下の項目の理解。 1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識 2)構造形式の理解 3)許容応力度設計法の基礎知識 4)構造材料と許容応力度の基礎知識 5)梁および柱の曲げ設計の基礎知識 6)梁および柱のせん断設計の基礎知識 7)梁および柱の実用設計ができるようになります。
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。多くの授業回では反転授業 (Web 事前講義・Web 小テスト) とし授業を受けるに当たり事前の学習をしてください。教科書に出てくる例題や演習の他に用語をわかりやすく説明するポスターをグループで作成し、発表する演習もあります。能動的学習用に Web による全小テストも用意しています。事前の学習ではノートをとってください。事前・事後学習、授業中の積極的 (能動的) な参加を期待します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係します。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業内容 受講注意事項 評価方法 鉄筋コンクリート構造概要	履修の心構え 鉄筋コンクリートの意義 鉄筋コンクリートの歴史 鉄筋コンクリート構造の利点と欠点	(事前) シラバス、教科書 p.8~12 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
2	鉄筋によるコンクリートの補強 鉄筋とコンクリートの協働 作用鉄筋に対するかぶり厚さ	鉄筋とコンクリートの付着力などかぶり厚さ、鉄筋間隔・あき	(事前) 教科書 p.8~14 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
3	材料の力学的特性 曲げに対する抵抗	部材の受ける力と抵抗 コンクリート、鉄筋の材料特性、定数 曲げひび割れモーメント 曲げ終局耐力	(事前) 教科書 p.16~29 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
4	設計法と荷重・外力	許容応力度設計法、地震力	(事前) 教科書 p.60~78 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
5	許容応力度設計法に基づく 部材の設計 材料の選定と許容応力度	コンクリートと鉄筋の選定、許容応力度	(事前) 教科書 p.80~86 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
6	中間試験 1	第 1 回から第 5 回までの内容の確認	(事前) 第 1 回~5 回を復習してこ こと (事後) 試験内容を再度復習すること
7	曲げモーメントに対する設計 軸方向力に対する抵抗	基本仮定、軸力のつり合い式、ヤング係 数比、許容軸力の算定	(事前) 教科書 p.86~89 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
8	曲げモーメントに対する抵抗	長方形断面梁の許容曲げモーメント	(事前) 教科書 p.89~93 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
9	梁の曲げ設計 (1)	梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計 手順) 断面算定	(事前) 教科書 p.93~99 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
10	梁の曲げ設計 (2)	梁の実用設計、演習	(事前) 教科書 p.99~101 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
11	柱の曲げ設計 (1)	断面内の力のつり合い 中立軸位置 (断 面内、断面外) 断面算定 存在応力と 許容応力度	(事前) 教科書 p.109~ を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
12	柱の曲げ設計 (2)	柱の実用設計 構造規定 設計法 (設計 手順) 演習	(事前) 教科書 p.113~ を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
13	中間試験 2	第 7 回から第 12 回までの内容の確認	(事前) 第 7 回~12 回を復習してこ こと (事後) 試験内容を再度復習すること
14	せん断設計概説 梁のせん断設計 (1)	せん断設計の必要性、せん断設計式の説 明など 梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計 手順) 演習: 設計せん断力	(事前) 教科書 p.29~37 を熟読してこ こと 教科書 p.101~108 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
15	梁のせん断設計 (2)	梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計 手順) 演習: 許容せん断力	(事前) 教科書 p.101~108 を熟読してこ こと。 特に例題 4.2-5 を中心に学習してこ こと。 (事後) 授業内容を復習する

関連科目	建築材料, 構造実験 建築ゼミⅢ, 卒業研究 (構造系), 建築施工
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説 2018	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

評価方法	Web による事前講義視聴・Web 小テスト (25%) と、演習・レポートなど (25%)、中間試験 1,2 (25%)、期末試験 (25%) の割合で評
------	--

(基準)	価します。60%以上を合格とします。動画視聴後その内容を2ページにまとめたノートを提出してもらいその出来栄を評価して事前講義に加えます。
学生へのメッセージ	現在、身の回りには多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることが建築の意匠・計画にも重要です。構造系希望者はもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦めます。積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
備考	Web 動画講義、Web 小テスト、Web 全小テスト、教科書やノート・演習の見直しなどには1回あたり1.5時間以上をかける必要があります。授業課題を解き直したり、さらに興味を発展させて情報収集などを行うことが重要です。

科目名	建築材料Ⅱ	科目名 (英文)	Building Materials II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	伊熊 昌治
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2058a0		

授業概要・目的	建築物の構造材としての木材とその他の仕上材を、使用する部位による要求性能の特徴から学び、建物の設計、積算、施工等を縦断した基礎的知識が得られる。 設計や積算の実務で行った材料選定の理由やポイントを具体的に紹介していく。 授業担当者は、建築設計の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。(SDG s-11)
到達目標	1) 木構造の構成を理解し、部位ごとの名称を知ることができる。(授業内課題) 2) 建築物の構成部位ごとの要求性能から、材料を選択の理由を考察することができる。(中間レポート) 3) 図面から、1つの建築物を構成する材料の数量や価格を含めた概要を読み取ることができる。(授業内課題)
授業方法及び留意点	教科書及び配布資料を中心とした講義形式とし、併せて配布図面を利用して具体的な材料の種類や名称、数量、使い方を読みとる。 数量計算や図面の読み取りを授業内でも行うので、三角スケールと計算機、色鉛筆(またはサインペン等図面に色分けができるもの)を用意すること。 授業内課題は必ず次回授業時までに完成し、フィードバックを受けること。
科目学習の効果(資格)	建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 建築積算の概要 建物を構成する材料の種類1	授業の目的と概要、評価基準と注意事項の確認。 基礎構成する材料と数量の算定	予習: 建築材料Ⅰの内容について復習しておくこと。(0.5時間) 復習: RC構造体の数量の算定を完了する。(1時間)
2	建物を構成する材料の種類2	木造の部材と名称	予習: 課題建物の概要をまとめる。(0.5時間) 復習: 住宅事例の構造材をリストアップし、部位及び樹種、形状を確認する。(1時間)
3	木構造1: 木構造の構成	木構造の部材の特性 事例図面から構造部材を分類し、その数量と価格を確認する。	予習: 木構造の構造材の名称を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
4	木構造2: 下地材の構成	下地材の名称と特性 事例図面から下地材を分類し、その数量と価格を確認する。	予習: 木構造の下地材の名称を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
5	木構造3: 木構造に関するまとめ	木構造の構成材に関わる価格のまとめ	予習: 住宅事例の材料についてのレポート作成(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
6	建築物の内外装材とは	住宅で使用される材料と特徴 構造材と仕上げ材	予習: 住宅事例の材料についてのレポート作成(0.5時間) 復習: 事例の仕上げ材を確認する。(1時間)
7	外装材1: 屋根材料(防水材)	屋根の要求性能と使用材料	予習: 事例の屋根材の名称と数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
8	外装材2: 外壁材料	外壁の要求性能と使用材料	予習: 事例の外装材の名称と数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
9	外装材3: 開口部と接合材料(外部の開口部)	外部開口の要求性能と種類	予習: 事例の外部開口の数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
10	内装材1: 床材料	床の要求性能と使用材料	予習: 事例の床材の名称と数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
11	内装材2: 内壁・天井材	内壁・天井の要求性能と使用材料	予習: 事例の壁材・天井材の名称と数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(2時間)
12	内装材3: 開口部と接合材料(内部の開口部)	内部建具の要求性能と種類	予習: 事例の内部建具の数量を確認する。(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
13	内外装材に関するまとめ	非住宅事例から確認した構造材・仕上材の特性。	予習: 非住宅事例の材料についてのレポート(0.5時間) 復習: 建築工事に関わる項目作成(1時間)
14	建築材料に関するまとめ1(建物全体を構成するその他の材料)	住宅と非住宅の材料の違い 建物に関わるその他の材料について	予習: 建築工事に関わる項目を価格としてまとめる(0.5時間) 復習: 授業課題を完了させる。(1時間)
15	建築材料に関するまとめ2(建物と材料の寿命)	建物の廃棄までの流れと建材のリサイクルについて	予習: 建築物に関わる価格をまとめる(0.5時間) 復習: 建築物のライフサイクルにおけるコストや環境負荷についてまとめる(1時間)

関連科目 設計演習関連科目、建築材料、鉄筋コンクリート構造、鉄筋コンクリート構造Ⅱ、鋼構造Ⅰ、鋼構造Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料 第四版	橋高義典、杉山央	市ヶ谷出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初学者の建築講座 建築材料	橋高義典・小山明男・中村成春	市ヶ谷出版社
2	構造用教材	日本建築学会	丸善株式会社	
3	積算ポケット手帳 建築編	建築資料研究社	建築資料研究社	

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業内課題 50%、中間レポート 20%、授業への積極的関与 30% (授業時の課題への期限内での取組) の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	建築物は多くの材料で成り立っています。建築材料への理解は、建物の設計、積算、施工等を具体的な確認につながると共に、材料の開発や選択する際の評価基準にもつながります。 授業では木造建築物を主な事例として、設計や環境、構造、建築基準法といった様々なテーマを材料を通して理解することを目指しています。建築材料 I の学習内容も含むので、よく理解しておいて下さい。
担当者の 研究室等	8号館 3階 伊熊教授室
備考	授業内課題が次の回に提出できるように、事前事後学習にて授業内容を理解しておくこと。 事前事後の学習に毎回 1.5 時間以上かけること。 質問や相談は授業時間内または学内メールとする。 課題等はすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。

科目名	建築施工Ⅱ	科目名(英文)	Construction Method of Buildings II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	池内 淳子
ディプロマポリシー(DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3059a0		

授業概要・目的	「建築施工Ⅰ」で学んだ事をベースに、工事に沿った施工管理業務のいくつかを、授業の中で実際に手を動かしてもらいながら、教科書の内容を更に掘り下げて学ぶ事によって、建築施工の面白さと興味を深める(SDGs-11)。
到達目標	施工管理技術者として必要となる実務的な演習を行い、施工の考え方を会得すること、また、施工管理技術者の業務を理解することを目標とする
授業方法と留意点	対面授業とオンデマンド授業とする。初回は対面授業とし、その後は初回授業で提示する。オンデマンド授業では Moodle にある動画を視聴し、課題を解く。
科目学習の効果(資格)	一級建築士や一級施工管理技士の資格取得の学科試験「施工部門」に関係する

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	準備工事、仮設工事	工事着工までの準備工事、共通仮設工事、直接仮設工事について説明する。仮設足場等の計画演習を行う。	教科書 P28～37、165～167
3	杭工事、山留工事、土工事	杭の種類、工法、施工計画、山留めと支保工、土工事の計画、施工管理を説明する。	教科書 P38～49、P50～53、P168～169、P171
4	躯体工事	R C躯体工事、鉄骨工事の施工計画、検査の内容など施工管理のポイントを説明する。	教科書 P54～83、P171～180
5	工事記録ビデオ	着工から竣工までのビデオをみて工事の流れと管理ポイントを学ぶ 対面授業の予定。 次回以降で使用する設計図抜粋を配布する。	ビデオを見て感じた事、学んだ事を見つけ、質問を入れたレポートを作成する事。
6	鉄筋コンクリート工事の流れ 型枠工事	鉄筋コンクリートの躯体工事の流れ、型枠工事の計画、施工管理を説明する。型枠支保工についての計画演習を行う。	教科書 P56～61、172～173
7	躯体図(コンクリート寸法図)Ⅰ	設計図(意匠、構造)に基づいて、躯体図の見方を説明し、いくつか断面を作図することにより理解を深める。	講義での躯体図見方の復習を行うこと
8	躯体図(コンクリート寸法図)Ⅱ	躯体図の作図手順と表現の仕方等を理解する。	演習での作図復習を行うこと
9	鉄筋工事、コンクリート工事	鉄筋工事、コンクリート工事の計画、施工管理を説明し、コンクリートの数量積算演習を行う。	教科書 62～71、174～178
10	ビデオレポートの分析と総括	工事記録ビデオを見たのちに提出されたレポートを集計、分析し質疑応答を行う。 対面授業の予定。	レポートに記載した以外にも質問を考えておく。
11	外装タイル割り	外装タイル割付けについて解説、簡単なタイル割付け図の作図を行う。	割付の考え方を復習し理解を深めること
12	設計図の見かた	事前配布した意匠、構造の設計図を見て、表現の仕方や、書かれている内容の解説と見方の演習を行う。	渡された設計図を再度みて、わからない点などを探してみる復習をすること
13	設備工事	電気・空調・給排水・昇降機・機械駐車・防災設備工事について、方式や機器などを説明、建築工事との関りについて理解する。	教科書 P114～131
14	各工事のポイント	教科書全体を通して、各工事における品質、原価等の管理ポイントをおさらいする。	教科書全般
15	まとめとテスト	後期授業のまとめとしてテストを実施する。終わって回答説明の予定。登校の上実施の予定	今までの総復習をしておくこと

関連科目	建築施工Ⅰ 建築材料Ⅰ・Ⅱ その他構造関連科目
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	施工がわかるイラスト建築生産入門	日本建設業連合会編 イラスト 川崎一雄	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の授業で提示される課題に対するレポートの出来栄え合計が 40%、中間テスト（もしくは代わりの課題）が 30%、期末テスト 30% で評価します。
学生への メッセージ	物をつくることにたずさわる醍醐味は、建物が完成した時のみならず、それぞれの過程で自分がどのように関わったかで、その面白さや喜びが違ってきます。 物をつくる過程や様子が判るように、具体的な例や体験を交え、時には実際に手を動かしてもらい、ものづくりの面白さや興味が湧く講義にしたいと思っています。
担当者の 研究室等	8 号館 3 階 池内教授室
備考	始めて知る事が多いと思われるので、事前事後の学習は 1 回あたり 1.5 時間くらいかけて理解を深めて下さい。 課題等はすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。

科目名	鉄筋コンクリート構造Ⅱ	科目名 (英文)	Reinforced Concrete Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	栢尾 実, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3060a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築物を表現する強・用・美のうち、強・用に大きく関わる構造計画を行う上で、建物の安全性を確保する構造設計の内容を理解する必要がある。本講義では、構造設計を行う上で必要不可欠な基本的考え方と方法について学ぶ。 【目的】鉄骨造 (S 造) および鉄筋コンクリート造 (RC 造) 建物を中心に構造設計に関する以下の項目について理解し、具体的な設計能力を身につける。(1)構造設計概要・手順、(2) S 造、RC 造各種部材の設計法、(3) S 造建物の部材接合部の設計法、(4) S 造および RC 造の利点を活かした構造計画 (SDG s-11)
到達目標	[到達目標] 建築物を設計する上で、構造計画は空間および安全性に関わる重要な過程である。さらに、構造計画を立案する上で構造設計の内容を理解しておく必要がある。構造設計の基本である構造設計の手順、部材断面を決定する手法を理解し、S 造および RC 造の簡易な部材断面を設計できる。
授業方法と留意点	配布資料および事例を用いて講義形式で授業を行い、その都度内容に沿った演習問題を課す。遅刻・欠席をしないこと。やむを得ず、欠席をした場合には配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	構造設計者、施工管理技術者を目指す者にとって必須の教科である。また、一級建築士および二級建築士資格取得のためには有益な教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、構造計画と構造設計概要	構造計画、構造設計の目的・意義および流れに関する講義と演習	(事前) 構造設計の流れを調べる (事後) 演習課題の復習
2	荷重、許容応力度設計	荷重、鉛直荷重および中小地震に対する設計法に関する講義と演習	(事前) 第 1 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
3	2 次設計、保有水平耐力	大地震に対して人命を守る 2 次設計に関する講義と演習	(事前) 第 2 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
4	S 造部材の設計法 1 (小梁、大梁の設計)	曲げとせん断を受ける部材 (小梁・大梁) 断面を決定する設計手法 (曲げ、せん断の許容応力度設計) の講義と演習	(事前) 第 3 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
5	S 造の設計法 2 (柱の設計)	軸力・曲げ・せん断を受ける部材 (柱) 断面を決定する設計手法 (曲げ、せん断設計) の講義と演習	(事前) 第 4 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
6	高力ボルト接合	S 造部材を接合する高力ボルト接合耐力算定および破断防止手法に関する講義と演習	(事前) 第 5 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
7	溶接接合	S 造部材を接合する溶接接合の接合耐力および必要溶接長等の算定法に関する講義と演習	(事前) 第 6 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
8	S 造建物の靱性設計法	S 造建物の靱性を向上するための設計手法に関する講義と演習	(事前) 第 7 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
9	S 造建物の構造計画	S 造の利点を活かす構造計画	(事前) ここまでの範囲について演習課題を含めてよく復習すること (事後) 授業での構造計画の復習
10	RC 造部材の設計法 1 (柱梁の設計 1)	柱、梁の設計に関する講義と演習 1 長期短期の曲げモーメントに対する講義	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
11	RC 造部材の設計法 2 (柱梁の設計 2・柱梁接合部の設計)	柱、梁の設計に関する講義と演習 2 長期・短期のせん断力に対する講義、柱梁接合部の許容せん断力に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
12	RC 造部材の設計法 3 (床の設計・耐震壁の設計)	床スラブに作用する荷重と応力、変形に関する講義と演習、耐震壁のせん断抵抗に関する講義と演習、無開口開口耐震壁の設計	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
13	RC 造部材の設計法 4 (基礎の設計 1)	基礎の概要、地盤調査 直接基礎の耐力、基礎スラブの曲げ補強設計に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
14	RC 造部材の設計法 4 (基礎の設計 2)	杭基礎の設計に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
15	振り返り	構造設計手順および部材断面決定手法の振り返り	(事前) 第 1～14 回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること

関連科目 鋼構造、鉄筋コンクリート構造の授業内容をよく理解していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020 年版 建築物に構造関係技術基準解説書	国土交通省 その他	全国官報販売協同組合
2	図説やさしい構造設計	浅野清昭	学芸出版社	
3	ひとりで学べる RC 造建築物の構造設計演習帳	栢山健二・楠 浩一	日本建築センター	

評価方法 (基準) 講義内での課題の成績 (30%) および期末試験成績 (70%) の総計で評価する。

学生へのメッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、配布資料および演習課題を納得いくまで繰り返し反芻すれば、将来建築の設計・施工・審査に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。また、一級建築士あるいは二級建築士資格取得に役立ちます。 講義には必ず電卓（関数電卓）を持参すること。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて問題を解きなおす。また、中間試験は採点后返却するため、間違った問題は解きなおす事。 ・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	鋼構造 I	科目名 (英文)	Steel Structures I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	奥田 泰雄, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA3061a0		

授業概要・目的	鋼構造に関する知識・理論、理論の適用である手法に関して実例を掲げ具体的かつ実践的に教授する。 【授業概要】鋼材は重量に比して強度と変形能力に優れた構造材料であり、低層建築から高層建築まで幅広い建物の構造材料として用いられている。本講義では、鋼材の製造・物性から鋼構造の設計に至るまでの基本事項について学ぶ。 【目的】構造力学の各科目、構造材料で学習した知識・技能に基づき、鋼構造に関する以下の項目の基礎知識を学び、鋼構造の基本的な考え方を修得し、演習を通して理解を深める。(1) 鋼材の製造・物性、(2) 鋼材の力学特性、(3) 鋼構造骨組と挙動、(4) 簡単な鋼構造の設計法、(5) 鋼構造部材の接合耐力 (SDGs-11)
到達目標	鋼構造の特性、考え方の基本事項を理解し、説明できるとともに簡単な鋼構造の設計ができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて授業を行うため、遅刻・欠席をしないこと。欠席をした場合は配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	将来、建築に携わる技術者を目指す者にとって、身につけておかなければならない基本的知識に関する内容であり、必須の教科である。また、一級建築士および二級建築士資格取得のためには有益な教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 鋼構造建築の建設と地震被害	講義内容・授業計画の説明 鋼構造建築の建設および地震被害に関するスライドによる講義	(事前) 鋼構造に関する用語を調べる (事後) 講義内容の復習
2	鋼材の製造、鋼構造骨組の概要と鋼材の種類	製鉄技術と鋼の製造、鋼構造骨組と鋼材の種類に関するスライドによる講義	(事前) 教科書 1-1~11、1-20~26 を熟読 (事後) 講義内容の復習
3	鋼材の基本的性質、建築物に作用する力	鋼材の基本的力学特性と建築物に作用する力に関する講義と演習	(事前) 教科書 1-12~19、1-35~37 を熟読 (事後) 演習課題の復習
4	小梁設計の設計	荷重、許容応力度・たわみ制約など+せん断応力とせん断変形に関する講義と演習	(事前) 講義の要点を熟読 (事後) 演習課題の復習
5	大梁の設計	横座屈荷重、座屈長さ、局部座屈、幅厚比、許容曲げ応力度などに関する講義と演習	(事前) 講義の要点、教科書 4-16~22 を熟読 (事後) 演習課題の復習
6	部材の耐力と骨組の挙動	柱と梁で構成される簡単な骨組の力と変形関係に関する講義と演習	(事前) 教科書 1-31~34 を熟読 (事後) 演習課題の復習
7	中間試験と復習	復習と中間試験	(事前) 第1~6回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること (事後) 演習課題の復習
8	圧縮材の設計	オイラー座屈荷重、座屈長さ、細長比、許容圧縮応力度に関する講義と演習	(事前) 教科書 3-2~7 を熟読 (事後) 演習課題の復習
9	柱の設計	軸力と曲げを受ける部材の短期許容耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-10~13、28~32 を熟読 (事後) 演習課題の復習
10	柱梁接合部パネルのせん断力と耐力	柱と梁が接合する接合部パネルのせん断力と耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 2-24~27 を熟読 (事後) 演習課題の復習
11	接合部の概要と溶接接合の接合形式	鋼構造部材の接合法および溶接接合の基本事項に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-52~65 を熟読 (事後) 演習課題の復習
12	溶接接合: 完全溶け込み溶接と隅肉溶接の耐力	完全溶け込み溶接および隅肉溶接の耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-66~75 を熟読 (事後) 演習課題の復習
13	高力ボルト摩擦接合	高力ボルト摩擦接合に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-76~86 を熟読 (事後) 演習課題の復習
14	中間試験と復習	復習と中間試験	(事前) 第8~13回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること (事後) すべての演習課題の復習
15	柱脚	柱脚の種類および埋込柱脚に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-105~109 を熟読 (事後) 演習課題の復習

関連科目	専門関連科目 (微積分、線形代数、力学、物理等)、理工学基礎実験、構造力学 I、構造力学 II、その他建築構造関係の全科目の授業内容をよく理解していること。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造-その理論と設計-	井上一郎、吹田啓一郎	鹿島出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の演習課題+中間試験 (50%) および期末試験 (50%) の総計により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、配布資料および演習課題を納得いくまで繰返し反芻すれば、将来建築の設計・施工・審査に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。また、1級建築士あるいは2級建築士資格取得に役立ちます。講義には必ず電卓 (関数電卓) を持参すること。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 奥田教授室
----------	-------------

備考	・事前学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること。 ・事後学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて復習すること。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。
----	--

また、中間試験は採点后返却するため、間違っただ問題は解きなおす事。
・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	鋼構造 II	科目名 (英文)	Steel Structures II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	柳沢 学, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA3062a0		

授業概要・目的

鋼は重量に比して強度と変形能力に優れた構造材料であり、低層建築から高層建築まで幅広く用いられている。鋼構造建築物の安全性を決定する2つの大きな要因は「座屈」、「接合部」であることから、これらの力学的特性とそれに基づく設計法の基礎を修得することは、建築分野に携わってく者として非常に重要な知識である。

ゼネコン構造設計部門での構造設計者としての経験により、鋼構造に関する知識・理論、理論の適用である手法に関して実例を掲げ具体的かつ実践的に教授する。

本講義では、構造力学の各科目、鋼構造 I、構造材料で学習した知識・技能に基づき、(1)柱、梁部材の性能、設計法、(2)鋼構造に現れる座屈現象と接合部の性能、力学性状や設計法を設計演習を通して、鋼構造部材の設計の基本的な考え方を修得し、健全な鋼構造物を設計・施工するための基礎知識を学び、演習を通して理解を深めることを目的とする。

(SDGs-11)

到達目標

鋼構造の基本である柱、梁部材の設計法、柱の座屈現象、接合部の設計法の基本的考え方が説明でき、さらに簡単な部材の設計ができる。

授業方法と留意点

対面授業とオンデマンド授業で実施する。初回授業は対面とし、スケジュールは初回授業で示す。Moodle を利用する場合は、授業内でコードを示す。

科目学習の効果 (資格)

建築の施工や設計の実務に携わるための基礎的知識と技法が身に着く。一級・二級建築士などの資格取得に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 鋼構造物の地震被害、設計荷重と部材、力の流れ	授業内容・授業計画の説明 鋼構造物の地震被害、荷重、許容応力度制約、たわみ制約など。	(事前) 鋼構造 I の復習しておく。教科書 1-12~19 を熟読。 (事後) 配布資料等授業内容を復習する。
2	小梁の設計	小梁設計の考え方と方法を理解するため、簡単な小梁設計の演習課題を行う。	(事前) 講義の要点を熟読。第 1 回の内容の復習。 (事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
3	大梁の設計	横座屈荷重、座屈長さ、局部座屈、幅厚比、許容曲げ応力度などの基礎事項を理解し、骨組構造の主要部材である大梁の設計法について学び、演習課題を行う。	(事前) 講義の要点、教科書 4-16~22 を熟読。 (事後) 講義中に解いた演習問題を再解答する。第 1-3 回の配布プリントの復習および演習問題を見直す。
4	圧縮材の設計	中心圧縮中の座屈について学ぶ。オイラー座屈荷重、座屈長さ、細長比、許容圧縮応力度など基本事項を学ぶ。	(事前) 教科書 3-2~7 を熟読。 (事後) 配布プリント等を復習しておく。出来れば、座屈に関する参考資料を自主的に学習し、理解を深めて置く。第 4 回の配布プリントを良く復習する。
5	柱の設計 (1)	軸力と曲げを受ける部材の短期許容耐力について学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-10~13、28~32 を熟読。 (事後) 講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
6	柱の設計 (2)	軸力と曲げを受ける部材の終局耐力について学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-32~35 を熟読。 (事後) 第 1-6 回の内容を総復習および演習課題を見直し、中間テスト 1 に備える。
7	中間テスト 1 + 復習	設計荷重、梁の設計、中心圧縮中の座屈、柱の設計。	(事前) これまでに行った演習課題をよく理解しておく。 (事後) 解答例を良く見直ししておく。
8	接合部パネルの設計	柱梁接合部パネルでの応力伝達機構を学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 2-24~27 を熟読。 (事後) 講義プリントの復習および演習課題の回答を見直す。
9	接合部の概要、リベット溶接	鋼構造の各種接合方式を説明し、設計法の考え方を解説する。また、アーク溶接を知る。	(事前) 教科書 4-52~58 を熟読。 (事後) 配布プリント等を復習する。
10	溶接接合 (1)	溶接接合の接合形式と溶接記号について学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-59~65 を熟読。 (事後) 今回の配布プリントを復習および演習課題を見直す。
11	溶接接合 (2)	完全溶け込み溶接、隅肉溶接の設計を学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-66~70 を熟読。 (事後) 講義プリントの復習と演習問題を見直す。
12	高力ボルト接合 (1)	高力ボルト接合の力学原理、設計法について学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-76~82 を熟読。 (事後) 今回の配布プリントを復習および演習課題を見直す。
13	高力ボルト接合 (2)	高力ボルト接合部の破壊機構と最大耐力、引張接合について学び、演習課題を行う。	(事前) 教科書 4-82~97 を熟読。 (事後) 接合部に関する総復習を行い、中間試験に備える。
14	中間テスト 2 + 復習	接合部、溶接接合、高力ボルト接合。	(事前) 8~13 回の講義内容および演習課題をよく理解しておくこと。 (事後) 解答例を良く見直す。
15	期末確認試験		(事前) 講義の要点、全ての演習課題をよく理解しておくこと。

関連科目

専門関連科目 (微積分、線形代数、力学、物理等)、理工学基礎実験、鋼構造 I、構造力学 I、構造力学 II、構造力学実践、その他建築構造関係の全科目。.

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造—その理論と設計—	井上一郎、吹田啓一郎	鹿島出版会
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2		
	3		
評価方法 (基準)	毎回の演習課題と中間試験（50%）および期末確認試験（50%）の総計により評価する。		
学生への メッセージ	建物のデザイン・構造設計・施工など、いずれの職種に就いた場合でも、建物の挙動、ディテール、特に安全性に係る諸現象を知り、それらが何故どのように生じるかを力学の原理原則に基づいて理解し、イメージすることが重要である。 学生の皆様には、与えられた公式をただ形式的に理解し計算するといったことを学ぶだけでなく、実際の現象と力学的な理解を結びつけた知識を習得してもらうことを期待する。また、本講義での知識は、1級建築士あるいは2級建築士資格取得に役立ちます。		
担当者の 研究室等	8号館3階 柳沢教室・池内教室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前学習欄に示した内容については、毎回0.5時間以上の時間をかけ、教科書の指定範囲部分をあらかじめ学習しておく。 ・事後学習：事後学習欄に示した内容については、毎回1時間以上かけ、課題・授業配布資料を用いて理解できるまで復習する。 授業で演習・解答した問題は必ず解きなおす。また、中間試験は採点后返却するため、間違った問題は解きなおす事。 ・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。		

科目名	保存再生論	科目名 (英文)	Building Renovation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	所 千夏, 大谷 由紀子, 高木 恭子
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3063a0		

授業概要・目的	この講義では、新築時から建物が寿命を全うするまでのプロセスを学びます。建物の設計、積算、施工等を縦断する基礎知識として、特徴的な要求性能や素材の長短所と、見積もり作成の考え方を学びます。そのうえで、建築を社会資産ととらえ、資産価値を上げる手法と技術を、具体的な実例と重ねながら学びます。 授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 「SDGs-11」
到達目標	1) 建物を構成する材料を把握し、部位や材料による特性から材料を選択することができる。 2) 図面から、1つの建築物を構成する材料の数量や価格を含めた構成を読み取ることができる。 3) 実際の保存再生現場など実践の場で活用できる基礎知識を得ること。
授業方法と留意点	前半の講義は図面の読み取りや数量計算を授業内で行うので、三角スケールと計算機、色鉛筆を持参すること。 後半の講義は、再生技術に関する知識をレポートや課題へ積極的に取り組み、授業進行によってアクティブラーニングを取り入れる予定。講義の際は積極的に質疑を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	建築実務についてときに、現存する建物の価値を知り、保存再生にふさわしい建築かどうかを的確に判断し、企画・計画・施工・運営の流れと各段階の技術を把握した上で、魅力的な保存再生計画を提案するための基礎知識を体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	構造材の構成1 (RC基礎)	RC造の構造体に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 基礎に必要な材料の確認 (約0.5時間) (事後) 基礎工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
3	構造材の構成2 (木材)	木造の構造体に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 図面から木造の部材名称及び樹種、寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 木造軸組に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
4	構造材の構成3 (下地材)	木造の下地に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 図面から木造の下地を構成する材料名称・寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 木造下地に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
5	外装材 (屋根、外壁)	外装に必要な材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から屋根・外壁に使用される材料・面積を確認する (約0.5時間) (事後) 外装工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
6	内装材 (床、壁、天井)	内装に必要な材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から内装に使用される材料・面積を確認する (約0.5時間) (事後) 内装工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
7	開口部 (建具)	開口部を構成する材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から建具の形状や寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 建具工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
8	前半のまとめ	その他建物にかかる費用 (新築時にかかる費用、使用後にかかる費用) の紹介とコストの確認	(事前) 第7回までの建築工事費をまとめておく (約0.5時間) (事後) 建物の総工事費をまとめる (約1時間)
9	建築を大事に使う: 保存再生の重要性とプロセス	建築の価値再向上を計画するプロセス	(事前) 建築を長く使うことはなぜ重要か考える (約0.5時間) (事後) 建築再生のプロセスについて理解を深める (約1時間)
10	建築再生の技術1 診断 (既存建物の健康状態を診る)	保存再生のため既存建築の現状把握	(事前) 既存建築の健康はどのように知ることができるか考える (約0.5時間) (事後) 既存建築の健康診断項目について理解を深める (約1時間)
11	建築再生の技術2 構造・外装	建築再生に必要なスケルトン (構造・外装) の計画	(事前) 建築のスケルトン (構造・外装) とは何か確認しておく (約0.5時間) (事後) スケルトンの再生計画について理解を深める (約1時間)
12	建築再生の技術3 設備・内装	建築再生に必要なインフィル (設備・内装) の計画	(事前) 建築のインフィル (設備・内装) とは何か確認しておく (約0.5時間) (事後) インフィルの再生計画について理解を深める (約1時間)
13	建築マネジメントの実例 (1)	建築再生の実例紹介 1	(事前) 建築再生の事例を調べる (約0.5時間) (事後) 建築マネジメント実例について理解を深める (約1時間)
14	建築マネジメントの実例 (2)	建築再生の実例紹介 2	(事前) 建築再生の事例を調べる (約0.5時間) (事後) 建築マネジメント実例について理解を深める (約1時間)
15	後半のまとめ・最終課題	建築を長く使うことについて授業で学習したことを活かして最終課題に取り組む。	(事前) これまでの授業内容を復習する (約0.5時間) (事後) 建築をマネジメントすることについて理解を深める (約1時間)

関連科目 建築材料 I・II

	その他構造関連科目 横断的に関連する科目：建築法規、材料デザイン、インテリア概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築再生学 (考え方・進め方・実践例)	松村秀一 (編著)	市ヶ谷出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料 第四版	橘高 義典, 杉山 央	市ヶ谷出版
	2	建築と都市の保存再生デザイン	田原幸夫他共著	鹿島出版会
	3	積算ポケット手帳 建築編 2024	建築資料研究社編	建築資料研究社
評価方法 (基準)	1 演習課題 20% 2 前半レポート 40% 3 後半レポート (最終課題) 40%			
学生への メッセージ	・新築と異なる、建築保存再生の魅力に触れ、建築実務の中で適切に活かすことができるよう、楽しみながら学び、知識や技術を体得してほしい			
担当者の 研究室等	高木先生は、8号館3階 建築学科準備室。所先生は、7号館2階 非常勤講師室			
備考	質疑などはメールにより受付。メールアドレスは授業にて伝える。 事前学習については、毎回0.5時間以上かけること 事後学習については、毎回1時間以上かけること			

科目名	構造力学Ⅲ	科目名 (英文)	Structural Mechanics III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 与史也, 奥田 泰雄
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3054a0		

授業概要・目的	<p>建築物の耐震安全性は、構成部材の硬さおよび強さ（耐力）のバランスのとれた配置に左右される。部材や建物の耐力を支配するのは全塑性耐力と座屈耐力である。本講義では、部材の耐力および建物の耐力を算出するための基礎的考え方と方法について学ぶ。</p> <p>鋼構造部材を中心に以下の項目について理解し、具体的な計算能力を身につける。(1) 梁や柱の弾塑性曲げモーメント-曲率関係と全塑性モーメント、(2) 塑性極限解析の上・下界の定理、(3) 簡単なトラスやラーメンの塑性崩壊荷重の計算法、(4) 中心圧縮柱の曲げ座屈、梁の横座屈などの簡単な骨組の座屈</p> <p>SDGs-11 に該当する科目である</p>
---------	---

到達目標	<p>構造設計や現場での仮設計画を行う場合、その構造物が終局的にどのようなふるまいをするかを知っておくことは極めて重要である。建築構造物の終局状態を求めるための重要項目である「極限解析」と「座屈理論」について理論的基礎を理解し、簡易な部材の座屈耐力あるいは架構の終局耐力を計算できる。</p> <p>【学習・教育目標 (H)】</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>授業は5つのテーマについて講義します。その合間に3回の演習を行い、授業時間内に提出していただきます。また最終回はまとめと小テストを実施します。3回の演習と小テストは成績評価の対象ですので必ず出席してください。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>一級建築士、建築技術者志望の人には必要な範囲です。</p>
--------------	----------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業内容の概説, 各種建築材料の物理特性	(事後) 授業で示した内容について、1時間以上かけて復習すること。
2	形態システム概論	各種構造材料の特徴と使用方法、基本的構造フォルムと力学的合理性	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
3	トラスの塑性崩壊	トラス構造の部材軸力と変形	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
4	全塑性モーメント1	鋼材の構成法則, 降伏条件, モールの応力円	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
5	全塑性モーメント2	降伏モーメント, 軸力曲げ相関降伏条件	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
6	演習1	モールの応力円, 全塑性モーメント	(事後) 解けなかった問題を中心に1時間以上かけて復習すること。
7	梁の塑性崩壊1	単純梁, 片持梁, 塑性ヒンジと弾塑性解析	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
8	梁の塑性崩壊2	塑性崩壊機構, 極限解析の基礎定理	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
9	骨組の塑性崩壊1	ラーメンの極限解析法	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
10	骨組の塑性崩壊2	建築ラーメンの極限解析, 保有水平耐力	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
11	演習2	簡単なラーメン構造の極限解析	(事後) 解けなかった問題を中心に1時間以上かけて復習すること。
12	部材の座屈1	骨組の座屈と柱の座屈, オイラー座屈	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
13	部材の座屈2	境界条件の違い, 座屈たわみ角式, 非弾性座屈	(事前) 事前に示した内容について、0.5時間以上の時間をかけて予習すること。(事後) 授業で解説した内容について、1時間以上かけて復習すること。
14	演習3	座屈に関する演習	(事後) 解けなかった問題を中心に1時間以上かけて復習すること。
15	まとめ・小テスト	授業全般の復習と確認小テスト	これまでの授業範囲全般を通して、理解が不十分と思うところを、もう一度復習しておくこと。

関連科目	<p>構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱの授業内容をよく理解していること。</p>
------	-------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄骨構造 基礎知識 (第3版)	橋本篤秀編著	市ヶ谷出版社
	2	建築構造力学図説・演習Ⅱ	中村恒善編著	丸善
	3			

評価方法 (基準)	授業中に実施する演習3回(60点)、小テスト1回(40点)の合計 評価基準は履修規程により、総合評価60点以上を合格とする
学生への メッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、演習課題を納得がいくまで繰り返し反芻すれば、将来建築の構造に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身に付けることができます。
担当者の 研究室等	学科準備室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること。 ・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて復習すること。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。 ・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	地盤工学	科目名 (英文)	Geotechnical Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	細野 久幸・柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA3055a0		

授業概要・目的	<p>建物を地盤の上に安全に建てる時、同じような建物であればどんな地盤でも同じように建てればよいということはありません。建てようとする地盤の特性を把握し、建物の力学的特徴を踏まえて、建物を地盤の上に建てる必要があります。</p> <p>地盤の特性を知るためには、土の基礎的な力学性状（土質力学）を理解することが大変重要です。授業では、砂と粘土を中心に、土の構成、その構成によって変わる力学特性を、まず学びます。土の基礎を学び終えたら、私たちが住む建物を支える建物基礎の設計と施工（基礎工学）について、考える「地盤工学」力をつけることを目的に事例を交えて演習します。</p> <p>建物の企画から設計（基本+実施）、施工、運営までの実務経験を活かし、必要な知識である地盤の成り立ち、建物と地盤の相性の考え方、考えるために必要な基礎的な土質力学、建物を支持させるための基本的な考え方を学び、ある地盤に建設する建物が問題となるのはどこか、考える演習を設計事例、現場事例を踏まえながら行なっていきます。SDGs-11 に該当する科目である。</p>
---------	--

到達目標	<p>基礎的な土質力学を理解し、敷地の状況から地盤調査すべき項目、建物の特性を踏まえての建物の基礎計画、建物基礎の設計、施工における留意点など、地盤建築基礎工学への応用方法へ展開するための基本的な考え方を取得することを目標とします。</p> <p>地盤と建物の関わりを捉えることのできる設計的視点（マクロ）と、土粒子+水+空気で構成される土の力学的・化学的挙動の細部を捉える細部観察視点（ミクロ）を合わせ持ち、考えられる問題は何か、対処としてどうすればよいかという視点をたくさん持って技術的に考える力をつけていくことを目指し</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>配布資料をもとにスライド（パワーポイント）を使用して講義形式の授業を行ないます。</p> <p>授業は講義室で対面授業とします。状況に応じて、オンライン授業に切り替えることがあります。</p> <p>授業の途中では、課題を通して理解度を確認し、理解度に応じて解説を行ないます。</p> <p>復習して技術を身につけていくために、毎回の課題により理解度を確認しています。よって、遅刻、欠席しないようにすること。</p> <p>欠席した場合のプリントの再配布は行いません。欠席した場合の授業内容は自己責任において回復してください。また、欠席時の後日、課</p>
----------	---

科目学習の効果（資格）	<p>基礎的な土質力学の理解、地盤調査の方法と種類、建物基礎の計画、設計と施工について、留意すべき点が理解できる基礎的な「地盤工学」力を身につけます。</p> <p>一級建築士、構造設計者、現場技術者、技術士などで必要とされる「地盤工学」の基礎能力を取得するために必要である。</p>
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地盤工学ガイダンス 概論 建物の支え方、基礎の種類	ガイダンス 土質工学と基礎工学の概論 地盤の成り立ちと、地盤上に建てることについての概論 基礎の種類（地盤改良・異種基礎・パイルロード・ラフト含む）	配布するテキストで講義を行う。授業終了時に示す、物を安定させるためにはどうすればよいかについてレポートを作成する（1時間）
	2	土の分類と粘土・砂の基本特性	土の分類と基本量、試験方法、粘土と砂の違いは何か、その基本特性を知る	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	3	土と水、地表荷重と地中応力	地下水と土、有効圧と中立圧、上載圧 災害事例を踏まえた土と水の関係	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	4	地下水の水理学、土の透水性	地中での水頭差、土の透水係数 砂のボーリング、液状化現象と液状化算定	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	5	土の圧縮性と圧密	土の圧縮性状、土内の水が排出される圧密理論、絞り出し破壊	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	6	土のせん断強さ	土はどのようなときに壊れるのか Coulomb の式と土のせん断破壊 Mohr・Coulomb の破壊規準	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	7	土圧	建物に作用する受働土圧、主働土圧、静止土圧 隣接する建物から受ける土圧	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	8	地盤の調査と試験 土質柱状図の見方と地形	標準貫入試験と土質柱状図 室内土質試験概要 孔内水平載荷試験 土質柱状図の見方と古地図、地形の関連性	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	9	直接基礎の設計（1）鉛直	支持力の考え方（どのように土は上に載った建物を支持しているのか、メカニズムを理解する） 地盤の形状に応じた基礎検討	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	10	直接基礎の設計（2）鉛直・水平	地盤の沈下と不同沈下 基礎の設計方法 地震時の水平抵抗	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	11	杭基礎の設計（1）鉛直	杭の種類と工法概要 杭の鉛直支持力（先端支持力、摩擦力） メカニズムの理解 杭の設計（鉛直）	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
	12	杭基礎の設計（2）水平	杭の水平抵抗、引抜き抵抗 杭の設計（水平） 地盤の変位による影響（応答変位）	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。
13	側面土圧を受ける地下外壁・擁壁・山留め壁の設計	側面土圧を受ける地下外壁、擁壁、施工時に用いる山留め壁などの構造物の計画、設計	配布したテキストを事前に読んでおくこと（0.5時間）。復習では、テキストを授業時にメモした内容と合わせて確認すること（1.0時間）。	

	14	地盤と建物の相互作用 表層地盤の増幅特性と建物 外力	建物と地盤のマクロな挙動(建物と土の 力のやり取り) 静的・動的の建物と地盤の相互作用(沈 下問題、地震被害)	配布したテキストを事前に読んでおくこと(0.5時 間)。復習では、テキストを授業時にメモした内容 と合わせて確認すること(1.0時間)。
	15	建物の特性と地盤の性質 基礎の計画	建設地に対する計画建物の支え方 基礎形式の選択	実際の土質柱状図をもとに基礎の計画を行うので、 どのようなときにどのような基礎が適しているの か復習しておくこと(1時間)。
関連科目	構造力学, 鋼構造, 鉄筋コンクリート構造, 建築施工, 耐震工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の提出物(課題): 40% 定期試験に相当する課題: 60% の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	建物とは、どのようにして建っているのか不思議に思うことはないですか。 同じような建物でも地盤の違いによって、被害が生じたり、何も起こらなかつたりするのはなぜでしょうか。 この”なぜ”ですが、身近な物に置き換えて動きを考えると、意外に簡単な力学的考察で説明することができます。 実際の建物がどのようにして建っているか、設計、施工を行なう上でどんなことを考える必要があるのか。 まずは地盤工学の基礎を学び、そして応用の仕方について学んで、自分の技術として地盤工学を加えてみないですか。 決して難しくはあり			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	事前学習: 事後学習欄に示した内容について、 事前学習は、毎回0.5時間以上かけること。 事後学習は、毎回1.0時間以上かけること。 授業でわからなかったところは、授業前後やメールで遠慮なく質問すること。 毎回の課題については、次の授業のはじめに解説を行なうので、しっかり理解を深めること。			

科目名	耐震工学	科目名 (英文)	Earthquake-Resistant Structures
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	青木 和雄, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA4066a0		

授業概要・目的
わが国では、阪神・淡路大震災(1995)、東日本大震災(2011)、熊本地震 (2016)、大阪府北部地震 (2018.6月)、北海道胆振東部地震 (2018.9月)などの地震が続いた。また、近い将来に海溝型大地震も予想されている。そのような中、人命、建築、インフラなどの安全確保に社会的関心が集まっている。授業では、地震や地震動による建物の動きを理解するとともに、実設計に必要な基礎的な知識を習得する。授業担当者は建築構造の実務経験を有する。(SDGs-11)

到達目標
最近、社会的に注目されている「耐震安全性の確保」に応えられる構造設計者になるための基礎的な知識を身につけた上で専門的な知識が習得できる。

教科書と配布教材をベースとする授業を行う。

授業方法と留意点
事前・事後学習課題 : 「授業計画」欄の説明
復習: テキスト・プリントを読み返し、疑問点を積み残さないようにすること (毎回 約 1.5 時間程度)
課題: テキストの数式の数値計算 (エクセル等)、数式の誘導等展開などを行う (約 1.5 時間程度)
予習: テキストや事前に配布するプリントについてあらかじめ理解しておく (毎回 約 1 時間程度)
その他: 地震、建物の耐震性、防・減災などのニュースなどに目を通し全体的な理解度を高めること (適宜)

科目学習の効果 (資格)
地震時の建物の挙動を理解することにより、地震動に対する安全性の考え方や設計法を習得する。また、本授業の内容は一級・二級建築士の資格試験の「建築構造」の一部で必ず出題されるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 1 章 建築振動を学ぶ	地震の歴史 地震の伝播や被害	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
2	第 2 章 地震による地盤と建物の揺れ	揺れと地盤、地震波形を見る	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
3	第 3 章 1 質点系モデルの振動	ダンパ・バネの原理と振動方程式	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
4	第 4 章 減衰を考慮した 1 質点系モデルの振動	減衰系の振動方程式と減衰の影響 (効果)	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
5	第 5 章 1 質点系モデルの地震応答	地震応答の数値計算法	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
6	第 5 章 1 質点系モデルの地震応答	応答ベクトルと応用	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
7	第 6 章 1 質点系モデルの調和地動入力時の応答	単純な調和地動で建物応答を探る	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
8	第 7 章 1 質点系モデルの周波数応答解析	伝達関数とフーリエ変換	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
9	第 7 章 1 質点系モデルの周波数応答解析	フーリエ変換と周波数解析	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
10	第 8 章 多質点系モデルの振動	1 質点系から多質点系の展開	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
11	第 8 章 多質点系モデルの振動	固有ベクトル・展開定理	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
12	第 8 章 多質点系モデルの振動	多質点系のまとめと、ねじれ振動	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
13	第 9 章 免震構造・制振構造	免震・制振構造の概要と計画	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
14	第 10、11 章 地盤増幅と相互作用	地盤震動 透過・反射と増幅、相互作用	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
15	現行設計法と授業まとめ	現行の種々の設計法の説明と、授業まとめ	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照

関連科目
構造力学、鋼構造、鉄筋コンクリート構造等の構造系科目および基礎的な数学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築振動を学ぶ -地震から免震・制震まで-	宮本裕司ほか	理工図書
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
授業時の課題 (40%) と対面授業期間中に行う試験 (60%) によって、到達目標の習熟度を総合的に判断し可否を判断します。

学生へのメッセージ
耐震工学・振動学は、防災・減災の基礎として最近、特に注目されている分野で、地震時の地盤や建物の動きを、簡単な物理・数学を用いて工学的に理解する授業です。知識を身につけて、社会に出てからの設計実務や研究に役立てるとともに、さらに 制振・免震などの分野へと発展させる動機となることを願っています。同時に、地震に対して人命・財産や都市の機能を守るといった社会的使命の達成にも役立てていただきたい。

担当者の研究室等
建築学科共通準備室 (8 号館 3 階)

備考
授業に関する質疑等は、対面授業前後で直接教員に聞くこと。
事前学習には、毎回 0.5 時間以上かけること。事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。

科目名	構造実験	科目名 (英文)	Experiments in Structural Elements
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学, 池内 淳子, 奥田 泰雄
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3064a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築物を構成する主要な構造要素・材料の力学的特性および物理・化学的特性の試験・実験法とその特性を下記の実験を通じて学ぶ。また、修得した知識を、実建物を見学して確認する。天候等によって、順番、内容を一部変更することがある。 授業では担当者らの実務経験や実務社会で要求される建築骨組に関わる専門技術教育の他、社会人として必要となる人間力をはじめ協働でワークするための実践教育を行う。SDG s-11に該当する科目である。
到達目標	[到達目標] 1) 毎回出席して実験を肌で感じる。2) 実験で使用する器具や機器を覚える。3) 実験結果を一般解と比較して考察できる。4) コンクリートの調合設計ができる。5) 後半の材料試験、鉄骨梁、鉄筋コンクリート梁の実験では予想値と比較して実際を確認し、比較・検討できる楽しみがある。
授業方法と留意点	班毎にグループを作って実験する。グループ内でのチームワークが重要である。毎回、実験概要を説明し実験室にて実験する。翌日、観察、養生する場合もある。実験後レポートを作成し提出する。回によっては講義室で演習をする場合がある。
科目学習の効果 (資格)	構造実験は建築士受験資格のある指定学科では必要科目となっている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、班分け、安全講習	ガイダンス・安全講習・注意事項・評価方法・グループ分け・レポートの書き方 レクチャー1	(事前) シラバスを熟読してくること (事後) 安全マニュアルの理解
2	骨材比重試験	細骨材および粗骨材の比重を計測し地域別の値と比較する	(事前) 教科書 p 18～p 21 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
3	骨材粒度分布試験	コンクリートを構成する骨材のふるい分け試験を行い、f. m. 値算出と粒度分布曲線を求め JIS 規格範囲と比較・検討する	(事前) 教科書 p 13～p 16 を読む (事後) 返却レポートを確認する
4	セメント強度試験のための供試体作製	セメント強度試験のための供試体を作製する	(事前) 教科書 p 9～p 11 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
5	建物見学 (1)	建設中あるいは竣工後の建物を構築に注目して見学する	(事前) 建物調査 (資料から) (事後) 見学レポート作成
6	コンクリート調合設計	コンクリートの調合設計の仕方を理解し、翌週のコンクリート打設のための調合計画を行う	(事前) 教科書 p 36～p 45 を読む (事後) 調合結果をレポートにまとめる
7	コンクリート強度試験のための供試体作製	コンクリートを構成する、水、セメント、細骨材、粗骨材および混和剤を計量し、練り混ぜ後、スランプ試験の実施と供試体を3本を作製する	(事前) 教科書 p 45～p 51 を読む (事後) 打設結果をレポートにまとめる
8	セメント強度試験	セメントの強度試験を行い、曲げ強度および圧縮強度を算出し、評価・検討する	(事前) 教科書 p 9～p 11 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
9	建物見学 (2)	建設中あるいは竣工後の建物を構築に注目して見学する	(事前) 建物調査 (資料から) (事後) 見学レポート作成
10	細骨材中の有機不純物、塩化物の定量分析	有機不純物試験方法を理解し、実験を行い評価する。塩化物の定量分析を行いコンクリート用骨材として使用できるかを検討する	(事前) 教科書 p 25～p 26 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
11	コンクリート強度試験 鋼材引張試験	コンクリート強度試験 (圧縮および割裂) の実施。鋼材の引張試験により、降伏強度、引張強度および伸びを計測し規格値と比較する	(事前) 教科書 p 51～p 54 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
12	鉄骨梁の曲げ実験 耐力算定 試験体ゲージ貼り	鉄骨梁の曲げ実験を理解し、鉄骨梁の曲げ耐力を推定する また、翌週実験する試験体にひずみゲージを貼付して実験準備をする	(事前) 教科書 p 94～p 97 を読む (事後) 耐力推定値をレポートにまとめる
13	鉄骨梁の曲げ実験 実験実施	鉄骨梁の曲げ実験を行い諸荷重等を計算値と比較する	(事前) 教科書 p 94～p 97 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる
14	鉄筋コンクリート梁の曲げせん断実験 諸耐力算定	鉄筋コンクリート梁の曲げせん断実験を理解し、鉄筋コンクリート梁の諸耐力、諸剛性を算出する	(事前) 教科書 p 70～p 72 を読む (事後) 諸耐力の計算結果をレポートにまとめる
15	鉄筋コンクリート梁の曲げせん断実験 実験実施	鉄筋コンクリート梁の曲げせん断実験を行い諸荷重等を計算値と比較する	(事前) 教科書 p 70～p 72 を読む (事後) 実験結果をレポートにまとめる

関連科目 建築材料、鉄筋コンクリート構造、鋼構造などその他建築構造関係の全科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料実験用教材	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	実験教科であり、100% の出席を前提とする。レポート課題点 (60%) および実験態度点 (40%) の成績を総合し、到達目標の達成度に応じて合否を判定する。実験態度点は積極的に実験に参加し材料特性や構造性能を理解しようとする態度に基づいて評価する。
学生への メッセージ	原則として実験資材は大学で用意するが、作業服・靴は用意しない。作業服・靴を購入する必要はないが、実験の内容により砂・セメント・油などで衣服が汚れる場合、足下が悪い場合がある。 授業中は私語を慎み集中して授業内容の理解に努めること。
担当者の 研究室等	8号館3階 柳沢教授室 [共同担当者] 奥田泰雄・池内淳子 各教授室
備考	事前・事後の学習 (レポート作成含む) には1回あたり2時間程度を確保する必要がある。 授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。

科目名	設計演習 II a	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子, 伊熊 昌治, 出江 潤, 京 智健, 小林 健治, 戸田 智, 西倉 美祝, 古川 晋也, 前田 裕希, 守行 忠勝
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2069a0		

授業概要・目的	本演習では住宅および地域交流施設の設計を通じて、建築設計の基礎的知識と図面表記を習得する。同時に、課題を通じて、設計の進め方、模型によるボリュームや断面検討などスタディ方法、プレゼンの方法を学ぶ。課題は社会問題、環境問題など今日のテーマを盛り込み、建築と社会の関係を学ぶ機会とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。【SDGs-11】
到達目標	(1) 公共性のある施設の設計に関する基礎知識の修得、(2) 設計条件の設定能力や設計方法の修得、(3) 鉄筋コンクリート造の躯体計画技能、断面図の表現法、(4) 模型制作や透視図作図などによる提案方法の習得、これらを踏まえて設計内容を適切かつ効果的に他者にプレゼンテーションすることができる。
授業方法と留意点	対面形式での授業を原則とし、オンラインでの提出・指導を組み合わせる。少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題毎に担当者が替わっていく。事前提出された各回提出物 (エスキース課題) に対する教員から指摘事項等のフィードバックを行う。毎回オンライン形式の質疑等の時間を設ける。また最終提出は郵送による提出とする場合がある。
科目学習の効果 (資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小規模複合建築の設計 (第1回)	・ガイダンス、グループわけ、作業に関する説明 ・課題説明、リサーチなど	参考図面・事例の収集など
2	小規模複合建築の設計 (第2回)	・グループ別指導など	参考図面・事例収集・エスキース模型作成など
3	小規模複合建築の設計 (第3回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキース・模型作成など
4	小規模複合建築の設計 (第4回)	・グループ別指導など	エスキース・作図・模型作成など
5	小規模複合建築の設計 (第5回)	・グループ別指導など ・図面チェック	エスキース・作図・模型作成など
6	小規模複合建築の設計 (第6回)	・グループ別指導など ・模型の説明	作図・模型作成など
7	小規模複合建築の設計 (第7回)	・成果物のプレゼンと講評	作図・模型作成・発表準備など
8	地域交流施設の設計 (第1回)	・課題説明、リサーチなど	参考図面・事例の収集など
9	地域交流施設の設計 (第2回)	・グループ別指導など	参考図面・事例収集・エスキース模型作成など
10	地域交流施設の設計 (第3回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキース・作図・模型作成など
11	地域交流施設の設計 (第4回)	・グループ別指導など	エスキース・作図・模型作成など
12	地域交流施設の設計 (第5回)	・グループ別指導など ・図面チェック	エスキース・作図・模型作成など
13	地域交流施設の設計 (第6回)	・グループ別指導など ・模型の説明	作図・模型作成など
14	地域交流施設の設計 (第7回)	・成果物のプレゼンと講評	作図・模型作成・発表準備など
15	成果発表、講評総括	・学習の振り返り	図面表記ルールなど

関連科目 建築計画基礎、建築計画各論、設計演習 I、および専門科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄ほか5名	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
2				
3				

評価方法 (基準) 毎回の提出物 (エスキース課題)、最終成果物を評価対象とし、第1課題 50%、第2課題 50%として課題毎に評価を行う。総合 60%以上を合格とする。なお、最終成果物は課題書に記された図面 (平面図、立面図、断面図ほか) や模型など一式を指し、各評価細目は課題毎に提示する。

学生へのメッセージ 設計演習は建築学科での学習の総合化であり、多くの建築事例を見学や研究して、着実に構想力、提案力をつけてください。教員や仲間との意見交換も重要です。図面表記が身につくよう、建築基礎演習 A および B でのテキスト、コンパクト建築資料集成、専門誌などの図面を参照して習得してください。提出物の未完成、未提出は評価対象とならないため、期限を厳守して取り組んでください。

担当者の研究室等 8号館3階

備考 事前・事後学習：設計演習ではほぼ毎回、現地調査、事例収集、エスキース、作図、模型制作などの課題を提示する。よって、事前・事後併せて 4.5 時間程度、課題に取り組むことが望ましい。コンパクト建築資料集成、設計 I でのテキストは毎回持参し、エスキースや作図などにおいて参照する。新建築など建築作品の掲載されている専門誌に目を通し、解説文、図面、写真を参照することが望ましい。

課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すとともに、他者の作品を参考にすることが重要です。

科目名	設計演習 II b	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治, 伊熊 昌治, 井戸 健次, 加嶋 章博, 貴志 泰正, 岸下 真理, 白須 寛規, 富田 祐一, 藤田 慶, 門間 香奈子, 好川 拓
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2070a0		

授業概要・目的	<p>地域図書館の設計では、実際の図書館や本がある場所を調査し、資料を収集することで計画条件を理解する。多様な人が集まることができる地域に開かれた公共の場としての読書空間の可能性を考え、地域の図書館として提案する。また、本の置き方や並べ方、家具配置など、細かな空間デザインを検討する訓練とする。</p> <p>美術館の設計では実際の美術館や展示空間を調査し、資料を収集することで計画条件を理解する。どのような展示空間がどのような効果をもたらすのか、建築の可能性を考え、都市の美術館として提案する。また、利用者の動線、職員や作品搬出入の動線など、表と裏の動線を検討する訓練とする。</p> <p>いずれの設計においても、敷地および周辺環境の特徴を読み取り、限定された時間内に条件を整理・分析を踏まえて設計し、それを的確に図面化することを学ぶ。外観や景観のデザインについても検討し、建築単体の設計だけではなく、建物と敷地および周辺環境の関係に対する視点を考える。(SDG s-11)</p>																																																																		
到達目標	<p>(1) 平面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得</p> <p>(2) 断面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得</p> <p>(3) 建物と周辺との関係についての設計技術の習得</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループでの個別指導を行う。授業時間内は担当教員から指導を受けることを優先し、各自のエスキスや製図作業は事前・事後学習として時間外にも行う必要がある。敷地調査や課題に関連する情報収集などを行う。 ・原則として対面授業を行う。資料配布や提出など必要に応じてオンラインを組み合わせて行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士の資格取得のための必須科目である																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など</td> <td>敷地調査・事例調査・図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 構造計画の説明</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明</td> <td>プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など</td> <td>敷地調査・事例調査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>美術館の設計</td> <td>設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 構造計画の説明など</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 外構計画の説明など</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括</td> <td>プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	地域図書館の設計	課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など	敷地調査・事例調査・図面・模型作成	2	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	3	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明	図面・模型作成	4	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	5	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等	6	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など	図面・模型・パース作成等	7	地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明	プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など	敷地調査・事例調査	8	美術館の設計	設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導	図面・模型作成	9	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	10	美術館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明など	図面・模型作成	11	美術館の設計	各グループでの個別指導 外構計画の説明など	図面・模型作成	12	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	13	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	14	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等	15	美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括	プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など	図面・模型・パース作成等
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	地域図書館の設計	課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など	敷地調査・事例調査・図面・模型作成																																																																
2	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
3	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明	図面・模型作成																																																																
4	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
5	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等																																																																
6	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など	図面・模型・パース作成等																																																																
7	地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明	プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など	敷地調査・事例調査																																																																
8	美術館の設計	設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
9	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
10	美術館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明など	図面・模型作成																																																																
11	美術館の設計	各グループでの個別指導 外構計画の説明など	図面・模型作成																																																																
12	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
13	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
14	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等																																																																
15	美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括	プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など	図面・模型・パース作成等																																																																
関連科目	建築基礎演習 A、建築基礎演習 B、建築設計製図 A、建築計画基礎、建築計画各論、福祉すまい環境、建築情報処理基礎、建築情報処理応用ほか、専門科目全般が関連科目といえる。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 4 版コンパクト建築設計資料集成</td> <td>日本建築学会</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>名建築のデザインに学ぶ製図の基礎</td> <td>垣田博之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ</td> <td>川北健雄 他</td> <td>彰国社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 4 版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善出版	2	名建築のデザインに学ぶ製図の基礎	垣田博之	学芸出版社	3	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	第 4 版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善出版																																																																
2	名建築のデザインに学ぶ製図の基礎	垣田博之	学芸出版社																																																																
3	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社																																																																
評価方法 (基準)	各回提出物 (エスキス課題) の評価 30%、提出図面 (平面図、立面図、断面図を含む) の完成度と技法などの評価 70% で各課題毎に評価を行い総合 60% 以上を合格とする。各評価細目は課題毎に提示する。																																																																		
学生へのメッセージ	得手不得手の感覚ではなく、「学ぶ心」を培って欲しい。大切なことはまずは「感動すること」「模倣すること」「やり遂げること」です。模倣といっても、どのように自分自身の考え方に取り込めるのかの解釈が必要です。したがって設計に関する資料の検索などがより一層重要になります。好きな建築、建築家を見付けることや参考となる作品をどんどん調べ、模倣することから出発し、次第に自分のオリジナリティーへと繋げていってください。また、提出期限に十分な成果があげられるようにスケジュール管理を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 3 階																																																																		
備考	事前事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 4.5 時間以上かけて作業を行うこと (標準)。 授業の進め方については、1 回目授業時に説明します (課題の内容・順番は変更となる場合があります)。 毎回のエスキスはすべて返却します。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要です。																																																																		

科目名	設計演習Ⅲ a	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 健治, 白須 寛規, 北條 豊和, 水上 和哉, 矢田 朝士, 山口 尚之
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3071a0		

授業概要・目的
 建築設計系科目では、与えられた課題に対して自身の考えやアイデアを図式化(エスキース)しながら、成果物として建築図面(平面図、立面図、断面図等)を製図(ドローイング)し、その展示・発表・講評(プレゼンテーション)を行う。
 本演習では、小学校(教育施設)を題材に、多様な社会背景に対するリサーチに基づいた多角的な検討を重視した取り組みを通じて、設計の基本的な方法(調査手法、検討事項等)、設計に必要な知識(意匠・構造・環境・外構、各種寸法等)を学ぶ。また、各成果物の計画・制作を通じて、建築の複合的かつ総合的な設計に関する知識や技能の修得、提案表現技法を修得する。併せて、展示・発表・講評を通じて自身の考えを他者に伝えるための技法を身につける。
 なお、本演習科目は建築実務経験を有する専任教員、非常勤講師により指導を行います。《SDGs-11》

到達目標
 1) 課題を発見し、設計条件化できる
 2) 複合的な条件をもつ建築の計画・設計ができる
 3) 調査および提案に対する的確な表現ができる

授業方法と留意点
 本科目は、基本的に対面授業で行います(状況に応じて適宜、Teams による遠隔指導に切り替える場合があります)。演習は、各々が持参する作業成果をベースに少人数での対話(エスキース)を通じて進めます。また、課題の発見、設計条件化においては、グループ単位でのワークを取り入れます。

科目学習の効果(資格)
 建築士試験(実技試験)と関連がある。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小学校(教育施設)の設計(第1回)	・課題説明 ・グループ分けおよび作業方法の説明 ・グループ別個別指導	必要な検討事項を整理し、設計からプレゼンテーションまでのプロセスを計画する。
2	小学校(教育施設)の設計(第2回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
3	小学校(教育施設)の設計(第3回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
4	小学校(教育施設)の設計(第4回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
5	小学校(教育施設)の設計(第5回)	・グループ別個別指導 ・中間発表会	社会背景を建築化する上での課題設定 調査・検討結果の表現
6	小学校(教育施設)の設計(第6回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
7	小学校(教育施設)の設計(第7回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
8	小学校(教育施設)の設計(第8回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
9	小学校(教育施設)の設計(第9回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
10	小学校(教育施設)の設計(第10回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
11	小学校(教育施設)の設計(第11回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
12	小学校(教育施設)の設計(第12回)	・グループ別個別指導 ・成果発表会	成果物の制作 講評ポイントの整理、相互批評
13	展示計画1	成果物展示の検討	建築展示表現手法・展示レイアウトのレビュー
14	展示計画2	成果物展示の計画	建築展示表現手法・展示レイアウトの検討
15	展示講評会	展示に対する講評	口頭発表内容の検討 講評ポイントの整理、相互批評

関連科目
 設計演習系科目(建築基礎演習A、建築基礎演習B、建築設計製図A、建築設計製図B、建築設計演習B)および建築概論、建築計画基礎、建築計画各論、福祉すまい環境、都市・地域デザイン、建築情報処理基礎、建築情報処理応用ほか、専門科目全般が関連科目といえる。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	第4版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
3	初学者の建築講座 建築製図	大野隆司監修 瀬川康秀著	市ヶ谷出版社

評価方法(基準)
 エスキースにおける提出物(グループワークの成果を含む)における提案密度と内容(20%)
 成果物(平面図、立面図、断面図を含む)における完成度と技法および提案密度と内容(80%)

学生へのメッセージ
 単体としての建築のあり方のみならず、地域や社会との関係から、これからの建築に必要な条件を設定できるか否か、さらにその条件を建築化した空間の創造ができるか、がポイントです。また、ただ「やる」ではなく「やりきる」ことができるかどうか、もポイントです。

担当者の研究室等
 8号館3階 小林准教授室

備考
 事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。外部講師による課題に関連したショートレクチャーなどを行う場合があります。
 授業の進め方については、1回目授業時に説明します。

課題等はすべて返却します。他の解釈と比較考察を自分で行うことが重要です。

科目名	設計演習Ⅲb	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IIIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白須 寛規, 大谷 由紀子, 小野 龍人, 武田 憲人, 西井 洋介, 堀 賢太
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3072a0		

授業概要・目的	本演習では、まず自身のリサーチ対象を選定し、リサーチ手法ならびにその表現手法を学ぶ。次に、社会情勢を背景に課題を自ら発見し、建築の設計条件として設定した上で、建築によって解決する手法を修得する。全体を通じて、建築・都市空間に関するフィールドワークを行い、そこから課題や魅力を抽出した上で都市空間に対するオリジナルな視点での分析、提案を図面や模型で魅力的に表現し、的確にプレゼンテーションできるようにすることを目的とする。なお、本演習科目は建築実務経験を有する専任教員、非常勤講師により指導を行う。【SDGs-11】
到達目標	1) 大規模で複雑な内容の施設の総合的計画技術の修得、2) 課題抽出力の修得、3) 課題分析力と提案創出力の修得、4) 図面や模型、図表での表現力(プレゼンテーション力)の修得
授業方法と留意点	本演習は対面形式で行う。詳細については授業内で説明する。 指導方法は、少人数グループを一人の担当教員が指導するスタジオ制とする。
科目学習の効果(資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	リサーチ1	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など teamsにてオンライン授業	調査・図面・模型・図表作成
	2	リサーチ2	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	3	リサーチ3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	4	リサーチ4	・リサーチ課題の提出、講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	5	スタジオ1	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	6	スタジオ2	・グループ別個別指導など	表現手法・レイアウトの検討
	7	スタジオ3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	8	スタジオ4	・スタジオ課題の中間提出、講評	中間提出物作成
	9	スタジオ5	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	10	スタジオ6	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	11	スタジオ7	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	12	スタジオ8	・成果物の提出、講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	13	展示計画1	・成果物展示計画	展示手法・レイアウトの検討
	14	展示計画2	・成果物展示計画	展示手法・レイアウトの検討
15	展示講評会	・展示に対する講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。	

関連科目	建築基礎演習A及びB、建築設計製図A及びB、建築設計演習Aや、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集 第4版	日本建築学会編	丸善出版
	2	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
	3			

評価方法(基準)	提出物(エスキース課題)の評価 40%、提出図面(平面図、立面図、断面図を含む)の完成度と技法などの評価 60%で各課題毎に評価を行い総合 60%以上を合格とする。
----------	--

学生へのメッセージ	最後の設計演習です。建築学科での学習の集大成のひとつとして、意匠・構造・設備に関して学んだことをフィードバックして、課題に取り組むとともに、自身の成果物の見せ方(展示手法)について、建築の展示会等へ赴き、イメージを膨らませてください。また教員や仲間とのコミュニケーションや意見交換も積極的に行ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。 課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要である。
----	--

科目名	古典文学から学ぶ	科目名 (英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a2		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。現代の我々との対比により、違いだけでなく、共感も得ること。																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントによる講義。理解度を確認する復習テストを不定期に行います。理解できていない箇所は必ず見直しましょう。授業後、配布資料を必ず読んでおくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌1</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>恋歌2</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>恋歌3</td> <td>歌枕を用いた恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌</td> <td>友情や人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢・復習テスト 30%、レポート 70%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	<p>事後に配布資料を約1時間程度通読する。</p> <p>「質問はメールにて対応する」</p>																																																																		

科目名	日本語読解	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1440a1		

授業概要・目的	<p>日々、何を読んでいますか？ また、日々、何をしていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。</p> <p>語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。</p>
到達目標	<p>【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。</p> <p>【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。</p> <p>【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。</p>
授業方法と留意点	<p>◇毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進め、随時、語句チェックを通じて語彙力を磨きます。また最後にその日の授業を振り返って文章にまとめることを必須とします。</p> <p>◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組みすることで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。</p> <p>◇毎回提出する小レポートから、随時取り上げて公開添削し、表現の弱点をみがいていきます。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	エッセイ (1)	叙情的な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
2	エッセイ (2)	軽妙洒脱な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
3	エッセイ (3)	空想的な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
4	文語的な文章 (1)	古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
5	文語的な文章 (2)	古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
6	文語的な文章 (3)	古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
7	小説 (1)	近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
8	小説 (2)	現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
9	小説 (3)	翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
10	実用的な文章 (1)	手紙文を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
11	実用的な文章 (2)	ビジネス文書を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
12	実用的な文章 (3)	説明文を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
13	韻文 (1)	身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
14	韻文 (2)	短歌を身近なものとして「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着

				を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。
	15	韻文（3）	俳句を身近なものとして「読解」してみよう。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>◇講義ごとに小レポートを提出することで、出席とみなしますが、出席とみなせない回答状況のものについては、次回の課題で告知します。</p> <p>◇最終成績は、最終レポートの結果5割と、毎回の小レポートの回答状況5割とを合わせて判断します。</p> <p>◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ	「文章を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましよう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>◇提出された小レポートは、適宜抜粋して紹介していきます。</p> <p>◇事後学習として、授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。</p> <p>◇毎週水曜は3限からの授業なので、お昼休みは非常勤講師室に在室しています。</p>			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目 全ての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要説明 教科書「はじめに：文章で伝える」 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現についての全般的な説明	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」および「第1回：文章の書き方1」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現 文の作り方とつなぎ方、接続詞の意味	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことを適切に説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成・段落の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 文章を要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第8回：図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
11	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
12	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
13	教科書「第11回：レポートの書き方1」 教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 文章形式の意味と役割 分析・考察の目的・方法を考える レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」および「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる

	15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性) 等 (30%) により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。</p> <p>学生各自の自主・自律を重視する。</p>			

科目名	人間力と心理	科目名 (英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	連 傑 濤
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1402a1		

授業概要・目的	<p>【授業概要】 心理学は、人間の行動を理解し、予測することを究極的な目標としている。本授業は、これまでに得られた心理学的知見を学ぶことで、自己と他者、そして自分の周囲を取り巻く社会を科学的な視点から見直すことを目指している。これにより、学生の友人や教員との関係の変化に柔軟に対応できるような人間力を得て、他者と接する上での心のあり方やマナーなどの態度について改善されることも期待している。</p> <p>【授業目的】 本講義の目的は下記の3つである。 1) 心理学という学問に対する初歩的な理解ができるようにする。 2) 情報を捉えるメカニズムを理解できるようにする。 3) 自己を探究するための手がかりをつかめるようにする。</p>
到達目標	<p>本講義の具体的な到達目標として以下の3点を挙げる。 1) 「学問としての心理学」に触れ、通俗的な心理学への誤解を解く。 2) 心理学のいくつかの理論について説明が出来る。 3) 社会場面の現象を見て、心理学の理論で解釈が出来る。</p>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 講義方式で適宜資料を配布する。講義中には、視聴覚教材やデモンストレーションなども取り入れる。 心理学的知見を実際に体感するため、積極的に参加すること。 受講にあたって、教室では、座席指定制を導入する予定であり、配付資料に授業内容に関する重要キーワードの記入も必要となる場合がある。 <p>※授業中、Moodle や Teams にて小テストを実施する。</p>
科目学習の効果 (資格)	講義を通して自己理解・他者理解を深め、自分と社会との関わりを考えるきっかけを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、目的、内容、授業の進め方、授業のルール、評価基準について説明します。	身の回りで起きているさまざまなことについて心理学的に考える習慣をつけましょう。
2	心理学概論	心理学の歴史、発展、学派、研究対象、研究分野、研究方法等について概説します。	心理学に対するこれまでのイメージと比較しながら、新たに認識した心理学を考えましょう。教科書第1章を予習してください。
3	学習心理学	臨界期の概念、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、鏡映描写実験、社会的学習について解説します。	教科書第2章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
4	生理心理学	中枢神経系、末梢神経系、感情について解説します。	教科書第3章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
5	知覚心理学	知覚の体系化、知覚の恒常性、視覚、聴覚、触覚から認知へについて解説します。	教科書第4章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
6	認知心理学	注意、記憶、言語について解説します。	教科書第5章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
7	社会心理学 1-自分と他者のかかわり	自己、印象形成、ステレオタイプ、態度、原因帰属について解説します。	教科書第6章の前半を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
8	社会心理学 2-社会と集団テスト1	社会認知、集団行動、社会的排斥について解説します。授業内のテスト1を実施します。	教科書 1-6章を事前に復習してください。教科書第6章の後半を事前に予習してください。
9	パーソナリティ心理学	パーソナリティの測定、類型論、特性論、血液型とパーソナリティについて解説します。	教科書第7章と参考書「心理学」第10章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
10	臨床心理学-1	精神分析療法、クライアント中心療法、行動療法、認知行動療法について解説します。	教科書第8章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
11	臨床心理学-2	うつ病、不安症、統合失調症、発達障害について解説します。	参考書「よくわかる臨床心理学」p56-p80を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
12	発達心理学-1	生涯発達理論、乳幼児期から児童期までの養育、発達について解説します。	教科書第9章と参考書「心理学」第19章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
13	発達心理学-2	子どもの気質、愛着、発達の病理について解説します。	参考書「心理学」第20章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
14	神経心理学	脳の構造、失語症、失認症、失行症について解説します。	教科書第10章を事前に予習してください。ミニレポートにまとめましょう。
15	まとめとテスト2	授業全体のまとめを簡潔に復習してから従業内のテスト2します。	授業後、教科書およびこれまで配布したプリントに基づき、すべての内容を復習してください。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学入門	板口典弘、相馬花恵	講談社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆など	有斐閣

	2	よくわかる臨床心理学	下山晴彦	ミネルヴェテ書房
	3			
評価方法 (基準)	<p>【授業内小テスト】20% 【提出物：レポート】10% 【テスト1】30% 【テスト2】40% ※授業内テスト、レポートの提出物、テストの得点を総合し、到達目標の理解度によって合否を判定する。</p>			
学生への メッセージ	<p>心理学は、みなさんが想像しているよりもはるかに幅広い領域を扱っており、人間の社会生活の全てを研究対象としていると言っても過言ではありません。講義を通じ、自分を取り巻く社会と結びつけて考えることによって理解を深めてください。</p>			
担当者の 研究室等	<p>11号館6階 経営学部非常勤講師室</p>			
備考	<p>事前事後学習には、毎回1時間以上かけるようにしてください。 自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間かけるようにしてください。 遅刻、講義中の無断退出は他の受講者の迷惑にもなりますので厳に謹んでください。 授業中、質疑応答以外の私語が禁止です。</p>			

科目名	心理と社会	科目名 (英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	越川 陽介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1403a1		

授業概要・目的	本講義では、社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学びます。さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること、さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めることが身につくことが期待されます。
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行います。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行います。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行います。授業時に紹介する参考文献を参照し知識の定着を目指すことが望ましいです。
科目学習の効果 (資格)	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持っておくことが望ましい(1時間)。
2	新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2時間)。
3	未病とメンタルヘルス	本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。	未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2時間)。
4	メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2時間)。
5	睡眠とメンタルヘルス 1	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	1週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2時間)。
6	睡眠とメンタルヘルス 2	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2時間)。
7	組織と個人の心 1	本講義では、組織に生じる問題について精神的側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2時間)。
8	組織と個人の心 2	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2時間)。
9	モンスターペアレントやクレマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
10	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいるとしたら、という視点で考えておくことが望ましい(2時間)。
11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2時間)。
12	SNS (ソーシャルネットワークサービス) について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
13	ロボット (AI) の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット (AI) の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを調べておくことが望ましい(2時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2時間)。

関連科目 臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 出席が 8 割以上の者を評価の対象とする。その上で、定期試験 40%、毎回の小テスト 30%、授業態度としての授業への反応状況 30%の配分で総合的に評価を行う。

学生へのメッセージ 心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。

担当者の 11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none">・質問は、メールにてお願いします。・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしています。

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2404a1		

授業概要・目的

この授業では、先人たちが培ってきたものづくりを支えている日本の思想を知り、科学技術のこれからを考えます。産業革命後の科学技術の急速な進歩は、ひとを過大な労働から解放し、民主的な社会をつくりだすのに貢献しました。しかし、豊かさの飽くなき追求は、地球の平均気温の上昇とこれに伴う異常気象の多発を生み、人類の生の条件を脅かすまでになっています。そうしたなか、地球温暖化対策の国際合意であるパリ協定は、自然と調和した技術へのシフトを促す追い風となっています。

現在、戦争がハイテク化し、日本の家電製品に使われる部品が軍事用ドローンに転用されるなど、人を幸せにするための技術が破壊をもたらす事態も報道されています。技術は、価値中立的な人工物ではなく、社会のありかたによって、脅威にもなりうるのです。

古来から近世に至る日本社会では、ひとと自然との調和を目指し、生命を慈しむ考え方が主流でした。古代から近世にかけての土木技術や建築は、日本列島の気候や地形、自然環境を生かすようにして発展した例と言えるでしょう。そうすると、古代から現代にいたる自然観を知ることも、これからの科学技術のあり方を考えるうえで、一つのヒントになりそうです。

ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について、学んでいきましょう。

到達目標

日本社会における自然観・技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。

授業方法と留意点

講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。

科目学習の効果 (資格)

日本の思想から、現代のSDGsに通じる自然との共生を学ぶ。
日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに：技術は戦争によって発展したか？	授業説明と導入。科学技術が民主主義と平和の構築に貢献することを知る。	予習 高校の地理または歴史を復習しておくこと。SDGsについて調べ、「土木学会倫理綱領」を読んでおく。
2	日本史のなかの技術と思想：古代から中世へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習 古代から近世にかけての世界史・日本史、高校地理を復習しておく。
3	日本史のなかの技術と思想：近世から近代へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習 近代までの日本の歴史を見ておく。
4	日本史のなかの技術と思想：公害問題と科学技術	4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメントについて学ぶ。	予習：4大公害訴訟について調べる。
5	日本の風土が生んだ思想：日本の伝統建築と里山	日本建築と里山で培われてきた共生の思想を学ぶ。	予習 西岡常一『木に学べ』(小学館文庫)を読んでおく。
6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習 映画『もののけ姫』(スタジオジブリ、1997) または『千と千尋の神隠し』(スタジオジブリ、2001)を観ておく。
7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習 『歎異抄』現代語訳(長久寺のサイト http://www.yamadera.info/seiten/c2/tannisho_j.htm)を読んでおく。
8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学の伝統	日本の組織倫理のルーツとなった儒学の影響を知る。	予習 『論語』の抜粋を読んでおく。
9	日本の組織倫理を支える思想：武士道と町衆の思想	江戸期の多様な思想を知る。	予習 戦国時代から江戸時代の歴史を復習しておく。
10	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想を知る。	予習 青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html)を読んでおく。
11	日本の環境思想：南方熊楠と田中正造	日本社会における共生の思想を知る。	予習 青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』(http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html)と、テキストにある南方熊楠『トーテムと命名』を読んでおく。
12	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係を考察する。	予習 高校地理の気候について復習しておく。日本建築の特徴を調べる。
13	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習 岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。
14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美とものづくりを支える思想を知る。	予習 青空文庫にある柳宗悦『工藝の道』(https://www.aozora.gr.jp/cards/001520/files/54957_54058.html)を読んでおく。
15	まとめ：持続可能な社会と科学技術	環境アセスメントを手がかりに市民感覚を持った技術者のあり方を考える。	予習 日本技術士会「技術者倫理綱領」および日本土木学会「倫理綱領」を読むこと。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf
2	土木学会倫理綱領	公益社団法人 日本土木学会	http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫
	2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫
	3	技術の街道をゆく	畑村洋太郎	岩波新書
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%、提出物 20%、平常点 20%の割合で総合的に評価する。</p> <p>提出物については、提出後、評価基準について説明し、全体的な講評を行う。なお、一定の基準に満たない場合は再提出を命じることがある。</p> <p>平常点については、グループディスカッションへの参加度および毎回提出するミニレポートで評価する。</p> <p>なお、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p> <p>授業中に一時退出した場合、受講態度の評価の対象とせず、欠席として扱う。</p>			
学生への メッセージ	<p>日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。</p> <p>遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。</p> <p>質問などがある場合は、授業後、または非常勤講師室で対応します(水曜日 12:45~13:10)。</p>			

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2404a1		

授業概要・目的	<p>働くことは人生の時間の大半を占める、と言っても決して過言ではない。本講義のテーマは「仕事と人生」であり、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、日本思想史にあらわれる〈生き方の思想〉を学ぶことを通じて、「仕事とは何か」の理解を深めることを目指す。本講義で学ぶことによって、「天」や「道」の思想を知ることができるとともに、社会へ出て働くことに向けた心構えが鍛えられるだろう。</p> <p>職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点—このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>以下の項目の理解を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋思想と職業倫理 2. 日本思想と職業倫理 3. 民芸および〈ものづくり〉にかんする倫理 4. 職業と人生の本質的な関係 																																																																		
授業方法と留意点	<p>ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。なお、小テストおよびコメントカードについては、提出した次の回にリアクションや解答をフィードバックする。</p> <p>授業の予習・復習はそれぞれ1時間程度行うこと。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>日本 (広くは東洋) の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>準備 (1)</td> <td>古代中国の思想と職業倫理</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>準備 (2)</td> <td>古代インドの思想と職業倫理</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>古代日本の思想 (1)</td> <td>神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>古代日本の思想 (2)</td> <td>仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中世日本の思想 (1)</td> <td>日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中世日本の思想 (2)</td> <td>日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近世日本の思想 (1)</td> <td>朱子学—〈働くこと〉と「孝」</td> <td>予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近世の日本の思想 (2)</td> <td>古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統</td> <td>予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近世の日本の思想 (3)</td> <td>国学—〈働くこと〉と惟神の道</td> <td>予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近代の日本の思想 (1)</td> <td>福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと</td> <td>予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近代の日本の思想 (2)</td> <td>柳宗悦—〈働くこと〉と民芸</td> <td>予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近代の日本の思想 (3)</td> <td>西田幾多郎—〈働くこと〉と自我</td> <td>予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近代の日本の思想 (4)</td> <td>和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理</td> <td>予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)	2	準備 (1)	古代中国の思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	3	準備 (2)	古代インドの思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	4	古代日本の思想 (1)	神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	5	古代日本の思想 (2)	仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	6	中世日本の思想 (1)	日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	7	中世日本の思想 (2)	日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	8	近世日本の思想 (1)	朱子学—〈働くこと〉と「孝」	予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)	9	近世の日本の思想 (2)	古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統	予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)	10	近世の日本の思想 (3)	国学—〈働くこと〉と惟神の道	予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)	11	近代の日本の思想 (1)	福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと	予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)	12	近代の日本の思想 (2)	柳宗悦—〈働くこと〉と民芸	予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)	13	近代の日本の思想 (3)	西田幾多郎—〈働くこと〉と自我	予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)	14	近代の日本の思想 (4)	和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理	予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)																																																																
2	準備 (1)	古代中国の思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
3	準備 (2)	古代インドの思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
4	古代日本の思想 (1)	神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
5	古代日本の思想 (2)	仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
6	中世日本の思想 (1)	日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
7	中世日本の思想 (2)	日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
8	近世日本の思想 (1)	朱子学—〈働くこと〉と「孝」	予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)																																																																
9	近世の日本の思想 (2)	古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統	予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)																																																																
10	近世の日本の思想 (3)	国学—〈働くこと〉と惟神の道	予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)																																																																
11	近代の日本の思想 (1)	福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと	予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)																																																																
12	近代の日本の思想 (2)	柳宗悦—〈働くこと〉と民芸	予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)																																																																
13	近代の日本の思想 (3)	西田幾多郎—〈働くこと〉と自我	予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)																																																																
14	近代の日本の思想 (4)	和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理	予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。評価の仕方は次のとおり。</p> <p>最終レポート60%、授業態度40%の割合で採点する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。また、漫然と講義を受けるだけでなく、シラバスを参照し授業の予習・復習を行ないましょう (それぞれ1時間程度)。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	<p>予習 (事前学習)・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																																																																		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2405a1		

授業概要・目的	<p>この授業では、現代の社会を支える考え方のルーツとなっている哲学・思想の学説から、ものごとを多角的に捉える視点を学びます。人間は、これまで便利さや快適さを求めて技術を発展させてきました。新型コロナの感染拡大のなかで IT 技術が必要不可欠なインフラになったことが示すように、人間の生活を根底から変える出来事が発生したとき、人間は、技術の力で新たな世界を切り開こうとします。しかし、近年の戦争から見えてくるのは、ひとを幸福にするための技術がひとの生存を脅かす技術にもなりうるという現実です。技術は、ひとを隷属状態から解放し民主的な社会をつくるのに貢献してきたのですが、社会のありようによって人類への脅威にもなります。哲学は、存在とは何か、なかでも自己と世界の存在について、根源的に問う知の営みです。古代ギリシャの人々は、圧倒的な自然の力に驚くとともに自然の変化を観察し、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。これは、「わたし」とは何か、「よき生」とは何かという問いに発展します。人間社会のなかで科学技術が発達しようとも、人間は、有限な存在でありほかのひととともに生きる存在であることは変わりません。だからこそ、長い時間のなかで哲学が議論し続けてきた問いは、今なお私たちにとってもアクチュアルな問いであり続けるのです。ここでは、私たちの身近な問題と重ね合わせながら、「よく生きる」こととはどういうことなのか、技術は社会のありかたとどのように関わっているのか、考えていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学の歴史と学説を知り、事象について多様な見方が成立することを知る。 ・哲学の思考形式を理解し、論理的に思考できる。 ・毎回のミニレポート課題を通じて、短時間で自分の考えをまとめることができる。
授業方法と留意点	<p>講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。毎回提出するミニレポートについては授業で全体的なコメントを行います。授業最後に提示するミニレポートのテーマは次回の授業内容に関わるものですので、ミニレポートを提出したあとも自分で考え、できれば関連する文献を読んでみてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、思考の多様性を知り、物事について多角的に把握する視点を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに:戦争のなかの科学技術	授業説明と導入。ひととのつながり、技術と思想の関係について、考える。	予習 中学校・高校で学んだ世界史の流れをざっと復習しておく。
	2	哲学のはじまり:タレスとデモクリトス	古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。	予習 「原子論」の歴史について調べる。
	3	「知への愛」とは何か:『饗宴』と『ソクラテスの弁明』から見えてくること	「知る」とはどのようなことなのか、考えてみよう。	予習 アテナイとスパルタ、できれば古代ギリシャの都市におけるアゴラと神殿の場所についても、調べておく。
	4	自然には目的があるか?:アリストテレス『自然学』	プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が 1000 年以上支配的だったのか、考える。	予習 アレクサンドロス大王について調べる。
	5	宇宙の秩序のなかにある人間にとって運命とは:ストア主義	ストア主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習し、ローマ期の都市計画について調べておく。
	6	宗教のなかの自然:ユダヤ教・キリスト教・イスラム教	宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。
	7	現在でしか生きられない人間にとっての未来とは:アウグスティヌス『告白』	アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。	予習 プラトンのイデア論を復習しておく。
	8	近代自然科学の方法と哲学:デカルト『方法序説』	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。	予習 「科学革命」という言葉を調べておく。
	9	神即自然とモノド:スピノザとライブニッツ	スピノザの神即自然とライブニッツのモノドから、世界を一つの有機的な全体とみる思想を知る。	予習:17 世紀オランダの歴史を調べ、フェルメールの絵(「天文学者」「地理学者」)を見て、描かれた情報を探しておく。
	10	経験だけが人間の知識をつくる:ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。
	11	人はなぜ戦争をするのか?:カント『永遠平和のために』を読む	カントの尊厳と永遠平和の定義について理解する。	予習 18 世紀のヨーロッパの政情について調べておく。
	12	人間の疎外とは何か:マルクス『経済学哲学草稿』	産業革命により消費社会が実現したが、これにより人間を自分自身と自然からの疎外が誕生したことを理解する。	予習 産業革命について調べておく。
	13	人間は自ら本質をつくる存在である:フランス実存主義	実存主義における自由の概念がエンバワメントに関わることを理解する。	予習 キルケゴールとユーゲン・シュティール様式の建築について調べておく。
	14	思考の停止が危険な理由とは:アレント『イエルサレムのアイヒマン』	自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。	予習 20 世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。
	15	まとめ:持続可能な社会と科学技術	ひとの「よき生」を目指す科学技術のあり方を考える。	予習 日本技術士会『技術士倫理綱領』くおよみ、技術者の説明責任について考えておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>反哲学入門</td> <td>木田元</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
1																	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 (2 回) 20%、ミニレポート (毎回提出) 20% の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	<p>抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、わからない点については質問してください。</p> <p>こんなふうと考えたらどうだろう? という質問も歓迎します。</p> <p>なお、遅刻、途中退席はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、当日のミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (水曜日 12:45~13:10)			
備考	<p>予習・復習にはそれぞれ 1 時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には 30 時間以上かけるように。</p> <p>中間課題 (試験前の学習を含みます) については再提出となることがあります。その場合には訂正して提出すること。</p> <p>課題やレポートについては、内容を振り返り、再度考察するようにしてください。</p>			

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	THU2405a1		

授業概要・目的	<p>古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれているように、哲学はあらゆる学問の根源にあるものです。たとえば、古典力学の創始者とされるニュートンが生きた時代に科学者ということばはなく、当時、彼は自然哲学者と呼ばれていました。現在、私たちが使っている科学ということばが登場するのは19世紀に入ってからで、英国の哲学者ウィリアム・ヒューウェルが「科学者 (scientist)」ということばを造語として使ったのきっかけだとされています。</p> <p>また、哲学はものごとの原因を探り、それを根本から問い直し、考える学問です。自然現象、社会現象、政治、経済、人間関係、あるいはコミュニケーションの背後にどのような原理が働いていてどのような原因があるのかを探ることもまた哲学の考察する対象です。</p> <p>この授業では根源的な学問としての哲学の深みに触れながら、私たちの生活、文化、社会を見つめ直し、ものごとの〈本質〉を見極めるために必要な知識や態度を身につけることを目指します。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 社会の課題、問題を自ら発見できる (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する
2	哲学的に考える	ものごとを哲学的に考えるとはどういうことなのでしょうか。世の中にはいろいろな意見があるでしょうが、そうした意見のひとつとして、今回は「常識にとらわれないこと」について考えます。そもそも常識とは何なのか、そしてそれにとらわれないとはどういうことなのか、社会のなかにある具体的な事例をもとに学修します。	事前学習：「タレス」「始源 (アルケー)」について図書館の参考資料 (『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など) で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
3	哲学のはじまり	世界で最初の哲学者はタレスであると言われていました。哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあるとされています。 今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。	事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。
4	認識論	私たちが何かを認識するというのはどういうことなのでしょうか。また、私たちが何かを認識する前にそれを知覚するというのはどういうことなのでしょうか。そもそも私たちは本当に対象そのものを知覚したり認識したりできているのでしょうか。 たとえば、私が見ている黒板の緑色とあなたが見ている黒板の緑色が同じように見え同じように経験されているとい	事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)
			事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)

		うのを私たちはどのようにして確かめることができるでしょう。真正面から見たときのホワイトボードの白さとほぼ真横から同じホワイトボードを見たときの白さは同じでしょうか。もし対象を見	
5	知識論	<p>そもそも知識とは何でしょう。私たちの経験から何らかの知識が生み出されるのだとするならば、私たちはそれをどのようにして人に伝え、どのようにして記録し、どのようにして後世に伝えているのでしょうか。ことばを話し、絵を描き、音楽を歌い、踊りを踊ることもコミュニケーションの手段であり、知識や情報を伝達する手段です。</p> <p>インターネットや SNS はそうした知識や情報のネットワークを広げシステム化していく速度を飛躍的に伸ばしましたし、大規模言語モデル (LLM) を基礎とした対話型 AI の登場はさらにそれを加速化させると考えら</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	正義とは何か？	<p>私たちの社会ではさまざまな〈正義感〉がぶつかりあっています。ある者が正義と呼ぶものを別の者が不正義と呼び、対立することがしばしばあります。いったい正義とは何なのでしょう。今回の授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、ジョン・ロールズの『正義論』を手がかりに、正義の基本的な概念について学修します。</p>	<p>事前学習：「正義」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された</p>
7	中庸の徳について	<p>主要な徳のひとつにかぞえられる勇氣は、その気質が強すぎると向こう見ずや無鉄砲となり、徳ではなくなってしまいます。逆にその気質が弱すぎると、今度は臆病となり、やはりこれも徳ではなくなってしまいます。勇氣という徳は、向こう見ずと臆病とのあいだ、すなわち中庸にこそあり、その他の徳も同様に、過剰なもの不足しているものとの中庸にあるというのがアリストテレスの徳についての考え方です。</p> <p>このことは私たちの生活のなかからも実感できるかもしれません。今回の授業では、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中</p>	<p>事前学習：「中庸の徳」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席すること。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出され</p>
8	中間のふり返り	<p>これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどについて質問する時間も設けます。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	幸福論	<p>あなたにとって幸福とは何でしょう。あなたはどんなときに幸福を感じるでしょうか。</p> <p>ところで、私たちは誰しも幸福になる権利や資格があるのでしょうか。もしそうだとすると、私たちは同じ社会あるいは同じ地球上に暮らす不幸な人たちに対してどのような義務や責任を負っているのでしょうか。</p> <p>この授業では、以上のようなことを手がかりに幸福論について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	生の短さについて	<p>セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。</p>	<p>事前学習：セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p>

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれたものであり、散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節に目を通しながら、その深みに触れます。この作業を通じて人文知のあり方をあらためて考えます。		事前学習：パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう(授業の中で紹介してもらいます)。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	ブッダの思想	今回の授業では東洋の思想に目を向けます。ソクラテスとブッダはちょうど同じ頃に生きていたとされています。ブッダの思想はどのようなものなのか、古代ギリシア時代の哲学者の思想と比較しながら学修します。		事前学習：ブッダの思想について調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
13	科学と哲学	科学(と翻訳されるものになっている英語の science)ということばが作られたのは、19世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていました。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。 今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・		事前学習：科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
14	現代社会の諸問題	これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。その上で、私たちがいま古人の教えから何を学ぶことができるのか考えます。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。		事前学習：これまでの授業をふり返り、不明な点などを書き出しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分) 事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)

関連科目	実践の思想			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内課題 (リフレクション課題) 15%、中間レポート 30%、期末レポート 55%で評価する。ただし、出席率が 80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。 7号館2階 非常勤講師室 メールアドレス : xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	授業内課題 (リフレクションシート)、授業に関連する課題調査、中間レポートについては、必要に応じて授業内あるいはポータルサイトを通じてフィードバックがある。

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	織田 康孝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2406a1		

授業概要・目的	現在、世界は非常に複雑な情勢となっており、日々新たな出来事が起きている。連日、テレビや新聞等でそれらを見聞きすることが多いと思うが、私たちは本当にそれらを理解できているだろうか。また、理解はしているがある一方からの考えで理解しているのではないだろうか。過去があるからこそ今があるというように、現代起っている出来事には必ず原因、つまり歴史がある。 そこで、本講義では、現代に起っている出来事を理解するため、また、それらを様々な角度からみる目を養うために近代日本の歴史、とりわけ、近代日本が行った戦争を事例としてその軌跡を辿っていく。そのうえで、近年の地域間紛争や民族紛争、国際紛争について、その要因と国際社会に与える影響について考える。受講生がそれぞれ解決の糸口を多角的に検討できるようになることを本講義の目的とする。
到達目標	本講義を通じて、近代日本が辿った歴史の基礎知識を身につけることはもちろんのこと、様々な視点から物事を考える能力を養うことが可能となる。加えて、これら歴史上の事象と、現代の国際社会において紛争、飢餓、経済、人種、宗教を起因として発生する様々な問題の背景にある諸条件とを比較検討することによって、現代社会が持つ問題の特質について考察する。
授業方法と留意点	本講義では、教科書等は必要なく、レジュメを配布いたします。また、講義内においてその回に関連する参考書を適宜紹介していきます。講義の最後には、小レポート (200 字程度) を提出してもらいます。小レポートの提出が講義への出席となり、その内容が授業態度の評価基準となります。講義後に提出して頂いたレポートに関しましては、その中からいくつかをピックアップし、次週の授業の冒頭にてコメントします。なお、事前学習の際は、参考書に挙げている『詳説日本史：日本史 B』および『詳説世界史：世界史 B』にて学修してください。
科目学習の効果 (資格)	歴史を論理的に考えることで、現在起っている事象をも論理的に理解できるようになり、かつ、講義後における 200 字程度の小レポートを提出することにより学習したことおよび自らの思考をアウトプット出来る能力を養うことができよう。また、講義で学ぶ多様な立場や価値観、視角を理解することで、現代社会に発生している民族間対立や宗教間対立について、知見に基づき客観的に分析することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	歴史とは何かを考える。授業の方針・全体計画・評価方法について説明する。	みなさんにとって歴史とは何かを考えてください。
2	近代日本の誕生	王政復古や戊辰戦争を通じて近代日本の誕生を考える。	予習として、王政復古や戊辰戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
3	近代日本と軍事	徴兵制などを通じて日本が軍事大国となる原点を辿る。	予習として、徴兵制に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
4	日本と清国	「朝鮮」をめぐる日本と清国の関係をみていく。	予習として、日清戦争以前の日本と清国との関係に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
5	日清戦争	山県有朋の「主権線」・「利益線」などを通じて日清戦争がなぜ起こったのか、また、下関条約による領土拡大を考える。さらに、日清戦争の裏で行われていた魚釣諸島領有問題についてもみていく。	予習として、日清戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
6	日露戦争	三国干渉や日英同盟を通じて日露戦争を考える。また、ポーツマス条約をみることで現在に繋がるロシアとの領土問題について考える。さらに、本戦争と竹島の関係についてもみていく。	予習として、日露戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
7	第一次世界大戦①	民族自決、ワシントン体制を軸に第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考える。	予習として、第一次世界大戦勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
8	第一次世界大戦②	帝国国防方針および総力戦体制論をキーワードに第一次世界大戦が日本に与えた衝撃を考える。	予習として、帝国国防方針と総力戦体制論に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
9	満洲事変	満洲事変とはなにか、また、同事変の目的はいかなるものであったのか。	予習として、満洲事変に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
10	日本の植民地統治	傀儡をキーワードに日本の植民地政策の特質を捉える。	予習として、満洲国や汪兆銘政権に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
11	日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦	日中戦争解決の糸口はどこにあるのか？当時の為政者は何を考えていたのかをみていく。	予習として、日中戦争勃発経緯やアジア・太平洋戦争勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
12	「大東亜共栄圏」構想の形成と展開	「大東亜共栄圏」構想の起源を辿り、同構想がいかに展開したのか、また、日本の各占領地にいかに波及したのかを考える。	予習として、「大東亜共栄圏」に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
13	大東亜会議	大東亜会議とはなにか、また、なにを目的に開催されたのかを考える。	予習として、大東亜会議・重光葵に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
14	帝国日本の解体	帝国日本は単に戦争に負けたから解体したのか。東南アジア占領や「独立」問題などを絡めて帝国日本の解体を考える。また、帝国日本解体後の問題となる日本領土についても考えていく。	予習として、東条英機内閣・小磯国昭内閣・鈴木貫太郎内閣に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
15	現代日本を取り巻く諸問題	東北アジアの領土問題 (竹島=独島、尖閣=釣魚諸島問題、北方四島) など現代日本を取り巻く諸問題に関して考える。	予習として、東北アジアの領土問題について教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	詳説日本史：日本史 B	笹山晴生ほか	山川出版社
	2	詳説世界史：世界史 B	木村靖二ほか	山川出版社
	3			
評価方法 (基準)	試験 80%、小レポート (授業態度) 20%			
学生への メッセージ	<p>授業タイトルにもあるように「歴史に学ぶ」ことは非常に大切なことです。周知の通り、過去があるから今があります！現代で起きている事象には必ず歴史があり、それらを理解するためには歴史をみる必要があります。</p> <p>高校生までの暗記科目としての歴史ではなく、歴史をさまざまな角度からみることを、考えることで今私たちが生きている現代をみる目も変わってくるはずです。悲しい事に、現在では、ロシアとウクライナの間で戦争が勃発しています。今後戦争被害が拡大しないよう我われ一人一人が考え、少しでもいい方向に向かえるよう行動していきまし</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	<p>予習・復習にあてる総時間の目安は 60 時間程度とします。なお、授業での質問等がある場合は、メールにてご連絡ください。</p> <p>なお、提出いただいた小レポートの内容については次回の授業内において解説を行います。</p>			

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2406a1		

授業概要・目的	私が専門とするヨーロッパの歴史を、皆さんが専門とする理工系の学問（機械・建築・化学）から、見直してみようという講義です。慣れないことだが自分の視野を広げるためのチャレンジという点では、理工学部の皆さんが文系学問を学ぶのは同じように、私にとっても一種のチャレンジです。なお歴史（の学び）とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません（もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが）。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です（異文化理解≡自文化理解）。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。
授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り（プリントにメモして）、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。（この授業では出席を取らないから）第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない（なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱い）
科目学習の効果（資格）	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／手で食べる文化は劣っている？／知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか？／乳幼児のおよそ半分が死んでしまう／戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心／就活や通勤がない世界／家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事／恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」／Love is blind（恋は盲目）	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢／男尊女卑になる社会構造／それでも、勝ち負けははっきりした結婚（または人生）などない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	6	機械・建築・自然学から見る西洋史	現在の機械工学・建築学・化学は、近代ヨーロッパで確立した／近代の機械、例えばエンジン／近代の建築、例えば鉄筋コンクリート	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	7	機械・建築・自然学から見る西洋史	近代の化学、例えば原子説や周期表／しかし、近代に突然始まったわけではない／「タコツボ化」とか「専門バカ」に陥らないために	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	8	機械から見た古代	すべての機械の母、水車／現代のエンジンにも使われている仕組み／ポンプもネジも自動ドアも、古代の時点で発明されていた	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	9	機械から見た古代	発明だけで世の中（歴史や社会）は変わらない／発明には向いていたが、普及には向いていなかった古代社会／民主政治と奴隷制度のセット	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	10	機械から見た古代	「学校」の語源は「余暇」／史上もっとも奴隷制度が発展した社会／水車（水力機械）が普及したのは次の時代、中世	プリントの読み返しと先読み
	11	建築から見た中世	古代には石造建築も発展していた／しかし、古代の終わりと共に、いったん消滅する／ある種の「文明崩壊後の世界」、中世	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	12	建築から見た中世	中世ヨーロッパの城も、最初は木造だった／社会が変わると、建築も変わる／石造建築を守ったキリスト教	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	13	建築から見た中世	古代を超えた石造建築、中世の大聖堂／大聖堂建築が挑戦した、明るさと高さのジレンマ／大聖堂を通して、建築家のステータスが上がった	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	14	自然学から見た近世	自然の研究は、もともと宗教や魔術と一体だった／眼鏡を生んだキリスト教への信仰／唯一神が世界を創ったから自然には法則があるのだ、という確信	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
	15	自然学から見た近世	宇宙の研究を発展させたのは星占い／化学・医学と一体だった錬金術／近世の哲学が、科学を宗教・魔術から切り離した	プリントの読み返し／レスポンス・ペーパー
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。			

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質 (QOL) を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。 本授業では、健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
到達目標	健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 必要な箇所を自らのノートに記入してください。 もしくは、授業資料を印刷して、書き込んでください。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知る。	・授業資料にて確認をすること
3	生活習慣病と3大疾病、心の健康①	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
4	生活習慣病と3大疾病、心の健康②	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
5	身体のしくみ①	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
6	身体のしくみ②	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
7	健康と運動	・運動処方と実践の方法を理解する。 ・生涯スポーツについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知る。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶ。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインについて理解する。 ・薬物について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
11	ドーピングについて	・ドーピングについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
12	運動指導について	・コーチング方法について	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
13	緊急時の応急手当てや対応について	・緊急時の応急手当てについて理解する。 ・水難事故などの対応について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
14	まとめ①	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
15	まとめ②	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験：60% 受講態度、提出物等：40% 合計点が60点以上で合格
-----------	---

学生へのメッセージ	健康に過ごすための基礎的な知識と理解を深めるための授業です。 様々な観点から健康なからだをつくるためには何が必要かを学んでいきましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、30時間を目安とします。

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	人生 100 年時代といわれる現代社会において、豊かで健康な生活を送ることが重要であるとされています。スポーツと健康についての知識を身につけ、正しい情報を選択し実践していくことが重要です。本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を図るための知識を学びます。
到達目標	①現代社会における健康問題について理解することができる。 ②健康に関する情報において取捨選択する力を養い、健康に対して自らの考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。 ④身近な社会問題について主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。 議題についてディスカッションを行ったり、自らの意見を発表する機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	健康の維持・増進に関する知識が身につく、受講者が自らの健康を管理できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点、課題・評価などについての説明する。	なし
2	現代社会と健康問題	健康の定義と平均寿命・健康寿命などの現代社会が抱える健康問題について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
3	運動習慣が体に及ぼす影響	体を動かすことによる健康に対する効果や意義などを学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
4	生活習慣病①	現代社会における生活習慣病について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
5	生活習慣病②	現代における生活習慣病のそれぞれの症状や予防方法について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
6	食事と健康	健康な食生活を形成するための基礎知識を学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
7	睡眠と健康	睡眠が身体に及ぼす影響について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
8	健康づくりのための運動基準	健康づくりに対して国が定めた制度、運動基準について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
9	自身の健康チェック (適切な体重と食生活)	適切な体重について理解する。 健康に良い食生活について考える。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツにおけるトレーニングの原理・原則について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
11	体力の定義 体力と健康の関係	体力と健康との関係について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
12	有酸素運動の効果と実践	有酸素トレーニングが健康に及ぼす効果について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
13	スポーツと社会①	スポーツが社会に与える影響(社会貢献や経済効果)について考える。 (講義・グループディスカッション)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
14	スポーツと社会②	スポーツが社会に与える影響(社会貢献や経済効果)について、グループでまとめて発表する。 (発表)	事前:発表準備をする(1時間以上) 事後:他者の発表した内容をまとめる(1時間以上)
15	スポーツと健康のまとめ	授業のまとめ 持続可能な社会の実現のためにスポーツと健康がどのように関わることができるかを考える。(レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:スポーツと健康の講義で学んだことを復習し、実践する。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業態度、小レポート 50%、レポート 30%、グループワーク、発表内容など 20%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	質問等がある場合はメールにてご連絡下さい。 また、直接話したい場合には総合体育館内にある竹澤研究室あるいはスポーツ振興センターにお越しください。		
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階		
備考	授業の進捗や理解度によって授業テーマの順序を入れ替える、または変更する場合があります。 学習効果を高めるため、時事問題を授業内容に加えることがあります。 初めのガイダンスには必ず出席すること。 欠席を 4 回以上した際の単位取得は認めない。		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治, 今浦 千信
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1448a1		

授業概要・目的
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
SDGs-3、4、5

到達目標
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

授業方法と留意点
実技形式で行う。
開講種目は、以下のとおりである。
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生へのメッセージ
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治, 今浦 千信
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1449a1		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前: 授業概要・目的などを学習する (30分) 事後: 本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前: 基礎知識を学習しておく (30分) 事後: 新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前: ルールについて学習しておく (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前: 基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム ・2年次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2年次ガイダンス等を行う	事前: ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後: 全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業: 活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤, 河瀬 泰治, 瀬川 智広, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TPH1450a1		

授業概要・目的	<p>スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3, 4, 5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。</p>																																																																		
授業方法及び留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) <p>※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。</p> <p>※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム ・授業アンケート等</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	<p>生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実践と理論、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実践、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実践</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		

学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤, 河瀬 泰治, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1450a1		

授業概要・目的
 スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。
 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
 SDGs-3, 4, 5

到達目標
 この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点
 実技形式で行う。
 開講種目は、以下のとおりである。
 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)
 ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)
 ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。
 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。
 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

科目学習の効果 (資格)
 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

関連科目
 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%
 ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1450a1		

授業概要・目的
 ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的とする。
 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。
 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。
 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。
 SDGs-3, 4, 5

到達目標
 ①健康の保持増進ができる
 ②運動技能を向上させることができる
 ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる
 ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる
 学科の学習・教育目標との対応：[A]
 (DP1)

授業方法と留意点
 事前ガイダンス (90分) と集中授業4日間 (午前、午後、最終日は午後のみ) 合わせて5日間で行う。
 日程は、事前ガイダンス (詳細はポータルで連絡)、9月9日 (月) ~12日 (木)
 5日間すべて受講できること。
 事前の申し込みが受け付けられることが必要。
 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。

科目学習の効果 (資格)
 ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。
 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認 (1時間)
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認 (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
3	ゴルフの基礎技術 (1)	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
4	ゴルフの基礎技術 (2)	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
5	ゴルフの基礎技術 (3)	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 (1時間)
6	ゴルフの応用技術 (1)	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 (1時間)
7	ゴルフの応用技術 (2)	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
8	ゴルフの実践	ラウンド (9H)	事前：ラウンドのイメージトレーニング (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目 スポーツ科学実習 I, II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 活動点 (態度点含む) 50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。

学生へのメッセージ 履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。
 事前ガイダンスは7月に行う予定です。ガイダンスの連絡はポータルを通して行います。

担当者の研究室等 総合体育館1階

備考 ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス (半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴 (スパイク類は禁止)

	<p>ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。シューズは運動に適したものかスニーカーで大丈夫です。</p> <p>雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。</p> <p>本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にな</p>
--	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1427c1		

授業概要・目的	Students will develop skills in all areas of basic English, with a particular focus on vocabulary building, listening, and speaking.
到達目標	The main goal of the course is to gain a working knowledge of basic English and demonstrate good use of it in class.
授業方法と留意点	Students are expected to speak English in class. Students will have opportunities to build knowledge of vocabulary and grammar and use it in class activities.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Preview/ review course introduction Get textbooks 単語学習範囲:0001-0037
	2	Unit 1 - Speaking About Yourself	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:0038-0076
	3	Unit 1 - Speaking about yourself	Speaking focus	Preview/ review 単語学習範囲:0077-0116
	4	Unit 2 - What do you do?	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Presentation 1 Topic choice 単語学習範囲:0117-0154
	5	Unit 2 - What do you do?	Speaking focus	Preview/ review Presentation 1 Research 単語学習範囲:0155-0191
	6	Unit 3 - What does he look like?	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:0192-0228
	7	Unit 3 - What does he look like?	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 1 単語学習範囲:0229-0265
	8	Test 1	Brief review and test	Preview/ review Presentation 1 Worksheet Practice presentation 単語学習範囲:0266-0302
	9	Presentation 1	Sharing presentations groups	Preview/ review 単語学習範囲:0303-0339
	10	Unit 4 - Where are you from?	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Presentation 2 Topic choice 単語学習範囲:0340-0377
	11	Unit 4 - Where are you from?	Speaking focus	Preview/ review Presentation 1 Research 単語学習範囲:0378-0413
	12	Unit 5 - Likes and dislikes	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:0414-0438
	13	Unit 5 - Likes and dislikes	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 2
	14	Test 2	Brief review and test	Preview/ review Presentation 2 Worksheet Practice presentation
	15	Presentation 2	Sharing presentations in groups	Optional course review

関連科目	基礎英語 II a 他の英語関係科目
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan' Un-Do
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	Nishiya	Seibido
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト (2): 20% E-learning assignments (学習の進捗度): 20% Speaking and listening tests (2) 40% Brief Presentations (2) 10% Active participation 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	Regular attendance, participation in lessons, and completing homework will help students to succeed in this course.
-----------	---

担当者の研究室等	The instructor may be reached by email or in the part-time teachers' office on class days only.
----------	---

備考	Homework includes: 1. Vocabulary study 2. Reviewing lessons for tests 3. Researching and preparing a brief presentation 事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。
----	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1427c1		

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎回、クラスのほぼ全員に答えてもらうので、予習を欠かさないこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC400点台を取るのに必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	第2週目の授業に間に合うように教科書を購入する。
2	Unit 1 INCREDIBLE DOLPHIN	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 001-0038
3	Unit 1 MASTER OF DISGUISE	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0039-0076
4	Unit 2 TRIP OF A LIFETIME	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0077-0114
5	Unit 2 ADVENTURE ISLANDS	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0115-0152
6	Unit 3 MOVE TO THE MUSIC	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0153-0190
7	Unit 3 MUSICAL BOOST	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0191-0228
8	Review 1 中間テスト	Units1-3のまとめと中間試験	中間テストの準備
9	Unit 4 LIFE BEYOND EARTH?	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0229-0266
10	Unit 4 LIVING IN SPACE	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0267-0304
11	Unit 5 GLOBAL CITIES	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0305-0342
12	Unit 5 TALE OF TWO CITIES	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読 The 1500 Core Vocabulary 0343-0438
13	Unit 6 IN ONE CUBIC FOOT	Listening/Speaking	学習範囲のパスページの音読共通テストに向けて学習
14	Unit 6 WHATS IN YOUR NEIGHBORHOOD?	Reading Strategy	学習範囲のパスページの音読
15	Review 2	Units 4-6のまとめ	定期試験の学習

関連科目	基礎英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING EXPLORER 1 Third Edition	N. DOUGLAS 他	NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 統一英語単語テスト20%、e-learningを20%、課題提出・授業参加(授業への積極性など)を20%、中間試験と定期試験の合計点を40%の割合とする。 教科書を持ってこない、居眠りする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどをして授業参加しない場合、各授業につき3~5点減点する。
学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey たくさん失敗し、たくさん学んでください!
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 課題のフィードバックは翌週の授業時に行う。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1427c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 英単語 1~21	5 文型	英単語 1~21 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
2	Unit 1 英単語 22~63	5 文型	英単語 22~63 文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
3	Unit 2 英単語 64~105	動詞 (1)	英単語 64~105 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
4	Unit 2 英単語 106~147	動詞 (1)	英単語 106~147 文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
5	Unit 3 英単語 148~190	動詞 (2)	英単語 148~190 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
6	Unit 3 英単語 191~234	動詞 (2)	英単語 191~234 文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
7	中間試験	Unit 1 ~ Unit 3	試験準備 (3 時間)
8	Unit 11 英単語 235~278	名詞 (1)	英単語 235~278 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
9	Unit 11 英単語 279~324	名詞 (1)	英単語 279~324 文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
10	Unit 12 英単語 325~270	名詞 (2)	英単語 325~270 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
11	Unit 12 英単語 371~415	名詞 (2)	英単語 371~415 文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
12	Unit 15 英単語 416~438	形容詞・副詞	英単語 416~438 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
13	Unit 15	形容詞・副詞	文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む (1.5 時間)
14	Unit 17	比較	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む (1.5 時間)
15	Unit 17	比較	文法事項の確認をおこない C, D, E の問題に取り組む 試験準備 (3 時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Upward English	木村 正俊	関文社出版株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト ... 20% e-learning 学習の進捗度 ... 20%
-----------	--

	中間試験 ...20% 期末試験 ...20% 小テスト ...20%
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1427c1		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities.
到達目標	Participation in this course will improve the four primary skills: speaking, listening, reading, and writing.
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson.
科目学習の効果 (資格)	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1: Speaking About Yourself	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class (45 mins) (2) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0001-0040
	2	Unit 1: Speaking About Yourself	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0041-0080
	3	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0081-0121
	4	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0122-0162
	5	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0163-0202
	6	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0203-0243
	7	Review Units 1-3	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0244-0284
	8	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0285-0325
	9	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0326-0366
	10	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0367-0407
	11	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0408-0438
	12	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	13	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	14	Review Units 4-6	テキスト実践、解説	Students should review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	E-learning, 20%、TOEIC Bridge, 20%、final exam, 20%; coursework and quizzes, 40%.			
学生への メッセージ	This course will most benefit students who participate enthusiastically in activities, preview and review lessons and complete their homework assignments.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	抽冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1427c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声（再生）されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1-30
	2	Chapter 1 Heads Up	効率的なリーディング	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 31-60
	3	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 61-90
	4	Chapter 2 Burping Cows	フレーズリーディングを理解する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 91-120
	5	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを身につける	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 121-150
	6	Chapter 3 Going Vegetarian	フレーズリーディングを身につける	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 151-180
	7	確認テスト		単語帳学習範囲 181-210
	8	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキミングで情報を検索する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 211-240
	9	Chapter 4 Coffee Shop Secrets	スキミングで情報を検索する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 241-270
	10	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 271-300
	11	Chapter 5 Unusual Jobs	スキミングで概要を把握する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 301-330
	12	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 331-360
	13	Chapter 6 Underwater Monsters	背景知識を活性化させる	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 360-390
	14	Chapter 7 Flash Fiction	背景知識を活用する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 390-438
15	確認テスト			

関連科目	基礎英語 II a
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英文読解への多面的アプローチ<初中級>リーディングスキル	武藤 克彦 / Timothy Kiggell 共著	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	統一英語単語テスト 20%
------	---------------

(基準)	イーラーニングの進捗度 20% 担当教員評価 (小テスト、課題) 60%
学生へのメッセージ	英語の基礎知識を養い、今後の英語学習のためにつながる英語力を習得するよう頑張りましょう☆
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前学習時間：60分 事後学習時間：60分

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	王 玲玲
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1428c1		

授業概要・目的	英語で書かれた文章を正確に読解することにより、英語発信能力の基礎を身につける。
到達目標	まとまりのある文章を正確に読み、内容を理解することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 予習 単語：0439-0481
2	Unit 1 スージーのペンギン物語	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 1 復習 Unit 2 予習 単語：0482-0524
3	Unit 2 連続殺人事件	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 2 復習 Unit 3 予習 単語：0525-0567
4	Unit 3 天才的な犬	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 3 復習 Unit 4 予習 単語：0568-0610
5	Unit 4 チャンプ (アイルランドの料理)	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 4 復習 Unit 5 予習 単語：0611-0653
6	Unit 5 二人のミュージシャンの類似点	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 5 復習 Unit 6 予習 単語：0654-0696
7	Unit 6 セイシエル vs. モルディヴ	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 6 復習 Unit 7 予習 単語：0697-0739
8	Unit 7 ハロウィーン	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 7 復習 Unit 8 予習 単語：0740-0782
9	Unit 8 アンと隣人の不思議な話	文章全体の要旨を確認する。	Unit 8 復習・予習 単語：0783-0825
10	Unit 8 アンと隣人の不思議な話	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 8 復習 Unit 9 予習 単語：0826-0862
11	Unit 9 寒い日の魚釣り	文章全体の要旨を確認する。	Unit 9 復習・予習
12	Unit 9 寒い日の魚釣り	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 9 復習 Unit 10 予習
13	Unit 10 ハーリング (アイルランドのスポーツ)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 10 復習・予習
14	Unit 10 ハーリング (アイルランドのスポーツ)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 10 復習
15	まとめ	前期のまとめ	総復習

関連科目	基礎英語 II b
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	It's Time to Read! (楽しく読んで学ぶ基礎英語)	Siobhan Ryan	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 20% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習などにかかる時間をおよそ 30 時間とする。 小テスト等のフィードバックは、翌週以降の授業中に解説形式で行う。 授業曜日以外の連絡や質問はメールで受け付ける。詳細は第 1 回目の授業で指示する。
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1428c1		

授業概要・目的	英語で書かれた文章を正確に読解することにより、英語発信能力の基礎を身につける。
到達目標	まとまりのある文章を正確に読み、内容を理解することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 予習 単語：0439-0481
2	Unit 1 スージーのペンギン物語	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 1 復習 Unit 2 予習 単語：0482-0524
3	Unit 2 連続殺人事件	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 2 復習 Unit 3 予習 単語：0525-0567
4	Unit 3 天才的な犬	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 3 復習 Unit 4 予習 単語：0568-0610
5	Unit 4 チャンプ (アイルランドの料理)	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 4 復習 Unit 5 予習 単語：0611-0653
6	Unit 5 二人のミュージシャンの類似点	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 5 復習 Unit 6 予習 単語：0654-0696
7	Unit 6 セイシエル vs. モルディヴ	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 6 復習 Unit 7 予習 単語：0697-0739
8	Unit 7 ハロウィーン	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 7 復習 Unit 8 予習 単語：0740-0782
9	Unit 8 アンと隣人の不思議な話	文章全体の要旨を確認する。	Unit 8 復習・予習 単語：0783-0825
10	Unit 8 アンと隣人の不思議な話	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 8 復習 Unit 9 予習 単語：0826-0862
11	Unit 9 寒い日の魚釣り	文章全体の要旨を確認する。	Unit 9 復習・予習
12	Unit 9 寒い日の魚釣り	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 9 復習 Unit 10 予習
13	Unit 10 ハーリング (アイルランドのスポーツ)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 10 復習・予習
14	Unit 10 ハーリング (アイルランドのスポーツ)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 10 復習
15	まとめ	前期のまとめ	総復習

関連科目	基礎英語 II b
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	It's Time to Read! (楽しく読んで学ぶ基礎英語)	Siobhan Ryan	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 20% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	予習・復習などにかかる時間をおよそ30時間とする。 授業曜日以外の連絡や質問は Teams で受け付ける。詳細は第1回目の授業で指示する。
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1428c1		

授業概要・目的	The purpose of this class is for students to improve their English communication skills. Students will study and use language to express a variety of situations in daily life, such as: education, feelings, fashion, experiences, geographical features, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このクラスの目的は、英語のコミュニケーション能力を向上させることである。個人情報、家族、興味、ライフスタイルなど、日常生活におけるさまざまな状況を表現するための言語を学習し、使用します。コース修了時には、上記のようなトピックについて、基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが望ましい。
到達目標	会話能力 Up と英語を話す自信が上がる。
授業方法と留意点	Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. As this is a communication class, students are expected to activ
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Where are you from?	Introductions and greetings; hometowns 紹介と挨拶、出身地	単語 439-471 (45分)
3	Unit 1 Where are you from? continued	School subjects; saying goodbye 学校の科目; 別れを告げる	単語 472-505 (45分)
4	Unit 2 What do you do?	Jobs and work places 仕事と職場	単語 506-538 (45分)
5	Unit 2 What do you do? continued	Daily schedules; asking giving opinions; daily routines 毎日のスケジュール、意見を求めること、日課	単語 539-572 (45分)
6	Unit 3 How much are these?	Shopping and prices; clothing ショッピングと価格、衣料品	単語 573-605 (45分)
7	Unit 3 How much are these? continued	Preferences and comparisons 好みと比較	単語 606-639 (45分)
8	Unit 4 Do you play the guitar?	Entertainment; likes and dislikes; invitations; excuses 接待、好き嫌い、招待、言い訳	単語 640-672 (45分)
9	Test of units 1-4, special topic	Test of units 1-4; special topic ユニット1~4のテスト、特別トピック	単語 673-706 (45分)
10	Unit 5 What an interesting family!	Talking about family 家族について語る	単語 707-739 (45分)
11	Unit 5 What an interesting family! continued	Describing family life 家族生活の描写	単語 740-773 (45分)
12	Unit 6 How often do you run?	Sports, fitness and exercise スポーツ、フィットネス、運動	単語 774-806 (45分)
13	Unit 6 How often do you run? continued	Routines; talking about frequency 日課; 頻度について話す	単語 807-840 (45分)
14	Unit 7 We went dancing!	Free time and weekend activities 自由時間と週末のアクティビティ	単語 841-862 (45分)
15	Test of units 5-7, special topic	Test of units 5-7, special topic ユニット5~7のテスト、特別トピック	テストの準備

関連科目	基礎英語 IIb
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Interchange 1, 5th edition	Jack Richards	Cambridge University
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 20%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況 (授業での呼応状況など) 25%。
-----------	--

学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5回欠席した場合、本コースの合格は極めて難しくなります。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1428c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期はCEFR-J [A1.2]、後期はCEFR-J [A1.3]に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 30% Homework assignments 20% Class participation and attitude, ability 40% Marking and assignments, practice are flexible, according to the 'onli
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館4階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスティー ジョンスン
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1428c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation Exam 10% In-class quizzes 30% Homework assignments 20% Class participation and attitude, ability 40% Marking and assignments, practice are flexible, according to the 'onli
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	シャーフ ジョージ
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1429c1		

授業概要・目的	Students will develop skills in all areas of basic English, with a particular focus on vocabulary building, listening, and speaking.
到達目標	The main goal of the course is to gain a working knowledge of basic English and demonstrate good use of it in class.
授業方法と留意点	Students are expected to speak English in class. Students will have opportunities to build knowledge of vocabulary and grammar and use it in class activities.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction	Overview of the schedule and what will be covered in the course	Preview/ review course introduction Get textbooks 単語学習範囲:0863-0891
	2	Unit 6 - What's she like?	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:0892-0919
	3	Unit 6 - What's she like?	Speaking focus	Preview/ review 単語学習範囲:0920-0948
	4	Unit 7 - Tell me about your family	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:0949-0977 Presentation 1 Topic choice
	5	Unit 7 - Tell me about your family	Speaking focus	Preview/ review Presentation 1 Research 単語学習範囲:0978-1006
	6	Test 1	Brief review and test	Preview/ review 単語学習範囲:1007-1035
	7	Presentation 1	Sharing presentations in groups	Preview/ review Study for Test 1 単語学習範囲:1036-1064
	8	Unit 8 - Communication	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Presentation 1 Worksheet Practice presentation 単語学習範囲:1065-1093
	9	Unit 8 - Communication	Speaking focus	Preview/ review 単語学習範囲:1094-1121
	10	Unit 9 - How are you feeling?	Vocabulary and listening focus	Preview/ review Presentation 2 Topic choice 単語学習範囲:1122-1150
	11	Unit 9 - How are you feeling?	Speaking focus	Preview/ review Presentation 1 Research 単語学習範囲:1151-1175
	12	Unit 10 - Memories	Vocabulary and listening focus	Preview/ review 単語学習範囲:1176-1200
	13	Unit 10 - Memories	Speaking focus	Preview/ review Study for Test 2
	14	Test 2	Brief review and test	Preview/ review Presentation 2 Worksheet Practice presentation
15	Presentation 2	Sharing presentations in groups	Optional course review	

関連科目	基礎英語Ⅱ a 他の英語関係科目
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Vincent, Nakazato, Meadows	Nan' Un-Do
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	Nishiya	Seibido
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC L&R 又は TOEIC Bridge: 20% 統一英語単語テスト: 10% E-learning 学習の進捗度: 10% Speaking and listening tests (2) 40% Brief Presentations (2) 10% Active participation 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	Regular attendance, participation in lessons, and completing homework will help students to succeed in this course.
-----------	---

担当者の	The instructor may be reached by email or in the part-time teachers' office on class days only.
------	---

研究室等	
備考	Homework includes: 1. Vocabulary study 2. Reviewing lessons for tests 3. Researching and preparing a brief presentation 事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅田 尋道
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1429c1		

授業概要・目的	英語は今日世界共通語としての地位を築きつつあります。ですから今後好むと好まざるにかかわらず、英語は私たちの生活にますます関わってきます。こうした時代の流れに対応するためにも、もう一度英語全体の根底にある文法・語法を徹底し、それを実践にいかし、読解力を身に付けることを目標にします。
到達目標	基礎英文法を徹底的に理解し、国際的コミュニケーションのための基本的な意思疎通ができる能力を有する。
授業方法と留意点	毎週課題に取り組んでもらい、各週で提出物を出してもらいます。 後期から履修する学生は遅くとも第2週目に間に合うように教科書を入手してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC500点突破に必要な読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方、評価方法などを説明。	後期から受講する学生は事前に教科書を購入する。
2	Unit 7 TRUTH ABOUT DINOSAURS	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0863-0896
3	Unit 7 MYSTERY OF THE TERRIBLE HAND	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0897-0920
4	Unit 8 BROTHERS GRIMM	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0921-0954
5	Unit 8 SEVEN RAVENS	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0955-0988
6	Unit 9 MEET THE METEORITE HUNTER	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 0989-1023
7	Unit 9 SMOKEJUMPERS	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1023-1057
8	Review 1 中間試験	Units 7-9 のまとめと中間試験	中間試験の学習
9	Unit 10 ARMY'S TRUE COLORS	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1058-1092
10	Unit 10 WONDERS OF EGYPT	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1093-1137
11	Unit 11 PROBLEM WITH PLASTIC	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1138-1171
12	Unit 11 FIVE TIPS FOR USING LESS PLASTIC	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読 The 1500 Core Vocabulary 1172-1200
13	Unit 12 MYSTERY ON THE MOUNTAIN	Listening/Speaking	学習範囲のパスセージの音読 共通試験に向けて学習
14	Unit 12 MISSING PILOT	Reading Strategy	学習範囲のパスセージの音読
15	Final Exam	Units 10-12 のまとめと Final Exam	Final Exam の準備

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	READING EXPLORER 1 Third Edition	N. DOUGLAS 他	NATIONAL GEOGRAPHIC LEARNING
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 English Central を 10%、統一英語単語テストを 10%、TOEIC L&R を 20%、中間試験を 20%、定期試験を 20%、授業活動 (課題、vocabulary test、授業活動への積極参加) を 20%の割合とする。 対面の場合、教科書を持ってこない、居眠りをする、スマホを使う、私語をする、途中退出するなどして授業参加しない場合、各授業で 3～5 点減点する。
-----------	---

学生へのメッセージ	“Failure is instructive. The person who really thinks learns quite as much from his failures as from his successes.” — John Dewey 失敗を恐れず、様々なことにチャレンジしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 課題のフィードバックは翌週の授業時に行う。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	江崎 早苗
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1429c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 5 英単語 863~908	能動態・受動態	英単語 863~908 文法事項の確認をおこない A, B の問題に取り組む
2	Unit 5 英単語 909~951	能動態・受動態	英単語 909~951 文法事項の確認をおこない C, E, D の問題に取り組む
3	Unit 6 英単語 952~0991	助動詞	英単語 952~0991 文法事項の確認をおこない A, B の問題に取り組む
4	Unit 6 英単語 0992~1033	助動詞	英単語 0992~1033 文法事項の確認をおこない C, E, D の問題に取り組む
5	Unit 7 英単語 1034~1074	不定詞	英単語 1034~1074 文法事項の確認をおこなう
6	Unit 7, 8, 9 英単語 1075~1116	不定詞・分詞・動名詞	英単語 1075~1116 文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
7	Unit 7, 8, 9 英単語 1117~1158	不定詞・分詞・動名詞	英単語 1117~1158 文法事項の確認をおこない D, E の問題に取り組む
8	Unit 7, 8, 9 英単語 1159~1200	不定詞・分詞・動名詞	英単語 1159~1200 文法事項の確認をおこない D, E の問題に取り組む
9	中間試験	Unit 5 ~ 9	試験準備
10	Unit 13	代名詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
11	Unit 19, 20	前置詞・接続詞	文法事項の確認をおこなう
12	Unit 19, 20	前置詞・接続詞	文法事項の確認をおこない A, B, C の問題に取り組む
13	Unit 19, 20	前置詞・接続詞	文法事項の確認をおこない D, E の問題に取り組む
14	Unit 18	関係詞	文法事項の確認をおこない A, B の問題に取り組む
15	Unit 18	関係詞	文法事項の確認をおこない C, E, D の問題に取り組む

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Upward English	木村 正俊	開文社出版株式会社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC または TOEIC Bridge ...20%、統一英語単語テスト ...10%、e-learning 学習の進捗度 ...10% 中間試験 ...20% 期末試験 ...20% 小テスト ...20%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	各回必ず、予習として、文法事項を確認し、指定された問題に取り組んでおく。(60分) 授業終了後は、再度文法事項の確認と問題の解答を確認する。余力があれば、TOEICの問題などに取り組むと良い。(60分)
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1429c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 : Personal Correspondence (1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.8-13 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間)
2	Unit 2 : Personal Correspondence (2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.14-19 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#863-885Ͷ-908
3	Unit 3 : Biography (1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.20-25 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#909-931Τ-951
4	Unit 4 : Biography (2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.26-31 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#952-971ό-991
5	Unit 5 : Events & Festivals	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.32-37 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#992-1012&1013-1033
6	Unit 6 : Directions & Locations (1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.38-43 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#1034-1054&1055-1074
7	Unit 7 : Directions & Locations (2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.44-49 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#1075-1095&1096-1116
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：Unit1-7 までの復習 (2時間) 単語テスト#1117-1137&1138-1158
9	Unit 8 : Directions & Locations (3)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.50-55 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#1159-1179&1180-1200
10	Unit 9 : Occupations (1)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.56-61 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#875-921&922-962
11	Unit 10 : Occupations (2)	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.62-67 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#963-1012&1013-1074
12	Unit 11 : Instructions	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.68-73 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#1075-1137&1138-1200
13	Unit 12 : Health & Physical Condition	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p.74-79 の練習問題を行う (1時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記

				(1 時間) 事前学習：テキスト p. 80-85 の練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)																
	14	Unit 13 : Service Requests	リスニング、文法、リーディング、練習問題	事前学習：テキスト p. 86-91 の練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)																
	15	Unit 14 : Special Orders	リスニング、文法、リーディング、練習問題																	
関連科目	基礎英語 I a																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-Up English<Basic></td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-Up English<Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Power-Up English<Basic>	JACET リスニング研究会	南雲堂																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	CASEC 20%、統一英語単語テスト10%、e-learning 学習の進捗度10%、期末試験 (20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%) 原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																			
学生へのメッセージ	毎回の授業に必ず出席するとともに、予習・復習を必ず行ってください。																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	<p>毎回授業開始時に、副読本の単語テストを行います。 単語帳#863-1200 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計20時間以上はかけて下さい。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 臨時試験や小テスト等の結果を翌週以降の授業内で学生に feedback する。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>																			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English Iia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	抽冬 紘和
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1429c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 863-893
	2	Chapter 8 What 3 Words	内容語と機能語を区別する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 894-924
	3	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 925-955
	4	Chapter 9 Sounds of the Sea	単語を分解して意味を考える	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 956-986
	5	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 987-1017
	6	Chapter 10 Rowing across the Atlantic	未知語の意味を推測する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1018-1048
	7	確認テスト		単語帳学習範囲 1049-1079
	8	Chapter 11 Rollercops Reading Passage	代名詞についていく	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1080-1110
	9	Chapter 11 Rollercops Reading Passage	代名詞についていく	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1111-1141
	10	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1141-1171
	11	Chapter 12 Plant Milk	ディスコースマーカーに着目する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 1172-1200
	12	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 863-1200
	13	Chapter 13 Alien Life	エッセイ構造を理解する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 863-1200
	14	Chapter 14 Treasure Hunt	パラグラフ構造を理解する	文法、単語復習 テキスト単語調べ 単語帳学習範囲 863-1200
	15	確認テスト		

関連科目	基礎英語Ⅱ a
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	英文読解への多面的アプローチ<初中級>リーディングスキル	武藤 克彦 / Timothy Kiggell 共著	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	TOEIC Bridge 20%
------	------------------

(基準)	統一英語単語テスト 10% e-learning 10% 担当教員の評価 (小テスト、期末テスト) 60%
学生への メッセージ	英語の基礎知識を養い、今後の英語学習のためにつながる英語力を習得するよう頑張りましょう☆
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室 連絡先 hirokazunukk@outlook.jp
備考	事前学習時間：60分 事後学習時間：60分

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	王 玲玲
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1430c1		

授業概要・目的	英語で書かれた文章を正確に読解することにより、英語発信能力の基礎を身につける。
到達目標	まとまりのある文章を正確に読み、内容を理解することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 12 西洋の迷信	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 12 復習 Unit 13 予習 単語：1231-1260
3	Unit 13 ヴァレンタインデーのはじまり	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 13 復習 Unit 14 予習 単語：1261-1290
4	Unit 14 未来の食べ物	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 14 復習 Unit 15 予習 単語：1291-1320
5	Unit 15 ジャックと悪魔	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 15 復習 Unit 16 予習 単語：1321-1350
6	Unit 16 私は誰でしょう	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 16 復習 Unit 17 予習 単語：1351-1380
7	Unit 17 人間関係ゲーム	文章全体の要旨を確認する。	Unit 17 復習・予習 単語：1381-1410
8	Unit 17 人間関係ゲーム	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 17 復習 Unit 18 予習 単語：1411-1440
9	Unit 18 代替エネルギー	文章全体の要旨を確認する。	Unit 18 復習・予習 単語：1441-1470
10	Unit 18 代替エネルギー	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 18 復習 Unit 19 予習 単語：1471-1500
11	Unit 19 昔話現代ヴァージョン (1)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 19 復習・予習
12	Unit 19 昔話現代ヴァージョン (1)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 19 復習 Unit 20 予習
13	Unit 20 昔話現代ヴァージョン (2)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 20 復習・予習
14	Unit 20 昔話現代ヴァージョン (2)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 20 復習
15	まとめ	後期のまとめ	総復習

関連科目	基礎英語 1b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	It's Time to Read! (楽しく読んで学ぶ基礎英語)	Siobhan Ryan	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	TOEIC L&R 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業曜日以外の質問はメールで受け付ける。詳細は第1回目授業に指示する。
----	-------------------------------------

	<p>予習・復習などにかかる時間をおよそ 30 時間とする。 小テスト等のフィードバックは、翌週以降の授業中に解説形式で行う。 TOEIC L&R (評価の 20%) 受験には、学生各自での申し込みが必要。教務課のアナウンスに従い、必ず各自で申し込みをすること。</p>
--	---

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1430c1		

授業概要・目的	英語で書かれた文章を正確に読解することにより、英語発信能力の基礎を身につける。
到達目標	まとまりのある文章を正確に読み、内容を理解することができる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3回を超える欠席のあった者は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 12 西洋の迷信	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 12 復習 Unit 13 予習 単語：1231-1260
3	Unit 13 ヴァレンタインデーのはじまり	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 13 復習 Unit 14 予習 単語：1261-1290
4	Unit 14 未来の食べ物	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 14 復習 Unit 15 予習 単語：1291-1320
5	Unit 15 ジャックと悪魔	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 15 復習 Unit 16 予習 単語：1321-1350
6	Unit 16 私は誰でしょう	文章全体の要旨を確認する。 論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 16 復習 Unit 17 予習 単語：1351-1380
7	Unit 17 人間関係ゲーム	文章全体の要旨を確認する。	Unit 17 復習・予習 単語：1381-1410
8	Unit 17 人間関係ゲーム	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 17 復習 Unit 18 予習 単語：1411-1440
9	Unit 18 代替エネルギー	文章全体の要旨を確認する。	Unit 18 復習・予習 単語：1441-1470
10	Unit 18 代替エネルギー	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 18 復習 Unit 19 予習 単語：1471-1500
11	Unit 19 昔話現代ヴァージョン (1)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 19 復習・予習
12	Unit 19 昔話現代ヴァージョン (1)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 19 復習 Unit 20 予習
13	Unit 20 昔話現代ヴァージョン (2)	文章全体の要旨を確認する。	Unit 20 復習・予習
14	Unit 20 昔話現代ヴァージョン (2)	論旨の展開に関わる重要な文を正確に読み取る。	Unit 20 復習
15	まとめ	後期のまとめ	総復習

関連科目	基礎英語 1b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	It's Time to Read! (楽しく読んで学ぶ基礎英語)	Siobhan Ryan	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	授業曜日以外の質問は Teams で受け付ける。詳細は第1回目授業に指示する。
----	---

予習・復習などにかかる時間をおよそ30時間とする。

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English Iib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1430c1		

授業概要・目的
The purpose of this class is for students to improve their English communication skills. Students will study and use language to express a variety of situations in daily life, such as: shopping, cities, jobs, food, movies, music, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このクラスの目的は、生徒が英語のコミュニケーション能力を向上させることです。日常生活における様々な状況、例えば、買い物、都市、仕事、食べ物、映画、音楽などを表現するための言語を学習し、使用することになります。コース終了時には、上記のトピックについて基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが望ましい。

到達目標
Increase your conversational ability and confidence in speaking English. 会話能力 Up と英語を話す自信が上がる。

授業方法と留意点
Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. As this is a communication class, students are expected to activ

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、その他	オリエンテーション、その他	今週は準備不要です。
2	Unit 8 How's the neighborhood?	Stores and places in the city; describing neighborhoods 街の店や場所、近隣の描写	単語 863-888 (45分)
3	Unit 8 How's the neighborhood?	House and apartments; asking about quantities 家屋とアパート、数量についての質問	単語 889-914 (45分)
4	Unit 9 What does she look like?	Describing people's appearance; identifying people 人の外見を描写する; 人を識別する	教科書ページ 76-78 (45分) 単語 915-940 (45分)
5	Unit 9 What does she look like?	Clothing styles, present participles with prepositions 服のスタイル、前置詞を伴う現在分詞	単語 941-966 (45分)
6	Unit 10 Have you ever been there?	Describing past experiences; present perfect 過去の経験を描写する; 現在完了	単語 967-992 (45分)
7	Unit 10 Have you ever been there?	Present perfect vs simple past, vocabulary for life experience 現在完了と単純過去、人生経験の語彙	単語 993-1018 (45分)
8	Unit 11 It's a really nice city.	Describing cities; asking for and going suggestions 都市を描写する; 提案を求め、それを実行する	単語 1019-1044 (45分)
9	Test of units 8-11, special topic	Test of units 8-11, special topic ユニット8~11のテスト、特別トピック	単語 1045-1070 (45分)
10	Unit 13 What would you like?	Food and restaurants; agreeing and disagreeing 料理とレストラン、賛成と反対	単語 1071-1096 (45分)
11	Unit 13 What would you like?	Ordering a meal; requests 食事の注文、リクエスト	単語 1097-1122 (45分)
12	Unit 14 It's the coldest city!	Geographical features 地理的特徴	単語 1123-1148 (45分)
13	Unit 14 It's the coldest city!	Comparisons and measurements 比較と測定	単語 1149-1174 (45分)
14	Unit 15 What are you doing later?	Talking about plans; accepting and refusing invitations 計画について話す、誘いを受ける、断る	単語 1175-1200 (45分)
15	Test of units 13-15; special topic	Test of units 13-15; special topic ユニット13~15のテスト、特別トピック	テストの準備

関連科目
他の英語に関連する科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Interchange 1, 5th edition	Jack Richards	Cambridge University
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
TOEICBridge テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 10%, 統一英語単語テスト 10%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況 (授業での呼応状況など) 25%。

学生へのメッセージ
良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5回の欠席で合格することは困難である。

担当者の
7号館2階 非常勤講師室

研究室等	
備考	

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 眞由美
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1430c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation. Exam 10%, In-class quizzes 30%, Homework assignments 20%, Class participation, attitude, ability 20% TOEIC Bridge20% All adapted for the online learning environment.
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
担当者の研究室等	7 号館 4 階 西川研究室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスファー ジョンストン
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN1430c1		

授業概要・目的	英語で発信するための基礎作りをし、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができるようになる。
到達目標	(1) 実践的な英文の暗唱とその応用練習という学習技法により、単文にとどまらず複数の文を発話することができるようになる。 (2) 前期は CEFR-J [A1.2]、後期は CEFR-J [A1.3] に英語力が到達することを目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検討

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 2 (5th edition) ISBN# 9789813130234	Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown	Pearson (2018)
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)
 Evaluation will be based on quizzes, homework assignments and class participation.
 Exam 10%, In-class quizzes 30%, Homework assignments 20%, Class participation, attitude, ability 20%
 TOEIC Bridge20%
 All adapted for the online learning environment.

学生へのメッセージ
 Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course.
 Pair and group work will form the core of each lesson.

担当者の研究室等
 7号館2階 非常勤講師室

備考
 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、単なる日本語訳にとどまらない英文の内容理解にじっくりと取り組み、総合的な英語の運用能力 (聞き取り力/語彙力/文法力/読解力) のレベルアップをはかります。さらに、TOEIC テストなどで評価される英語力を向上させ、各種資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (CASEC 445 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名を受けた受講者には解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC 等の英語資格試験の対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	受講にあたってのオリエンテーション ウォーミングアップ	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) 英語の基礎知識を確認する (英和辞典の使い方など)	教科書の予習 単語小テスト (1) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0001-0042
	2	Our Internal Clock: It's about time (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (2) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0043-0084
	3	Our Internal Clock: It's about time (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (3) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0085-0126
	4	Is it OK to be late? (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (4) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0127-0168
	5	Is it OK to be late? (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (5) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0169-0212
	6	Technology competes with family time (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (6) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0213-0256
	7	Technology competes with family time (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (7) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0257-0301
	8	Sign Language for Everyone (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (8) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0302-0347
	9	Sign Language for Everyone (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (9) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0348-0392
	10	Our kids are growing up too fast! (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (10) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0393-0438
	11	Our kids are growing up too fast! (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト (11) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0001-0212
	12	Our kids are growing up too fast! (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (12) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0213-0438
	13	Loneliness: How can we overcome it? (1)	英文の読解	教科書の予習・復習
	14	Loneliness: How can we overcome it? (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習
	15	Loneliness: How can we overcome it? (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Today 3: Issues (Fifth Edition)	Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験（統一英語単語テスト）... 20% ・e-learning 学習...20% ・授業態度（投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 20% ・小テスト（全12回実施 答えは毎回返却します）... 10% ・定期試験... 30% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。 原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはあり）			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	この授業は、TOEIC Bridge、及び TOEIC 受験対策を目的とする。従って日常生活、ビジネスシーン等で使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項を確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取ったり、様々なシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメント等を聞いて内容把握をする練習を行う。
到達目標	TOEIC 350点 (TOEIC Bridge130点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事上の伝達	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0001- 0044
3	事務職	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0045-0089
4	広告、宣伝	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0090- 0134
5	就職活動	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0135- 0179
6	マスメディア	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0180- 0224
7	家族、友人、ペット	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0225- 0269
8	ショッピング	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0270- 0314
9	医療	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0315- 0359
10	学校生活	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0360- 0404
11	住居	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0405- 0438
12	交通機関	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
13	趣味	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
14	外食	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
15	余暇時間の過ごし方	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習

関連科目	全ての英語科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking (Second Edition)	Laurie Blass, Mari Varga	National Geographic Learning (Cengage)
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習の進捗度 20%、単語テスト、復習テスト(weekly tests) 30%、 定期試験ないしは定期試験に代わる試験 30%			
学生への メッセージ	In this course we will work to improve your vocabulary and reading skills, as well as work on speaking skills. As we will be building on skills each week, it is important that you come to every class.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習には1.5時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEICの点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペーパーワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。TOEICのボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊は理系向けリーディング教材 (Pathways, Foundations) を、もう1冊は単語集 (TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test) を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一英語単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICテストでのスコアアップ。総合英語力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	シラバスの説明/テキスト/コース目標の説明	事前・・・シラバスを読み込む、単語集の番号1-42を覚える。
2	単語テスト、Unit 1	単語テスト2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号43-84を覚える。Unit 1の予習 事後学習・・・Unit 1の復習
3	単語テスト、Unit 1	単語テスト3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号85-126を覚える。Unit 1の予習 事後学習・・・Unit 1の復習
4	単語テスト、Unit 1	単語テスト4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号127-168を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
5	単語テスト、Unit 2	単語テスト5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号169-212を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
6	単語テスト、Unit 2	単語テスト6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号213-256を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
7	単語テスト、Unit 2	単語テスト7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2の予習。単語集の番号257-301を覚える。 事後学習・・・Unit 1, 2の復習
8	中間試験、(Units 1, 2)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1, 2の復習
9	単語テスト、Unit 3	単語テスト8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号302-347を覚える。Unit 3の予習。 事後学習・・・Unit 3の復習
10	単語テスト、Unit 3	単語テスト9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号348-392を覚える。Unit 3の予習。 事後学習・・・Unit 3の復習
11	単語テスト、Unit 3	単語テスト10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号393-438を覚える。Unit 3の予習 事後学習・・・Unit 3の復習
12	単語テスト、Unit 4	単語テスト11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号439-480を覚える。Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習
13	単語テスト、Unit 4	単語テスト12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号481-522を覚える。Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習
14	最終試験、(Units 3, 4)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 3, 4の復習
15	復習	復習	事前学習・・・教科書復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pathways, Foundations	Laurie Blass, Mari Cargo	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト・・・20% e-learning・・・20% 授業・・・60% (初回に説明します)
-----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前事後学習を1.5時間以上して下さい。

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	この授業では、理工学部の学生を主人公としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業説明 単語小テスト(1)	授業説明 教科書、評価方法、学習方法などの説明	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備： 範囲 0001-0053
2	単語小テスト(2) Unit 1 Everything is new to me.	Be 動詞・疑問詞 天体	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備： 範囲 0054-0095
3	単語小テスト(3) Unit 1 Everything is new to me.	Be 動詞・疑問詞 天体	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備： 範囲 0096-0137
4	単語小テスト(4) Unit 2 Are you in any clubs?	一般動詞現在形 数と計算	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備： 範囲 0138-0179
5	単語小テスト(5) Unit 2 Are you in any clubs?	一般動詞現在形 数と計算	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備： 範囲 0180-0223
6	単語小テスト(6) Unit 3 Let me introduce a new member to you.	一般動詞過去形 単位 (長さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備： 範囲 0224-0267
7	単語小テスト(7) Unit 3 Let me introduce a new member to you.	一般動詞過去形 単位 (長さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備： 範囲 0268-0313 確認テストに向けて Unit 1-3 の復習
8	単語小テスト(8) 確認テスト (Unit 1-3) Unit 4 I'm looking for a part-time job.	. 進行形 単位 (音の強さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(8)の準備： 範囲 0314-0359
9	単語小テスト(9) Unit 4 I'm looking for a part-time job.	進行形 単位 (音の強さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(9)の準備： 範囲 0360-0415
10	単語小テスト(10) Unit 5 What are you going to do?	未来表現 建築	教科書の予習・復習； 単語小テスト(10)の準備： 範囲 0416-0438
11	Unit 5 What are you going to do?	未来表現 建築	教科書の予習・復習
12	単語小テスト(12) Unit 6 Could you take a look at this slide?	助動詞 円グラフ	教科書の予習・復習 暗唱テストに向けて復習
13	暗唱テスト 1 Unit 6 Could you take a look at this slide?	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 助動詞 円グラフ	教科書の予習・復習 暗唱テストに向けて復習
14	暗唱テスト 2 Unit 7 I'm so frustrated.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 受動態 棒グラフ	教科書の予習・復習
15	Unit 7 I'm so frustrated.	受動態 棒グラフ	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English for Science	角山 照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験（統一英語単語テスト）... 20% ・e-learning 学習...20% ・単語小テスト... 10% ・確認テストと定期試験... 40% ・暗唱テスト...10% 			
学生への メッセージ	<p>積極的な参加を期待しています。辞書を持参すること。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験することを強くお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。</p> <p>原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績</p>			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、科学・技術を話題とするニュース映像を題材としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。教科書
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction and textbook orientation. Unit 1 Reading Focus on Scanning, Predicting, Understanding, Main Ideas and Details, Interpreting Visual Data Vocabulary Quiz	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種テストについての説明など) 語彙学習、ニュース映像の内容理解演習、聞き取り演習	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備： 範囲 0001-0044
2	Unit 1 Critical Thinking Reflecting, Synthesizing and Personalizing. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備： 範囲 0045-0089
3	Unit 1 Writing Language for Writing: What is a sentence? Simple present tense of 'be' and other verbs. Writing Goal: Describe yourself and your communication habits. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備： 範囲 0090-0134
4	Unit 1 Vocabulary Expression Word Forms: Superlative adjectives Word Web: Social media words Vocabulary Quiz and Unit Test	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備： 範囲 0135-0179
5	Unit 2 Reading Focus on Skimming, Predicting, Understanding a Sequence, Understanding Details Vocabulary Quiz	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備： 範囲 0180-0224
6	Unit 2 Critical Thinking Focus on Inferring, Personalizing, and Synthesizing Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備： 範囲 0225-0269
7	Unit 2 Writing Language for Writing: Using verbs + infinitives Using verb + noun collocations Writing Goal: Describe	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension,	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備： 範囲 0270-0314

		your dreams and plans for the future. Vocabulary Quiz	listening, reading and writing exercises.	
	8	Unit 2 Vocabulary Word Web using Synonyms Word Forms: Time words and phrases Vocabulary Quiz and Unit Test	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(8)の準備：範囲 0315-0359
	9	Unit 3 Reading Focus on Understanding Main Ideas of Paragraphs and Understanding Details Vocabulary Quiz	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(9)の準備：範囲 0360-0404
	10	Unit 3 Critical Thinking Focus on Applying Ideas and Synthesizing Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(10)の準備：範囲 0405-0449
	11	Unit 3 Writing Language for Writing: Using imperative sentences Using should / shouldn't Writing Goal: Write a walking tour of an area you know well. Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(11)の準備：範囲 0450-0494
	12	Unit 3 Vocabulary Extension Word Partners: Noun + trip Word Web: Prepositions of place and direction Vocabulary Quiz and Unit Test	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(12)の準備：範囲 0495-0439
	13	Unit 4 Reading Focus on Identifying Examples and Understanding the Gist Vocabulary Quiz	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(13)の準備：範囲 0440-0484
	14	Unit 4 Critical Thinking Focus on Applying Advice and Evaluating Vocabulary Quiz	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(14)の準備：範囲 0485-0529
	15	Unit 4 Writing Language for Writing: Using infinitives of purpose and Using but/and/or Writing Goal: Write about what you use the Internet for. Vocabulary Quiz and Unit Test	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	定期試験対策としての復習

関連科目 実践英語 IIa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition	Laurie Blass, Mari Vargo	Cengage
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (統一英語単語テスト): 20% ・e-learning 学習: 20% ・小テスト (全 12 回実施 答えは毎回返却します): 10% ・課題レポート: 5% (Homework) ・定期試験 (または相当する総復習テストを授業内で実施): 3 x 15% 上記割合で総合評価する。			
学生への メッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p> <p>授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。</p> <p>学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>In order to pass this course, you must att</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<p>1 週間につき、事前学習 (授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など) としての予習には 60-90 分、事後学習 (授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える) には 60 分程度をかけるのが効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。</p> <p>原則として、出席率 80%以上 (12 回以上出席) の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします (単位が取得できる見込みはあり)</p>			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的
This course is for students to improve their TOEIC skills, focusing on listening and reading. Students will acquire a higher level of vocabulary, a better understanding of grammar, a better listening ability, as well as an understanding of certain techniques when taking the test. Weekly practice with TOEIC mock questions will improve students' testing skills and confidence for the TOEIC test. In addition to in-class study, students will be responsible for studying for the E-Learning and the Unified English vocabulary test. リスニングとリーディングを中心とした TOEIC のスキルアップのためのコースです。より高度な語彙力、文法理解、リスニング力を身につけるとともに、受験時のテクニックが理解できます。毎週行われる TOEIC 模擬問題演習により、TOEIC テストに対する自信とテストスキルを向上させます。授業内の学習に加え、E-Learning や統一英単語テストの学習も担当します。

到達目標
The goal of this class is for students to acquire a better knowledge of English to increase their TOEIC scores to at least the level of 400 or higher, as well as to familiarize students with the workings of TOEIC test itself. このクラスでは、TOEIC のスコアを 400 点以上にすること

授業方法と留意点
Aside from lectures, students will have extensive practice on TOEIC test questions. /// Regular attendance and participation is expected. Students who are absent five times will find it difficult to pass the class. 講義の他に、TOEIC テストの問題演習を多く行います。/// 定期的な出席と参加

科目学習の効果 (資格)
To improve students' test taking abilities and to increase TOEIC scores. 生徒の受験能力を向上させ、TOEIC のスコアアップを図る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	学習課題がない
2	Unit 1 Travel 旅行に関する語句・表現	Countable and uncountable nouns 数えられる名詞・数えられない名詞	教科書ページ 14-21 単語 439-471
3	Unit 2 Dining Out レストランや食事・料理に関する語句	Adjectives 形容詞	教科書ページ 22-29 単語 472-504
4	Unit 3 Media メディアに関する語句	Learn adverbs Modifying verbs and adjectives 副詞を学ぶ動詞・形容詞を修飾する	教科書ページ 30-37 単語 505-536
5	Unit 4 Entertainment エンターテインメントに関する語句	Present, past, future, and present progressive tenses 現在・過去・未来・現在進行形時制	教科書ページ 38-45 単語 537-569
6	Unit 5 Purchasing 買い物に関する語句	Subject-verb agreement (s in the third person) 現在・過去・未来・現在進行形時制	教科書ページ 46-55 単語 570-601
7	Unit 6 Clients 顧客との取引に関する語句	Active and passive voice (expressions of emotion) 能動態・受動態(感情を表す表現)	教科書ページ 56-63 単語 602-634
8	ユニット 1~7 の中間テスト, その他	ユニット 1~7 の中間テスト, その他	ユニット 1~7 の中間テスト, その他
9	Unit 7 Recruiting, ユニット 1~7 の中間テスト。求人・採用に関する語句	Verbs and infinitives 動名詞・不定詞, 中間テスト	教科書ページ 64-71 単語 635-666
10	Unit 8 Personnel 人事に関する語句	Pronouns (possessive, objective, possessive pronouns) 代名詞(所有格・目的格・所有代名詞)	教科書ページ 72-81 単語 667-699
11	Unit 9 Advertising 広告・宣伝に関する語句	Comparison (comparative, superlative, as ...) 比較(比較級、最上級、as ... as)	教科書ページ 82-89 単語 700-732
12	Unit 10 Meetings 会議に関する語句 Unit 11 Finance 予算・費用に関する語句	Prepositions (reasons, concessions, times, definite expressions) 前置詞(理由・譲歩・時、定型表現)	教科書ページ 90-97 単語 733-764
13	Unit 11 Finance 予算・費用に関する語句	Conjunctions (reasons, concessions, times) 接続詞(理由・譲歩・時)	教科書ページ 98-105 単語 765-797
14	Unit 12 Offices オフィスに関する語句	Words and phrases related to office オフィスに関する語句	教科書ページ 106-113 単語 798-830
15	ユニット 7~12 の期末テスト, その他	ユニット 7~12 の期末テスト, その他	ユニット 7~12 の期末テスト, その他

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-intermediate	溝口優美子	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 20%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況(授業での呼応状況など) 25%。
学生への メッセージ	The TOEIC test is the standard test for measuring English language ability. These days companies require a certain level on the test to be employed at their company, so you need to be serious about improving your TOEIC score. TOEIC テストは、英語力を測る標準的なテストです。最近で
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	Because a large part of the grade in this class is based on tests, it is strongly recommended that students spend a few hours a week studying the content for this class. このクラスの成績の大部分はテストに基づくので、週に数時間、このクラスの内容を勉強することを強く勧める。/// 中間テスト結果は講義の中で返却してフィードバックする。/

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	本授業ではTOEIC対策に特化した演習を行います。TOEICの出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニング、文法、リーディングセクションを演習形式で学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEICの点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・TOEICスコア350点以上 (TOEIC Bridge 130点以上) を獲得できるようになる。 ・語彙や文法の知識を定着させる。 ・素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: Personal correspondence 1 現在形、現在進行形 TOEICの紹介	授業の進め方、評価の方法などの説明 TOEICの内容	授業の進め方、評価方法の確認 Unit 1のGrammar, Reading sectionの予習、復習
2	Unit 1: Personal correspondence 1 現在形、現在進行形 1	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0439-0479 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 2: Personal correspondence 2 過去形、過去進行形 2	単語単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0480-0520 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 3: Biography 1 過去形、過去進行形 1	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0521-0561 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 4: Biography 2 過去形、過去進行形 2	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0562-0602 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 5: Events & Festivals 未来形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0603-0643 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 6: Directions & Locations 1 前置詞 場所	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習: 単語テストの準備: 範囲 0644-0684 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	単語テスト これまでの学習範囲より中間テスト	事前学習: 単語テストの準備: 範囲 0685-0725、中間テストの準備
9	Unit 7: Directions & Locations 2 前置詞 手段、道具	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0726-0766 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 8: Directions & Locations 3 There is, are	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0767-0807 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 9: Occupations 1 代名詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0808-0848 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 10: Occupations 2	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0849-0862 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	TOEIC ミニテスト リスニング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
14	TOEIC ミニテスト リーディング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング	事前学習 事後学習

			ング問題を解答、正解確認から学習	リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	15	テキスト U1~10 までの復習	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Basic	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通試験 (統一英語単語テスト) : 20% ・ e-learning : 20% ・ 教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%) 注意 : 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席)			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・ 英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・ 半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後の学習として毎回 1.5 時間以上かけること。 中間テスト終了後は答案返却時に正解、よくある間違いを確認、解説する。 単語テスト終了後は発音、品詞、意味の確認を行う。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	本授業ではTOEIC対策に特化した演習を行います。TOEICの出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、Part1~Part7までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEICの点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 TOEIC スコア 350 点を獲得できるようになる。 ・語彙や文法の知識を定着させる。 ・前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			授業の進め方、評価方法などの説明
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認(1時間)
2	Unit 1 : Eating Out 動詞 (1)Unit 1 : Eating Out	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0439-0479 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 2 : Travel 動詞 (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0480-0520 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 3 : Amusement 動詞 (3)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0521-0561 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 4 : Meetings 代名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0562-0602 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 5 : Personnel 不定詞と動名詞 (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0603-0643 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 6 : Shopping 不定詞と動名詞 (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0644-0684 ・事後学習 (3時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0685-0725 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
9	Unit 7 : Advertisement 名詞・冠詞・数量詞(1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0726-0766 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 8 : Daily Life 名詞・冠詞・数量詞(2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0767-0807 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 9 : Office Work 仮定法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0808-0848 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 10 : Business 分詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30分) : 単語テストの準備 : 範囲 0849-0862 ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	Unit 11 : Traffic 関係詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
14	Unit 12 : Finance and Banking 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (1時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
15	Unit 13 : Media 前置詞	単語テスト 文法事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (3時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末

		テキストの練習問題	テストの準備	
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一步上を目指す TOEIC Listening and Reading Test: Level 1	北尾泰幸 西田晴美 林姿穂 Brian Covert	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・統一英語単語テスト：20% ・e-learning 学習の進捗度：20% ・中間テスト+単語テスト：20% ・定期試験：30% ・授業態度：10% (授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度、ノートやメモを取っているか等) <p>注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	次回講義時に中間テストの内容について解説を行う。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	TOEIC 形式の問題を正確に解く力を身につける。 さらに、TOEIC 形式の問題によく出てくる表現を使ってスピーキング・ライティング活動を行い、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	TOEIC 350 点以上のスコアを取得できるようになる。 TOEIC 形式の問題を正確に解くことができるようになる。 TOEIC によく出てくる表現を用いて、簡単な発話や英作文ができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 予習 単語：0439-0481
2	Unit 1 Shopping	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 1 復習 Unit 2 予習 単語：0482-0524
3	Unit 2 Dining Out	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 2 復習・予習 単語：0525-0567
4	Unit 2 Dining Out	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 2 復習 Unit 3 予習 単語：0568-0610
5	Unit 3 Daily Life	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 3 復習・予習 単語：0611-0653
6	Unit 3 Daily Life	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 3 復習 Unit 4 予習 単語：0654-0696
7	Unit 4 Travel	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 4 復習・予習 単語：0697-0739
8	Unit 4 Travel	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 4 復習 Unit 5 予習 単語：0740-0782
9	Unit 5 Entertainment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 5 復習・予習 単語：0783-0825
10	Unit 5 Entertainment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 5 復習 Unit 6 予習 単語：0826-0862
11	Unit 6 News & Media	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 6 復習・予習
12	Unit 6 News & Media	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 6 復習 Unit 7 予習
13	Unit 7 Housing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 7 復習・予習
14	Unit 7 Housing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 7 復習
15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	実践英語 II b
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST TRY FOR THE TOEIC L&R TEST	Robert Hickling	金星堂
2	THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST-Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 20% 授業態度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45%
-----------	--

	の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	予習・復習等にかかる時間をおよそ30時間とする。 授業日以外の質問等はTeamsで受け付ける。詳細は第1回目の授業で指示する。

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300-400点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50~100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果 (資格)	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			事前学習:テキスト p.1-6 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間)
1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.7-12 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#439-459ǌ-480
2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.13-18 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#481-501Ƕ-522
3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.19-24 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#523-543Ƞ-565
4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.25-30 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#566-587Ɍ-609
5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.31-32 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#610-631ɸ-653
6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.33-38 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#654-675ʤ-698
7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	テスト勉強: p.1-38 ま復習復習 (2時間) 単語テスト#699-721˒-741
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	事前学習:テキスト p.39-44 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#742-761˺-781
9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.45-50 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#782-801̢-821
10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.51-56 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#822-841͊-862
11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.57-62 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#481-543Ƞ-609 #439-480 (各自学習)
12	Unit 10: 就職活動	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.63-64 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1時間) 単語テスト#610-664ʙ-710
13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.65-70 練習問題を行う (1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記
14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記

			(1 時間) 単語テスト#711-752˱-791	
15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.71-76 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)テキスト 単語テスト#792-831 #832-862(各自学習)	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT (Updated Edition)	鶴岡公幸, Matthew Wilson	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 期末試験(20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回授業開始時に、単語テストを行います。 単語帳#439-862 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間以上はかけて下さい。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、単なる日本語訳にとどまらない英文の内容理解にじっくりと取り組み、総合的な英語の運用能力 (聞き取り力/語彙力/文法力/読解力) のレベルアップをはかります。さらに、TOEIC テストなどで評価される英語力を向上させ、各種資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 450 点以上 (CASEC 535 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC 等の英語資格試験の対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。教科書販売
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Solving Crimes with Modern Technology (1)	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) 英文の読解/内容理解演習	教科書の予習 単語小テスト (1) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0863-0896
2	Solving Crimes with Modern Technology (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (2) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0897-0930
3	The Reliability of Eyewitnesses (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (3) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0931-0964
4	The Reliability of Eyewitnesses (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (4) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0965-0999
5	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (5) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1000-1034
6	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト (6) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1035-1068
7	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (7) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1069-1102
8	Saving Lives with New Organs (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (8) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1103-1136
9	Saving Lives with New Organs (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト (9) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1137-1170
10	Saving Lives with New Organs (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (10) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1171-1200
11	Objects from Space: Hits and Misses (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (11) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0863-1034
12	Objects from Space: Hits and Misses (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (12) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1035-1200
13	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (1)	英文の読解	教科書の予習・復習
14	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習
15	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語 Ia
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Today 3: Issues (Fifth Edition)	Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (CSEC 試験) ... 20% ・共通試験 (統一英語単語テスト) ... 10% ・e-learning 学習...10% ・授業態度 (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など) ... 20% ・小テスト (全 12 回実施 答案は毎回返却します) ... 10% ・定期試験... 30% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習 (授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など) としての予習には 60-90 分、事後学習 (授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える) には 60 分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率 80%以上 (12 回以上出席) の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします (単位が取得できる見込みはありません)。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) TOEIC 450点 (TOEIC Bridg
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Health	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 863- 897
3	Entertainment	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 898-932
4	House Hunting	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 933-967
5	Ecology	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 968-1002
6	Review Test 1	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1003-1037
7	Career and Employment	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1038-1072
8	Advertisements and Sales Campaign	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1073-1107
9	Communications	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1108-1142
10	Complaints and Troubleshooting	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1143-1177
11	Innovation and Technology	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1178-1200
12	Factory and Production	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
13	Banking and Finance	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
14	Business and Management	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
15	Review 2	単語小テスト リスニング	テキストの予習

			語彙の確認 ディスカッション	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking (Second Edition)	Laurie Blass & Mari Varga	National Geographic Learning (Cengage)
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 試験 (20%), 統一英語単語 テスト(10%), e-learning 学習の進捗度 (10%), 期末試験、小テスト、授業態度、宿題など (60%)			
学生への メッセージ	In this course we will work to improve your vocabulary and reading skills, as well as work on speaking skills. As we will be building on skills each week, it is important that you come to every class.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC の点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペアワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。 TOEIC のボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊は理系向けリーディング教材 (Pathways, Foundations) を、もう1冊は単語集 (TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test) を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストでのスコアアップ。総合英語力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	オリエンテーション、単語テスト1 (番号 523-565)	事後学習・・・単語集の番号 863-891 を確認。
2	単語テスト、Unit 5	単語テスト2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 892-920 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
3	単語テスト、Unit 5	単語テスト3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 921-948 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
4	単語テスト、Unit 5	単語テスト4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 949-976 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
5	単語テスト、Unit 6	単語テスト5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 977-1004 を覚える。Unit の6予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
6	単語テスト、Unit 6	単語テスト6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1005-1032 を覚える。Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
7	単語テスト、Unit 6	単語テスト7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1033-1060 を覚える。Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
8	中間試験、(Unit 5,6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 5,6 の復習
9	単語テスト、Unit 7	単語テスト8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1061-1088 を覚える。Unit 7 の予習。 事後学習・・・Unit 7 の復習
10	単語テスト、Unit 7	単語テスト9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1089-1116 を覚える。Unit 7 の予習。 事後学習・・・Unit 7 の復習
11	単語テスト、Unit 7	単語テスト10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1117-1144 を覚える。事前学習・・・Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 7 の復習
12	単語テスト、Unit 8	単語テスト11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1145-1172 を覚える。事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
13	単語テスト、Unit 8	単語テスト12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1173-1200 を覚える。事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
14	最終試験、(Units 7,8)	試験と振り返り	事後学習・・・Unit 7,8 の復習
15	理解度確認問題	後半ユニットの確認	事前学習・・・教科書復習

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pathways, Foundations	Laurie Blass, Mari Cargo	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト・・・10% e-learning・・・10% CASEC テスト・・・20% 授業内単語テスト・・・60%
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習を一時間以上して下さい。
----	--------------------

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	この授業では、理工学部の学生を主人公としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は教科書販売期間中に早めに購入してください
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業説明 単語小テスト(1)	授業説明 教科書、評価方法、学習方法などの説明	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備：範囲 1180-1200
2	単語小テスト(2) Unit 8 It's something we need to think about.	現在完了形 人体 (骨)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備：範囲 1159-1179
3	単語小テスト(3) Unit 8 It's something we need to think about.	現在完了形 人体 (骨)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備：範囲 1138-1158
4	単語小テスト(4) Unit 9. I'm ready to start the experiment.	不定詞 単位 (温度)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備：範囲 1117-1137
5	単語小テスト(5) Unit 9. I'm ready to start the experiment.	不定詞 単位 (温度)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備：範囲 1096-1116
6	単語小テスト(6) Unit 10. I totally forgot to write my report.	形容詞・副詞 人体 (血液)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備：範囲 1075-1095
7	単語小テスト(7) Unit 10. I totally forgot to write my report.	形容詞・副詞 人体 (血液)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備：範囲 1055-1074 確認テストに向けて Unit 8-10 の復習
8	単語小テスト(8) 確認テスト (Unit 8-10) Unit11 This is still a beta version..	. 分詞 ロボット	教科書の予習・復習； 単語小テスト(8)の準備：範囲 1034-1054
9	単語小テスト(9) Unit11 This is still a beta version..	分詞 ロボット	教科書の予習・復習； 単語小テスト(9)の準備：範囲 1013-1033
10	単語小テスト(10) Unit 12 I'm thinking about of joining the course.	動名詞 元素 (元素周期表)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(10)の準備：範囲 0992-1012
11	単語小テスト(11) Unit 12 I'm thinking about of joining the course.	動名詞 元素 (元素周期表)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(11)の準備：範囲 0972-0991
12	単語小テスト(12) Unit 13 I have to study for the exams.	関係詞 元素 (水素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(12)の準備：範囲 0952-0971 暗唱テストに向けて復習
13	暗唱テスト 1 Unit 13 I have to study for the exams.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 関係詞 元素 (水素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(13)の準備：範囲 0932-0951 暗唱テストに向けて復習
14	暗唱テスト 2 Unit 14 I'm worried about my English test.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 比較 元素 (炭素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト (!4)の準備 範囲 900-931
15	Unit 14 I'm worried about my English test.	比較 元素 (炭素)	定期試験対策としての復習 (単語小テスト(15)の準備 範囲 0863-899

関連科目	実践英語 1a
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English for Science	角山 照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・統一英語単語テスト... 10% ・e-learning 学習... 10% ・CASEC...20% ・単語小テスト... 10% ・確認テストと定期試験... 40% ・暗唱テスト...10% 			
学生への メッセージ	<p>積極的な参加を期待しています。辞書を持参すること。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験することを強くお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。</p> <p>原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績</p>			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、科学・技術を話題とするニュース映像を題材としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。教科書
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Course introduction and textbook orientation. Unit 5 Reading Focus on Guessing Meaning from Context, Identifying Examples, and Understanding Quotes Vocabulary Quiz	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種テストについての説明など) 語彙学習、ニュース映像の内容理解演習、聞き取り演習	教科書の予習・復習; 単語小テスト(1)の準備: 範囲 863-889. After that, preview next week's unit. (1時間)
2	Unit 5 Critical Thinking Focus on Personalizing, Synthesizing and Reflecting Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(2)の準備: 範囲 890-920. After that, preview next week's unit. (1時間)
3	Unit 5 Writing Language for Writing: Using simple present tense (negative) and Using adverbs of frequency. Writing Goal: Write about the risks you take. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(3)の準備: 範囲 921-946. After that, preview next week's unit. (1時間)
4	Unit 5 Vocabulary Expression Word Link: -ous Word Partners: Nouns/Adjectives + size Vocabulary Quiz and Unit Test	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(4)の準備: 範囲 947-974. After that, preview next week's unit. (1時間)
5	Unit 6 Reading Focus on Identifying Reasons and Understanding Main Ideas and Details Vocabulary Quiz	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(5)の準備: 範囲 975-1000. After that, preview next week's unit. (1時間)
6	Unit 6 Critical Thinking Focus on Analyzing a sequence, Synthesizing, and Evaluating. Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(6)の準備: 範囲 1001-1034. After that, preview next week's unit. (1時間)
7	Unit 6 Writing Language for Writing: Giving reasons and Using present continuous tense. Writing Goal: Describe an animal that is in danger. Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(7)の準備: 範囲 1035-1069. After that, preview next week's unit. (1時間)

	8	Unit 6 Vocabulary Word Forms: Comparative adjectives Word Partners: Verbs + about Vocabulary Quiz and Unit Test	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(8)の準備：範囲 1070-1104. After that, preview next week's unit. (1時間)
	9	Unit 7 Reading Focus on Understanding Pronoun Reference, Understanding a Process, and Completing a Summary Vocabulary Quiz	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(9)の準備：範囲 1105-1134. After that, preview next week's unit. (1時間)
	10	Unit 7 Critical Thinking Focus on Analyzing an argument, Evaluating, and Synthesizing Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(10)の準備：範囲 1135-1170. After that, preview next week's unit. (1時間)
	11	Unit 7 Writing Language for Writing: Using simple past of Be, and Using simple past of other verbs. Writing Goal: Explain why we should have a day to celebrate a particular inventor. Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(11)の準備：範囲 1171-1200. After that, preview next week's unit. (1時間)
	12	Unit 7 Vocabulary Extension Word Forms: Changing verbs to nouns with -ing Word Link: Occupation words ending in -er Vocabulary Quiz and Unit Test	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
	13	Unit 8 Reading Focus on Taking Notes Understanding the Gist, and Previewing. Vocabulary Quiz	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
	14	Unit 8 Critical Thinking Focus on Identifying Speculation, Synthesizing, and Analyzing an argument. Vocabulary Quiz	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
	15	Unit 8 Writing Language for Writing: Introducing your opinion and Using modal verbs to make predictions. Writing Goal: Express your opinion about the future of space or ocean exploration. Vocabulary Quiz and Unit Test	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	定期試験対策としての復習

関連科目 実践英語 IIa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition	Laurie Blass, Mari Vargo	Cengage
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験(統一英語単語テスト):10% (Common test) ・共通試験(CASEC):20% ・e-learning の進捗度:10% ・小テスト(全12回実施 答えは毎回返却します):10% ・課題レポート:5% (Homework) ・定期試験(または相当する総復習テストを授業内で実施):3 x 15% 上記割合で総合評価する。			
学生への メッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p> <p>授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。</p> <p>学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>To pass this course, you must attempt ALL</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習(授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など)としての予習には60-90分、事後学習(授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える)には60分程度をかけるとう�효的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。</p> <p>原則として、出席率80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします(単位が取得できる見込みはあり)</p>			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC 450点以上の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。
到達目標	TOEIC450点以上の実力 (TOEIC Bridge 150点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1201-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1260 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1261-1290 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1291-1320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1321-1350 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1351-1380 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1381-1410 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1411-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1470 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1471-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley / 中井弘一	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	e-learning (English Central) 10% 統一英語単語テスト 10% CASEC 20% 授業への参加、貢献 (問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末テスト、授業態度等も含む) 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 毎回の小テストに関して採点評価し、合格点に満たなければ再提出してもらいます。
----	---

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	最新の科学的トピックを扱った英文を題材として、リーディングやリスニングの能力を磨く。また、さまざまなテーマについて自分の意見を持ち、それを英語で述べたり書いたりすることで、スピーキングやライティングの訓練を積む。具体的には、TOEIC550 点以上をねらえる総合的英語力を身につける。
到達目標	TOEIC550 点以上の得点を取れる英語力を習得する。
授業方法と留意点	教科書に従って、リーディング、リスニング、文法などの演習を行う。 各ユニットの終わりには、自分の意見を英語で述べたり書いたりする。 毎回授業の初めに、前回範囲の理解を問う小テストを実施する。 問題演習や和訳などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※毎授業、必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			シラバスとテキストに目を通しておく
1	イントロダクション	授業進め方・評価方法についての説明	シラバスとテキストに目を通しておく
2	Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (絶滅させない:マンモスを生き返らせることはできるか)	単語テスト: 1201-1220 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
3	Unit 2 : That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (沈んだ気持ち: 海に戻っていく街)	単語テスト: 1221-1240 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
4	Unit 3 : The Meat Problem: Solutions from the Lab (肉の消費問題: 解決策を求めて)	単語テスト: 1241-1260 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
5	Unit 4: The Science of Size: Why Aren't Land Mammals Bigger? (大きさの科学: 陸生哺乳動物が大きくなる理由)	単語テスト: 1261-1280 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
6	Unit 5 : Helping the Deaf: The Teen Who Translates Sign Language (聴覚障がい者への支援: AI で手話を翻訳する)	単語テスト: 1281-1300 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
7	Unit 6 : Feline Truths: How to Make Your Cat Love You (猫に関する真実: 猫に愛される秘訣)	単語テスト: 1301-1320 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
8	Unit 7 : Mind Control: Does Hypnosis Really Work? (マインドコントロール: 催眠術は本当に効くのか)	単語テスト: 1321-1340 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
9	Unit 8: Science for All: The Rise of Citizen Scientists (すべての人に科学を: 市民科学者の登場)	単語テスト: 1341-1360 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
10	Unit 9 : Real After All: NASA's Growing Interest in UFOs (UFO の真相: UFO への関心が高まる NASA)	単語テスト: 1361-1380 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
11	Unit 10 : Hard Gardening: Growing Plants on the Moon (過酷な農業: 月の土で植物を育てる)	単語テスト: 1381-1400 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
12	Unit 11 : Seeds of Life: Hayabusa's Great Discovery (生命の種: はやぶさの大発見)	単語テスト: 1401-1420 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
13	Unit 12 : Unlimited Resources: The Prospect of Mining Space (無限の資源: 宇宙採掘の展望)	単語テスト: 1421-1440 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
14	Unit 13 : An Itchy Problem: The Science of Mosquito Bites (かゆみの問題: 蚊に刺されの科学)	単語テスト: 1441-1460 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
15	Unit 14 : Goodbye Diets? The Exercise Pill (ダイエットはもう必要なし?: エクササイズ・ピル)	単語テスト: 1461-1500 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)

関連科目	実践英語入門、実践英語初級			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Inspirations	Dave Rear	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>小テスト+授業への積極的な参加度 (30%) 定期試験 (30%) 統一英語単語テスト (10%) CASEC (20%) e-learning (10%)</p> <p>※授業への積極的な参加度としては、投げかける質問に対する回答や、ノートを取っているかなどを評価します。授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 非常勤講師室			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサント [®]
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3422c2		

授業概要・目的	This course is designed to help students improve speaking fluency by presenting and discussing familiar topics.
到達目標	We will use an English textbook to cover several different topics. The topics are all familiar to students so this should allow them to speak confidently. Most activities will be done with a partner and/or in a small group. Students will be required to
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 - My Hometown	Do Unit 1 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 1 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 1 Assignment 2 by due date.
3	Unit 1 - continued	Give Unit 1 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 1 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 1 Assignment 3 by due date.
4	Unit 2 - My Favorite Music	Do Unit 2 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 2 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 2 Assignment 2 by due date.
5	Unit 2 - continued	Give Unit 2 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 2 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 2 Assignment 3 by due date.
6	Unit 5 - Travel Experiences	Do Unit 5 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 5 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 5 Assignment 2 by due date.
7	Unit 5 - continued	Give Unit 5 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 5 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 5 Assignment 3 by due date. 3. Prepare for Review Test
8	Mid-Term Review Test	Unit 1,2,5 Review Test Unit 1,2,5 Review Activity	1. Finish and submit Unit 1,2,5 Review Activity by due date.
9	Unit 6 - My School Life	Do Unit 6 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 6 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 6 Assignment 2 by due date.
10	Unit 6 - continued	Give Unit 6 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 6 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 6 Assignment 3 by due date.
11	Unit 7 - My Favorite Foods	Do Unit 7 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 7 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 7 Assignment 2 by due date.
12	Unit 7 - continued	Give Unit 7 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 7 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 7 Assignment 3 by due date.
13	Unit 8 - My Friends	Do Unit 8 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 8 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 8 Assignment 2 by due date.
14	Unit 8 - continued	Give Unit 8 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 8 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 8 Assignment 3 by due date. 3. Prepare for Review Test
15	Final Review Test	Unit 6,7,8 Review Test Unit 6,7,8 Review Activity	1. Finish and submit Unit 6,7,8 Review Activity by due date.

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance & Participation	30%		
	Presentations		30%	
	Assignments		20%	
	Review Tests		20%	
学生への メッセージ	<p>毎回、教科書とノートパソコンまたはタブレットを持参してください。課題は授業中に行い、TEAMS を使ってデジタルで提出する予定です。詳しくは初回の授業で詳しく説明します。</p> <p>PCの充電は必ず100%にしてから大学に来るように心がけましょう。</p> <p>コースの詳細は、初回の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>原則として、出席率80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。</p> <p>テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。</p> <p>その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3423c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、「英語を話せるようになりたい」と思っている皆さんが、場面や状況に応じて自分のことを英語で説明する力を養成することを目標とします。実際の場面を想定したダイアログ練習を通して、英語での円滑なコミュニケーション能力を高めることを目指します。世界各地の都市や地域の映像を視聴して日本以外の地域への興味を高め、英会話を学ぶモチベーションの向上につながることも期待できます。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得し、会話を身につける。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名された受講者は解答を発表するなどの発言の機会があります。次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。教科書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売期間中に早めに購入してください。前期「英語基礎会話 a (VR3)」を受講した場合、教科書は同じなので新しく購入するものではありません。 1回目の授業から英和辞書 (電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの) も使用するので、教科書と併せて毎回
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) ウォーミングアップ: 英語で自分のことをどれだけ話せるかチャレンジ/自分の課題点を知る	教科書の予習
2	India: From the Himalayas to the sea, an amazing mix of geography, peoples, languages, and customs India provides (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
3	India: From the Himalayas to the sea, an amazing mix of geography, peoples, languages, and customs India provides (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Shopping)	教科書の予習、復習
4	New Zealand: A country that is famous for its extremely living (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
5	New Zealand: A country that is famous for its extremely living (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (One Day Excursions)	教科書の予習、復習
6	Africa: The sights and sounds of one of the world's most beautiful natural environment (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
7	Africa: The sights and sounds of one of the world's most beautiful natural environment (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Running into Problems)	教科書の予習、復習
8	Cambodia: The history of Angkor (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
9	Cambodia: The history of Angkor (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Bargaining)	教科書の予習、復習
10	Egypt: Traveling back in time to discover one of the Wonders of the World (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
11	Egypt: Traveling back in time to discover one of the Wonders of the World (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Home Visit)	教科書の予習、復習
12	Italy: Visit to some of the world's most active volcanoes (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
13	Italy: Visit to some of the world's most active volcanoes (2)	Italy: Visit to some of the world's most active volcanoes (2) スピーキング演習: 会話ロールプレイ (At a Restaurant)	教科書の予習、復習
14	Mars: Discoveries of two robot rovers	映像を見てリスニング演習スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Saying Good-bye)	教科書の予習、復習
15	まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Globe Trotters: Practical English with Video	Carmella Lieske	センゲージラーニング
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（アクティビティへの積極的な参加、投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 40% ・小テスト（授業内で実施スケジュールを伝える/答えは毎回返却する）... 15% ・期末まとめテスト... 45% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02408a1		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodle より行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【後期金曜1限・理工学部】日本の政治 (担当：森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー：1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について 日本の政治制度の基本原則について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく 日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と土族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目	政治学、政治史関連の科目
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として、「公欠を除く欠席が3回以下」(出席率80%以上)の学生のみを成績評価の対象とします。 ・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> ○平常点20%：小テスト×2回(第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点) ○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。 ・期末試験において持ち込みは認めません。
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>寝屋川キャンパス11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)</p>
<p>備考</p>	

科目名	現代と地理学	科目名 (英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 広之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02426a2		

授業概要・目的	本授業では、地理学の入門的な内容についてお話しします。地理学は社会を、地域や空間などをキーワードとして、捉えていく学問です。人文地理学で扱うテーマは多岐にわたっており、学生の皆さん自身の興味ある分野について、地理学的な視点から考えられる力を身につけることを目指します。
到達目標	地理学の入門的な知識が身につく、社会の諸現象に対して地理学的な視点から説明できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに講義形式で行います。授業時に、理解度を確認するための小課題に取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さんの興味のある現象について、地理学的な視点で考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学とは？	地理学の学び方や授業の進め方等について紹介します。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
2	地理情報について	地図の歴史、GISについて学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
3	地理学の歴史	地理学の歴史と主要な理論について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
4	都市における地理学的現象	都市における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
5	農村における地理学的現象	農村の構造や課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
6	産業の地理学	産業構造の変化による様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
7	環境利用における地理学的現象	資源利用と景観について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
8	環境問題と地理学	環境問題について、様々なスケールからその影響について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
9	ジェンダーと都市	ジェンダーに関する空間的な現状について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
10	観光と地理学	観光について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
11	災害と地理学	災害について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
12	住宅をめぐる地理学的現象	現代住宅における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
13	過疎/ニュータウン、郊外の現在	ニュータウンなどの郊外地域の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
14	空き家と住宅をめぐる諸課題	空き家問題や郊外住宅の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
15	地理学の課題	・これまでの授業を踏まえた上で今後の地理学の課題について検討します。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	期末レポート試験 (30点)、授業ごとの小課題 (70点) にて評価します。																
学生への																	

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	現代と地理学	科目名 (英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 広之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02426a2		

授業概要・目的	本授業では、地理学の入門的な内容についてお話しします。地理学は社会を、地域や空間などをキーワードとして、捉えていく学問です。人文地理学で扱うテーマは多岐にわたっており、学生の皆さん自身の興味ある分野について、地理学的な視点から考えられる力を身につけることを目指します。
到達目標	地理学の入門的な知識が身につく、社会の諸現象に対して地理学的な視点から説明できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに講義形式で行います。授業時に、理解度を確保するための小課題に取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さんの興味のある現象について、地理学的な視点で考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学とは？	地理学の学び方や授業の進め方等について紹介します。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
2	地理情報について	地図の歴史、GISについて学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
3	地理学の歴史	地理学の歴史と主要な理論について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
4	都市における地理学的現象	都市における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
5	農村における地理学的現象	農村の構造や課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
6	産業の地理学	産業構造の変化による様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
7	環境利用における地理学的現象	資源利用と景観について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
8	環境問題と地理学	環境問題について、様々なスケールからその影響について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
9	ジェンダーと都市	ジェンダーに関する空間的な現状について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
10	観光と地理学	観光について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
11	災害と地理学	災害について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
12	住宅をめぐる地理学的現象	現代住宅における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
13	過疎/ニュータウン、郊外の現在	ニュータウンなどの郊外地域の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
14	空き家と住宅をめぐる諸課題	空き家問題や郊外住宅の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)
15	地理学の課題	・これまでの授業を踏まえた上で今後の地理学の課題について検討します。	授業テーマに応じた、事前学習をしておいてください。講義内容について事後学習をしておいてください。(各2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	期末レポート試験 (30点)、授業ごとの小課題 (70点) にて評価します。																
学生への																	

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02409a1		

授業概要・目的	私たちは社会の中で生きており、社会の構成メンバーの利害を調整し、また、秩序を維持するためのルール（規範）が法です。法を学ぶことは社会の仕組みを知るだけでなく、自分の身を守ることにもつながります。この講義では、法の基本的な知識と考え方を学ぶこととしており、特に、基本的な法である憲法と民法を中心に説明します。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ① 法学の基本的な考え方を理解し、法令の読み方を身に付ける ② 憲法の理念を理解し、そこで規定されている人権や統治に対する考え方についての知識を身に付ける ③ 民法の基本事項を理解する
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになってください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果 (資格)	法律的な考え方が身につくことで、社会をより深く理解できるようになります。また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法を学ぶことの意味、法とは何か、法源、法律の学び方	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
2	法令の読み方と解釈	法令及び条文の構成、法令用語の基礎知識、法令解釈の方法	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第2回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
3	憲法とは何か	憲法とは、近代的な憲法の発展、日本国憲法の概要と特徴	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
4	人権と法 (I)	人権の歴史、基本的人権の一般原則、人権の体系、人権の保障範囲、基本的人権の制限、人権を享有する主体、法の下での平等	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
5	人権と法 (II)	自由権の内容と種類、精神的自由権、経済的自由権、人身 (身体) の自由	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
6	人権と法 (III)	社会権、受益権、参政権、幸福追求権及び新しい人権	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第6回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
7	国家と法	国民主権、三権分立、国会、内閣、裁判所、地方自治、憲法の保障	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
8	平和と法	日本国憲法と平和主義、憲法9条の法的性格と解釈	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第8回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
9	民法の概要・財産法 (I)	民法の概要、財産法の概要、権利と義務、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
10	財産法 (II)	法律行為、権利能力・意思能力・行為能力、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
11	財産法 (III)	代理、時効、契約	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
12	財産法 (IV)	物権、所有権、不法行為、事務管理、不当利得、債務の担保	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第12回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
13	家族法 (I)	家族法の概要、親族、夫婦、親子関係、未成年者と父母の親権、親族間の扶養義務	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
14	家族法 (II)	相続、相続人と相続分、遺言	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
15	裁判制度/まとめ	裁判所の役割と機能、事件の種類と裁判の流れ、裁判例と判例/まとめ	授業での配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。(約3時間)

関連科目	憲法、民法、労働法、刑法など
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
	2	民法法入門	野村豊弘	有斐閣
	3	民法	我妻榮	勁草書房

評価方法	期末試験の点数 (60%) と小テストの点数 (40%) の合計点で評価します。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。
担当者の研究室等	11号館10階 團野研究室
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものであり、初学者を対象としていますので、復習に重点を置いていただくようお願いします。特に、講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを取るようになしてください。 また、資格試験のために法律を勉強しようと考えている方は、ご自分に合った参考書(入門書)を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読むことを心掛けると、理解が進むと思われます。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02410a1		

授業概要・目的	憲法は、国家の最高法規として、国家組織を規定し、国のあり方を提示しています。 憲法を学ぶことは、私たちの人権はどのようなメカニズムで守られているのかについて理解を深めたり、社会や経済が変化していく中で日本はどうあるべきかを考える契機になったりします。 この授業では、日本国憲法の成り立ち、基本的考え方、憲法をめぐる様々な議論に関して学習するとともに、個別事例 (判例) の検討を通じて重要事項への理解を深めることとしています。
到達目標	この授業を通じて学生は次の目標を達成することを目指します。 ① 憲法の成り立ちや基本的な理念を理解できること ② 憲法をめぐる様々な論点を理解し、自分なりの見解を持つこと
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果 (資格)	憲法の知識を身につけることで、社会における様々な問題をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法の意義	憲法の意義、日本国憲法の成立、憲法の解釈適用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
2	国民主権	国民主権、三権分立、選挙制度など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
3	平和主義	平和主義の意義、憲法9条の解釈と運用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第3回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
4	基本的人権の保障	人権の歴史、人権の種類、人権の主体、人権保障の限界など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
5	包括的基本権	個人の尊重、法の下での平等、幸福追求権など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
6	精神的自由権 (I)	思想・良心の自由、信教の自由	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
7	精神的自由権 (II)	表現の自由、学問・教育の自由	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第7回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
8	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
9	身体的自由権	適正手続の保障など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
10	社会権・受益権・参政権	社会権の内容、受益権の内容、参政権の内容など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第10回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
11	統治機構 (国会)	国会の地位、国会議員など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
12	統治機構 (内閣)	行政権と内閣、議院内閣制など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
13	統治機構 (裁判所)	司法権の意義、裁判所の組織など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
14	統治機構 (財政)	財政民主主義、租税法律主義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
15	統治機構 (地方自治)	地方自治の意義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。(約3時間)

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
	2	憲法	辻村みよ子	日本評論社
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (40点) と定期試験 (60点) の得点合計で評価します。
学生へのメッセージ	日本国憲法の知識は社会に出た際に有益なものです。この機会に基本事項を学んでおくことで、皆さんの進路や社会との関わり方が広がると思いますので、ぜひ積極的な学習をお願いします。
担当者の	11号館10階 團野研究室

研究室等	
備考	講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを必ずとるとともに、復習を欠かさずに行ってください。 講義の内容は基本事項が中心ですが、将来目指す進路によってはもっと深い知識が必要な場合もあります。その場合、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02410a1		

授業概要・目的	法律の基本法である日本国憲法について大まかに理解し、社会における様々な問題に対する視点をを得ることを目的とします。 憲法の人権と統治機構の項目をそれぞれ扱います。 人権条項については各条文の解説を判例を交えながら行います。統治機構の部分については国家の仕組みについて学びます。
到達目標	社会における様々な問題を憲法の視点から分析し理解できるようにします。 「宗教の問題」「インターネット上の表現」「いわゆる LGBT の問題」など人権分野だけでなく、昨今の政治問題についても理解し整理できることを目的とします。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。 ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところにある「コース」をクリック、「コースを検索する」から「24 理工憲法」と入力して検索し「2024 日本国
科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	憲法の意味・歴史と現在の憲法規定の概要	予習：教科書の 1、2 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
2	人権総論 1	憲法の人権規定の基本原則である「個人の尊重」と、プライバシー権・自己決定権などについて学びます。	予習：教科書の 8、9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
3	人権総論 2	法の下での平等について学びます。	予習：教科書の 10、11、12 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
4	思想・良心の自由	精神的自由の基盤となる内心領域の自由について学びます。	予習：教科書の 16 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
5	信教の自由・政教分離	宗教に関する権利、国家と宗教の関係について学びます。	予習：教科書の 17、18 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
6	表現の自由 1	表現の自由の価値とその制限について学びます。	予習：教科書の 19、20 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
7	表現の自由 2	インターネット上の表現について学びます。	予習：教科書の 20、21、22 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
8	経済的自由・財産権の保障	経済活動に関する日本国憲法の規定について学びます。	予習：教科書の 26-28 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
9	社会権 1	生存権・教育を受ける権利について学びます。	予習：教科書の 29、24 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
10	社会権 2	労働に関する権利について学びます。	予習：教科書の 30 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
11	適正手続の保障	法定手続・刑事手続についての原則と権利について学びます。	予習：教科書の 13-15 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
12	国会と内閣：議院内閣制	民主主義の仕組みと、国会・内閣の関係性について学びます。	予習：教科書の 32-35 を読んでおく (40 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
13	裁判所の役割	国家における裁判所の役割について学びます。	予習：教科書の 37-40 を読んでおく (40 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
14	平和主義	憲法 9 条の規定と平和主義について学びます。	予習：教科書の 45 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
15	地方自治・最高法規・憲法改正	地方自治のシステム、憲法の最高法規性、改正手続について学びます。	予習：教科書の 36、43、44 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間 [第 2 版]	井上典之編	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の得点合計で評価します			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11 号館 9 階浮田准教授室			
備考	中間テストの実施日は授業中に連絡します 中間テストの追試験・再試験は行いませんので、注意してください			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02429a2		

授業概要・目的	この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事をある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。また、戦後から現在に至る世界経済史のマクロ的な振り返りを通して、現日本の経済状況を理解することをも目指す。
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる。
授業方法と留意点	・対面授業で行なう。対面授業に参加するように。 ・万一遠隔授業となった場合は授業資料配信型のオンライン授業とする。 ・使用するオンラインツールはWebFolderである。授業資料ではできる限り平明な解説文と図説チャートなどの静止画をメインにしたものを用いる(必要な場合には音声、動画を交える)。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前学習として「経済」とは何か、「経済学」とはいかなる学問かについて、自分なりの見解を簡単にまとめておく。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
2	経済と経済学	①誰のための経済か。そもそも経済とは？資本とは？資本主義とは？ ②様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：2対象の違い、視座の違い。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、名目と実質の経済成長率など	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。

	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	15	世界経済と日本まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学入門 (マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版
	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版
	3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社
評価方法 (基準)	定期試験 (筆記試験) 70%、小テスト・提出物などが 30%。			
学生へのメッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて (自分なりに) 書籍やネットを使って掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	チェックシート(小テスト)、提示された課題への取り組みなどを通して、自身の理解不足の箇所を把握し、自主的に調べ知識を深める、あるいは新たな気づきを得ることが肝要である。とりわけ重要な事項で理解の不足が目立つ場合には、折に触れ授業で言及しましたチェックシートや課題で問う、などのフィードバックを図る。質問等については基本的に授業終了後に対応する。			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TSO2429a2		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。毎日の新聞・ニュースを見ると、国民所得のこと、設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことなど、マクロ経済に関するトピックがいろいろ出てきます。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、マクロ経済学の基礎理論に基づいてマクロ経済の動向を考察できるようになることを目的としています。これは、経済活動に関わる社会人として、必要な知識であると担当者は考えています。 使用テキストは、日本の事例を使った解説を展開しています。講義では、できる限り図表やグラフを用いた解説を行います。初歩的な数学も用いることもあります。
到達目標	経済学部での学習に必要なマクロ経済学の基礎知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。
授業方法と留意点	講義資料は毎回配布しますが、Teams および Web Folder にもアップします。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くことを禁止します（常識の範囲内ですが）。スマートフォンを操作する必要があるときは、指示します。 原則として毎回、練習問題を出題します。練習問題は次回講義開始時まで提出する宿題と位置付けていますが、講義中に解
科目学習の効果 (資格)	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験（事務職）や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の概観、マクロ経済循環について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について (教科書第1章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について (教科書第2章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について (教科書第3章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について (教科書第4章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
6	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の役割について (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
7	貨幣の需要と供給 (2)	貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのかについて (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
8	乗数理論と IS-LM (1)	一国全体の需要である総需要の変化が国民生活に及ぼす影響について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
9	乗数理論と IS-LM (2)	総需要の状況をあらかず IS-LM モデルに基づく、財政・金融政策の効果について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
10	経済政策の必要性	財政・金融政策の限界と最近の金融政策について (教科書第7章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
11	財政赤字と国債	財政支出拡大の問題点について (教科書第8章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
12	インフレとデフレ	インフレとデフレが発生する要因について (教科書第9章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
13	失業	失業についての考え方と日本の失業について (教科書第10章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
14	経済成長理論 / オープン・マクロ経済学	①経済成長のメカニズムについて (教科書第11章) ②外国の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について (教科書第12章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) これまでの講義内容の復習 (120分)
15	確認テスト	確認テスト (成績評価の対象)	これまでの講義内容の復習 (120分)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門 (第6版)	福田慎一・照山博司	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	練習問題 (50%)、確認テスト (50%) で評価します。
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室

備考	15 回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。
----	----------------------------------

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花木 完爾
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02412a1		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。(DP 2) ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントもしくはレジュメによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、公認会計士、公務員試験、大学院試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業のかたち	企業の形態と分類について学習する。	事前：教科書の第2章、第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	株式会社の統治の仕組み	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	経営理論の歴史 (1)	産業革命が生み出した作業管理手法の必要性について学習する。	事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	経営理論の歴史 (2)	フレデリック・テイラーの生み出した科学的管理法について学習する。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	経営理論の歴史 (3)	1920年代の古典的、新古典的経営理論 (フォード、ファヨール、メイヨー) について学習する。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	経営理論の歴史 (4)	1930年代バーナードの近代的組織論について学習する。	事前：教科書の第11章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	経営組織論 (1)	組織とはなにか、学習する。	事前：教科書の第12章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	経営組織論 (2)	基本的な組織形態とさまざまな組織形態について学習する。	事前：教科書の第13章、第14章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	経営戦略論 (1)	1960年代チャンドラー、アンソフの経営戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	経営戦略論 (2)	1980年代マイケル・ポーターの競争戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	人事管理とリーダーシップ論	人事管理の歴史と人的資源管理について学習する。	事前：教科書の第16章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	マーケティング論	マーケティングの誕生から基礎理論までを学習する。	事前：教科書の第17章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	生産管理論	現代の作業管理のあり方について歴史的に学習する。	事前：教科書の第4部第2章2節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	日本的経営論	日本での経営方式の強み、弱みについて学習する。	事前：教科書の第4部第2章2・3節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目 日本経営史、外国経営史、経営戦略論、経営組織論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学	井原久光	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 各講義後に実施する小テスト40%、期末レポート60%で評価する。

学生へのメッセージ 予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。

担当者の研究室等

備考 ①小テストは、講義終了後から次回の講義の前日23時までに回答しなければならない。
②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。
③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	洪 性奉
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02412a1		

授業概要・目的	この授業は、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営戦略論、多国籍企業論、異文化経営、国際マーケティングなど、主なトピックスを取り上げ、その基礎知識の習得とともに、現代企業経営の課題を発見し、解決方法を模索する力を身につけることを目指す。さらに、受講生の国際性の涵養および実社会への応用を期待する。 受講生は、単なる基礎理論の習得だけではなく、疑問を持つことが非常に大切であることを認識し「あなたならどう考えるか」「あなたが経営者となったらどうアクションをとるか」などの実践的な経営感覚と課題解決能力が身につける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業経営における諸理論の知識が身につく (DP2)。 ・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。 ・受講生は経営学に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本フレームワークが有効に活用できる (DP3)。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義資料 (レジュメ、ワークシート) は教室で配布する。各講義資料は Moodle から事前入手可能。 ・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。 ・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの3つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ (生産)・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	国際ビジネスにおける半導体産業	半導体産業におけるファブレス (fabless)、ファウンドリー (foundry) について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス (調達や物流) 業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目	競争戦略論、経営戦略論、グローバル経営論
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略経営論—競争力とグローバリゼーション	マイケル A. ヒット、ロバート E. ホスキソン、R. デュエーン・アイ ルランド	センゲージラーニング
	2	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
	3	国際ビジネス 1—グローバル化と国による違い—	チャールズ・W・L・ヒル	楽工社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。 ・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。 ・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度ををはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。 ・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。 			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。 ・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。 			
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）			
備考				

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02413a1		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自らがこれらの問いに向き合えるようになるために、社会学の基本的なものの見方について概説する。前半では、社会学の関心や着眼点、ならびに基礎的な概念について解説する。後半では、それらを踏まえつつ、家族、労働、医療、福祉、教育、階層といった諸領域に関する社会的知見を紹介し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。
到達目標	受講生は社会的な発想とデータの解釈にもとづき、現代社会のさまざまな社会現象・社会問題について、一歩深い水準から考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会構造やその歴史的变化との関連において把握する能力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。
2	社会学とは何か	社会学の対象と研究枠組み	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
3	社会学の基礎知識 (1)	社会化、地位と役割	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
4	社会学の基礎知識 (2)	逸脱行動	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
5	社会学の基礎知識 (3)	意図せざる結果①：予言の自己成就	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
6	社会学の基礎知識 (4)	意図せざる結果②：潜在的機能	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
7	家族・労働の社会学 (1)	近代家族とその変容	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
8	家族・労働の社会学 (2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
9	家族・労働の社会学 (3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
10	医療・福祉の社会学 (1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
11	医療・福祉の社会学 (2)	監視のテクノロジー	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
12	医療・福祉の社会学 (2)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
13	教育・階層の社会学 (1)	階級と階層、格差と貧困	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
14	教育・階層の社会学 (2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学 (社会学 I)、社会学 II
------	--------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎社会学講義—社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社
2			
3			

評価方法 (基準)	コメント (10%) : 授業内容に関するコメントを授業後に求める。 期末試験 (90%) : 授業内容に関する筆記試験を行う。
学生へのメッセージ	授業内容に興味があり、「これは楽しめそうだ」という人が参加してください。 社会学や哲学の本を読んだり、社会のさまざまな事柄について考えたりすることが好きな学生の参加を期待します。
担当者の研究室等	
備考	毎回の 1.5 時間以上の自宅学習を行い授業に参加すること。 教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02413a1		

授業概要・目的	<p>この「社会の仕組み」の授業では、「社会学」や「文化人類学」を学問的基礎と位置づけ、それらの多種多様な枠組みや論題の中から、身近なトピックを選び出し、課題として検討する。</p> <p>上述の学問は「社会科学」の一部を成すが、主専攻が理工系学問分野である受講生のために、「受講生の専攻に傾斜させた理工学部的な視点」から社会の仕組みを講じる。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。</p> <p>授業の具体的な内容は授業テーマや全体の計画を参照いただきたいが、社会や文化における諸事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめてゆく。授業は1回から3回程度で完結するオムニバス形式で行う。これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解させながら、社会全体へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。</p> <p>2度の小テスト[原則的に非公開]と定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。</p>																																																																		
到達目標	この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関し、社会科学(具体的には社会学や文化人類学)の認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての教養の養成のみならず、社会人としての素養を身につけることがらに直結している。																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義形式が中心。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。また、回答が用意されていない問題については、PBL(Problem-based Learning)を取り入れ、問題解決の方向性を探る。</p> <p>基本的には、積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年、そのノートを持ち込んで定期試験をおこなっている。</p> <p>授業の内容を毎年変更しているため、昨年度のノートは意味を成さない点は、受講前に認識してお</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方</td> <td>座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。</td> <td>社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会とは何か</td> <td>人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。</td> <td>日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文化とは何か?</td> <td>文化の意味と概念について検討する。</td> <td>文化の持つ意味について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人種や民族の概念(1)</td> <td>人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。</td> <td>人種についてその虚構性の認識に至ること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり</td> <td>民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。</td> <td>民族に関する概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族・親族とは何か(1)</td> <td>家族をめぐる諸概念について検討する。</td> <td>家族の形態や概念について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族・親族とは何か(2)</td> <td>親族をめぐる諸概念について検討する。</td> <td>親族の特質や概念について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>病気と障がい(1)</td> <td>病気という概念について具体的に検討する。</td> <td>病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>病気と障がい(2)</td> <td>障がいという概念について具体的に検討する。</td> <td>障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地域社会と生活様式(1)</td> <td>エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。</td> <td>地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地域社会と生活様式(2)</td> <td>生活様式と倫理について検討する。</td> <td>社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり</td> <td>生活様式と倫理について引き続き検討する。</td> <td>倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>科学技術と社会(1)</td> <td>過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。</td> <td>科学技術論の展開について社会科学の立場から一定の意見や回答を提示できる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>科学技術と社会(2)</td> <td>科学技術と社会との連携について検討する。</td> <td>科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>科学技術と社会(3)</td> <td>科学技術と社会問題の生成について検討する。</td> <td>社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方	座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。	社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。	2	社会とは何か	人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。	日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。	3	文化とは何か?	文化の意味と概念について検討する。	文化の持つ意味について説明できること。	4	人種や民族の概念(1)	人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	人種についてその虚構性の認識に至ること。	5	人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり	民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	民族に関する概念について説明できること。	6	家族・親族とは何か(1)	家族をめぐる諸概念について検討する。	家族の形態や概念について一定の説明ができること。	7	家族・親族とは何か(2)	親族をめぐる諸概念について検討する。	親族の特質や概念について一定の説明ができること。	8	病気と障がい(1)	病気という概念について具体的に検討する。	病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。	9	病気と障がい(2)	障がいという概念について具体的に検討する。	障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。	10	地域社会と生活様式(1)	エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。	地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。	11	地域社会と生活様式(2)	生活様式と倫理について検討する。	社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。	12	地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり	生活様式と倫理について引き続き検討する。	倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。	13	科学技術と社会(1)	過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。	科学技術論の展開について社会科学の立場から一定の意見や回答を提示できる。	14	科学技術と社会(2)	科学技術と社会との連携について検討する。	科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。	15	科学技術と社会(3)	科学技術と社会問題の生成について検討する。	社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方	座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。	社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。																																																																
2	社会とは何か	人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。	日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。																																																																
3	文化とは何か?	文化の意味と概念について検討する。	文化の持つ意味について説明できること。																																																																
4	人種や民族の概念(1)	人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	人種についてその虚構性の認識に至ること。																																																																
5	人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり	民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	民族に関する概念について説明できること。																																																																
6	家族・親族とは何か(1)	家族をめぐる諸概念について検討する。	家族の形態や概念について一定の説明ができること。																																																																
7	家族・親族とは何か(2)	親族をめぐる諸概念について検討する。	親族の特質や概念について一定の説明ができること。																																																																
8	病気と障がい(1)	病気という概念について具体的に検討する。	病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。																																																																
9	病気と障がい(2)	障がいという概念について具体的に検討する。	障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。																																																																
10	地域社会と生活様式(1)	エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。	地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。																																																																
11	地域社会と生活様式(2)	生活様式と倫理について検討する。	社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。																																																																
12	地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり	生活様式と倫理について引き続き検討する。	倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。																																																																
13	科学技術と社会(1)	過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。	科学技術論の展開について社会科学の立場から一定の意見や回答を提示できる。																																																																
14	科学技術と社会(2)	科学技術と社会との連携について検討する。	科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。																																																																
15	科学技術と社会(3)	科学技術と社会問題の生成について検討する。	社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。																																																																
関連科目	なし。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	使用しない。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に適宜、告知する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に適宜、告知する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	授業中に適宜、告知する。																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業中の小テスト[25点]×2回。定期試験[50点]50%。小テストは必ず受験すること。小テストの結果は個々には公にしない。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																		
学生への	受講生は授業の内容の中に、自分の将来に役立つ知識を見出すことに努めること。																																																																		

メッセージ	<p>授業中にパワーポイントのスライドを流すため、積極的にノートを取ることが肝要。</p> <p>基本的に授業時間内のスマホの利用は厳禁する。電源をオフにしてから入室すること。</p>
担当者の研究室等	
備考	<p>事前事後の学修の時間について下に記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前事後学修には、毎回最低 30 分以上かけ、根拠が明確なウェブサイトの情報だけでなく、できるだけ文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。 2) 期末の定期試験の準備を含め、自主学修には最低でも合計 7 時間はかけること。 3) 授業中に付随する英(単)語を示すことがあるが、それは術語であるため、その概念を捕捉するために数分でも時間をかけ、意味内容を把握するように努めること。

科目名	マーケティング	科目名 (英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02414a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングの基礎知識や基本的な分析枠組みについて理解を深めることを目的としています。製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。
授業方法と留意点	『消費行動』のテキストは、新版を準備して下さい。 講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティングの全体について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・マネジメントに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	流通チャネル政策	流通の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費者の購買意思決定過程	消費者の購買意思決定過程について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者の購買意思決定過程に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	消費パターンと消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	競争の戦略 (1)	競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略や企業の地位別戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	競争の戦略 (2)	SWOT分析、バリューチェーン分析について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、SWOT分析やバリューチェーン分析に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	グローバル・マーケティング	グローバル・マーケティングについて学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	産業社会と知的財産	科目名 (英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02415a1		

授業概要・目的	<p>近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。知的財産（特許権）を企業成長戦略に必要な武器として今後創出し、活用するために必要な基本的な知識と戦略、法的背景について事例を通じて学びます。(D P 2)</p> <p>【SDGS-9】(産業と技術革新の基盤をつくろう)</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①地域金融機関 (本店営業部ベンチャー企業向け融資審査役)</p> <p>②新日本監査法人 (ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価: 資産査定業務)</p> <p>③ベンチャー投資財団 (株式会社公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導)</p> <p>④静岡大学 (知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る業務)</p>
到達目標	企業での開発業務等において、技術者として必要な基本的で且つ実践的な知的財産に関する知識を事例等を通じて習得し、企業等が求めている戦略的且つ挑戦意欲があり、開発を経営的視点で広く捉えられる人材の育成を目指します。(D P 2)
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関する「講義資料」は Teams のチャンネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、自身で印刷の上、授業に参加して下さい。資料は1週間で入れ替えます。 毎回、講義内容に関する質問 (小レポート) を講義終了時に提出してもらいます。 毎回授業の最終で提示する予習項目について事前に調べてきてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	研究者、技術者であっても企業の研究成果 (知的資産) の戦略的活用のノウハウ (D P 3) 社会生活、企業活動における遵守すべき知的資産の管理ノウハウ (D P 5)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 知的財産の基礎	講座ガイダンス (勉強方法・評価方法) 企業における知的財産の活用事例 小レポート設問による授業内容の再確認。	<事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)
2	特許権等知的財産権の種類と特徴	「発明」の概念と法的解釈。 小レポート設問による授業内容の再確認。	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
3	企業における知財戦略	特許出願リスクとライセンスの基本的考え方 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
4	ニーズ志向での知財戦略	プロパテント政策による知財ニーズの捉え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
5	ビジネスモデル特許と営業秘密	不正競争防止法に対応する知財の考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
6	職務発明と知財権の法的効力	独占禁止法と知財権の法的効力の関係を理解する。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
7	知財権調査の考え方	知財権調査の仕組みと活用方法。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
8	知財価値評価	知的財産権の価値評価とその活用について理解する。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
9	知財ファイナンス・特許侵害の判断基準	知財高次活用の考え方と侵害に対する基本的対応。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
10	特許侵害訴訟	侵害行為に対抗するための基本的考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
11	ライセンス契約の考え方	ライセンス手法と法的権利との関係。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
12	商標権の制約・契約実務	商標権の活用とその成立のための考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
13	国際ライセンス条約・標準規格の考え方	国際ライセンス手法と国際標準化戦略の基本的考え方 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。

	14	知財管理 Case by Case	各国・地域における知財法の考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	15	アニメ著作権における事業活動	著作権による事業戦略事例 小レポート設問による授業内容の再確認	<事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知的創造活動と知的財産	工業所有権情報・研修館	工業所有権情報・研修館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回の小レポートに対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。また小レポート内の「設問2」（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合、予習項目について事前に調べてきた場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②期末試験（評価割合：50%） 知的財産権の基本的な戦略的考え方</p>			
学生への メッセージ	我々の消費生活における身の回りの製品・商品には多々、知的資産が活用されています。これら知的資産を戦略的に活用・管理する手法が、企業単位だけではなく、国の施策としても重要視されてきています。 社会人としてこれら戦略的思考を身に付けると共に、学生時代とは異なる著作物やデータの法令に則った取扱いの重要性を認識してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	工業所有権情報・研修館のサイトのうち、「知的財産人材の育成」のカテゴリーより、「知的創造活動と知的財産」のテキストをダウンロード（無料）し、学習に役立ててください。 毎回の講義資料は Teams にアップしますので、当該週の金曜日までに各自ダウンロードしておいて下さい。期末定期試験の際に、講義資料（紙ベース）での持ち込みは可です。毎週金曜日に次週講義資料と入れ替えますので、承知しておいて下さい。			

科目名	国際理解概論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 功
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02416a1		

授業概要・目的	グローバル化により人・物・金・情報が国境を越えて高速で動くようになり、世界での出来事が我々の日々の生活に直接影響を及ぼすようになった。新型コロナウイルスが短期間で世界的に蔓延して、さまざまな分野に大きな影響を及ぼしたことは記憶に新しい。グローバルに経済的な合理性を追求することで社会が大きく発展した一方で、その反動として環境破壊や人や地域での格差や断絶を生み、各地で突如異常気象や地域紛争が勃発し不安定さを生みだしている。授業では、このような VUCA (先行きが不透明で、将来の予測が難しい) の時代に、現在世界で起きていることを正しく理解し、それを自分の問題としてどのように対応してゆくべきかを考える。米州、欧州、中国・アジア、日本の4極を政治・経済・社会・技術の4つの視点で整理することで、我々をとりまく大きな環境の変化を理解する。さらに、それらの環境に変化に対応する先進的な企業の取り組み事例を学ぶことで、より具体的な仕事や行動のレベルでの理解をはかる。そのうえで、自分自身の生活や日常に関連づけて、今後の将来の方向性、進路、キャリア、取り組むべき学習について考える。
到達目標	論理的に物事を整理して理解するためいくつかのフレームワークを利用しながら習得する。 習得したフレームワークを活用して、自分自身の将来の方向性、将来ビジョンの設定、これからの学習への取り組み案を作成する。(期末試験として小論文にまとめる)
授業方法と留意点	講義形式を原則とするが、随時対話を取り入れ、学生が主体的に授業に参加して、議論をつうじて理解を深めることを目指す。Teams のチャット機能を利用して、授業時間中にも随時学生からの発信を受取り授業に反映させる。
科目学習の効果 (資格)	物事を論理的に考え、発信できる能力を身につける。 自分自身の将来の方向性、進路、キャリア、学習についての示唆を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	世界情勢を整理するための PEST 分析	世界情勢を理解するために、政治 (P)・経済 (E)・社会 (S)・技術 (T) の切り口で整理するフレームワーク PEST 分析を学ぶ。	講義の復習・課題作成 次回のキーワード「一帯一路」について事前に調べておく (1.5時間)
3	①中国 一帯一路構想	超大国を目指す中国の「一帯一路構想」の政治的思惑を学び、日本ははじめ世界へ及ぼす影響について考える。	講義の復習・課題作成 トランプ前大統領がとった主な政策を確認しておく (1.5時間)
4	②米国 新自由主義がもたらした分断社会	経済優先の新自由主義がもたらした深刻な社会の分断と経済・技術・軍事で追い上げる中国との摩擦について考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマの英国の EU 離脱について、基礎的な事項を確認しておく (1.5時間)
5	③欧州 英国の EU 離脱と離脱後の EU	英国の離脱と格差が広がる EU 各国が抱える問題に加えロシアのウクライナ侵攻の影響を理解し、地域の統合と分離のメリットとデメリットについて考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマ「岸田首相の新しい資本主義」について、基礎的な事項を確認しておく (1.5時間)
6	④日本 成長と分配の好循環を目指す新しい資本主義	岸田首相の提唱する「新しい資本主義」をアベノミクスと比較しながら考える。	講義の復習・課題作成 SDG's という言葉を事前に調べておく (1時間)
7	(E) 経済 米中覇権争いと自由貿易	米国を経済的に急激に追い上げる中国と政治的に激しい覇権争いに発展し、東アジアでも緊張を高めている。「経済安保」ということについて考える。	講義の復習・課題作成 (1時間)
8	(S) 社会 少子高齢化、超長寿命社会の到来	日本を筆頭に、先進国では少子高齢化が急激に進み、政治・経済・社会に大きな影響を及ぼし始めている。人生 100 年時代に向けた課題について考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマのデジタル化について、AI・ロボットの日常への普及が及ぼす影響を考えておく (1.5時間)
9	(T) 技術 加速するデジタル化 (DX) と脱炭素化	DX (デジタルトランスフォーメーション) と脱炭素化による産業構造や社会への影響を学ぶ。そのうえで自分のこれからの職業や働き方というものについて考える。	講義の復習・課題作成 (1時間)
10	企業研究① 企業活動を定性的に理解する	ネットを使って企業の業績やビジョン・戦略の調査の仕方と簡単な分析の手法を学び、いい会社 (就職先として、取引先として) について考える。	講義の復習・課題作成 自分が関心を持っている企業の有価証券報告書をダウンロードして、学んだ手法で分析をしてみる (1.5時間)
11	企業研究② 企業活動を定量的に理解する	企業の決算資料から、企業の取り組みについて読み解く。有価証券報告書の簡単な読み方を学び、いい会社について数字で考える。	講義の復習・課題作成 ネットで自分が関心を持っている企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5時間)
12	企業研究③ 日本の製造業のグローバル化への取り組みを理解する (自動車)	トヨタ自動車などを事例に、日本の製造業の発展の歴史を理解したうえで、これからの脱炭素社会に向けた取り組みについて考える。	講義の復習・課題作成 ネットで自分が関心を持っている企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5時間)
13	企業研究④ 日本の製造業のグローバル化への取り組みを理解する (電機、製薬、建設、他)	自動車産業の発展の歴史と比較しながら、他の産業についての理解を深める。これからの新しい社会に向けた各業界の新しい取り組みについて考える。	講義の復習 (1時間) *期末試験の小論文の準備
14	企業研究⑤ M&A によるグローバル化 (海外への投資、海外から日本への投資)	外国企業を買収した日本企業、買収された日本企業について理解したうえで、グローバル化における M&A という方法について考える。	講義の復習 (1時間) SWOT 分析について自分で練習する *期末試験の小論文の準備
15	グローバルに考え、ローカル	いままでの学びを振り返り、自分自身の	講義の復習 (1時間)

		に行動する	SWOT 分析を行い、自分自身としての職業観とこれからの時代を生き抜くための学びを考える。	* 期末試験の諸論文の準備
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義修了時に提出を求める課題 50%、定期試験(論文)の点数 50% 両方で評価します。 *毎回の講義修了後に講義での気づきや、次回の講義の準備となるコメントを簡単に記入していただき、Teams で提出していただきます。			
学生への メッセージ	授業では積極的な発言・発信を期待しています。(Teams のチャット機能も併用する予定)			
担当者の 研究室等	非常勤講師ですので研究室はありません。授業内に質疑の時間を設けます。 オンライン授業の場合は、随時チャット機能やメールを利用した質問を受け付けます。			
備考	テキストはありませんが、重要なキーワードについては、ネット等で事前に簡単に調べて予習をしておいてください。 Teams で提出いただいた気づきやコメントは、Teams でフィードバックいたします。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA2441a2		

授業概要・目的	<p>主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (0.5 時間) ・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (0.5 時間) ・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (0.5 時間)
4	企業研究を志望動機に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> ・志望動機を組み立て方について考える ・企業研究を志望動機に結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：自身の興味のある企業について調べること (0.5 時間) ・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (0.5 時間)
5	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (0.5 時間) ・事後学修：配付されたテキストを精読すること (0.5 時間)
6	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> ・文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (0.5 時間)
7	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> ・口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間) ・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (0.5 時間)
8	履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシートとは何かを知る ・エントリーシートを書くための前準備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること (0.5 時間)
9	履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (0.5 時間) ・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (0.5 時間)
10	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> ・企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える ・実際にグループディスカッションに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間) ・事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返る (0.5 時間)
11	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> ・議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間) ・事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること (0.5 時間)
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> ・事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (0.5 時間) ・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (0.5 時間)
13	課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・インターン先を調べて、インターンシ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること

		②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	14	課題のプレゼンテーション ③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す			
学生への メッセージ	インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定) インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある			
担当者の 研究室等	水野講師室(7号館3階)			
備考	教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。			

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA3442a2		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
10	事後学修① 9月14日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
11	事後学修② 9月14日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)
15	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	「インターンシップ I」を必ず履修すること。			
担当者の 研究室等	水野講師室 (7号館 3階)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジユメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。</p> <p>なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。</p>			

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1442a1		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦勞はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上をめざす。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論をまなび、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	提示の資料内容に関する講義をおこないます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・文章の作成・対話 (コミュニケーション) といった日本語能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
2	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションのバリエーションをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
3	コンテキストとは何か	コミュニケーション理解の文脈をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
4	コミュニケーションコンピテンス	対人能力の種類をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
5	言葉の機能	言葉が果たす役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
6	ノイズについて	コミュニケーションを妨害する要素をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
7	言語とは何か	言葉を獲得するプロセスをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
8	言語コミュニケーションの特性①	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
9	言語コミュニケーションの特性②	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
10	非言語コミュニケーション①	言葉以外のコミュニケーションツールをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
11	非言語コミュニケーション②	非言語の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
12	非言語コミュニケーション③	身振り・化粧・服装の意味をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
13	表情のコミュニケーション	表情の理路をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
14	流行・世論について	流行発生と流布、世論の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
15	レポート課題の提示と説明	前期の総括	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート 90%、毎回の簡単な課題 10%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	コミュニケーションの仕組みに関心をもって下さい。積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1443a1		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にはさして苦労はしないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上を目指す。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論を学び、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては、社会人にふさわしい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションについてまなぶ	基本事項の説明	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	認識のメカニズム	認知認識のメカニズムを学ぶ。	認識の構造について確認すること。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	聴くと聞く	ヒアリングの回路を学ぶ。	「きく」ことの働きを確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	人を動かすコミュニケーション①	説得について学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	人を動かすコミュニケーション②	動機付けについて学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	対人コミュニケーション①	階層理論を学ぶ。	小規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	対人コミュニケーション②	人間関係発展のプロセスを学ぶ。	中規模のコミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	小集団のコミュニケーション	複数人内のコミュニケーションを学ぶ	大規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	組織のコミュニケーション	上下関係のコミュニケーションを学ぶ	トップダウンの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	自己とコミュニケーション	自己操作を学ぶ。	印象操作について理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	うわさのコミュニケーション	うわさの効用を学ぶ。	うわさの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	マスメディアの影響	マスメディアの功罪を学ぶ	メディアの功罪を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	広告のコミュニケーション	広告の効用を学ぶ	広告の役割を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	異文化間コミュニケーション①	異文化間のコミュニケーションを学ぶ。	他文化とは何かを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	異文化間コミュニケーション②	後期総括	他文化と自文化の間でどうあるべきかを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業態度 (提出物) 10%、レポート90%。毎回 400 字程度のかんたんな課題の提出を求めます。

学生へのメッセージ 意欲的な参加を求めます。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	技術英語	科目名 (英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	梅木 祐子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3450c2		

授業概要・目的	理系分野では、開発した技術や研究成果を英語で発信してグローバル化している産業社会においては、情報をリアルタイムで手に入れたり、素早く発信したりしていく英語力が必要である。この授業では興味深いトピックを取り上げた英文のリーディングを中心に、理系分野で役立つ基本的な英語や専門的な英語を学んでいく。また今まで学んだ文法を確認しながら語彙・語法を習得し、資料の読み取りにも挑戦する。
到達目標	先端技術分野においてどのような研究がなされ、どのような製品が開発されているのかの情報を理解するのに必要な英語基礎力を養い、グローバルに活躍することができる技術者として様々な状況に対応できる英語能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、様々なジャンルの英文を読み解く。授業の流れは新単語、サイエンス分野の英文読解とその要約、文法、自身の考えを話し合い、それを発表する、を順番に行っていく。 授業課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。3回を超える欠席は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	専門英語の理解と TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業内容についての説明、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前に教科書の内容に目を通しておくこと。
2	Unit 1: 牛は赤い色に反応しない? 生物に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
3	Unit 1: 牛は赤い色に反応しない? 生物に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
4	Unit 4: 卵がまん丸だったら困る? 生物に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
5	Unit 4: 卵がまん丸だったら困る? 生物に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
6	Unit 5: 目の悪さは寝て治せるか? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
7	Unit 5: 目の悪さは寝て治せるか? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
8	Unit 6: ビタミンCの取りすぎに注意? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
9	Unit 6: ビタミンCの取りすぎに注意? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
10	Unit 7: 人が甘さを求めるのは自然なこと? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
11	Unit 7: 人が甘さを求めるのは自然なこと? 医療に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
12	Unit 9: コンピューターを再確認する 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
13	Unit 9: コンピューターを再確認する 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
14	Unit 10: 氷を電子レンジに入れたらどうなる? 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
15	Unit 10: 氷を電子レンジに入れたらどうなる? 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。

関連科目	全英語科目、専門科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Explorer	Takayuki Ishii 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)		成美堂
2				
3				

評価方法 (基準)	授業の参加度 10% E-Learning 学習 20% ミニプレゼンテーション 20% Unit テスト 30% 定期学期末テスト 20%
学生への メッセージ	英語学習は地道な努力の積み重ねが必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。辞書を活用して、必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかりと聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。毎日1時間以上学習すること。課題に関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は非常勤講師室・学内メールにて対応する。

科目名	科学英語	科目名 (英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅木 祐子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3451c2		

授業概要・目的	理系分野では、開発した技術や研究成果を英語で発信してグローバル化している産業社会においては、情報をリアルタイムで手に入れたり、素早く発信したりしていく英語力が必要である。この授業では興味深いトピックを取り上げた英文のリーディングを中心に、理系分野で役立つ基本的な英語や専門的な英語を学んでいく。また今まで学んだ文法を確認しながら語彙・語法を習得し、資料の読み取りにも挑戦する。
到達目標	先端技術分野においてどのような研究がなされ、どのような製品が開発されているのかの情報を理解するのに必要な英語基礎力を養い、グローバルに活躍することができる技術者として様々な状況に対応できる英語能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、様々なジャンルの英文を読み解く。授業の流れは新単語、サイエンス分野の英文読解とその要約、文法、自身の考えを話し合い、それを発表する、を順番に行っていく。 授業課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。3回を超える欠席は原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	専門英語の理解と TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業内容についての説明、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前に教科書の内容に目を通しておくこと。
2	Unit 11 : 量のすごさを知る技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
3	Unit 11 : 量のすごさを知る技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
4	Unit 12 : 声の生体認証は安全か? 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
5	Unit 12 : 声の生体認証は安全か? 技術に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
6	Unit 13 : 太陽系は生命体に存在するのか? 宇宙に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
7	Unit 13 : 太陽系は生命体に存在するのか? 宇宙に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
8	Unit 15 : 紙は何回折れるか? 宇宙に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
9	Unit 15 : 紙は何回折れるか? 宇宙に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
10	Unit 17 : 零とゼロの使い方の違い 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
11	Unit 17 : 零とゼロの使い方の違い 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
12	Unit 18 : 日本は大きな国である! 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
13	Unit 18 : 日本は大きな国である! 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
14	Unit 20 : 36は不思議な数字 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
15	Unit 20 : 36は不思議な数字 数字に関する記事	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。

関連科目	全英語科目、専門科目
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Explorer	Takayuki Ishii 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test (Revised Edition)		成美堂
2				
3				

評価方法 (基準)	授業の参加度 10% e-learning 学習 20% ミニプレゼンテーション 20% Unit テスト 30% 定期学期末テスト 20%
学生への メッセージ	英語学習は地道な努力の積み重ねが必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。辞書を活用して、必ず予習しておくことを心がけてください。授業中は積極的に発表することだけでなく、クラスメートの発表をしっかり聞くことも大切です。今日のように身の回りに英語が溢れているという現状では、英語能力を向上させることによってあらゆる可能性が広がる。英語をより身近に感じ、親しむように心がけて欲しい。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。また英単語・熟語は日々の積み重ねが大切です。毎日1時間以上学習すること。課題に関するフィードバックは翌週以降に行う。その他の質問等は非常勤講師室・学内メールにて対応する。

科目名	産業技術史	科目名 (英文)	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3417a1		

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義の資料・レポートなどは全て「moodle」を利用して入手してください。レポートの提出も同様です。産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、可能な限りできるだけ多くの資料と視聴覚教材を用いて解説する予定である。
科目学習の効果 (資格)	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①: たたら製鉄の技術	金属材料の基礎について学ぶ。伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②: 近代製鋼法の技術	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③: 高炉の技術	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。	課題レポート提出④
5	製鉄・鉄鋼産業の技術史④: 新素材の技術	国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。	課題レポート提出⑤
6	自動車産業の歴史①: 自動車産業のあけぼの	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史②: 自動車産業の基礎技術	自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。	課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史③: 低公害自動車「CVCC エンジン」の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史④: ハイブリッドカー・電気自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史⑤: 燃料電池自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①: 高速鉄道のかかえる社会的問題	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②: 新幹線の技術	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。	課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③: リニアモーターカーの技術	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。	課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	課題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	課題レポート提出⑮

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート(全15枚)を100点配分で評価する。なお、評価の基準は、すべての課題レポートを提出し、それぞれのレポートの内容について、題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さなどから総合的に評価し、60点以上を合格とする。なお、課題レポートのフィードバックは、「moodle」を利用する予定である。上記に加えて後期末試験を100点配分で実施し、60点以上を合格とする。最終評価は、レポートが50%、後期末試験が50%配分の100点満点で総合評価し、60点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	各授業毎の課題レポートは、全て期限内に提出してください。レポートの作成においては、レポート課題の理解、課題に沿った解答、内容の正確な理解、専門用語の正確な理解、論理的でわかりやすい展開、自分なりの視点で課題を考察、独創性の芽が感じられる内容を書けるように整理し、文章にまとめる力をつけてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。			

科目名	科学技術教養V1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅 恵造, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 見坂 武彦, 島田 幸祐, 瀬溝 人生, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 西矢 芳昭, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3455a2		

授業概要・目的	本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1) 病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子 (船越)	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
3	認知症～その原因と治療法 (宮崎)	我が国は超高齢化社会へと進行し続け、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立てが見つけなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ (尾山)	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
5	薬物乱用と依存性薬物 (居場)	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存性という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
6	ミトコンドリアと病気 (井尻)	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
7	くすりとタンパク質のかたち (中嶋)	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
8	機能性糖質 (大橋)	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
9	不妊のしくみ (西村)	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
10	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義

		ー (西矢)	用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	後に配布資料を復習する (1時間)。
	11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術 (松尾)	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	12	機能性食品などの新しい食品の形態 (青笹)	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	13	担当: 新任教員、内容: 未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	14	遺伝子組換え植物とその将来 (長田)	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	15	感染症とその予防 (見坂)	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生动向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)

講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。
講義メモを含む課題未提出の場合は欠席1日とする。
原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ

本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。

担当者の研究室等

1号館8階 松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室
1号館9階 尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室

備考

欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する (遅刻2回で欠席1回とみなす)。

科目名	科学技術教養R1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3457a2		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。必ず、期日までに課題を提出すること。最終回には、まとめテストを行う。担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果 (資格)	身近な住環境から地球環境まで、デザイン、環境工学、暮らし、に関する知識と考え方、手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等 (科目の内容、授業の進め方、評価基準等の説明)	事前・事後学習課題
2	環境配慮の空間デザイン	従来から着目されている省エネルギー建物から ZEB (ゼロエネルギー建築) への展開と、近年着目されている県境配慮、知的生産性向上建物の現状について学ぶ。 また、均質で不満の少ない環境から、変化と刺激を感じる環境の提供へのパラダイムシフトによる、多様性がある人中心の環境設計の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
3	スマートウェルネスなまちづくり	環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
4	住環境とバシックデザイン	住環境におけるバシックデザインを建築家 (藤井厚二、小玉祐一郎) の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
5	省エネルギーとバシックデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のバシックデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
6	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
7	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
8	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気の重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
9	生活におけるにおい・かおり	住空間におけるにおい対策、かおりの活用をはじめとした感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
10	地球共生デザインから考えるモノとコトのデザイン	社会問題や環境問題、人と生態系の両方に「コト」と「モノ」両方からアプローチする地球共生デザインの 在り方を実践例を通して考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
11	家族の変化と住まい	家族の変化と住要求の関係、時代の変化による世帯構造及び住まいの変容について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
12	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 まとめておくこと (1 時間)
13	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
14	野生動物との共存のデザイン	近年増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
15	解説	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、

	まとめテスト	まとめテストを受けること (1 時間)		
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生へのメッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。初回の授業および 15 回目のまとめテストは、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。			
担当者の研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、12 号館 6 階 坂本教授室			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。			

科目名	科学技術教養M1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 周之, 植田 芳昭, 小田 靖久, 海津 浩一, 寒川 哲夫, 諏訪 晴彦, 洞出 光洋, 堀江 昌朗, 南 久, 三宅 修吾, 山崎 達志, 渡邊 陽介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3461a2		

授業概要・目的	<p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化, 自動化を図る機械”の原理, 性能, 製作, 利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は, 機械力学, 材料力学, 熱力学, 流体力学の4力学を基軸とし, その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は, 機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより, 機械工学の全体像を俯瞰しつつ, 履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り, 機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各テーマごとにその歴史, 基本原理, 最先端の話題を提供する。 ・Web上で配布するテキスト(PDF)に目を通し, ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し, スライド資料を用いた講義を行う。(60分) ・講義メモと課題を作成し, 指示に従って提出する。(30分) <p>・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。</p> <p>・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeamsを使うので, 注意しておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることが出来る。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき, 受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割 	M1 テキスト第1章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
2	いろいろな機械材料	<ul style="list-style-type: none"> ・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会 	M1 テキスト第3~5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
3	道具と機械	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 	M1 テキスト第2章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
4	空間を移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術 ・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術 	M2 テキスト第6~8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
5	精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> ・もの大きさと精密さ ・精密・超精密加工の発展 ・超精密加工の応用事例 ・超精密加工と超精密工作機械 	M1 テキスト第7章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
6	ものづくりの科学と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する 	M1 テキスト第6, 8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
7	作業を補助する機械	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング 	M1 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
8	機械をかしこくする	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術 	M1 テキスト第11章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
9	ミクロの機械	<ul style="list-style-type: none"> ・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット 	M1 テキスト第12~14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
10	流れを利用する	<ul style="list-style-type: none"> ・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用 	M2 テキスト第2・3章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
11	陸上を移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送 	M2 テキスト第4・5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
12	計測する	<ul style="list-style-type: none"> ・度量衡と政治 ・もの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術 	M2 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
13	制御する	<ul style="list-style-type: none"> ・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術 	M2 テキスト第11・12章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体にならう1	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械 	M2 テキスト第13・14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間)

	15	生命・生体にならう2	・健康とスポーツのための機械 ・人間工学	関連事項について調べる (2時間) M2 テキスト第14・15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回提出する課題 (各回10点満点) に基づき成績評価をする。 ・満点は150点 (講義15回分) で、これを100点満点に換算する。 			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考				

科目名	科学技術教養 E 1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 雅彦, 奥野 竜平, 片田 喜章, 金澤 尚史, 木村 真之, 工藤 隆則, 檜橋 祥一, 西 恵理, 畠中 恵司, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3463a2		

授業概要・目的	電気・情報に関する学問分野には、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学などがある。電気工学は、発電電や送電、動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野、電子工学は、電気の高速度応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野、通信工学は、有線や無線通信、通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野、情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である。これらは、全て「電気」という共通項があり、「情報」が深くかかわる。しかし、それぞれの分野が特化し、かつ高度化したことにより、これらを全て網羅して理解することが難しくなっている。本講義では、これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しづつ学ぶことで、その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に、多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする。
---------	---

到達目標	電気情報工学全般を学ぶことで、電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり、どのような応用があるかを理解することが目標である。
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 ・講義 13 回分はパワーポイントを用いた口述講義の動画を Moodle で視聴。各回で出される課題に解答し、Moodle で提出する。 ・講義 2 回分では研究室紹介動画視聴後にレポートを Moodle で提出する。 <p>教科書が必要となるので、入手しておくこと。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。また、どの分野においても情報の知識は欠かせない。これらの原理や特性を知ること、自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる。国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第 1 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造、発電電、送電のしくみ	第 2 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か、半導体の機能、集積回路の作成技術	第 3 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気をを用いた照明器具の発展、照明器具と消費電力、照明器具の応用	第 4 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路、能動回路と受動回路、集積回路、身近な製品の電子回路	第 5 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	第 6 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ、パソコンの内部構造、スーパーコンピュータ	第 7 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは、家電製品に組み込まれたマイコン、プログラミングの基礎	第 8 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3 原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第 9 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第 10 回課題 約 1 時間
11	電波と放送	電波と応用分野、変調と復調、衛星放送からデジタル放送へ	第 11 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史、携帯電話、通信のこれから	第 12 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、歴史、接続方法、危険性	第 13 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介 1	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(6つの研究室)	第 14 回レポート 約 2 時間
15	研究室紹介 2	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(5つの研究室)	第 15 回レポート 約 2 時間

関連科目	各自の学科で並行して開設されている数学、物理系科目も履修しておくことが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘, 堀内利一, 鹿間信介	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点 13 回とレポート 2 回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を 90%、レポートの評価点を 10% とする。ただし、課題とレポート提出率 80% 以上を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけでなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館4階および5階の電気電子工学科教員室 授業担当責任者 井上雅彦教授室(1号館4階)
備考	課題提供はMoodle上で行い、課題&レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題&レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養C1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 俊太郎, 石田 裕子, 伊藤 譲, 久保田 誠也, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田井 政行, 水野 忠雄, 米田 昌弘
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3465a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画（計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会（環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学（上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 ※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 T 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3468a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
12	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)

			近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。																	
	14	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習(1時間)																
	15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や教に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館2階(東谷), 5号館1階(友枝・小林・東), 8号館2階(長島)]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	情報メディアデザイン	科目名 (英文)	Information Media Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	日浦 明大, 小林 健治, 妹尾 史郎
ディプロマポリシー (DP)	E⑥		
科目ナンバリング	TDA1020a0		

授業概要・目的	デジタル駆動社会への構造変化が加速する中、社会や日常生活における種々の問題解決、課題発見にデータを活用し、データから新たな価値を創造し、効果的に「伝えたい事」や「伝えるべき事」を伝えられる人材の育成が重要となっています。本講義では、科学技術分野や産業における数値・データサイエンス・AI の利活用においてとりわけ重要となる、データの処理と分析のための種々の数学的処理技法を活用し、「情報伝達技術」という観点から「動画の編集」や「デザイン」の基礎的な技術の実習・演習を行い、動画を使用した効果的なプレゼンテーション技術の基礎を身に付けることを目標とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> デジタル駆動社会におけるデジタルデータとデータサイエンスの社会的・技術的背景、データの効用と価値の理解する 理工学分野で必要となる数値データの処理方法と基本的分析方法の習得し、実務に応用できる基礎的能力を有する プレゼンテーションに必要な映像制作 (CM 的映像の作り方) や平 (紙) 面デザインの基礎技術と考え方を修得する
授業方法と留意点	授業内では、データの集計・分析能力、AI などの利活用方法、情報伝達に関する演習 (課題) を行う。 本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポートや基本情報処理技術者 (ともに国家資格) の試験に役立つほか、プレゼンテーション (自分の考えを他者に伝える作業) に必要な考え方の修得と映像や平面デザインといった様々なメディアの特性を学びディレクション能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	データの意味	<ul style="list-style-type: none"> データの種類と特徴 Excel を使ったデータの集計 	課題に対して考察して提出
3	データの編集 1	<ul style="list-style-type: none"> ヒストグラムを使ったデータ Excel を使ったヒストグラムの作成 	課題に対して考察して提出
4	データの編集 2	<ul style="list-style-type: none"> 分布の代表値 (平均値・中央値・最頻値) 分布の広がり (分散・標準偏差) Excel を使った基本統計量の算出 	課題に対して考察して提出
5	データの編集 3	<ul style="list-style-type: none"> 正規分布 Excel を使った事象の発生確率の算出 	課題に対して考察して提出
6	データによる説明	<ul style="list-style-type: none"> データ・AI 利活用の最新動向 AI の活用事例紹介 Excel を使って示したデータの説明 	課題に対して考察して提出
7	データの標準化	<ul style="list-style-type: none"> 分布が異なるデータどうしの比較 Excel を使ったデータの標準化 	課題に対して考察して提出
8	相関分析	<ul style="list-style-type: none"> 相関係数 Excel を使った散布図の作成、相関係数の算出 	課題に対して考察して提出
9	単回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> 単回帰分析 Excel を使った回帰直線の作成、数値の推定 	課題に対して考察して提出
10	データ・AI 利活用における留意事項	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報保護および情報セキュリティ Excel を使ったデータの匿名化、保護 	課題に対して考察して提出
11	動画制作の構成を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 動画制作は「設計図」が肝心 構成の基本「起承転結」 5W1H+1H の活用 	課題に対して考察して提出
12	効果的なシナリオの作り方	<ul style="list-style-type: none"> 種々のメディアで共通する情報伝達手法 	課題に対して考察して提出
13	より効果的なプレゼンのポイント	<ul style="list-style-type: none"> 5つの評価項目 (伝達度、印象度、独自性、構成力、必然性) に従って考える 	課題に対して考察して提出
14	最終課題発表	<ul style="list-style-type: none"> 動画課題を口頭・上映で発表 他の学生の発表を評価・採点して提出する 	発表された課題 (作品) を審査基準に基づいて評価する
15	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> 結果発表→結果を考察 比較・分析することの重要性 	結果を受けて自己分析と全講義を通して学んだことを考察して提出

関連科目	情報リテラシー I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて関連書籍 (アスキー出版, インプレス出版等) を各自用意するとよい		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の課題や小テスト、課題提出 (45%)、作品制作と演習レポート (55%) で評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	上位学年次の学習や研究に役立つ課題や制作に取り組む際の考え方や発想法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回30分をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間かけて、教科書以外の資料や実際のCM・広告物に目を向ける。出来るだけ視覚的資料にあたること。</p> <p>提出課題等はすべて返却し、また、コメントを付したり、授業で講評したりする。解き直しや異なるアプローチについて自身で再考察することが重要である。</p>

科目名	図学	科目名 (英文)	Graphics Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	北野 大祐, 加嶋 章博, 森口 史章
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDA1021a0		

授業概要・目的
 建築を図面化する上で必要な知識のひとつとして、図形を読み解く力を養い、自分の頭の中にイメージしている空間を他者に伝える表現方法を学ぶ。具体的には3次元の立体や空間を2次元の平面に描く際のルールを学び、投影図法や簡易なプレゼンテーション手法を習得する。前半は3次元モデリングソフトを用いてコンピューター上で3次元空間を表現する方法を学び、後半は図形の幾何学的な理解を基礎とした正投影図法や透視図法のルールと、空間と建築設計図面の関係を習得する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。(SDGs-11)

到達目標
 3次元空間にあるもの(建物や家具など)を2次元平面(コンピューター画面や紙面など)に表現するための知識と技術の習得。

授業方法と留意点
 講義と実習により授業を進める。求められている作業を進め、完了するためには、毎回の受講が必須である。

科目学習の効果(資格)
 建築設計製図などの基礎的な表現手法の習得。(関連する資格:CAD利用技術者試験)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 図学とは?	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、2次元と3次元の違いを理解する	(事前) 図とは何かを想像する (事後) 復習課題に取り組む
2	3Dモデリングソフトを用いた図形表現(1)	3Dモデリングソフトの基本操作 <実習>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 授業内容の復習
3	3Dモデリングソフトを用いた図形表現(2)	3Dモデリングソフトを用いた立体図形の作成・編集操作 <実習>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
4	3Dモデリングソフトを用いた図形表現(3)	3Dモデリングソフトを用いて簡単な建物の入力・編集操作 <実習>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
5	3Dモデリングソフトを用いた図形表現(4)	3Dモデリングソフトを用いた効果的なプレゼンテーション <反転授業・グループワーク>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
6	平行投影法(1)	点の正投影法	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
7	平行投影法(2)	点の正投影法の応用	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
8	平行投影法(3)	線の正投影法	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
9	平行投影法(4)	面の正投影法	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
10	演習課題(1)	平行投影法(1)から(4)の復習テスト	(事前) 演習課題に向けた勉強 (事後) 課題を見直す
11	平行投影法(5)	多面体の正投影法	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
12	平行投影法(6)	陰影(線と面)の正投影法	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
13	透視投影法(1)	1 消点透視図法 <反転授業・グループワーク>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
14	透視投影法(2)	2 消点透視図法 <反転授業・グループワーク>	(事前) 前回の授業内容を見返す (事後) 復習課題に取り組む
15	演習課題(2)	平行投影法(5)(6)と透視投影法(1)(2)の復習テスト	(事前) 演習課題に向けた勉強 (事後) 課題を見直す

関連科目
 建築基礎演習A, B、建築設計製図A, B

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)
 復習課題(40%)、演習課題の成績(60%)を総合的に判断して60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ
 各回の内容は、段階的な理解を前提に作成しているので、欠席した場合は自ら学習し追いついてください。自分の頭の中にイメージする空間を上手く表現できると、ものを見る目が変わり、世界が広がります。

担当者の研究室等
 建築学科共通準備室

備考
 事前学習・事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけることを目安とする。課題等はすべて返却する。他の解釈と比較考察を自分で行うことが重要である。

科目名	建築概論	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	白須 寛規, 小林 健治
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA1022a0		

授業概要・目的	建築概論は、建築を学ぶにあたって必要な知識を講義し、広く総合的に建築を考えるための礎を学ぶ。また建築計画の進め方やプレゼンテーションの方法を学び、設計演習の基礎となる知識を習得する。本講義は、意匠設計事務所を主宰する教員が、配布資料とともに実作を図面や写真を用いながら講義する。建築士資格相当の設計・計画の基礎知識、とりわけ用語と寸法に関する知識を修得することを目的とする。授業担当者は実務歴が17年で、設計事務所を主宰し、住宅、商業施設、公共施設等の設計監理を行っている。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	以下の項目とする。1) 建築の意匠、構造、設備を学ぶための基礎となる知識の修得 2) 設計演習を進めるための基礎知識の修得 3) 建築の職業についての基礎的な理解
授業方法と留意点	毎回対面での講義を行う。授業の最初に前回授業について的小テストを行い、講義後に確認テストを行う。課題は毎回課題レポートが課される。
科目学習の効果 (資格)	設計演習全科目、計画系、構造系、環境系科目を学ぶ基礎となる。さらに建築士資格取得のために必須。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業概要	授業概要、流れを説明	(事前) シラバスを熟読 (事後) 授業内容を復習する
2	建築の単位	様々な単位、人体寸法、機能寸法	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
3	家具と建築	建築家の設計した家具を紹介 建築作品の中の家具寸法、構成の分析	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
4	建築の表現	図面の種類 パース表現 模型表現	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
5	建築の構法	構造の種類 RC ラーメン構造 RC 壁式構造	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
6	建築の材料	自然材料、人工材料 仕上げ材、下地材	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
7	建築のスタディ	スタディのための道具 建築のサーチ スタディの進め方	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
8	建築の原理	建築に関係する自然要素 (光・風・熱)	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
9	内部と外部 (1)	雨と屋根 屋根の形状・構成	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
10	内部と外部 (2)	壁と熱 壁の種類・構成	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
11	内部と外部 (3)	光と開口部 開口部の種類・構成	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
12	室内空間	床、天井、間仕切り	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
13	建築の設備	給排水、電気・ガス、換気空調	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
14	建築の縦動線	階段の種類 階段の基準寸法 設計において留意すべきこと	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する
15	社会の中の建築	学んだことが社会でどのように活かされていくのか 建築に関わる職種、その内容	(事前) 教科書指定ページを熟読する (事後) 授業内容を復習する

関連科目	建築計画基礎、設計演習全科目 (特に建築基礎演習 A)
------	-----------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集 第4版	日本建築学会編	丸善株式会社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
2	建築計画 1	岡田光正、柏原史郎、森田孝夫、鈴木克彦、吉村英祐	鹿島出版会	
3				

評価方法 (基準)	各回の受講状況 (小テスト及び確認テスト) の確認 (40%)、課題レポート (60%) で評価します。60%以上を合格とします。
学生へのメッセージ	建築には専門化された分野はたくさんあります。4年間を通して建築を学んでいくなかで自分の得意な分野を見つけていくことが大切です。1年生では、手広く基礎的な知識を学び、また積極的に情報にアクセスして自ら行動するようにしてください。
担当者の研究室等	8号館3階 白須講師室
備考	・授業の進め方については、1回目の授業時に説明する。

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・事前学習については毎回 0.5 時間以上の時間をかけること。・事後学習については毎回 1.0 時間以上の時間をかけること。・授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。 |
|--|---|

科目名	建築環境工学 I	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原 直也, 宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA1038a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 健康で快適な生活を営む上で、重要な役割を果たす様々な環境要因の中で、日照・日射、光環境と音環境に着目して、それらと人間の生理的・心理的反応との関係を理解するとともに、建築計画や設計に際して、承知しておくべき基本的要因と、計画・設計の結果として得られる状況の解析法や評価法についての理解を深める。(SDGs-11)
到達目標	日照、光環境と音環境について、建築計画や設計において必要な基礎知識を身につける。
授業方法と留意点	オンラインにより配布した講義資料を事前に予習として学習したことを前提とした対面の講義を行う。講義資料のストーリーは教科書とは異なり、一部教科書に無い内容を含む。教科書との参照を付記した講義内容となる。対面講義時には、時間内に事前予習内容に関する演習課題に取り組み、その課題の提出を求めることがある。 日常生活で経験する日照・日射、光環境と音環境に関する種々の事柄に関心を持つように心掛ける。
科目学習の効果 (資格)	一級、二級建築士の学科試験の受験において、必要不可欠な最低限の知識を習得できる。インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、照明士などの資格取得に有効である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	太陽の動きと日照	居住環境における太陽エネルギーの効果、太陽の運行と位置の表示と算定法、時刻の表現	指定教科書 (II7, II8) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
2	太陽放射と昼光光源	日照検討の項目・内容、日影曲線・太陽位置図・日照図表による検討	指定教科書 (III0.1, III2.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
3	視覚と表色、色彩の効果	視環境の構成、目の構造・機能、表色系、色彩、色彩の効果	指定教科書 (III1.1, III3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
4	測光量と視環境要件	光の量、基本測光量、見やすさ、明るさ・視野の輝度分布	指定教科書 (III2.2, 1.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
5	視環境要件と照明基準	グレア、光色と演色、光の方向性と立体感、照明基準	指定教科書 (III1.3) を参考に知った予習と、講義内容の復習を行なうこと
6	測光量の相互関係	点光源による照度、物体表面での光の反射、輝度の算定	指定教科書 (III2.2, 2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
7	照明計算	面光源による照度、立体角投射率の算定、間接照度の算定	指定教科書 (III.2.4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
8	室内視環境設計	照明の変遷、光源の特性、発光原理とランプ、照明用光源の特性、人工照明設計の方法、昼光光源の種類と特徴、昼光照度、昼光率、採光計画	指定教科書 (III1.4-6, 2.1, 2.3) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
9	聴覚と音環境	聴覚生理、聴覚心理、音環境計画の構成、建物の用途と着眼点	指定教科書 (V1, V3.1) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
10	音波と音響レベル	音波とその性質、音の実用単位	指定教科書 (V2) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
11	騒音レベルと音の伝播	音響レベルの合成と、等ラウドネス曲線、周波数補正、音の伝搬過程、	指定教科書 (V9) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
12	音響エネルギーの伝播	距離減衰、回折減衰、空気の吸収減衰、音響エネルギーの反射、吸収、透過と吸音	指定教科書 (V4) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
13	騒音制御と遮音	遮音の性能表示、遮音の機構と特性、二重構造の遮音性能	指定教科書 (V7) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
14	室内音響と吸音	室内音場の特徴、吸音の機構と吸音特性、拡散音場、残響時間	指定教科書 (V5, 6) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと
15	音響の評価と設計	最適残響時間、室内音響指標	指定教科書 (V.8) を参考にした予習と、講義内容の復習を行なうこと

関連科目 建築環境工学 I、建築環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会編著	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題 (演習問題) 30%、期末試験 70% で評価する。

学生へのメッセージ 日常生活環境で観察可能な現象を科学的に取り扱う学問である。講義内容を知識として修得するだけでなく、生活環境の工学的な取り扱うための考え方を身につけてもらいたい。

担当者の研究室等 非常勤講師室
8号館3階 宮本教授室

備考 事前学習・事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。

科目名	建築基礎演習A	科目名(英文)	Basic Exercises in Architectural Design A
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	白須 寛規, 伊熊 昌治, 池田 久司, 大谷 由紀子, 川口 裕人, 齊藤 智士, 佐藤 伸也, 丹羽 洋文
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA1057a0		

授業概要・目的	建築設計系科目では、与えられた課題に対して自身の考えやアイデアを図式化(エスキース)しながら、成果物として建築図面(平面図、立面図、断面図等)を製図(ドローイング)し、その展示・発表・講評(プレゼンテーション)を行なう。本演習では実寸、実物を扱うことを通じて、設計の基礎となる図面の模写と模型の製作方法、設計に必要な知識(意匠・構造・環境・外構、各種寸法等)を学ぶ。また、各成果物の計画・制作を通じて、建築図面(平面図、立面図、断面図等)に関する知識や技能の修得、製図表現技法を習得する。併せて、展示・発表・講評を通じて自身の考えを他者に伝えるための技法を体験する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。 (SDGs-11)
到達目標	この演習では、①建築図面に関する知識や技能の修得、②設計の基本的な方法の習得、③製図表現技法の習得、を目標とする。
授業方法と留意点	対面形式での授業を原則とし、オンラインでの提出・指導を組み合わせで行う。指導方法は、少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題毎に担当者が替わっていく。事前提出された各回提出物(エスキース課題)に対する教員から指摘事項等のフィードバックを行う。
科目学習の効果(資格)	建築設計系科目はすべての専門科目とかわる大変重要な科目である。さらに建築士資格取得のために必須である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	図面の模写(第1回)	課題説明、図面・製図道具の説明 図面の作成(1) グループでの指導	図面の意味と種類、製図道具の理解 レイアウト、基準線等の製図
2	図面の模写(第2回)	図面の作成(2) グループでの指導	躯体・開口部の下書き
3	図面の模写(第3回)	図面の作成(3) グループでの指導	躯体・開口部の仕上げ
4	図面の模写(第4回)	図面の作成(4) グループでの指導	設備、床、階段、外構 図面を仕上げる
5	模写図面の模型(第1回)	模型の説明、製作方法の説明、模型道具の説明、課題の説明	練習用模型の作成 模型部材の把握
6	模写図面の模型(第2回)	模型の作成(1) グループでの指導	模型部材の切り出し
7	模写図面の模型(第3回)	模型の作成(2) グループでの指導	模型部材の接着
8	模写図面の模型(第4回)	模型の作成(3) グループでの指導 模型写真の説明 模型箱の説明	外構等模型の完成 模型写真 模型箱
9	実作(原寸)の制作(第1回)	かたちの検討 素材と構造の関係	身近にあるかたちの根拠を集める
10	実作(原寸)の制作(第2回)	模型による検討1 各グループでの個別指導	1/5模型(1) 素材の特性をかたちに落とし込む
11	実作(原寸)の制作(第3回)	模型による検討2 各グループでの個別指導	1/5模型(2) 強度の検討、かたちに落とし込む
12	実作(原寸)の制作(第4回)	原寸と縮尺、製作図(割付図)	原寸製作、細部の納まり 寸法を調整
13	実作(原寸)の制作(第5回)	成果物の提出、講評会	原寸完成品、割付図 その他の表現
14	展示計画	成果物展示計画	展示表現手法の検討 展示レイアウト検討
15	展示講評会	展示に対する講評	口頭発表内容の検討 講評ポイントの整理、相互批評

関連科目	専門科目全般(特に建築概論)
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	名建築のデザインに学ぶ製図の基礎	垣田博之	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
2	コンパクト建築設計資料集 第4版	日本建築学会編	丸善株式会社	
3	建築家の自邸に学ぶ設計製図	水谷俊博、水谷玲子	彰国社	

評価方法(基準)	各回提出物(模写図面、模型、スタディ模型を含む)の評価 40%、提出図面(模写図面、模型、実作(原寸)を含む)の完成度と技法などの評価 60%で各課題毎に評価を行い総合 60%以上を合格とする。
----------	---

学生へのメッセージ	建築設計系科目はすべての専門科目の学習が反映される重要な分野です。特に建築基礎演習はその導入となる部分ですが、初めて建築設計を学ぶ学生にとっては厳しい科目と感じるかもしれません。しかし欠席せずにまじめに学習すれば、必ず建築設計の楽しさや空間計画の面白さが理解できると思います。提出物の未完成、未提出は評価対象とならないため、期限を厳守して取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上の時間をかけて図面や参考作品の特徴の理解に努めること。 【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて設計課題やエスキースを再検討するとともに、類似例、とくに視
----	---

	覚的資料を探すこと。 課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要である。
--	---

科目名	建築基礎演習 B	科目名 (英文)	Basic Exercises in Architectural Design B
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大谷 由紀子, 加嶋 章博, 小林 健治, 駒井 陽次, 高木 章寛, 担当者未定, 信藤 勇一, 村上 芙美子, 山根 健太郎, 湯川 晃平
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA1058a0		

授業概要・目的	建築設計系科目では、与えられた課題に対して自身の考えやアイデアを図式化 (エスキース) しながら、成果物として建築図面 (平面図、立面図、断面図等) を製図 (ドローイング) し、その展示・発表・講評 (プレゼンテーション) を行なう。本演習では小規模な建築および住宅の設計を通じて、設計の基本的な方法 (調査手法、検討事項等)、設計に必要な知識 (意匠・構造・環境・外構、各種寸法等) を学ぶ。また、各成果物の計画・制作を通じて、建築図面 (平面図、立面図、断面図等) に関する知識や技能の修得、製図表現技法を習得する。併せて、展示・発表・講評を通じて自身の考えを他者に伝えるための技法を体験する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。 (SDGs-11)
到達目標	この演習では、①建築図面に関する知識や技能の修得、②設計の基本的な方法の習得、③製図表現技法の習得、これらを踏まえて設計内容を適切かつ効果的に他者にプレゼンテーションすることができる。
授業方法と留意点	本演習は対面形式をベースに内容に応じて ICT ツールを併用して行う。詳細については授業内で説明する。指導方法は、少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題毎に担当者が替わっていく。なお、展示講評会 (対面式) の実施が困難な場合、代替の方法をとる。
科目学習の効果 (資格)	建築設計系科目はすべての専門科目とかわる大変重要な科目である。さらに建築士資格取得のために必須である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	小規模な建築の設計 1	各グループでの個別指導 設計の進め方、事例調査の方法	敷地観察レポートの作成、類似事例の収集・分析
	2	小規模な建築の設計 2	各グループでの個別指導 エスキースの進め方・方法	平面計画面案・断面計画面案をトレーシングペーパーに 作図
	3	小規模な建築の設計 3	各グループでの個別指導 平面計画と断面計画	平面計画面図・断面計画面図をトレーシングペーパーに 作図、ボリューム模型の制作
	4	小規模な建築の設計 4	各グループでの個別指導 各種寸法	建築の各部位の計測と作図、製図の下書き
	5	小規模な建築の設計 5	各グループでの個別指導 製図のルール、模型写真の撮影方法	模型写真・ポートフォリオの収集、製図のルールの 復習、模型制作
	6	小規模な建築の設計 6	成果物の提出、講評会	平面図、立面図、断面図等の製図、講評ポイントの 整理、相互批評
	7	住宅の設計 1	各グループでの個別指導 課題・設計条件の整理、スタディ模型	敷地観察レポートの作成、類似事例の収集・分析、 スタディ模型の制作
	8	住宅の設計 2	各グループでの個別指導 平面計画、断面計画、構造計画	平面計画面案・断面計画面案・構造計画面案をトレーシ ングペーパーに作図
	9	住宅の設計 3	各グループでの個別指導 平面計画、断面計画、構造計画	平面計画面図・断面計画面図・構造計画面図をトレーシ ングペーパーに作図、ボリューム模型の制作
	10	住宅の設計 4	各グループでの個別指導 環境計画、外構計画	環境計画面案・外構計画面案をトレーシングペーパーに 作図、敷地周辺模型の制作
	11	住宅の設計 5	各グループでの個別指導 各種寸法	建築の各部位の計測と作図、製図の下書き
	12	住宅の設計 6	各グループでの個別指導 課題・設計条件との整合	模型写真・ポートフォリオの収集、製図のルールの 復習、模型制作
	13	住宅の設計 7	成果物の提出、講評会	平面図、立面図、断面図等の製図、講評ポイントの 整理、相互批評
	14	展示計画	成果物展示計画	建築展示表現手法・展示レイアウトの検討
	15	展示講評会	展示に対する講評	口頭発表内容の検討、講評ポイントの整理、相互批 評

関連科目	専門科目全般 (特に建築計画基礎)
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄, 三上晴久, 倉知徹, 水島あかね, 花田佳明著	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善出版
	2	初学者の建築講座 建築製図 改訂版	瀬川康秀著	市ヶ谷出版社
	3	建築家の自邸に学ぶ設計製図	水谷俊博, 水谷玲子著	彰国社

評価方法 (基準)	毎回の提出物 (エスキース課題)、最終成果物を評価対象とし、第1課題 40%、第2課題 60%として課題毎に評価を行い、総合 60%以上を合格とする。なお、最終成果物は課題書に記された図面や模型など一式を指し、成果物の完成度、技法などを評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	建築設計系科目はすべての専門科目の学習が反映される重要な分野です。特に建築基礎演習はその導入となる部分ですが、初めて建築設計を学ぶ学生にとっては厳しい科目と感じるかもしれません。しかし欠席せずにまじめに学習すれば、必ず建築設計の楽しさや空間計画の面白さが理解できるとと思います。提出物の未完成、未提出は評価対象とならないため、期限を厳守して取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	8 号館 3 階
----------	----------

備考	【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上の時間をかけて図面や参考作品の特徴の理解に努めること。 【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて設計課題やエスキースを再検討するとともに、類似例、とくに視覚的資料を探すこと。 課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要である。
----	--

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a1		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。現代の我々との対比により、違いだけでなく、共感も得ること。																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントによる講義。理解度を確認する復習テストを不定期に行います。理解できていない箇所は必ず見直しましょう。授業後、配布資料を必ず読んでおくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌1</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>恋歌2</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>恋歌3</td> <td>歌枕を用いた恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌</td> <td>友情や人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢・復習テスト 30%、レポート 70%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	<p>事後に配布資料を約1時間程度通読する。</p> <p>「質問はメールにて対応する」</p>																																																																		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第 1 回～第 3 回の内容の復習を行うこと（1 時間）
5	フィードバック	課題 1 のフィードバック	事前学習課題：課題 1 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題 1 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第 5 回～第 10 回の復習を行うこと（1 時間）
12	フィードバック	課題 2 のフィードバック	事前学習課題：課題 2 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1 時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目 全ての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村田 真一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入、授業の概要説明 教科書「はじめに：文章で伝える」 教科書「第1回：文章の書き方1」	文章を書くことと日本語表現を学ぶことについて レポート・論文の基本事項 適切な文章表現についての全般的な説明	【事前学習】 教科書「はじめに：文章で伝える」および「第1回：文章の書き方1」を読む 【事後学習】 教科書「第1回：文章の書き方1」を読み、練習問題に取り組む
2	教科書「第2回：文章の書き方2」	わかりやすい文章の書き方 有効な文章表現 文の作り方とつなぎ方、接続詞の意味	【事前学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読む 【事後学習】 教科書「第2回：文章の書き方2」を読み、練習問題に取り組む
3	教科書「第3回：事実と意見」	事実と意見の書き分け 事実と意見の関係、事実と意見を文章として表現すること	【事前学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読む 【事後学習】 教科書「第3回：事実と意見」を読み、練習問題に取り組む
4	教科書「第4回：課題① 説明文」	必要なことを適切に説明する 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書第4回：「課題① 説明文」を読む 課題①のための資料を整理し理解を深める
5	課題①のフィードバック	課題①の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題①の文章を見直し、適切な文章表現について考える
6	教科書「第5回：構成」	レポートなどの文章構成を学ぶ 文章構成・段落の意味と役割	【事前学習】 教科書「第5回：構成」を読む 【事後学習】 教科書「第5回：構成」を読み、練習問題に取り組む
7	教科書「第6回：要約」	要旨の要約の作成方法を知る 文章を要約するための考え方	【事前学習】 教科書「第6回：要約」を読む 【事後学習】 教科書「第6回：要約」を読み、練習問題に取り組む
8	教科書「第7回：文章を引用する」	文章を引用する方法を学ぶ 引用することの意味と役割	【事前学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第7回：文章を引用する」を読み、練習問題に取り組む
9	教科書「第8回：図表を引用する」	図表を引用する方法を学ぶ 資料を参照することと客観性	【事前学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読む 【事後学習】 教科書「第8回：図表を引用する」を読み、練習問題に取り組む
10	教科書「第9回：意見を述べる」	考察に基づいて意見を述べる 考えを伝えるための文章表現	【事前学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読む 【事後学習】 教科書「第9回：意見を述べる」を読み、練習問題に取り組む
11	教科書「第10回：課題② 論説文」	資料を引用して意見を述べる 課題についての説明、課題の作成と提出	【事前学習】 教科書「第10回：課題② 論説文」を読む 課題②のための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる
12	課題②のフィードバック	課題②の見直しと反省 これまでの授業内容の復習	【事後学習】 フィードバックを踏まえて課題②の文章を見直し、適切な文章表現について考える
13	教科書「第11回：レポートの書き方1」 教科書「第12回：レポートの書き方2」	レポートの体裁について学ぶ レポート作成の注意点を教える 文章形式の意味と役割 分析・考察の目的・方法を考える レポート課題の提示と説明	【事前学習】 教科書「第11回：レポートの書き方1」および「第12回：レポートの書き方2」を読む
14	レポートの作成	レポートを作成と提出	【事前学習】 レポートのための資料を整理し理解を深め自身の考えをまとめる

	15	レポートのフィードバック 授業全体のまとめ	レポートの見直しと反省 これまでの授業内容の復習 適切な文章を書くための要点	【事後学習】 フィードバックを踏まえてレポートの文章を見直し、適切な文章表現について考える
関連科目	すべての授業の日本語による課題作成			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	摂南大学教育イノベーションセンター
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>課題 2回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性) 等 (30%) により評価する。</p> <p>課題・レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。</p> <p>課題・レポートは手書きとし、適切な漢字の使用、誤字の有無等も評価基準に含める。</p> <p>課題・レポートの評価が合格に満たない場合、再提出とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>本科目は、日本語の文章表現を学ぶことが目的です。</p> <p>しかし、文章表現は、単に文字を連ね記すことに留まらず、自身の考えを形成し表現するものでもあります。</p> <p>普段から用いている日本語について、あらためてその文章表現への理解を深めることは、思考の幅を広げ整理する能力を身につけることにつながっています。</p> <p>大学での学術的な活動や卒業後の社会で求められる言語能力として、日常的なコミュニケーションツールである会話表現とは異なる、自身の考えを論理的に組み立て他者に説得的に伝える文章表現を学んでください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前事後学習の総時間の目安は15時間、授業各回につき前後の予習復習を含めた1時間程度の自習を求める。</p> <p>教科書のほか適宜に資料等を配布する。</p> <p>授業計画は授業の進行状況によって変更する場合がある。</p> <p>学生各自の自主・自律を重視する。</p>			

科目名	キャリアデザイン I	科目名 (英文)	Career Planning I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。 2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。 3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。 4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。 <p>ようになることが期待される。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。 2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。 3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。
授業方法と留意点	<p>講義には積極的な態度で受講すること。</p> <p>なお、学籍番号により担当教員が異なるため、各自自身の担当教員・クラスを確認すること。</p> <p>また、教員により課題の提出方法が異なることもあるので注意すること。</p> <p>課題については授業内にフィードバックする。</p> <p>※2022 年度以前の入学生は再履修クラスで受講すること</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。</p> <p>「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のオリエンテーション ・キャリアデザインとはなにか?なぜ必要なのか? ・公と私について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって“キャリアデザイン”とはなにかを考えること(事前:0.5時間)
2	さあ始めよう!大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶというものを理解する ・「学修」の意味を学ぶ ・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身につける 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学ぶ意味について考えること(事前:0.5時間)
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する ・摂南大学のなかにある「機会」について知る ・学生生活における目標を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・摂南大生として、建学の精神と教育理念を理解すること(0.5時間) ・大学の中にある「機会」の活用の仕方について考えること(事後:0.5時間) ・大学生活での目標を考えること(0.5時間)
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> ・学生生活において目標とすることを考える ・自己効力感を高めることの意味を知る ・個人ワークのインストラクション 	<ul style="list-style-type: none"> ・設定された個人ワークに取り組むこと(事後:2時間)
5	SDGs について考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs に対する理解を深める ・グループワーク ・グループで工程管理を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs とはなにかについて予習をしておくこと(事前:0.5時間) ・グループで課題に取り組むこと(2時間)
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の労働事情の推移を知る ・社会で求められている力について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で求められる人材について考えること(事後:0.5時間)
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> ・GDP から見る社会の仕組み ・労働と貨幣 ・税金について考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後:0.5時間)
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> ・税金について考える ・社会の問題についてディスカッション 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後:0.5時間)
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の良いところを20個挙げる ・ペアワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前:1時間)
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート記入 ・ペアワーク ・大学4年間の目標設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後:0.5時間)
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を理解する ・PDCA サイクルを身につける ・入学から今までの大学生活を振り返る ・未来履歴書を書いてみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後:0.5時間)
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルで発表をする準備 ・グループ内で発表する 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前:1時間)
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(事前:1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの準備をすること(1時間) ・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> ・講義4で行った個人ワークの振り返り ・講義の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間) ・期末レポートを作成すること(1.5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (30%)、グループ課題(20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等				
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。 事前事後の学習として平均して毎回 1.5 時間以上かけること。			

科目名	建築材料	科目名 (英文)	Architectural Material
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	柳沢 学・奥田 泰雄
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2049a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的]建築材料には、建物の柱、梁、床、耐力壁、基礎など建物の骨組を構成する構造材料がある。これらの材料を使用して建築物を設計する時、あらかじめ材料の長所、短所あるいは材質など基礎的知識と応用を熟知し適材を適所に用いる方法を間違えないことが大切である。SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	[到達目標] 1) 建築材料で用いる用語を理解し利用できる 2) フレッシュコンクリートの性能を理解し調合設計ができる 3) 硬化コンクリートの性能を理解し構造設計に適用できる 4) 鋼材の種類および性能を理解し利用できる 5) 木材の種類および性能を理解し利用できる。
授業方法と留意点	教科書を中心とした講義とするが、事前に反転授業 (Web 事前講義・Web 小テスト) を受けてくる方法をとることがある。グループワークを行いグループで課題をまとめて発表することもある。事前・事後学習、授業中の積極的 (能動的) な参加を期待する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」および「材料・施工」部門に関係する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	セメント 概説	種類と製法 諸性質	(事前) 教科書 p.6~12 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
3	コンクリート1 特徴 構成材料	セメント 水 骨材 各種コンクリート	(事前) 教科書 p12~p19, p45~p48 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
4	コンクリート2 混和材料	A E 剤 減水剤 A E 減水剤 混和材	(事前) 教科書 p19~p20 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
5	コンクリート3 コンクリートの調合	調合設計の目標・手順 調合強度 スランプ値 水セメント比 単位水量 単位セメント量 細骨材率 空気量 混和材料 計画調合の表し方	(事前) 教科書 p.33~45 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
6	コンクリート4 フレッシュコンクリートの性質	ワーカビリティ スランプ 空気量 材料分離 コールドジョイント	(事前) 教科書 p.20~23 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
7	コンクリート5 硬化したコンクリートの性質	コンクリートの強度 強度理論 コンクリートの圧縮強度に及ぼす要因	(事前) 教科書 p.24~28 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
8	コンクリート6 コンクリートの耐久性	中性化 塩害 アルカリ骨材反応	(事前) 教科書 p.28~33 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
9	コンクリート7 コンクリート製品	プレキャストコンクリート プレストレストコンクリート コンクリートブロック ALC パネル	(事前) 教科書 p.48~57 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
10	金属1 鉄類 製鉄と加工・成形	製鉄 圧延	(事前) 教科書 p.58~60 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
11	金属2 炭素鋼の性質・種類	物理的性質 機械的性質 熱的性質 熱処理 構造用鋼材の種類	(事前) 教科書 p.60~64 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
12	金属3 炭素鋼以外の鉄類、鉄類以外の金属、金属の腐食とその防止	鑄鉄 合金鋼 銅とその合金 アルミニウムとその合金 腐食 防食法	(事前) 教科書 p.66~73 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
13	金属4 金属製品	構造用材 形鋼 鉄筋コンクリート用棒鋼	(事前) 教科書 p.73~82 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
14	木材1	樹木の成長・組織 樹木の種類 木材加工	(事前) 教科書 p.83~94 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する
15	木材2	木材の性質 木材の保護 木質材料	(事前) 教科書 p.95~106 を熟読してくる (事後) 授業内容を復習する

関連科目	鉄筋コンクリート構造 鋼構造 構造実験
------	---------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築材料 (第四版)	橋高義典、杉山央	市ヶ谷出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Web による事前講義・Web 小テスト (25%) と、演習・レポートなど (25%)、定期試験 (50%) の割合で評価する。60%以上を合格とする。動画視聴後その内容を2頁にまとめたノート提出してもらいその出来栄を評価して事前講義に加え。
-----------	--

学生へのメッセージ	多くの建築材料の特性を知り、その使用用途や使用適正個所への判断を誤らないような知識の習得が重要である。主に構造材料に時間を割いている。はば広く知識を得ることを希望する。
-----------	--

	授業中は私語を慎み、集中して授業内容の理解に努めて下さい。
担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
備考	<ul style="list-style-type: none">・Web 事前講義、Web 小テスト、Web 全小テスト、教科書や事前学習ノート・演習の見直しなどには1回あたり1.5時間以上かけること。・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が記したノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	鉄筋コンクリート構造	科目名 (英文)	Reinforced Concrete Structures
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳沢 学, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2051a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 鉄筋コンクリート構造は、コンクリートの圧縮強さと、コンクリートが引張り力に弱い欠点のところに、引張り力に強い鉄筋を挿入し、そして、鉄筋が防火性、防錆性に弱い欠点をコンクリートが防ぐという、互いの短所を補い長所を活かした複合構造です。このように全くの異質の材料を一体として設計するところに巧妙な設計法が用いられています。SDGs-11に該当する科目です。
到達目標	[到達目標] 以下の項目の理解。 1)鉄筋コンクリート構造の基礎知識 2)構造形式の理解 3)許容応力度設計法の基礎知識 4)構造材料と許容応力度の基礎知識 5)梁および柱の曲げ設計の基礎知識 6)梁および柱のせん断設計の基礎知識 7)梁および柱の実用設計ができるようになります。
授業方法と留意点	教科書を中心とした授業です。多くの授業回では反転授業 (Web 事前講義・Web 小テスト) とし授業を受けるに当たり事前の学習をしてください。教科書に出てくる例題や演習の他に用語をわかりやすく説明するポスターをグループで作成し、発表する演習もあります。能動的学習用に Web による全小テストも用意しています。事前の学習ではノートをとってください。事前・事後学習、授業中の積極的 (能動的) な参加を期待します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士および二級建築士学科試験の「構造」部門に関係します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業内容 受講注意事項 評価方法 鉄筋コンクリート構造概要	履修の心構え 鉄筋コンクリートの意義 鉄筋コンクリートの歴史 鉄筋コンクリート構造の利点と欠点	(事前) シラバス、教科書 p.8~12 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
2	鉄筋によるコンクリートの補強 鉄筋とコンクリートの協働作用 鉄筋に対するかぶり厚さ	鉄筋とコンクリートの付着力などかぶり厚さ、鉄筋間隔・あき	(事前) 教科書 p.8~14 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
3	材料の力学的特性 曲げに対する抵抗	部材の受ける力と抵抗 コンクリート、鉄筋の材料特性、定数 曲げひび割れモーメント 曲げ終局耐力	(事前) 教科書 p.16~29 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
4	設計法と荷重・外力	許容応力度設計法、地震力	(事前) 教科書 p.60~78 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
5	許容応力度設計法に基づく部材の設計 材料の選定と許容応力度	コンクリートと鉄筋の選定、許容応力度	(事前) 教科書 p.80~86 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
6	中間試験 1	第 1 回から第 5 回までの内容の確認	(事前) 第 1 回~5 回を復習してこ こと (事後) 試験内容を再度復習すること
7	曲げモーメントに対する設計 軸方向力に対する抵抗	基本仮定、軸力のつり合い式、ヤング係数比、許容軸力の算定	(事前) 教科書 p.86~89 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
8	曲げモーメントに対する抵抗	長方形断面梁の許容曲げモーメント	(事前) 教科書 p.89~93 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
9	梁の曲げ設計 (1)	梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 断面算定	(事前) 教科書 p.93~99 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
10	梁の曲げ設計 (2)	梁の実用設計、演習	(事前) 教科書 p.99~101 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
11	柱の曲げ設計 (1)	断面内の力のつり合い 中立軸位置 (断面内、断面外) 断面算定 存在応力と許容応力度	(事前) 教科書 p.109~ を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
12	柱の曲げ設計 (2)	柱の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 演習	(事前) 教科書 p.113~ を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
13	中間試験 2	第 7 回から第 12 回までの内容の確認	(事前) 第 7 回~12 回を復習してこ こと (事後) 試験内容を再度復習すること
14	せん断設計概説 梁のせん断設計 (1)	せん断設計の必要性、せん断設計式の説明など 梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 演習: 設計せん断力	(事前) 教科書 p.29~37 を熟読してこ こと 教科書 p.101~108 を熟読してこ こと (事後) 授業内容を復習する
15	梁のせん断設計 (2)	梁の実用設計 構造規定 設計法 (設計手順) 演習: 許容せん断力	(事前) 教科書 p.101~108 を熟読してこ こと 特に例題 4.2-5 を中心に学習してこ こと (事後) 授業内容を復習する

関連科目	建築材料, 構造実験 建築ゼミⅢ, 卒業研究 (構造系), 建築施工
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造の基本と部材の設計	永坂具也/柳沢 学	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	鉄筋コンクリート構造設計規準・同解説 2018	日本建築学会	日本建築学会
2				
3				

評価方法	Web による事前講義視聴・Web 小テスト (25%) と、演習・レポートなど (25%)、中間試験 1,2 (25%)、期末試験 (25%) の割合で評
------	--

(基準)	価します。60%以上を合格とします。動画視聴後その内容を2ページにまとめたノートを提出してもらいその出来栄を評価して事前講義に加えます。
学生へのメッセージ	現在、身の回りには多くの建物が鉄筋コンクリート構造で建設されており、その構造を知ることが建築の意匠・計画にも重要です。構造系希望者はもとより、計画系を希望する学生も本授業を履修することを薦めます。積極的に授業に参加してください。
担当者の研究室等	8号館3階 柳沢教授室
備考	Web 動画講義、Web 小テスト、Web 全小テスト、教科書やノート・演習の見直しなどには1回あたり1.5時間以上をかける必要があります。授業課題を解き直したり、さらに興味を発展させて情報収集などを行うことが重要です。

科目名	鋼構造	科目名 (英文)	Steel Structures
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	奥田 泰雄, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA2053A0		

授業概要・目的	鋼構造に関する知識・理論、理論の適用である手法に関して実例を掲げ具体的かつ実践的に教授する。 【授業概要】鋼材は重量に比して強度と変形能力に優れた構造材料であり、低層建築から高層建築まで幅広い建物の構造材料として用いられている。本講義では、鋼材の製造・物性から鋼構造の設計に至るまでの基本的事項について学ぶ。 【目的】構造力学の各科目、構造材料で学習した知識・技能に基づき、鋼構造に関する以下の項目の基礎知識を学び、鋼構造の基本的な考え方を修得し、演習を通して理解を深める。(1) 鋼材の製造・物性、(2) 鋼材の力学特性、(3) 鋼構造骨組と挙動、(4) 簡単な鋼構造の設計法、(5) 鋼構造部材の接合耐力 (SDGs-11)
到達目標	鋼構造の特性、考え方の基本的事項を理解し、説明できるとともに簡単な鋼構造の設計ができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせる授業を行うため、遅刻・欠席をしないこと。欠席をした場合は配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	将来、建築に携わる技術者を目指す者にとって、身につけておかなければならない基本的知識に関する内容であり、必須の教科である。また、一級建築士および二級建築士資格取得のためには有益な教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 鋼構造建築の建設と地震被害	講義内容・授業計画の説明 鋼構造建築の建設および地震被害に関するスライドによる講義	(事前) 鋼構造に関する用語を調べる (事後) 講義内容の復習
2	鋼材の製造、鋼構造骨組の概要と鋼材の種類	製鉄技術と鋼の製造、鋼構造骨組と鋼材の種類に関するスライドによる講義	(事前) 教科書 1-1~11、1-20~26 を熟読 (事後) 講義内容の復習
3	鋼材の基本的性質、建築物に作用する力	鋼材の基本的力学特性と建築物に作用する力に関する講義と演習	(事前) 教科書 1-12~19、1-35~37 を熟読 (事後) 演習課題の復習
4	小梁設計の設計	荷重、許容応力度・たわみ制約など+せん断応力とせん断変形に関する講義と演習	(事前) 講義の要点を熟読 (事後) 演習課題の復習
5	大梁の設計	横座屈荷重、座屈長さ、局部座屈、幅厚比、許容曲げ応力度などに関する講義と演習	(事前) 講義の要点、教科書 4-16~22 を熟読 (事後) 演習課題の復習
6	部材の耐力と骨組の挙動	柱と梁で構成される簡単な骨組の力と変形関係に関する講義と演習	(事前) 教科書 1-31~34 を熟読 (事後) 演習課題の復習
7	中間試験と復習	復習と中間試験	(事前) 第1~6回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること (事後) 演習課題の復習
8	圧縮材の設計	オイラー座屈荷重、座屈長さ、細長比、許容圧縮応力度に関する講義と演習	(事前) 教科書 3-2~7 を熟読 (事後) 演習課題の復習
9	柱の設計	軸力と曲げを受ける部材の短期許容耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-10~13、28~32 を熟読 (事後) 演習課題の復習
10	柱梁接合部パネルのせん断力と耐力	柱と梁が接合する接合部パネルのせん断力と耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 2-24~27 を熟読 (事後) 演習課題の復習
11	接合部の概要と溶接接合の接合形式	鋼構造部材の接合法および溶接接合の基本事項に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-52~65 を熟読 (事後) 演習課題の復習
12	溶接接合: 完全溶け込み溶接と隅肉溶接の耐力	完全溶け込み溶接および隅肉溶接の耐力に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-66~75 を熟読 (事後) 演習課題の復習
13	高力ボルト摩擦接合	高力ボルト摩擦接合に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-76~86 を熟読 (事後) 演習課題の復習
14	中間試験と復習	復習と中間試験	(事前) 第8~13回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること (事後) すべての演習課題の復習
15	柱脚	柱脚の種類および埋込柱脚に関する講義と演習	(事前) 教科書 4-105~109 を熟読 (事後) 演習課題の復習

関連科目	専門関連科目 (微積分、線形代数、力学、物理等)、理工学基礎実験、構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、その他建築構造関係の全科目の授業内容をよく理解していること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築鋼構造-その理論と設計-	井上一郎、吹田啓一郎	鹿島出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の演習課題+中間試験 (50%) および期末試験 (50%) の総計により評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、配布資料および演習課題を納得いくまで繰返し反芻すれば、将来建築の設計・施工・審査に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。また、1級建築士あるいは2級建築士資格取得に役立ちます。講義には必ず電卓 (関数電卓) を持参すること。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館3階 奥田教授室
----------	-------------

備考	・事前学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること。 ・事後学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて復習すること。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。
----	--

また、中間試験は採点后返却するため、間違っただ問題は解きなおす事。
・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	建築設計製図A	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing A
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	大谷 由紀子, 伊熊 昌治, 出江 潤, 京 智健, 小林 健治, 戸田 智, 西倉 美祝, 古川 晋也, 前田 裕希, 守行 忠勝
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2059a0		

授業概要・目的	本演習では住宅および地域交流施設の設計を通じて、建築設計の基礎的知識と図面表記を習得する。同時に、課題を通じて、設計の進め方、模型によるボリュームや断面検討などスタディ方法、プレゼンの方法を学ぶ。課題は社会問題、環境問題など今日のテーマを盛り込み、建築と社会の関係を学ぶ機会とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。【SDGs-11】
到達目標	(1) 公共性のある施設の設計に関する基礎知識の修得、(2) 設計条件の設定能力や設計方法の修得、(3) 鉄筋コンクリート造の躯体計画技能、断面図の表現法、(4) 模型制作や透視図作図などによる提案方法の習得、これらを踏まえて設計内容を適切かつ効果的に他者にプレゼンテーションすることができる。
授業方法と留意点	対面形式での授業を原則とし、オンラインでの提出・指導を組み合わせる。少人数グループを一人の担当教員が指導し、課題毎に担当者が替わっていく。事前提出された各回提出物 (エスキース課題) に対する教員から指摘事項等のフィードバックを行う。毎回オンライン形式の質疑等の時間を設ける。また最終提出は郵送による提出とする場合がある。
科目学習の効果 (資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	小規模複合建築の設計 (第1回)	・ガイダンス、グループわけ、作業に関する説明 ・課題説明、リサーチなど	参考図面・事例の収集など
2	小規模複合建築の設計 (第2回)	・グループ別指導など	参考図面・事例収集・エスキース模型作成など
3	小規模複合建築の設計 (第3回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキース・模型作成など
4	小規模複合建築の設計 (第4回)	・グループ別指導など	エスキース・作図・模型作成など
5	小規模複合建築の設計 (第5回)	・グループ別指導など ・図面チェック	エスキース・作図・模型作成など
6	小規模複合建築の設計 (第6回)	・グループ別指導など ・模型の説明	作図・模型作成など
7	小規模複合建築の設計 (第7回)	・成果物のプレゼンと講評	作図・模型作成・発表準備など
8	地域交流施設の設計 (第1回)	・課題説明、リサーチなど	参考図面・事例の収集など
9	地域交流施設の設計 (第2回)	・グループ別指導など	参考図面・事例収集・エスキース模型作成など
10	地域交流施設の設計 (第3回)	・グループ別指導など	事例収集・現地調査・エスキース・作図・模型作成など
11	地域交流施設の設計 (第4回)	・グループ別指導など	エスキース・作図・模型作成など
12	地域交流施設の設計 (第5回)	・グループ別指導など ・図面チェック	エスキース・作図・模型作成など
13	地域交流施設の設計 (第6回)	・グループ別指導など ・模型の説明	作図・模型作成など
14	地域交流施設の設計 (第7回)	・成果物のプレゼンと講評	作図・模型作成・発表準備など
15	成果発表、講評総括	・学習の振り返り	図面表記ルールなど

関連科目	建築計画基礎、建築計画各論、設計演習 I、および専門科目全般
------	--------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄ほか5名	彰国社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築資料集成	日本建築学会	丸善
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の提出物 (エスキース課題)、最終成果物を評価対象とし、第1課題 50%、第2課題 50%として課題毎に評価を行う。総合 60%以上を合格とする。なお、最終成果物は課題書に記された図面 (平面図、立面図、断面図ほか) や模型など一式を指し、各評価細目は課題毎に提示する。
-----------	---

学生へのメッセージ	設計演習は建築学科での学習の総合化であり、多くの建築事例を見学や研究して、着実に構想力、提案力をつけてください。教員や仲間との意見交換も重要です。図面表記が身につくよう、建築基礎演習 A および B でのテキスト、コンパクト建築資料集成、専門誌などの図面を参照して習得してください。提出物の未完成、未提出は評価対象とならないため、期限を厳守して取り組んでください。
-----------	--

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	事前・事後学習：設計演習ではほぼ毎回、現地調査、事例収集、エスキース、作図、模型制作などの課題を提示する。よって、事前・事後併せて 4.5 時間程度、課題に取り組むことが望ましい。 コンパクト建築資料集成、設計 I でのテキストは毎回持参し、エスキースや作図などにおいて参照する。 新建築など建築作品の掲載されている専門誌に目を通し、解説文、図面、写真を参照することが望ましい。
----	---

課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すとともに、他者の作品を参考にすることが重要です。

科目名	建築設計製図B	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing B
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 健治, 伊熊 昌治, 井戸 健次, 加嶋 章博, 貴志 泰正, 岸下 真理, 白須 寛規, 富田 祐一, 藤田 慶, 門間 香奈子, 好川 拓
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2060a0		

授業概要・目的	<p>地域図書館の設計では、実際の図書館や本がある場所を調査し、資料を収集することで計画条件を理解する。多様な人が集まることができる地域に開かれた公共の場としての読書空間の可能性を考え、地域の図書館として提案する。また、本の置き方や並べ方、家具配置など、細かな空間デザインを検討する訓練とする。</p> <p>美術館の設計では実際の美術館や展示空間を調査し、資料を収集することで計画条件を理解する。どのような展示空間がどのような効果をもたらすのか、建築の可能性を考え、都市の美術館として提案する。また、利用者の動線、職員や作品搬出入の動線など、表と裏の動線を検討する訓練とする。</p> <p>いずれの設計においても、敷地および周辺環境の特徴を読み取り、限定された時間内に条件を整理・分析を踏まえて設計し、それを的確に図面化することを学ぶ。外観や景観のデザインについても検討し、建築単体の設計だけではなく、建物と敷地および周辺環境の関係に対する視点を考える。(SDG s-11)</p>																																																																		
到達目標	<p>(1) 平面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得</p> <p>(2) 断面計画の理解と設計技術、および正確な図面表記の習得</p> <p>(3) 建物と周辺との関係についての設計技術の習得</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数グループでの個別指導を行う。授業時間内は担当教員から指導を受けることを優先し、各自のエスキスや製図作業は事前・事後学習として時間外にも行う必要がある。敷地調査や課題に関連する情報収集などを行う。 ・原則として対面授業を行う。資料配布や提出など必要に応じてオンラインを組み合わせて行う。 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士の資格取得のための必須科目である																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など</td> <td>敷地調査・事例調査・図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 構造計画の説明</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>地域図書館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明</td> <td>プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など</td> <td>敷地調査・事例調査</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>美術館の設計</td> <td>設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 構造計画の説明など</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導 外構計画の説明など</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型作成</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>美術館の設計</td> <td>各グループでの個別指導</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括</td> <td>プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など</td> <td>図面・模型・パース作成等</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	地域図書館の設計	課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など	敷地調査・事例調査・図面・模型作成	2	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	3	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明	図面・模型作成	4	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	5	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等	6	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など	図面・模型・パース作成等	7	地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明	プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など	敷地調査・事例調査	8	美術館の設計	設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導	図面・模型作成	9	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	10	美術館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明など	図面・模型作成	11	美術館の設計	各グループでの個別指導 外構計画の説明など	図面・模型作成	12	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	13	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成	14	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等	15	美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括	プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など	図面・模型・パース作成等
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	地域図書館の設計	課題説明・設計に当たって基本事項の説明・各グループでの指導方針説明など	敷地調査・事例調査・図面・模型作成																																																																
2	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
3	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明	図面・模型作成																																																																
4	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
5	地域図書館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等																																																																
6	地域図書館の設計	各グループでの個別指導 プレゼンテーションの説明など	図面・模型・パース作成等																																																																
7	地域図書館の設計のプレゼンテーション、講評 美術館の課題説明	プレゼンテーション、講評、および美術館の課題説明など	敷地調査・事例調査																																																																
8	美術館の設計	設計に当たって基本事項の説明 各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
9	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
10	美術館の設計	各グループでの個別指導 構造計画の説明など	図面・模型作成																																																																
11	美術館の設計	各グループでの個別指導 外構計画の説明など	図面・模型作成																																																																
12	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
13	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型作成																																																																
14	美術館の設計	各グループでの個別指導	図面・模型・パース作成等																																																																
15	美術館の設計のプレゼンテーション、講評 全体の総括	プレゼンテーション、講評、2 課題についての全体講評、総合的な指導など	図面・模型・パース作成等																																																																
関連科目	建築基礎演習 A、建築基礎演習 B、建築設計製図 A、建築計画基礎、建築計画各論、福祉すまい環境、建築情報処理基礎、建築情報処理応用ほか、専門科目全般が関連科目といえる。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>第 4 版コンパクト建築設計資料集成</td> <td>日本建築学会</td> <td>丸善出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>名建築のデザインに学ぶ製図の基礎</td> <td>垣田博之</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ</td> <td>川北健雄 他</td> <td>彰国社</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	第 4 版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善出版	2	名建築のデザインに学ぶ製図の基礎	垣田博之	学芸出版社	3	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	第 4 版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善出版																																																																
2	名建築のデザインに学ぶ製図の基礎	垣田博之	学芸出版社																																																																
3	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 他	彰国社																																																																
評価方法 (基準)	各回提出物 (エスキス課題) の評価 30%、提出図面 (平面図、立面図、断面図を含む) の完成度と技法などの評価 70% で各課題毎に評価を行い総合 60% 以上を合格とする。各評価細目は課題毎に提示する。																																																																		
学生へのメッセージ	得手不得手の感覚ではなく、「学ぶ心」を培って欲しい。大切なことはまずは「感動すること」「模倣すること」「やり遂げること」です。模倣といっても、どのように自分自身の考え方に取り込めるのかの解釈が必要です。したがって設計に関する資料の検索などがより一層重要になります。好きな建築、建築家を見付けることや参考となる作品をどんどん調べ、模倣することから出発し、次第に自分のオリジナリティーへと繋げていってください。また、提出期限に十分な成果があげられるようにスケジュール管理を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	8 号館 3 階																																																																		
備考	事前事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 4.5 時間以上かけて作業を行うこと (標準)。 授業の進め方については、1 回目授業時に説明します (課題の内容・順番は変更となる場合があります)。 毎回のエスキスはすべて返却します。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要です。																																																																		

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 広之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a1		

授業概要・目的	本授業では、地理学の入門的な内容についてお話しします。地理学は社会を、地域や空間などをキーワードとして、捉えていく学問です。人文地理学で扱うテーマは多岐にわたっており、学生の皆さん自身の興味ある分野について、地理学的な視点から考えられる力を身につけることを目指します。
到達目標	地理学の入門的な知識が身につく、社会の諸現象に対して地理学的な視点から説明できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに講義形式で行います。授業時に、理解度を確保するための小課題に取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さんの興味のある現象について、地理学的な視点で考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学とは？	地理学の学び方や授業の進め方等について紹介します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
2	地理情報について	地図の歴史、GISについて学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
3	地理学の歴史	地理学の歴史と主要な理論について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
4	都市における地理学的現象	都市における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
5	農村における地理学的現象	農村の構造や課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
6	産業の地理学	産業構造の変化による様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
7	環境利用における地理学的現象	資源利用と景観について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
8	環境問題と地理学	環境問題について、様々なスケールからその影響について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
9	ジェンダーと都市	ジェンダーに関する空間的な現状について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
10	観光と地理学	観光について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
11	災害と地理学	災害について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
12	住宅をめぐる地理学的現象	現代住宅における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
13	過疎/ニュータウン、郊外の現在	ニュータウンなどの郊外地域の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
14	空き家と住宅をめぐる諸課題	空き家問題や郊外住宅の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
15	地理学の課題	・これまでの授業を踏まえた上で今後の地理学の課題について検討します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	期末レポート試験 (30点)、授業ごとの小課題 (70点) にて評価します。																
学生への																	

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TS02411a1		

授業概要・目的	この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事をある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。また、戦後から現在に至る世界経済史のマクロ的な振り返りを通して、現日本の経済状況を理解することをも目指す。
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる。
授業方法と留意点	・対面授業で行なう。対面授業に参加するように。 ・万一遠隔授業となった場合は授業資料配信型のオンライン授業とする。 ・使用するオンラインツールはWebFolderである。授業資料ではできる限り平明な解説文と図説チャートなどの静止画をメインにしたものを用いる(必要な場合には音声、動画を交える)。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前学習として「経済」とは何か、「経済学」とはいかなる学問かについて、自分なりの見解を簡単にまとめておく。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
2	経済と経済学	①誰のための経済か。そもそも経済とは？資本とは？資本主義とは？ ②様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：2対象の違い、視座の違い。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、名目と実質の経済成長率など	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。

	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学入門 (マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版
	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版
	3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社
評価方法 (基準)	定期試験 (筆記試験) 70%、小テスト・提出物などが 30%。			
学生への メッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて (自分なりに) 書籍やネットを使って掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	チェックシート(小テスト)、提示された課題への取り組みなどを通して、自身の理解不足の箇所を把握し、自主的に調べ知識を深める、あるいは新たな気づきを得ることが肝要である。とりわけ重要な事項で理解の不足が目立つ場合には、折に触れ授業で言及しましたチェックシートや課題で問う、などのフィードバックを図る。質問等については基本的に授業終了後に対応する。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02411a1		

授業概要・目的	マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。毎日の新聞・ニュースを見ると、国民所得のこと、設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことなど、マクロ経済に関するトピックがいろいろ出てきます。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、マクロ経済学の基礎理論に基づいてマクロ経済の動向を考察できるようになることを目的としています。これは、経済活動に関わる社会人として、必要な知識であると担当者は考えています。 使用テキストは、日本の事例を使った解説を展開しています。講義では、できる限り図表やグラフを用いた解説を行います。初歩的な数学も用いることもあります。
到達目標	経済学部での学習に必要なマクロ経済学の基礎知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。
授業方法と留意点	講義資料は毎回配布しますが、Teams および Web Folder にもアップします。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くことを禁止します（常識の範囲内ですが）。スマートフォンを操作する必要があるときは、指示します。 原則として毎回、練習問題を出題します。練習問題は次回講義開始時まで提出する宿題と位置付けていますが、講義中に解
科目学習の効果 (資格)	現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験（事務職）や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の概観、マクロ経済循環について	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について (教科書第1章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について (教科書第2章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について (教科書第3章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について (教科書第4章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
6	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の役割について (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
7	貨幣の需要と供給 (2)	貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのかについて (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
8	乗数理論と IS-LM (1)	一国全体の需要である総需要の変化が国民生活に及ぼす影響について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
9	乗数理論と IS-LM (2)	総需要の状況をあらかず IS-LM モデルに基づく、財政・金融政策の効果について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
10	経済政策の必要性	財政・金融政策の限界と最近の金融政策について (教科書第7章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
11	財政赤字と国債	財政支出拡大の問題点について (教科書第8章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
12	インフレとデフレ	インフレとデフレが発生する要因について (教科書第9章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
13	失業	失業についての考え方と日本の失業について (教科書第10章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) 次回講義内容の予習 (60分)
14	経済成長理論 / オープン・マクロ経済学	①経済成長のメカニズムについて (教科書第11章) ②外国の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について (教科書第12章)	講義内容の復習・練習問題 (120分) これまでの講義内容の復習 (120分)
15	確認テスト	確認テスト (成績評価の対象)	これまでの講義内容の復習 (120分)

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門 (第6版)	福田慎一・照山博司	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 練習問題 (50%)、確認テスト (50%) で評価します。

学生へのメッセージ 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。

担当者の研究室等 1号館7階 小塚研究室

備考	15 回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。
----	----------------------------------

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、単なる日本語訳にとどまらない英文の内容理解にじっくりと取り組み、総合的な英語の運用能力（聞き取り力／語彙力／文法力／読解力）のレベルアップをはかります。さらに、TOEIC テストなどで評価される英語力を向上させ、各種資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (CASEC 445 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名を受けた受講者には解答を発表してもらいます。小テストは TOEIC 等の英語資格試験の対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	受講にあたってのオリエンテーション ウォーミングアップ	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) 英語の基礎知識を確認する (英和辞典の使い方など)	教科書の予習 単語小テスト (1) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0001-0042
	2	Our Internal Clock: It's about time (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (2) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0043-0084
	3	Our Internal Clock: It's about time (2)	内容理解演習／音読／語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (3) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0085-0126
	4	Is it OK to be late? (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (4) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0127-0168
	5	Is it OK to be late? (2)	内容理解演習／音読／語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (5) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0169-0212
	6	Technology competes with family time (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (6) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0213-0256
	7	Technology competes with family time (2)	内容理解演習／音読／語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (7) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0257-0301
	8	Sign Language for Everyone (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (8) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0302-0347
	9	Sign Language for Everyone (2)	内容理解演習／音読／語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (9) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0348-0392
	10	Our kids are growing up too fast! (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト (10) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0393-0438
	11	Our kids are growing up too fast! (2)	英文の読解／内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト (11) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0001-0212
	12	Our kids are growing up too fast! (3)	内容理解演習／音読／語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト (12) の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0213-0438
	13	Loneliness: How can we overcome it? (1)	英文の読解	教科書の予習・復習
	14	Loneliness: How can we overcome it? (2)	英文の読解／内容理解演習	教科書の予習・復習
	15	Loneliness: How can we overcome it? (3)	内容理解演習／音読／語彙強化	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Today 3: Issues (Fifth Edition)	Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験（統一英語単語テスト）... 20% ・e-learning 学習...20% ・授業態度（投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 20% ・小テスト（全12回実施 答えは毎回返却します）... 10% ・定期試験... 30% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。 原則として、出席率 80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはあり）			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	この授業は、TOEIC Bridge、及び TOEIC 受験対策を目的とする。従って日常生活、ビジネスシーン等で使用される英語の基本語彙を学び、役立つ文法事項を確認をする。メール、広告、掲示物などから必要な情報を読み取ったり、様々なシチュエーションにおけるダイアログ、アナウンスメント等を聞いて内容把握をする練習を行う。
到達目標	TOEIC 350点 (TOEIC Bridge130点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Bridge および TOEIC のスコアアップ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	仕事上の伝達	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0001- 0044
3	事務職	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0045-0089
4	広告、宣伝	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0090- 0134
5	就職活動	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0135- 0179
6	マスメディア	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0180- 0224
7	家族、友人、ペット	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0225- 0269
8	ショッピング	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0270- 0314
9	医療	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0315- 0359
10	学校生活	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0360- 0404
11	住居	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 0405- 0438
12	交通機関	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
13	趣味	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
14	外食	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習
15	余暇時間の過ごし方	単語テスト テーマに関わる語彙の確認、リスニング、リーディング	テキストの予習

関連科目	全ての英語科目
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking (Second Edition)	Laurie Blass, Mari Varga	National Geographic Learning (Cengage)
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、e-learning 学習の進捗度 20%、単語テスト、復習テスト(weekly tests) 30%、 定期試験ないしは定期試験に代わる試験 30%			
学生への メッセージ	In this course we will work to improve your vocabulary and reading skills, as well as work on speaking skills. As we will be building on skills each week, it is important that you come to every class.			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	事前・事後学習には1.5時間以上かけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEICの点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペーパーワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。TOEICのボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊は理系向けリーディング教材 (Pathways, Foundations) を、もう1冊は単語集 (TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test) を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一英語単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEICテストでのスコアアップ。総合英語力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	シラバスの説明/テキスト/コース目標の説明	事前・・・シラバスを読み込む、単語集の番号1-42を覚える。
2	単語テスト、Unit 1	単語テスト2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号43-84を覚える。Unit 1の予習 事後学習・・・Unit 1の復習
3	単語テスト、Unit 1	単語テスト3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号85-126を覚える。Unit 1の予習 事後学習・・・Unit 1の復習
4	単語テスト、Unit 1	単語テスト4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号127-168を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
5	単語テスト、Unit 2	単語テスト5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号169-212を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
6	単語テスト、Unit 2	単語テスト6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号213-256を覚える。Unit 2の予習 事後学習・・・Unit 2の復習
7	単語テスト、Unit 2	単語テスト7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・Unit 2の予習。単語集の番号257-301を覚える。 事後学習・・・Unit 1, 2の復習
8	中間試験、(Units 1,2)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 1, 2の復習
9	単語テスト、Unit 3	単語テスト8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号302-347を覚える。Unit 3の予習。 事後学習・・・Unit 3の復習
10	単語テスト、Unit 3	単語テスト9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号348-392を覚える。Unit 3の予習。 事後学習・・・Unit 3の復習
11	単語テスト、Unit 3	単語テスト10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号393-438を覚える。Unit 3の予習 事後学習・・・Unit 3の復習
12	単語テスト、Unit 4	単語テスト11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号439-480を覚える。Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習
13	単語テスト、Unit 4	単語テスト12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号481-522を覚える。Unit 4の予習 事後学習・・・Unit 4の復習
14	最終試験、(Units 3,4)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 3, 4の復習
15	復習	復習	事前学習・・・教科書復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pathways, Foundations	Laurie Blass, Mari Cargo	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト・・・20% e-learning・・・20% 授業・・・60% (初回に説明します)
-----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前事後学習を1.5時間以上して下さい。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	この授業では、理工学部の学生を主人公としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業説明 単語小テスト(1)	授業説明 教科書、評価方法、学習方法などの説明	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備： 範囲 0001-0053
2	単語小テスト(2) Unit 1 Everything is new to me.	Be 動詞・疑問詞 天体	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備： 範囲 0054-0095
3	単語小テスト(3) Unit 1 Everything is new to me.	Be 動詞・疑問詞 天体	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備： 範囲 0096-0137
4	単語小テスト(4) Unit 2 Are you in any clubs?	一般動詞現在形 数と計算	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備： 範囲 0138-0179
5	単語小テスト(5) Unit 2 Are you in any clubs?	一般動詞現在形 数と計算	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備： 範囲 0180-0223
6	単語小テスト(6) Unit 3 Let me introduce a new member to you.	一般動詞過去形 単位 (長さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備： 範囲 0224-0267
7	単語小テスト(7) Unit 3 Let me introduce a new member to you.	一般動詞過去形 単位 (長さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備： 範囲 0268-0313 確認テストに向けて Unit 1-3 の復習
8	単語小テスト(8) 確認テスト (Unit 1-3) Unit 4 I'm looking for a part-time job.	. 進行形 単位 (音の強さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(8)の準備： 範囲 0314-0359
9	単語小テスト(9) Unit 4 I'm looking for a part-time job.	進行形 単位 (音の強さ)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(9)の準備： 範囲 0360-0415
10	単語小テスト(10) Unit 5 What are you going to do?	未来表現 建築	教科書の予習・復習； 単語小テスト(10)の準備： 範囲 0416-0438
11	Unit 5 What are you going to do?	未来表現 建築	教科書の予習・復習
12	単語小テスト(12) Unit 6 Could you take a look at this slide?	助動詞 円グラフ	教科書の予習・復習 暗唱テストに向けて復習
13	暗唱テスト 1 Unit 6 Could you take a look at this slide?	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 助動詞 円グラフ	教科書の予習・復習 暗唱テストに向けて復習
14	暗唱テスト 2 Unit 7 I'm so frustrated.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 受動態 棒グラフ	教科書の予習・復習
15	Unit 7 I'm so frustrated.	受動態 棒グラフ	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語 IIa
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English for Science	角山 照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験（統一英語単語テスト）... 20% ・e-learning 学習...20% ・単語小テスト... 10% ・確認テストと定期試験... 40% ・暗唱テスト...10% 			
学生への メッセージ	<p>積極的な参加を期待しています。辞書を持参すること。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験することを強くお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。</p> <p>原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績</p>			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、科学・技術を話題とするニュース映像を題材としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。教科書
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Course introduction and textbook orientation. Unit 1 Reading Focus on Scanning, Predicting, Understanding, Main Ideas and Details, Interpreting Visual Data Vocabulary Quiz	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種テストについての説明など) 語彙学習、ニュース映像の内容理解演習、聞き取り演習	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備： 範囲 0001-0044
2	Unit 1 Critical Thinking Reflecting, Synthesizing and Personalizing. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備： 範囲 0045-0089
3	Unit 1 Writing Language for Writing: What is a sentence? Simple present tense of 'be' and other verbs. Writing Goal: Describe yourself and your communication habits. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備： 範囲 0090-0134
4	Unit 1 Vocabulary Expression Word Forms: Superlative adjectives Word Web: Social media words Vocabulary Quiz and Unit Test	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備： 範囲 0135-0179
5	Unit 2 Reading Focus on Skimming, Predicting, Understanding a Sequence, Understanding Details Vocabulary Quiz	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備： 範囲 0180-0224
6	Unit 2 Critical Thinking Focus on Inferring, Personalizing, and Synthesizing Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備： 範囲 0225-0269
7	Unit 2 Writing Language for Writing: Using verbs + infinitives Using verb + noun collocations Writing Goal: Describe	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension,	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備： 範囲 0270-0314

		your dreams and plans for the future. Vocabulary Quiz	listening, reading and writing exercises.	
	8	Unit 2 Vocabulary Word Web using Synonyms Word Forms: Time words and phrases Vocabulary Quiz and Unit Test	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(8)の準備：範囲 0315-0359
	9	Unit 3 Reading Focus on Understanding Main Ideas of Paragraphs and Understanding Details Vocabulary Quiz	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(9)の準備：範囲 0360-0404
	10	Unit 3 Critical Thinking Focus on Applying Ideas and Synthesizing Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(10)の準備：範囲 0405-0449
	11	Unit 3 Writing Language for Writing: Using imperative sentences Using should / shouldn't Writing Goal: Write a walking tour of an area you know well. Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(11)の準備：範囲 0450-0494
	12	Unit 3 Vocabulary Extension Word Partners: Noun + trip Word Web: Prepositions of place and direction Vocabulary Quiz and Unit Test	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(12)の準備：範囲 0495-0439
	13	Unit 4 Reading Focus on Identifying Examples and Understanding the Gist Vocabulary Quiz	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(13)の準備：範囲 0440-0484
	14	Unit 4 Critical Thinking Focus on Applying Advice and Evaluating Vocabulary Quiz	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(14)の準備：範囲 0485-0529
	15	Unit 4 Writing Language for Writing: Using infinitives of purpose and Using but/and/or Writing Goal: Write about what you use the Internet for. Vocabulary Quiz and Unit Test	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	定期試験対策としての復習

関連科目 実践英語 IIa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition	Laurie Blass, Mari Vargo	Cengage
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (統一英語単語テスト): 20% ・e-learning 学習: 20% ・小テスト (全 12 回実施 答えは毎回返却します): 10% ・課題レポート: 5% (Homework) ・定期試験 (または相当する総復習テストを授業内で実施): 3 x 15% 上記割合で総合評価する。			
学生への メッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p> <p>授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。</p> <p>学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>In order to pass this course, you must att</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<p>1 週間につき、事前学習 (授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など) としての予習には 60-90 分、事後学習 (授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える) には 60 分程度をかけるのが効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。</p> <p>原則として、出席率 80%以上 (12 回以上出席) の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします (単位が取得できる見込みはあり)</p>			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的
 This course is for students to improve their TOEIC skills, focusing on listening and reading. Students will acquire a higher level of vocabulary, a better understanding of grammar, a better listening ability, as well as an understanding of certain techniques when taking the test. Weekly practice with TOEIC mock questions will improve students' testing skills and confidence for the TOEIC test. In addition to in-class study, students will be responsible for studying for the E-Learning and the Unified English vocabulary test. リスニングとリーディングを中心とした TOEIC のスキルアップのためのコースです。より高度な語彙力、文法理解、リスニング力を身につけるとともに、受験時のテクニックが理解できます。毎週行われる TOEIC 模擬問題演習により、TOEIC テストに対する自信とテストスキルを向上させます。授業内の学習に加え、E-Learning や統一英単語テストの学習も担当します。

到達目標
 The goal of this class is for students to acquire a better knowledge of English to increase their TOEIC scores to at least the level of 400 or higher, as well as to familiarize students with the workings of TOEIC test itself. このクラスでは、TOEIC のスコアを 400 点以上にすること

授業方法と留意点
 Aside from lectures, students will have extensive practice on TOEIC test questions. /// Regular attendance and participation is expected. Students who are absent five times will find it difficult to pass the class. 講義の他に、TOEIC テストの問題演習を多く行います。/// 定期的な出席と参加

科目学習の効果 (資格)
 To improve students' test taking abilities and to increase TOEIC scores. 生徒の受験能力を向上させ、TOEIC のスコアアップを図る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	オリエンテーション	学習課題がない
2	Unit 1 Travel 旅行に関する語句・表現	Countable and uncountable nouns 数えられる名詞・数えられない名詞	教科書ページ 14-21 単語 439-471
3	Unit 2 Dining Out レストランや食事・料理に関する語句	Adjectives 形容詞	教科書ページ 22-29 単語 472-504
4	Unit 3 Media メディアに関する語句	Learn adverbs Modifying verbs and adjectives 副詞を学ぶ動詞・形容詞を修飾する	教科書ページ 30-37 単語 505-536
5	Unit 4 Entertainment エンターテインメントに関する語句	Present, past, future, and present progressive tenses 現在・過去・未来・現在進行形時制	教科書ページ 38-45 単語 537-569
6	Unit 5 Purchasing 買い物に関する語句	Subject-verb agreement (s in the third person) 現在・過去・未来・現在進行形時制	教科書ページ 46-55 単語 570-601
7	Unit 6 Clients 顧客との取引に関する語句	Active and passive voice (expressions of emotion) 能動態・受動態(感情を表す表現)	教科書ページ 56-63 単語 602-634
8	ユニット 1~7 の中間テスト, その他	ユニット 1~7 の中間テスト, その他	ユニット 1~7 の中間テスト, その他
9	Unit 7 Recruiting, ユニット 1~7 の中間テスト。求人・採用に関する語句	Verbs and infinitives 動名詞・不定詞, 中間テスト	教科書ページ 64-71 単語 635-666
10	Unit 8 Personnel 人事に関する語句	Pronouns (possessive, objective, possessive pronouns) 代名詞(所有格・目的格・所有代名詞)	教科書ページ 72-81 単語 667-699
11	Unit 9 Advertising 広告・宣伝に関する語句	Comparison (comparative, superlative, as ...) 比較(比較級、最上級、as ... as)	教科書ページ 82-89 単語 700-732
12	Unit 10 Meetings 会議に関する語句 Unit 11 Finance 予算・費用に関する語句	Prepositions (reasons, concessions, times, definite expressions) 前置詞(理由・譲歩・時、定型表現)	教科書ページ 90-97 単語 733-764
13	Unit 11 Finance 予算・費用に関する語句	Conjunctions (reasons, concessions, times) 接続詞(理由・譲歩・時)	教科書ページ 98-105 単語 765-797
14	Unit 12 Offices オフィスに関する語句	Words and phrases related to office オフィスに関する語句	教科書ページ 106-113 単語 798-830
15	ユニット 7~12 の期末テスト, その他	ユニット 7~12 の期末テスト, その他	ユニット 7~12 の期末テスト, その他

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Score Booster for the TOEIC L&R Test Pre-intermediate	溝口優美子	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 20%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況(授業での呼応状況など) 25%。
学生への メッセージ	The TOEIC test is the standard test for measuring English language ability. These days companies require a certain level on the test to be employed at their company, so you need to be serious about improving your TOEIC score. TOEIC テストは、英語力を測る標準的なテストです。最近で
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	Because a large part of the grade in this class is based on tests, it is strongly recommended that students spend a few hours a week studying the content for this class. このクラスの成績の大部分はテストに基づくので、週に数時間、このクラスの内容を勉強することを強く勧める。/// 中間テスト結果は講義の中で返却してフィードバックする。/

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	本授業では TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニング、文法、リーディングセクションを演習形式で学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得できるようになる。 ・ 語彙や文法の知識を定着させる。 ・ 素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 ・ 紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・ 積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ① 私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ② 睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③ 許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: Personal correspondence 1 現在形、現在進行形 TOEIC の紹介	授業の進め方、評価の方法などの説明 TOEIC の内容	授業の進め方、評価方法の確認 Unit 1 の Grammar, Reading section の予習、復習
2	Unit 1: Personal correspondence 1 現在形、現在進行形 1	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0439-0479 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 2: Personal correspondence 2 過去形、過去進行形 2	単語単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0480-0520 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 3: Biography 1 過去形、過去進行形 1	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0521-0561 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 4: Biography 2 過去形、過去進行形 2	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0562-0602 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 5: Events & Festivals 未来形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0603-0643 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 6: Directions & Locations 1 前置詞 場所	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習: 単語テストの準備: 範囲 0644-0684 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	単語テスト これまでの学習範囲より中間テスト	事前学習: 単語テストの準備: 範囲 0685-0725、中間テストの準備
9	Unit 7: Directions & Locations 2 前置詞 手段、道具	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0726-0766 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 8: Directions & Locations 3 There is, are	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0767-0807 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 9: Occupations 1 代名詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0808-0848 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 10: Occupations 2	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備: 範囲 0849-0862 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	TOEIC ミニテスト リスニング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
14	TOEIC ミニテスト リーディング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング	事前学習 事後学習

			ング問題を解答、正解確認から学習	リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	15	テキスト U1~10 までの復習	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Basic	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (統一英語単語テスト) : 20% ・e-learning : 20% ・教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%) 注意 : 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3 回を超える欠席は単位不可/遅刻は 3 回で 1 回の欠席)			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	事前事後の学習として毎回 1.5 時間以上かけること。 中間テスト終了後は答案返却時に正解、よくある間違いを確認、解説する。 単語テスト終了後は発音、品詞、意味の確認を行う。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	本授業では TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、Part1~Part7 までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・目標 TOEIC スコア 350 点を獲得できるようになる。 ・語彙や文法の知識を定着させる。 ・前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 ・紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			授業の進め方、評価方法などの説明
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認(1時間)
2	Unit 1 : Eating Out 動詞 (1)Unit 1 : Eating Out	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0439-0479 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 2 : Travel 動詞 (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0480-0520 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 3 : Amusement 動詞 (3)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0521-0561 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 4 : Meetings 代名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0562-0602 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 5 : Personnel 不定詞と動名詞 (1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0603-0643 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 6 : Shopping 不定詞と動名詞 (2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0644-0684 ・事後学習 (3 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0685-0725 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
9	Unit 7 : Advertisement 名詞・冠詞・数量詞(1)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0726-0766 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 8 : Daily Life 名詞・冠詞・数量詞(2)	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0767-0807 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 9 : Office Work 仮定法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0808-0848 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 10 : Business 分詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 (30 分) : 単語テストの準備 : 範囲 0849-0862 ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	Unit 11 : Traffic 関係詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
14	Unit 12 : Finance and Banking 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (1 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
15	Unit 13 : Media 前置詞	単語テスト 文法事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・事後学習 (3 時間) : リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末

		テキストの練習問題	テストの準備	
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	一步上を目指す TOEIC Listening and Reading Test: Level 1	北尾泰幸 西田晴美 林姿穂 Brian Covert	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・統一英語単語テスト：20% ・e-learning 学習の進捗度：20% ・中間テスト+単語テスト：20% ・定期試験：30% ・授業態度：10% (授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度、ノートやメモを取っているか等) <p>注意：原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	次回講義時に中間テストの内容について解説を行う。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	TOEIC 形式の問題を正確に解く力を身につける。 さらに、TOEIC 形式の問題によく出てくる表現を使ってスピーキング・ライティング活動を行い、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	TOEIC 350 点以上のスコアを取得できるようになる。 TOEIC 形式の問題を正確に解くことができるようになる。 TOEIC によく出てくる表現を用いて、簡単な発話や英作文ができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			Unit 1 予習 単語：0439-0481
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 1 予習 単語：0439-0481
2	Unit 1 Shopping	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 1 復習 Unit 2 予習 単語：0482-0524
3	Unit 2 Dining Out	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 2 復習・予習 単語：0525-0567
4	Unit 2 Dining Out	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 2 復習 Unit 3 予習 単語：0568-0610
5	Unit 3 Daily Life	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 3 復習・予習 単語：0611-0653
6	Unit 3 Daily Life	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 3 復習 Unit 4 予習 単語：0654-0696
7	Unit 4 Travel	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 4 復習・予習 単語：0697-0739
8	Unit 4 Travel	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 4 復習 Unit 5 予習 単語：0740-0782
9	Unit 5 Entertainment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 5 復習・予習 単語：0783-0825
10	Unit 5 Entertainment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 5 復習 Unit 6 予習 単語：0826-0862
11	Unit 6 News & Media	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 6 復習・予習
12	Unit 6 News & Media	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 6 復習 Unit 7 予習
13	Unit 7 Housing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 7 復習・予習
14	Unit 7 Housing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 7 復習
15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	実践英語 II b
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST TRY FOR THE TOEIC L&R TEST	Robert Hickling	金星堂
2	THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST-Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 20% 授業態度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15% 定期試験 45%
-----------	--

	の割合で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	予習・復習等にかかる時間をおよそ30時間とする。 授業日以外の質問等はTeamsで受け付ける。詳細は第1回目の授業で指示する。

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC300-400点レベルの基礎的な英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなしてTOEICの点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEICの出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的にTOEICの受験勉強をすすめ、最終的には50~100点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEICのリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果(資格)	語彙力の強化及びTOEICのスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			事前学習:テキスト p.1-6 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間)
1	Unit 1: 旅行①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.7-12 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#439-459ǌ-480
2	Unit 2: オフィス①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.13-18 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#481-501Ƕ-522
3	Unit 3: レストラン	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.19-24 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#523-543Ƞ-565
4	Unit 4: 季節・天気	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.25-30 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#566-587Ɍ-609
5	Unit 5: 健康	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.31-32 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#610-631ɸ-653
6	いろいろな英語の発音に慣れよう①	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.33-38 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#654-675ʤ-698
7	Unit 6: 旅行②	リスニング・リーディング	テスト勉強:p.1-38ま復習復習(2時間) 単語テスト#699-721˒-741
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	事前学習:テキスト p.39-44 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#742-761˺-781
9	Unit 7: 休暇	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.45-50 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#782-801̢-821
10	Unit 8: オフィス②	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.51-56 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#822-841͊-862
11	Unit 9: ショッピング	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.57-62 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#481-543Ƞ-609 #439-480(各自学習)
12	Unit 10: 就職活動	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.63-64 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1時間) 単語テスト#610-664ʙ-710
13	いろいろな英語の発音に慣れよう②	リスニング・リーディング	事前学習:テキスト p.65-70 練習問題を行う(1時間) 事後学習:授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記
14	Unit 11: 娯楽	リスニング・リーディング	

			(1 時間) 単語テスト#711-752˱-791	
15	Unit 12: 旅行③	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p.71-76 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)テキスト 単語テスト#792-831 #832-862(各自学習)	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The TOEIC Listening & Reading Test CIRCUIT (Updated Edition)	鶴岡公幸, Matthew Wilson	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 期末試験(20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回授業開始時に、単語テストを行います。 単語帳#439-862 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間以上はかけて下さい。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、単なる日本語訳にとどまらない英文の内容理解にじっくりと取り組み、総合的な英語の運用能力（聞き取り力／語彙力／文法力／読解力）のレベルアップをはかります。さらに、TOEICテストなどで評価される英語力を向上させ、各種資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEICスコア450点以上(CASEC 535点以上)を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストはTOEIC等の英語資格試験の対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みしましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。 教科書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	受講にあたってのオリエンテーション Solving Crimes with Modern Technology (1)	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) 英文の読解/内容理解演習	教科書の予習 単語小テスト(1)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0863-0896
	2	Solving Crimes with Modern Technology (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト(2)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0897-0930
	3	The Reliability of Eyewitnesses (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト(3)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0931-0964
	4	The Reliability of Eyewitnesses (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト(4)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0965-0999
	5	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト(5)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1000-1034
	6	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト(6)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1035-1068
	7	Innocent until Proven Guilty: The Criminal Court System (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト(7)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1069-1102
	8	Saving Lives with New Organs (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト(8)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1103-1136
	9	Saving Lives with New Organs (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習 単語小テスト(9)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1137-1170
	10	Saving Lives with New Organs (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト(10)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1171-1200
	11	Objects from Space: Hits and Misses (1)	英文の読解	教科書の予習・復習 単語小テスト(11)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 0863-1034
	12	Objects from Space: Hits and Misses (2)	内容理解演習/音読/語彙強化	教科書の予習・復習 単語小テスト(12)の準備: 範囲 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 単語 No. 1035-1200
	13	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (1)	英文の読解	教科書の予習・復習
	14	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (2)	英文の読解/内容理解演習	教科書の予習・復習
	15	Medicine Today: Improving Surgery with Robotics (3)	内容理解演習/音読/語彙強化	定期試験対策としての復習

関連科目	実践英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Reading for Today 3: Issues (Fifth Edition)	Lorraine C. Smith, Nancy Nici Mare	National Geographic Learning
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (CSEC 試験) ... 20% ・共通試験 (統一英語単語テスト) ... 10% ・e-learning 学習...10% ・授業態度 (投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など) ... 20% ・小テスト (全 12 回実施 答えは毎回返却します) ... 10% ・定期試験... 30% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	1 週間につき、事前学習 (授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など) としての予習には 60-90 分、事後学習 (授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える) には 60 分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率 80%以上 (12 回以上出席) の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上 (正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く) 授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします (単位が取得できる見込みはありません)。 その他の詳細は、第 1 回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。 (4) TOEIC 450点 (TOEIC Bridg
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Health	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 863- 897
3	Entertainment	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 898-932
4	House Hunting	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 933-967
5	Ecology	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 968-1002
6	Review Test 1	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1003-1037
7	Career and Employment	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1038-1072
8	Advertisements and Sales Campaign	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1073-1107
9	Communications	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1108-1142
10	Complaints and Troubleshooting	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1143-1177
11	Innovation and Technology	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test の No. 1178-1200
12	Factory and Production	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
13	Banking and Finance	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
14	Business and Management	単語小テスト リスニング 語彙の確認 ディスカッション	テキストの予習
15	Review 2	単語小テスト リスニング	テキストの予習

			語彙の確認 ディスカッション	
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking (Second Edition)	Laurie Blass & Mari Varga	National Geographic Learning (Cengage)
	2	The 1500Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 試験 (20%), 統一英語単語 テスト(10%), e-learning 学習の進捗度 (10%), 期末試験、小テスト、授業態度、宿題など (60%)			
学生への メッセージ	In this course we will work to improve your vocabulary and reading skills, as well as work on speaking skills. As we will be building on skills each week, it is important that you come to every class.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	この授業では、文法に関する知識、語彙力、読解力など広く総合英語力の底上げを行い、TOEIC の点数アップのみならず、英語を用いて情報を得られる力をつける。
到達目標	文型やペアワークを使いながら、総合的な英語コミュニケーション能力を向上させる。TOEIC のボキャブラリースコアを向上させる。
授業方法と留意点	教科書は2冊あり、1冊は理系向けリーディング教材 (Pathways, Foundations) を、もう1冊は単語集 (TOEIC 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test) を使用する。各回の授業の冒頭では単語集を使用した単語テストを行う。単語テストは返却するので、統一単語テストに向けて復習すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストでのスコアアップ。総合英語力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、単語テスト	オリエンテーション、単語テスト1 (番号 523-565)	事後学習・・・単語集の番号 863-891 を確認。
2	単語テスト、Unit 5	単語テスト2 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 892-920 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
3	単語テスト、Unit 5	単語テスト3 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 921-948 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
4	単語テスト、Unit 5	単語テスト4 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 949-976 を覚える。Unit 5 の予習 事後学習・・・Unit 5 の復習
5	単語テスト、Unit 6	単語テスト5 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 977-1004 を覚える。Unit の6予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
6	単語テスト、Unit 6	単語テスト6 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1005-1032 を覚える。Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
7	単語テスト、Unit 6	単語テスト7 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1033-1060 を覚える。Unit 6 の予習 事後学習・・・Unit 6 の復習
8	中間試験、(Unit 5,6)	試験と振り返り	事前学習・・・Unit 5,6 の復習
9	単語テスト、Unit 7	単語テスト8 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1061-1088 を覚える。Unit 7 の予習。 事後学習・・・Unit 7 の復習
10	単語テスト、Unit 7	単語テスト9 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1089-1116 を覚える。Unit 7 の予習。 事後学習・・・Unit 7 の復習
11	単語テスト、Unit 7	単語テスト10 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1117-1144 を覚える。事前学習・・・Unit 7 の予習 事後学習・・・Unit 7 の復習
12	単語テスト、Unit 8	単語テスト11 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1145-1172 を覚える。事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
13	単語テスト、Unit 8	単語テスト12 説明文問題、短文穴埋め-語彙・文法問題、長文穴埋め、読解問題	事前学習・・・単語集の番号 1173-1200 を覚える。事前学習・・・Unit 8 の予習 事後学習・・・Unit 8 の復習
14	最終試験、(Units 7,8)	試験と振り返り	事後学習・・・Unit 7,8 の復習
15	理解度確認問題	後半ユニットの確認	事前学習・・・教科書復習

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Pathways, Foundations	Laurie Blass, Mari Cargo	National Geographic Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	統一英語単語テスト・・・10% e-learning・・・10% CASEC テスト・・・20% 授業内単語テスト・・・60%
-----------	--

学生へのメッセージ

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考	事前事後学習を一時間以上して下さい。
----	--------------------

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	この授業では、理工学部の学生を主人公としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。 建築学科の学習・教育到達目標との対応：[C] 電気電子工学科の学習・教育到達目標との対応：[F]
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は教科書販売期間中に早めに購入してください
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業説明 単語小テスト(1)	授業説明 教科書、評価方法、学習方法などの説明	教科書の予習； 単語小テスト(1)の準備：範囲 1180-1200
2	単語小テスト(2) Unit 8 It's something we need to think about.	現在完了形 人体 (骨)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(2)の準備：範囲 1159-1179
3	単語小テスト(3) Unit 8 It's something we need to think about.	現在完了形 人体 (骨)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(3)の準備：範囲 1138-1158
4	単語小テスト(4) Unit 9. I'm ready to start the experiment.	不定詞 単位 (温度)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(4)の準備：範囲 1117-1137
5	単語小テスト(5) Unit 9. I'm ready to start the experiment.	不定詞 単位 (温度)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(5)の準備：範囲 1096-1116
6	単語小テスト(6) Unit 10. I totally forgot to write my report.	形容詞・副詞 人体 (血液)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(6)の準備：範囲 1075-1095
7	単語小テスト(7) Unit 10. I totally forgot to write my report.	形容詞・副詞 人体 (血液)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(7)の準備：範囲 1055-1074 確認テストに向けて Unit 8-10 の復習
8	単語小テスト(8) 確認テスト (Unit 8-10) Unit11 This is still a beta version..	. 分詞 ロボット	教科書の予習・復習； 単語小テスト(8)の準備：範囲 1034-1054
9	単語小テスト(9) Unit11 This is still a beta version..	分詞 ロボット	教科書の予習・復習； 単語小テスト(9)の準備：範囲 1013-1033
10	単語小テスト(10) Unit 12 I'm thinking about of joining the course.	動名詞 元素 (元素周期表)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(10)の準備：範囲 0992-1012
11	単語小テスト(11) Unit 12 I'm thinking about of joining the course.	動名詞 元素 (元素周期表)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(11)の準備：範囲 0972-0991
12	単語小テスト(12) Unit 13 I have to study for the exams.	関係詞 元素 (水素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(12)の準備：範囲 0952-0971 暗唱テストに向けて復習
13	暗唱テスト 1 Unit 13 I have to study for the exams.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 関係詞 元素 (水素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト(13)の準備：範囲 0932-0951 暗唱テストに向けて復習
14	暗唱テスト 2 Unit 14 I'm worried about my English test.	今期学習範囲から音読課題をひとつ選び暗唱する 比較 元素 (炭素)	教科書の予習・復習； 単語小テスト (!4)の準備 範囲 900-931
15	Unit 14 I'm worried about my English test.	比較 元素 (炭素)	定期試験対策としての復習 (単語小テスト(15)の準備 範囲 0863-899

関連科目	実践英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Let's Read Aloud & Learn English for Science	角山 照彦	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・統一英語単語テスト... 10% ・e-learning 学習... 10% ・CASEC...20% ・単語小テスト... 10% ・確認テストと定期試験... 40% ・暗唱テスト...10% 			
学生への メッセージ	<p>積極的な参加を期待しています。辞書を持参すること。 学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験することを強くお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。次回講義時に小テストの内容について解説を行います。</p> <p>原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績</p>			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、科学・技術を話題とするニュース映像を題材としたテキストを使用し、授業と日々の学習を通して、総合的な英語の「聞き取り力/語彙力/文法力/読解力」をレベルアップをはかります。そして、TOEIC Bridge テストや TOEIC テストで評価される英語力を向上させ、資格試験に対応できる英語力を養成することを目指します。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得する。 TOEIC や英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。 TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得する。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、随時指名して解答を発表してもらいます。 小テストは TOEIC Bridge テストの対策も兼ねています。毎週決まった分量の単語・語句を覚え、テストで達成度を確認することにより、全般的な英語力のアップにもつながります。真剣に取り組みましょう。 次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1 週間につき 90 分程度をかけること。単語の小テストの対策は毎回必ず 20 分以上おこなうようにしてください。 教科書は 1 回目の授業から使用する予定です。教科書
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEIC や英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Course introduction and textbook orientation. Unit 5 Reading Focus on Guessing Meaning from Context, Identifying Examples, and Understanding Quotes Vocabulary Quiz	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種テストについての説明など) 語彙学習、ニュース映像の内容理解演習、聞き取り演習	教科書の予習・復習; 単語小テスト(1)の準備: 範囲 863-889. After that, preview next week's unit. (1時間)
2	Unit 5 Critical Thinking Focus on Personalizing, Synthesizing and Reflecting Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(2)の準備: 範囲 890-920. After that, preview next week's unit. (1時間)	
3	Unit 5 Writing Language for Writing: Using simple present tense (negative) and Using adverbs of frequency. Writing Goal: Write about the risks you take. Vocabulary Quiz	Nouns and verbs. Using the picture to predict what you will hear. Describing movement. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(3)の準備: 範囲 921-946. After that, preview next week's unit. (1時間)	
4	Unit 5 Vocabulary Expression Word Link: -ous Word Partners: Nouns/Adjectives + size Vocabulary Quiz and Unit Test	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(4)の準備: 範囲 947-974. After that, preview next week's unit. (1時間)	
5	Unit 6 Reading Focus on Identifying Reasons and Understanding Main Ideas and Details Vocabulary Quiz	Requests. Thinking about meaning and avoiding common distractors. Tag questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(5)の準備: 範囲 975-1000. After that, preview next week's unit. (1時間)	
6	Unit 6 Critical Thinking Focus on Analyzing a sequence, Synthesizing, and Evaluating. Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(6)の準備: 範囲 1001-1034. After that, preview next week's unit. (1時間)	
7	Unit 6 Writing Language for Writing: Giving reasons and Using present continuous tense. Writing Goal: Describe an animal that is in danger. Vocabulary Quiz	Offers and suggestions. Using content words to predict what you will hear. Paraphrasing. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習; 単語小テスト(7)の準備: 範囲 1035-1069. After that, preview next week's unit. (1時間)	

	8	Unit 6 Vocabulary Word Forms: Comparative adjectives Word Partners: Verbs + about Vocabulary Quiz and Unit Test	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(8)の準備：範囲 1070-1104. After that, preview next week's unit. (1時間)
	9	Unit 7 Reading Focus on Understanding Pronoun Reference, Understanding a Process, and Completing a Summary Vocabulary Quiz	Announcements. Using content words to predict what you will hear. Who and where questions. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(9)の準備：範囲 1105-1134. After that, preview next week's unit. (1時間)
	10	Unit 7 Critical Thinking Focus on Analyzing an argument, Evaluating, and Synthesizing Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(10)の準備：範囲 1135-1170. After that, preview next week's unit. (1時間)
	11	Unit 7 Writing Language for Writing: Using simple past of Be, and Using simple past of other verbs. Writing Goal: Explain why we should have a day to celebrate a particular inventor. Vocabulary Quiz	Talking about the future. Managing your time effectively with the 2-pass method. Talking about the past. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習・復習；単語小テスト(11)の準備：範囲 1171-1200. After that, preview next week's unit. (1時間)
	12	Unit 7 Vocabulary Extension Word Forms: Changing verbs to nouns with -ing Word Link: Occupation words ending in -er Vocabulary Quiz and Unit Test	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
	13	Unit 8 Reading Focus on Taking Notes Understanding the Gist, and Previewing. Vocabulary Quiz	Parts of speech. Using your time wisely. Identifying the correct part of speech. Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
	14	Unit 8 Critical Thinking Focus on Identifying Speculation, Synthesizing, and Analyzing an argument. Vocabulary Quiz	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	教科書の予習。After that, preview next week's unit. (1時間)
15	Unit 8 Writing Language for Writing: Introducing your opinion and Using modal verbs to make predictions. Writing Goal: Express your opinion about the future of space or ocean exploration. Vocabulary Quiz and Unit Test	Answering the easy questions first Answering specific information questions. Using context to answer vocabulary questions Vocabulary, comprehension, listening, reading and writing exercises.	定期試験対策としての復習	

関連科目 実践英語 IIa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Pathways Foundations: Reading, Writing, and Critical Thinking, Second Edition	Laurie Blass, Mari Vargo	Cengage
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition -	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験(統一英語単語テスト):10% (Common test) ・共通試験(CASEC):20% ・e-learning の進捗度:10% ・小テスト(全12回実施 答えは毎回返却します):10% ・課題レポート:5% (Homework) ・定期試験(または相当する総復習テストを授業内で実施):3 x 15% 上記割合で総合評価する。			
学生への メッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p> <p>授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。また、e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。</p> <p>学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>To pass this course, you must attempt ALL</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>1週間につき、事前学習(授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など)としての予習には60-90分、事後学習(授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える)には60分程度をかけると効果的です。単語の小テストの対策は毎回必ず20分以上おこなうようにしてください。</p> <p>原則として、出席率80%以上(12回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします(単位が取得できる見込みはあり)</p>			

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的
 This course is for students to improve their TOEIC skills, focusing on listening and reading. Students will acquire a higher level of vocabulary, a better understanding of grammar, a better listening ability, as well as an understanding of certain techniques when taking the test. Weekly practice with TOEIC mock questions will improve students' testing skills and confidence for the TOEIC test. In addition to in-class study, students will be responsible for studying for the E-Learning and the TOEIC Bridge test. リスニングとリーディングを中心とした TOEIC のスキルアップのためのコースです。より高度な語彙力、文法理解、リスニング力を身につけるとともに、受験時のテクニックも理解します。毎週行われる TOEIC 模擬問題演習により、TOEIC テストに対する自信とテストスキルを向上させます。授業での学習に加えて、E-Learning と TOEIC Bridge の試験勉強も行います。

到達目標
 The goal of this class is for students to acquire a better knowledge of English to increase their TOEIC scores to at least the level of 450 or higher, as well as to familiarize students with the workings of TOEIC test itself. このクラスでは、TOEIC のスコアを 450 点以上にすると

授業方法と留意点
 Aside from lectures, students will have extensive practice on TOEIC test questions. /// Regular attendance and participation is expected. Students who are absent five times will find it difficult to pass the class. 講義の他に、TOEIC テストの問題演習を多く行います。/// 定期的な出席と参加

科目学習の効果 (資格)
 To improve students' test taking abilities and to increase TOEIC scores. 生徒の受験能力を向上させ、TOEIC のスコアアップを図る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、その他	オリエンテーション、その他	学習課題がない
2	Unit 1 Travel	旅行に関する語句・名詞を学ぶ	教科書ページ 16-26 (45 分) 単語 1201-1224 (45 分)
3	Unit 2 Dining Out	料理に関する語句・形容詞を学ぶ	教科書ページ 27-37 (45 分) 単語 1225-1247 (45 分)
4	Unit 3 Media	メディアに関する語句・副詞を学ぶ	教科書ページ 38-48 (45 分) 単語 1248-1270 (45 分)
5	Unit 4 Entertainment	エンターテインメントに関する語句・時制を学ぶ	教科書ページ 40-59 (45 分) 単語 1271-1293 (45 分)
6	Unit 5 Purchasing	買い物に関する語句・主語と動詞の一致を学ぶ	教科書ページ 60-70 (45 分) 単語 1294-1316 (45 分)
7	Unit 6 Clients	顧客との取引に関する語句・能動態	教科書ページ 71-81 (45 分) 単語 1317-1339 (45 分)
8	ユニット 1~6 の中間テスト、その他	ユニット 1~6 の中間テスト、その他	単語 1340-1362 (45 分)
9	Unit 7 Recruiting	求人・採用に関する語句・動名詞・不定詞	教科書ページ 82-92 (45 分) 単語 1363-1385 (45 分)
10	Unit 8 Personnel	人事に関する語句・現在分詞・過去分詞を学ぶ	教科書ページ 93-103 (45 分) 単語 1386-1408 (45 分)
11	Unit 9 Advertising	広告・宣伝に関する語句・代名詞を学ぶ	教科書ページ 104-114 (45 分) 単語 1409-1431 (45 分)
12	Unit 10 Meetings	会議に関する語句・比較を学ぶ	教科書ページ 115-125 (45 分) 単語 1432-1454 (45 分)
13	Unit 11 Finance	予算・費用に関する語句・前置詞を学ぶ	教科書ページ 126-136 (45 分) 単語 1455-1477 (45 分)
14	Unit 12 Offices	オフィスに関する語句・接続詞を学ぶ	教科書ページ 137-147 (45 分) 単語 1478-1500 (45 分)
15	ユニット 7~12 の期末テスト	ユニット 7~12 の期末テスト	ユニット 7~12 の期末テスト

関連科目 他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate	番場直之 / 小山克明	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
 TOEIC テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 10%、統一英語単語テスト 10%、中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況 (授業での呼応状況など) 25%。

学生へのメッセージ
 The TOEIC test is the standard test for measuring English language ability. These days companies require a certain level on the test to be employed at their company, so you need to be serious about improving your TOEIC score. /// Students cannot use a use

担当者の研究室等
 7 号館 2 階 非常勤講師室

備考
 Because there is a considerable amount of vocabulary to learn in this class, it is strongly recommended that students spend time outside of class to learn vocabulary. この授業で学ぶべき語彙はかなりの多いため、授業以外の時間を使って語彙を学ぶことを強く勧める。

科目名	実践英語 II b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、U11~20 までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。 語彙や文法の知識を定着させる。 前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 電子辞書を持ってきてください。 積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認
2	Unit 11 : Instructions 命令文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1201-1231 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit12 : Health & Physical Condition Yes/ No questions	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1232-1262 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 13 : Service Request 現在完了	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1263-1293 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 14 : Special Orders 疑問詞を用いた疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1294-1324 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 15 : Money How を用いた疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1325-1355 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 16 : Public Signs 助動詞 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1356-1386 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1387-1417 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
9	Unit 17 : Sports 助動詞 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1418-1438 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 18 : History 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1439-1459 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 19 : Sightseeing 比較 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1460-1480 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 20 : Science 比較 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習 : 45 分 単語テストの準備 : 範囲 1481-1500 事後学習 : 45 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	TOEIC ミニクイズ リスニング	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事後学習 : 90 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
14	TOEIC ミニクイズ リーディング	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> 事後学習 : 90 分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
15	Unit 17~20 復習	単語テスト	<ul style="list-style-type: none"> 事後学習 : 90 分

		文法事項の確認 テキストの練習問題	リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末 テストの準備	
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Basic	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験 (CASEC) : 20% ・共通試験 (統一英語単語テスト) : 10% ・e-learning : 10% ・教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%) <p>注意 : 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等 備考	7号館2階 非常勤講師室			

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニングセクションから1パート、リーディングセクションから1パートをピックアップして学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。 語彙や文法の知識を定着させる。 素早く正確な読解、リスニングができるようになる。
授業方法及び留意点	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。 紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。 積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> ①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: TOEIC の紹介	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、評価の方法などの説明 TOEIC の構成について 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方、評価方法の確認 Unit 1 の TOEIC の紹介を読む
2	Unit 2: Part 1(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 1(Listening Section)では人物が写っている写真、 Part 5(Reading Section)では名詞・形容詞・副詞に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1201-1231 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 3: Part 1(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 1(Listening Section)ではモノ・風景が写っている写真、 Part 5(Reading Section)では動詞①：一致・態に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1232-1262 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 4: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 2(Listening Section)では疑問詞で始まる疑問文(When/ Where/ Who/ Why)、 Part 5(Reading Section)では動詞②：時制に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1263-1293 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 5: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 2(Listening Section)では疑問詞で始まる疑問文(What/ How)、 Part 5(Reading Section)では不定詞と動名詞に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1294-1324 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 6: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 2(Listening Section)では Yes/ No 疑問文、 Part 5(Reading Section)では接続表現に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1325-1355 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 7: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 2(Listening Section)では提案・依頼、 選択疑問文、 Part 5(Reading Section)では代名詞に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1356-1386 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト これまでの学習範囲より中間テスト 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1387-1417、中間テストの準備
9	Unit 8: Part 2(Listening Section), Part 6(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 2(Listening Section)では発言に対する応答、 Part 6(Reading Section)では長文穴埋め問題に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1418-1448 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 9: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 3(Listening Section)では日常場面での会話、 Part 7(Reading Section)では文章の読み方に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1449-1479 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 10: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 3(Listening Section)ではオフィスの会話、 Part 7(Reading Section)ではお知らせに焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1480-1490 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 11: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 3(Listening Section)では図表を見ながら聞き取る、 Part 7(Reading Section)では eメール・手紙に焦点を当てて学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習： 単語テストの準備：範囲 1491-1500 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	Unit 12: Part 4(Listening Section),	<ul style="list-style-type: none"> 単語テスト Part 4(Listening Section)ではアナ 	<ul style="list-style-type: none"> 事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認

		Part 7(Reading Section)	ウンス・トーク①:よく出る状況と話の展開、Part 7(Reading Section)では新聞や雑誌などの記事に焦点を当てて学ぶ	
	14	Unit 13: Part 4(Listening Section), Part 7(Reading Section)	・単語テスト ・Part 4(Listening Section)ではアナウンス・トーク②:聞き手への指示、行動を促す、Part 7(Reading Section)ではチャットに焦点を当てて学ぶ	・事後学習: リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	15	Unit 14: Part 4(Listening Section), Part 7(Reading Section)	・単語テスト ・Part 4(Listening Section)では留守番電話、Part 7(Reading Section)では複数文章に焦点を当てて学ぶ	・事後学習: リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Practical Exercises to Get the Hang of the TOEIC L&R TEST	Kanako Cho, Yoshikiyo Kawase, Yukiko Hazama, Sachiyo Hayashi	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・共通試験(統一英語単語テスト):10% ・e-learning:10% ・TOEIC Bridge:20% ・中間テスト+単語テスト:20% ・定期試験:30% ・授業態度:10%(授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度、ノートやメモを取っているか等) <p>注意:原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする(3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。 ・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。 			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。			

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	TOEIC 形式の問題を正確に解く力を身につける。 さらに、TOEIC 形式の問題によく出てくる表現を使ってスピーキング・ライティング活動を行い、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	TOEIC 450 点以上のスコアを取得できるようになる。 TOEIC 形式の問題を正確に解くことができるようになる。 TOEIC によく出てくる表現を用いて、簡単な発話や英作文ができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 8 予習 単語：1201-1230
2	Unit 8 Office 1	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 8 復習 Unit 9 予習 単語：1231-1260
3	Unit 9 Employment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 9 復習 Unit 10 予習 単語：1261-1290
4	Unit 10 Meetings	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 10 復習 Unit 11 予習 単語：1291-1320
5	Unit 11 Clients	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 11 復習・予習 単語：1321-1350
6	Unit 11 Clients	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 11 復習 Unit 12 予習 単語：1351-1380
7	Unit 12 Offices 2	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 12 復習・予習 単語：1381-1410
8	Unit 12 Offices 2	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 12 復習 Unit 13 予習 単語：1411-1440
9	Unit 13 Computers & Technology	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 13 復習・予習 単語：1441-1470
10	Unit 13 Computers & Technology	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 13 復習 Unit 14 予習 単語：1471-1500
11	Unit 14 Events	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 14 復習・予習
12	Unit 14 Events	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 14 復習 Unit 15 予習
13	Unit 15 Sales & Marketing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 15 復習・予習
14	Unit 15 Sales & Marketing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 15 復習
15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	実践英語Ⅰ b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST TRY FOR THE TOEIC L&R TEST	Robert Hickling	金星堂
2	THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST-Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15%
-----------	--

	定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業曜日以外の質問は Teams で受け付ける。詳細は第1回目に指示する。 予習・復習等にかかる時間をおよそ30時間とする。

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC450点以上の英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果 (資格)	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: Home Appliances	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 1-5 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
2	Unit 1: Home Appliances	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 6-9 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1201-1220&1221-1240
3	Unit 2: Recreation	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 10-18 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1241-1260&1261-1280
4	Unit 3: Restaurants	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 19-27 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1281-1300&1301-1320
5	Unit 4: Supermarket Shopping	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 28-36 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1321-1340&1341-1360
6	Unit 5: Housing	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 37-45 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1361-1380&1381-1400
7	Unit 6: Business	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 46-56 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1401-1420&1421-1440
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：p. 1-56 まで復習復習 (2 時間) 単語テスト#1441-1460&1461-1480
9	Unit 7: Bank & Post office	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 57-61 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) 単語テスト#1481-1500
10	Unit 7: Bank & Post office	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 62-65 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
11	Unit 8: Job Hunting	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 66-74 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
12	Unit 9: Health	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 75-86 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
13	Unit 10: Tourism: Travel by Land	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 87-95 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間) テキスト
14	Unit 11: Tourism: Travel by Air	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 96-104 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記 (1 時間)
15	Unit 12: Tourism: Hotels	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 105-116 練習問題を行う (1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記

				(1 時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	頻出表現と頻出単語で攻略する TOEIC L&R TEST	Hiromi Hagi, Eleanor Smith 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 20%, 統一英語単語テスト 10%, e-learning 学習の進捗度 10%, 期末試験 (20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<p>毎回授業開始時に、副読本の単語テストを行います。</p> <p>単語帳#1201-1500</p> <p>事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。</p> <p>自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間以上はかけて下さい。</p> <p>英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。</p> <p>質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</p>			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1446a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。 SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2022年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジユームを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしてまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考えること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑨⑩⑪の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	水野武（7号館3階）
備考	

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2451a1		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質 (QOL) を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。 本授業では、健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
到達目標	健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 必要な箇所を自らのノートに記入してください。 もしくは、授業資料を印刷して、書き込んでください。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知る。	・授業資料にて確認をすること
3	生活習慣病と3大疾病、心の健康①	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
4	生活習慣病と3大疾病、心の健康②	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
5	身体のしくみ①	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
6	身体のしくみ②	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
7	健康と運動	・運動処方と実践の方法を理解する。 ・生涯スポーツについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知る。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶ。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインについて理解する。 ・薬物について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
11	ドーピングについて	・ドーピングについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
12	運動指導について	・コーチング方法について	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
13	緊急時の応急手当てや対応について	・緊急時の応急手当てについて理解する。 ・水難事故などの対応について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
14	まとめ①	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
15	まとめ②	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験：60% 受講態度、提出物等：40% 合計点が60点以上で合格
-----------	---

学生へのメッセージ	健康に過ごすための基礎的な知識と理解を深めるための授業です。 様々な観点から健康なからだをつくるためには何が必要かを学んでいきましょう。
-----------	---

担当者の 研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、30時間を目安とします。

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2451a1		

授業概要・目的	人生 100 年時代といわれる現代社会において、豊かで健康な生活を送ることが重要であるとされています。スポーツと健康についての知識を身につけ、正しい情報を選択し実践していくことが重要です。本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を図るための知識を学びます。
到達目標	①現代社会における健康問題について理解することができる。 ②健康に関する情報において取捨選択する力を養い、健康に対して自らの考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。 ④身近な社会問題について主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。 議題についてディスカッションを行ったり、自らの意見を発表する機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	健康の維持・増進に関する知識が身につく、受講者が自らの健康を管理できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点、課題・評価などについての説明する。	なし
2	現代社会と健康問題	健康の定義と平均寿命・健康寿命などの現代社会が抱える健康問題について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
3	運動習慣が体に及ぼす影響	体を動かすことによる健康に対する効果や意義などを学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
4	生活習慣病①	現代社会における生活習慣病について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
5	生活習慣病②	現代における生活習慣病のそれぞれの症状や予防方法について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
6	食事と健康	健康な食生活を形成するための基礎知識を学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
7	睡眠と健康	睡眠が身体に及ぼす影響について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
8	健康づくりのための運動基準	健康づくりに対して国が定めた制度、運動基準について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
9	自身の健康チェック (適切な体重と食生活)	適切な体重について理解する。 健康に良い食生活について考える。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツにおけるトレーニングの原理・原則について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
11	体力の定義 体力と健康の関係	体力と健康との関係について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
12	有酸素運動の効果と実践	有酸素トレーニングが健康に及ぼす効果について学習する。 (講義・小レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
13	スポーツと社会①	スポーツが社会に与える影響(社会貢献や経済効果)について考える。 (講義・グループディスカッション)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:指定された課題に取り組み学習内容を復習する(1時間以上)
14	スポーツと社会②	スポーツが社会に与える影響(社会貢献や経済効果)について、グループでまとめて発表する。 (発表)	事前:発表準備をする(1時間以上) 事後:他者の発表した内容をまとめる(1時間以上)
15	スポーツと健康のまとめ	授業のまとめ 持続可能な社会の実現のためにスポーツと健康がどのように関わることができるかを考える。(レポート)	事前:授業テーマについて調べておく(1時間以上) 事後:スポーツと健康の講義で学んだことを復習し、実践する。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業態度、小レポート 50%、レポート 30%、グループワーク、発表内容など 20%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	質問等がある場合はメールにてご連絡下さい。 また、直接話したい場合には総合体育館内にある竹澤研究室あるいはスポーツ振興センターにお越しください。		
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階		
備考	授業の進捗や理解度によって授業テーマの順序を入れ替える、または変更する場合があります。 学習効果を高めるため、時事問題を授業内容に加えることがあります。 初めのガイダンスには必ず出席すること。 欠席を 4 回以上した際の単位取得は認めない。		

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	TOEIC 450点以上の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。
到達目標	TOEIC450点以上の実力 (TOEIC Bridge 150点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1201-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1260 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1261-1290 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1291-1320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1321-1350 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1351-1380 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1381-1410 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1411-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1470 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1471-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley / 中井弘一	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	e-learning (English Central) 10% 統一英語単語テスト 10% CASEC 20% 授業への参加、貢献 (問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末テスト、授業態度等も含む) 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 毎回の小テストに関して採点評価し、合格点に満たなければ再提出してもらいます。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	最新の科学的トピックを扱った英文を題材として、リーディングやリスニングの能力を磨く。また、さまざまなテーマについて自分の意見を持ち、それを英語で述べたり書いたりすることで、スピーキングやライティングの訓練を積む。具体的には、TOEIC550 点をねらえる総合的英語力を身につける。
到達目標	TOEIC550 点以上の得点を取れる英語力を習得する。
授業方法と留意点	教科書に従って、リーディング、リスニング、文法などの演習を行う。 各ユニットの終わりには、自分の意見を英語で述べたり書いたりする。 毎回授業の初めに、前回範囲の理解を問う小テストを実施する。 問題演習や和訳などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。 ※毎授業、必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			シラバスとテキストに目を通しておく
1	イントロダクション	授業進め方・評価方法についての説明	シラバスとテキストに目を通しておく
2	Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (絶滅させない:マンモスを生き返らせることはできるか)	単語テスト: 1201-1220 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
3	Unit 2 : That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (沈んだ気持ち: 海に戻っていく街)	単語テスト: 1221-1240 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
4	Unit 3 : The Meat Problem: Solutions from the Lab (肉の消費問題: 解決策を求めて)	単語テスト: 1241-1260 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
5	Unit 4: The Science of Size: Why Aren't Land Mammals Bigger? (大きさの科学: 陸生哺乳動物が大きくなる理由)	単語テスト: 1261-1280 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
6	Unit 5 : Helping the Deaf: The Teen Who Translates Sign Language (聴覚障がい者への支援: AI で手話を翻訳する)	単語テスト: 1281-1300 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
7	Unit 6 : Feline Truths: How to Make Your Cat Love You (猫に関する真実: 猫に愛される秘訣)	単語テスト: 1301-1320 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
8	Unit 7 : Mind Control: Does Hypnosis Really Work? (マインドコントロール: 催眠術は本当に効くのか)	単語テスト: 1321-1340 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
9	Unit 8: Science for All: The Rise of Citizen Scientists (すべての人に科学を: 市民科学者の登場)	単語テスト: 1341-1360 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
10	Unit 9 : Real After All: NASA's Growing Interest in UFOs (UFO の真相: UFO への関心が高まる NASA)	単語テスト: 1361-1380 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
11	Unit 10 : Hard Gardening: Growing Plants on the Moon (過酷な農業: 月の土で植物を育てる)	単語テスト: 1381-1400 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
12	Unit 11 : Seeds of Life: Hayabusa's Great Discovery (生命の種: はやぶさの大発見)	単語テスト: 1401-1420 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
13	Unit 12 : Unlimited Resources: The Prospect of Mining Space (無限の資源: 宇宙採掘の展望)	単語テスト: 1421-1440 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
14	Unit 13 : An Itchy Problem: The Science of Mosquito Bites (かゆみの問題: 蚊に刺されの科学)	単語テスト: 1441-1460 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
15	Unit 14 : Goodbye Diets? The Exercise Pill (ダイエットはもう必要なし?: エクササイズ・ピル)	単語テスト: 1461-1500 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)

関連科目	実践英語入門、実践英語初級			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Inspirations	Dave Rear	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>小テスト+授業への積極的な参加度 (30%) 定期試験 (30%) 統一英語単語テスト (10%) CASEC (20%) e-learning (10%)</p> <p>※授業への積極的な参加度としては、投げかける質問に対する回答や、ノートを取っているかなどを評価します。授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	建築法規	科目名 (英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	中杉 重登, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDA2023a0		

授業概要・目的	建築物には建築基準法をはじめ多くの法令などが適用されるが、実務上必要となる建築関係法制度について、背景、趣旨、目的を理解し、演習問題などを通じて基礎的な知識と技術などを習得する。SDG s-11
到達目標	建築基準法等の変遷、法体系、法令用語の基礎知識を学び、用語の定義、手続関係、単体規定と集団規定、関係法令などを理解し、建築技術者としての社会的責任を認識する。
授業方法と留意点	講義では、建築関係法令集と図解・建築基準法を使用する。適宜、プロジェクター等を使用し、建築物の形態規制などを判りやすく説明し、授業の最後に理解度確認のための演習問題等を実施する。講義と演習を通じて理解度を深める。
科目学習の効果 (資格)	二級建築士及び一級建築士等の学科試験の科目「法規」への対応の一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明、建築技術者にとっての法律、法規制の変遷、法体系など	事後の復習を1時間
2	建築基準法(用語の解説(1))	法律用語の基礎、建築物、敷地等の定義について	例題 事後の復習を1時間
3	建築基準法(用語の解説(2))	防火関係の用語、面積、高さ及び階数等について	演習問題(一回目) 事後の復習を1時間
4	建築基準法(建築の手続)	既存不適格建築物、建築確認申請、中間・完了検査、工事届け出などについて	例題 事後の復習を1時間
5	建築基準法(単体規定(1))	敷地の安全、居室の採光、換気、遮音等について	例題 事後の復習を1時間
6	建築基準法(単体規定(2))	シックハウス、階段、昇降機設備など	演習問題(二回目) 事後の復習を1時間
7	建築基準法(構造)	構造耐力、構造計算、加重と外力、特定天井など	例題 事後の復習を1時間
8	建築基準法(防火関係)	耐火建築物、防火・準防火地域、防火区画の種類、防火区画に設ける防火設備、内装制限	演習問題(三回目) 事後の復習を1時間
9	建築基準法(避難関係)	避難のための廊下・階段・出入口等、排煙設備、非常用の照明装置、非常用エレベーター	例題 事後の復習を1時間
10	建築基準法(集団規定(1))	道路の定義、敷地と道路の関係、都市計画区域、用途地域の種類と目的、用途地域内の建築制限	例題 事後の復習を1時間
11	建築基準法(集団規定(2))	容積率、建ぺい率、外壁の後退距離など	演習問題(四回目) 事後の復習を1時間
12	建築基準法(高さ制限)	高さ制限の種類、道路斜線制限、隣地斜線制限、北側斜線制限など	例題 事後の復習を1時間
13	建築基準法(高さ制限・街づくり)	天空率による高さ制限の緩和措置、日影規制、総合設計制度、地区計画、建築協定	演習問題(五回目) 事後の復習を1時間
14	関係法令	都市計画法、建築士法、消防法、バリアフリー法など	例題 事後の復習を1時間
15	理解度確認シート	50点満点のテスト	これまでの例題と演習を中心に事前の学習を5時間

関連科目	建築専門科目全般
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築基準法関係法令集 2023年版(令和5年版) オレンジ本・横書き	建築資料研究所/日建学院	建築資料研究所
2	史上最強図解 よくわかる建築基準法	大脇賢次	ナツメ社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習問題等 (50%)、期末試験 (50%)、併せて100%とし60%以上を合格とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	法律の条文は難解なため、()内や但し書きの部分を読み飛ばし、主語と述語の基本をまず確認してください。法律は取っつきにくいですが、日本語なので落ち着いて読めば理解は進みます。演習問題を解けるようになる等、学習が進むほどに意外と楽しくなると考えます。
-----------	---

担当者の研究室等	建築学科共通準備室
----------	-----------

備考	質問などがあれば、講義の前後に対応します。 建築基準法等の法令は難解な部分もあるので、演習問題などの授業内容について、毎回1時間程度復習することが必要です。 演習問題などは、解答事例と一緒にすべて返却します。何故、その答えになるのかを必ず理解してください。判らなければ質問してください。得心するまで!!!!
----	---

科目名	建築情報処理応用	科目名 (英文)	Architectural Computer Science
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	不動 剛志, 大谷 由紀子, 担当者未定
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDA2026a0		

授業概要・目的	デジタル・テクノロジーが建築のつくり方・働き方・学び方に変化をもたらしつつあり、建築分野で活用されているテクノロジーの一つに3次元CADの発展があげられる。 3次元CADの中でも、建物の構成要素を3次元のデジタル・モデルとしてデータベース化し、企画・設計・施工・運用・維持管理の建築生産プロセスに活用する技術とされるBIMの知識と経験を身に付けることを目的としている。 デジタル・テクノロジーの一部分にすぎないBIMであっても、その技術や活用方法・可能性・課題は日々変化し、議論されている。その技術に触れることで、建築に起こりつつある変化に身をおきながらも、自ら考えられるきっかけを身に付けていただきたい。(SDGs-11)
到達目標	建築向け BIM ソフトウェアの「Revit (Autodesk 社)」を用いて、建築物をモデリングすることを通じて、ソフトウェア操作の習熟を目的とし、それに加えて3次元で建築を考える・理解することの効果と意義・課題について考えることを目的とする。 建築の生産(施工)プロセスに沿って、バーチャルにモデリングすることで、建築についての理解も高めていただきたい。 BIMはデータベースと言われるように、そのデータを用いて図面・ビジュアル・ファブリケーションなど様々な展開することが可能である、その展開性についても知識
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の中でソフトウェアを操作し、建築物をモデリングします。 ・建築が完成する過程に沿って、前回授業の続きを進める形で、毎回の授業の目標を達成していきますので、毎回の受講が必須です。毎回の授業で質問時間を設け、目標まで到達したいと考えていますが、到達できなかった部分は事後学習で到達して、次の授業に臨んで下さい。 ・原則として教室のPCを使って授業を行います。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス インターフェース、基本操作	BIM について紹介 インターフェースと基本操作について	(事前) BIM について調べる (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
2	基準設定 構造躯体①	基準線の作成 構造躯体のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
3	構造躯体②	構造躯体のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
4	構造躯体③	構造躯体のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
5	構造躯体④	構造躯体のモデリング 課題作成	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
6	外装①	外装のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
7	外装②	外装のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
8	外装③	外装のモデリング 課題作成	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
9	内装①	内装のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
10	内装②	内装のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
11	内装③ 図面作成	内装のモデリング	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
12	内装④ 図面作成	モデルを活用して図面の作成 課題作成	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
13	様々な編集①	詳細なモデリング その他の編集方法	(事前) 図面確認 (事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成
14	様々な編集②	詳細なモデリング その他の編集方法	(事前) 図面確認

				(事後) 授業内容の復習 未達成事項の達成																
	15	様々な編集③	詳細なモデリング その他の編集方法	(事前) 授業の復習 (事後) 未達成事項の達成																
関連科目	建築情報処理基礎、建築設計製図A、建築設計製図B																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての Revit&Revit LT</td> <td>小林美砂子/中川まゆ/内田公平</td> <td>エクスナレッジ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>BIMのかたち Society5.0 へつながる建築知</td> <td>日本建築学会</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>建築情報学へ</td> <td>建築情報学会</td> <td>millegraph</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての Revit&Revit LT	小林美砂子/中川まゆ/内田公平	エクスナレッジ	2	BIMのかたち Society5.0 へつながる建築知	日本建築学会	彰国社	3	建築情報学へ	建築情報学会	millegraph
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての Revit&Revit LT	小林美砂子/中川まゆ/内田公平	エクスナレッジ																	
2	BIMのかたち Society5.0 へつながる建築知	日本建築学会	彰国社																	
3	建築情報学へ	建築情報学会	millegraph																	
評価方法 (基準)	中間成果提出 (60%) 課題提出 (40%)																			
学生への メッセージ	BIMを含めたデジタルテクノロジーに少しでも興味をもていただき、その効果や課題を少しでも体感してもらいたいと考えています。 建築業界だけにとどまらない変化の時代に必要な感度を一緒に考えましょう。																			
担当者の 研究室等	A 科準備室																			
備考	授業の進め方は1回目で説明する。 事前学習：授業のテーマに即して、毎回0.5時間以上かけること。 事後学習：授業内容について、毎回1時間以上かけて確認し、授業での課題が残っている場合は次回までに進めておくこと。(Revitはmac非 対応のソフトのため注意のこと、学生は無料で利用できる) 課題等はすべて返却する。他の解釈と比較考察を自分で行うことが重要である。																			

科目名	建築環境工学Ⅲ	科目名 (英文)	Architectural Environmental Engineering III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2043a0		

授業概要・目的	建築環境工学ⅠとⅡでは、光環境・音環境・熱環境・空気環境について基礎的なことを学んできました。建築環境工学の知識を用いて、快適な空間を造ることが社会では求められています。この建築環境工学Ⅲでは、建築環境工学ⅠとⅡで学んできた基礎的な知識を、どのように空間に応用することができるのかを演習的に学びます。そして、自らが設計した建築物について、建築環境工学の視点からのコンセプトを考えて再設計することにより、建築環境工学の有用性を学ぶことを目的とする。(SDGs-11)
到達目標	光環境・音環境・熱環境・空気環境に関する基礎知識を元に、空間に適応できる応用的な知識を修得すること。空間の適応できる知識を用いて快適な環境を提案することができるようになることを目的とする。
授業方法と留意点	対面またはTeams上の会議を使用した講義・演習をします。Web Folder内に、演習課題を提示します。追加の指示などは対面での口頭またはTeams上に投稿します。4回～8回は共同作業を考えていますが、オンライン授業に変更となった場合は、個別の演習に変更します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士の製図課題においても建築環境工学の視点から設計で留意した点を記述する必要がある。建築環境工学の視点から建築空間を考えることで一級建築士の課題の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築環境工学と建築空間 快適な建築空間とエネルギー消費	建築環境工学の視点からの空間設計について	事前学習：前期で設計した課題の課題書を見直す。 事後学習：建築環境工学の視点からのコンセプトを考える。
2	光環境・音環境	日光利用・照度計算・音の距離減衰・残響時間について	事前学習：建築環境工学Ⅰの日光率と騒音の距離減衰を確認する。 事後学習：日光率と騒音の距離減衰の演習問題を解く。
3	熱環境・空気環境	熱負荷・相当外気温・必要換気量・空気齢について	事前学習：建築環境工学Ⅱの相当外気温と必要換気量を確認する。 事後学習：相当外気温と必要換気量の演習問題を解く。
4	各環境の測定の計画	設計のコンセプトに取り入れたい環境分野に分かれて、4～5人グループとなる。グループ毎に、どのような測定をしたいのかを考える。(共同作業)	事後学習：グループで行う測定の目的・測定計画を完成させる。
5	各環境の測定	測定機器を用いて、既存の建物または屋外環境を測定する。または、まとめ方についてのレクチャを聴く。(共同作業)	事後学習：測定データの分析方法について考える。
6	各環境の測定	測定機器を用いて、既存の建物または屋外環境を測定する。または、まとめ方についてのレクチャを聴く。(共同作業)	事後学習：測定データの分析方法について考える。
7	各環境の測定の分析	既存の建物または屋外環境を測定したデータを元に、現状を把握し、PPを作成する。(共同作業)	事後学習：測定データを分析して、PPを完成させる。
8	各環境の測定のまとめ	グループ毎に環境に配慮した空間について発表する。(共同作業)	事後学習：他のグループの発表から得られた知識をまとめる。
9	建築環境を考慮した設計 室内環境に影響を及ぼす屋外環境	環境設計コンセプトをまとめるための建築環境工学の知識について	事前学習：測定したデータを設計した空間に適応するために必要なことを考える。 事後学習：環境設計コンセプトを完成する。
10	建築環境を考慮した設計 コンセプト・コンセプト図	コンセプトを図示化したコンセプト図の作成と平面図・断面図の見直し	事前学習：環境設計コンセプトを完成する。 事後学習：環境設計コンセプト図を完成する。平面図・断面図を見直す。
11	建築環境を考慮した設計 コンセプトから平面・断面へ	平面図・断面図の見直し・設計	事前学習：環境設計コンセプト図を完成する。平面図・断面図を見直す。 事後学習：平面図・断面図の見直し・設計する。
12	建築環境を考慮した設計 コンセプトから平面・断面へ	平面図・断面図の見直し・設計	事前学習：平面図・断面図の見直し・設計する。 事後学習：平面図・断面図の見直し・設計する。
13	建築環境を考慮した設計 再設計の前後での違い	全ての図面を見直し・設計 建築環境を配慮する前後の違いをまとめる。	事前学習：全ての図面を見直し・設計する。 事後学習：建築環境を配慮する前後の違いをまとめて、図面などを提出する。
14	建築環境を考慮した再設計 の講評	建築環境を考慮したコンセプトについての質疑応答と学生間の相互評価	事前学習：環境設計コンセプトを説明できるようにする。 事後学習：他の発表についての評価をまとめる
15	建築環境を考慮した再設計 の講評	建築環境を考慮したコンセプトについての質疑応答と学生間の相互評価	事前学習：環境設計コンセプトを説明できるようにする。 事後学習：他の発表についての評価をまとめる

関連科目 建築環境工学Ⅰ、建築環境工学Ⅱ、設計演習Ⅱa

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	建築環境工学の基礎知識の確認課題 (20%)、建築環境を把握するための測定および発表 (40%)、建築環境を考慮した再設計 (40%) を総合して評価する。
学生への メッセージ	建築環境工学の知識を深め、設計に反映することを目的とした授業です。演習も多くありますが、基礎知識を応用する力が身に付くと思います。
担当者の 研究室等	8号館3階官本教授室
備考	受け身で授業を受けることは難しいと思います。アクティブに授業を受けてスキルを身に付けてください。 課題やレポートはすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。 事前事後学習として毎回1.5時間以上かけてください。

科目名	建築マネジメント	科目名 (英文)	Architectural Management
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	所 千夏, 大谷 由紀子, 高木 恭子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3030a0		

授業概要・目的	この講義では、新築時から建物が寿命を全うするまでのプロセスを学びます。建物の設計、積算、施工等を縦断する基礎知識として、特徴的な要求性能や素材の長短所と、見積もり作成の考え方を学びます。そのうえで、建築を社会資産ととらえ、資産価値を上げる手法と技術を、具体的な実例と重ねながら学びます。 授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 「SDGs-11」
到達目標	1) 建物を構成する材料を把握し、部位や材料による特性から材料を選択することができる。 2) 図面から、1つの建築物を構成する材料の数量や価格を含めた構成を読み取ることができる。 3) 実際の保存再生現場など実践の場で活用できる基礎知識を得ること。
授業方法と留意点	前半の講義は図面の読み取りや数量計算を授業内で行うので、三角スケールと計算機、色鉛筆を持参すること。 後半の講義は、再生技術に関する知識をレポートや課題へ積極的に取り組み、授業進行によってアクティブラーニングを取り入れる予定。講義の際は積極的に質疑を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	建築実務についてときに、現存する建物の価値を知り、保存再生にふさわしい建築かどうかを的確に判断し、企画・計画・施工・運営の流れと各段階の技術を把握した上で、魅力的な保存再生計画を提案するための基礎知識を体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	構造材の構成1 (RC基礎)	RC造の構造体に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 基礎に必要な材料の確認 (約0.5時間) (事後) 基礎工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
3	構造材の構成2 (木材)	木造の構造体に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 図面から木造の部材名称及び樹種、寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 木造軸組に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
4	構造材の構成3 (下地材)	木造の下地に必要な部材の紹介とコストの確認	(事前) 図面から木造の下地を構成する材料名称・寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 木造下地に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
5	外装材 (屋根、外壁)	外装に必要な材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から屋根・外壁に使用される材料・面積を確認する (約0.5時間) (事後) 外装工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
6	内装材 (床、壁、天井)	内装に必要な材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から内装に使用される材料・面積を確認する (約0.5時間) (事後) 内装工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
7	開口部 (建具)	開口部を構成する材料の紹介とコストの確認	(事前) 図面から建具の形状や寸法を確認する (約0.5時間) (事後) 建具工に関わる数量・価格を確認する (約1時間)
8	前半のまとめ	その他建物にかかる費用 (新築時にかかる費用、使用後にかかる費用) の紹介とコストの確認	(事前) 第7回までの建築工事費をまとめておく (約0.5時間) (事後) 建物の総工事費をまとめる (約1時間)
9	建築を大事に使う: 保存再生の重要性とプロセス	建築の価値再向上を計画するプロセス	(事前) 建築を長く使うことはなぜ重要か考える (約0.5時間) (事後) 建築再生のプロセスについて理解を深める (約1時間)
10	建築再生の技術1 診断 (既存建物の健康状態を診る)	保存再生のため既存建築の現状把握	(事前) 既存建築の健康はどのように知ることができるか考える (約0.5時間) (事後) 既存建築の健康診断項目について理解を深める (約1時間)
11	建築再生の技術2 構造・外装	建築再生に必要なスケルトン (構造・外装) の計画	(事前) 建築のスケルトン (構造・外装) とは何か確認しておく (約0.5時間) (事後) スケルトンの再生計画について理解を深める (約1時間)
12	建築再生の技術3 設備・内装	建築再生に必要なインフィル (設備・内装) の計画	(事前) 建築のインフィル (設備・内装) とは何か確認しておく (約0.5時間) (事後) インフィルの再生計画について理解を深める (約1時間)
13	建築マネジメントの実例 (1)	建築再生の実例紹介 1	(事前) 建築再生の事例を調べる (約0.5時間) (事後) 建築マネジメント実例について理解を深める (約1時間)
14	建築マネジメントの実例 (2)	建築再生の実例紹介 2	(事前) 建築再生の事例を調べる (約0.5時間) (事後) 建築マネジメント実例について理解を深める (約1時間)
15	後半のまとめ・最終課題	建築を長く使うことについて授業で学習したことを活かして最終課題に取り組む。	(事前) これまでの授業内容を復習する (約0.5時間) (事後) 建築をマネジメントすることについて理解を深める (約1時間)

関連科目 建築材料 I・II

	その他構造関連科目 横断的に関連する科目：建築法規、材料デザイン、インテリア概論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築再生学 (考え方・進め方・実践例)	松村秀一 (編著)	市ヶ谷出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築材料 第四版	橘高 義典, 杉山 央	市ヶ谷出版
	2	建築と都市の保存再生デザイン	田原幸夫他共著	鹿島出版会
	3	積算ポケット手帳 建築編 2024	建築資料研究社編	建築資料研究社
評価方法 (基準)	1 演習課題 20% 2 前半レポート 40% 3 後半レポート (最終課題) 40%			
学生への メッセージ	・新築と異なる、建築保存再生の魅力に触れ、建築実務の中で適切に活かすことができるよう、楽しみながら学び、知識や技術を体得してほしい			
担当者の 研究室等	高木先生は、8号館3階 建築学科準備室。所先生は、7号館2階 非常勤講師室			
備考	質疑などはメールにより受付。メールアドレスは授業にて伝える。 事前学習については、毎回0.5時間以上かけること 事後学習については、毎回1時間以上かけること			

科目名	都市地域デザイン	科目名 (英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	加嶋 章博, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA3034a0		

授業概要・目的	都市計画、都市デザイン、地域計画、まちづくりという広い領域にまず何があり、どんな課題があるのかを理解する。都市とはどのように形成され、どのようにプランニングされてきたのか、計画理論を概観し、「都市の読み方」とは何かを考えていく。都市で起こっている様々な課題に目を向け、都市や地域の良好な環境形成を促すための制度や事業を理解し、これからの計画のあり方や新しい発想を提案するための手掛かりを考える。出来るだけ身近な都市計画やまちづくりの事例に目を向ける。地域資源やシビックプライドといった近年着目されている「町の育て方」にも目を向け、都市づくりに自身がどう関われるかを考える力を育むことを目的とする。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDGs-11)
到達目標	都市計画・まちづくりにおいて重要な基本的な概念、制度、歴史、事業、日本と世界の動向等を捉え、都市計画に関わる基礎的事項を把握し、実際の都市計画や都市の課題に当てはめて考える力を培う。将来、一級建築士などの建築専門技術者として、都市環境や町並み、生活環境を改善していくうえで重要な基礎知識と視点を養い、都市に対する好奇心を拡げることが到達目標とする。
授業方法と留意点	都市で起こっている様々な事象に着目しながら、重要概念やトピックスに関連する都市計画や都市デザインの実践事例の理解に努める。授業進行に伴い、小課題を実施する。また、中間論述課題、期末復習テストを実施する。毎回授業教材を用意するが、詳細は、初回授業で資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	一級・二級建築士・宅地建物取引主任者など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/ 都市へのイメージ	ガイダンス 都市空間に対するイメージを整理する	身近な都市の評価を考える。
2	都市のモデル	・都市の発生と構造 ・モデルで都市の成り立ちを理解する	都市の構造に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
3	都市計画の歴史	様々な都市形成プロセスから、都市、都市計画への視点を育む	都市形成に関する情報を収集する。 テキスト「現況と展望編 第1講」を理解する。
4	都市と市街地	市街地形成における特性を把握する。	テキスト「現況と展望編 第2講」を理解する。
5	建築のコントロール	建築基準法と都市計画の関係を理解する。	テキスト「制度と技術編 第3講」を理解する。
6	地区の計画とデザイン	地区の歴史・文化を継承する地区ルールの存在を理解する。	テキスト「現況と展望編 第4講」を理解する。
7	都市の再生と交通システム	道路ネットワーク、歩行者ネットワーク、交通ネットワークから都市を考える。	テキスト「現況と展望編 第5講」を理解する。
8	都市と自然	都市計画の観点から生活環境に必要な自然との関係について歴史的な事例から理解する。	テキスト「現況と展望編 第6講」を理解する。
9	都市を再生する	都市を再生するための具体的な制度や動向から、都市の成り立ちを理解する。	テキスト「現況と展望編 第7講」を理解する。
10	都市と防災	復興都市計画の事例から、都市計画技術を理解する。	テキスト「現況と展望編 第8講」を理解する。
11	都市の景観まちづくり	景観まちづくりがどのように進んでいるか関連する制度や事例から理解する。	テキスト「現況と展望編 第9講」を理解する。
12	シビックプライドの観点を理解する (1)	シビックプライドとは何かを考える。関連する都市事例から、住民と町とのコミュニケーションの可能性を考え、持続可能性のあるまちづくりを考える。	シビックプライドという言葉の意味を理解する。 テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
13	シビックプライドの観点を理解する (2)	地域資源とは何かを考える。シビックプライドの視点から寝屋川の都市空間を捉え、地域資源の新たな価値付けについて考える。	テキスト「現況と展望編 第11講」を理解する。
14	都市のプロモーション	都市のプロモーションという視点から、まちづくりの動向を把握する。	都市のプロモーションに関連する映像を鑑賞する。
15	参加・協働のまちづくり	身近な地域におけるまちづくりの事例から、住民参加の多様性を学ぶ。	自身が都市とどのように関われるかを考える。

関連科目 基礎科目、専門科目全般であるが、特に建築設計演習A・Bや卒業設計・卒業論文、大学院研究の導入とする。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	初めて学ぶ都市計画	饗庭 伸ほか	市ヶ谷出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	都市計画	川上光彦	森北出版
2			
3			

評価方法 (基準) 授業進行に伴い実施する小課題 (20%)、中間論述課題 (40%)、期末復習テスト (40%) を総合し、60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 建築と都市計画の領域は切り離して考えられるものではありません。みなさんは、都市の魅力を創造していく分野に将来進まれることでしょうか。ような分野に進もうとも都市への関心をもっていただけだと思います。講義では、都市計画一般の理解だけではなく、身近な都市や地域に見せる課題を抽出し、それらを取り巻く多様な要素を踏まえた計画のあり方を検討したいと思います。卒業研究のテーマを模索する材料にもしてください。

担当者の研究室等 8号館3階 加嶋教授室

備考	<p>【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上の時間をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて、教科書以外の資料に目を通す。出来るだけ視覚的資料も探すこと。</p> <p>授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。</p>
----	--

科目名	建築計画各論	科目名 (英文)	Architectural planning and Building Types
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	伊熊 昌治, 大谷 由紀子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDA2036a0		

授業概要・目的	[授業概要・目的] 建築計画各論は、人間の活動の受け皿としての空間を、その空間の使われ方（ビルディングタイプ）に応じて知見を整理する講義である。具体的には、利用者と使用者・管理者という視点からみた「建物の使われ方」を学び、文化的背景を踏まえた「規模計画」、近年注目されている具体的な実例などをとりあげる。 建築設計実務経験を活かし、実務を意識した学びを提供する。(SDGs-11)
到達目標	[到達目標] 1)各種ビルディングタイプの特徴の理解 2)規模計画の基本的事項の把握 3)代表的な事例とプランタイプの理解
授業方法及び留意点	講義全般において建築計画上の要点をおさえつつ、知っておきたい建築事例を紹介する。 課題を通してプレゼンテーションやまとめ方を学ぶ。 対面形式とする。
科目学習の効果 (資格)	設計系演習および卒業設計、さらに建築士試験において必要な基礎的知識を得られる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	建築計画とは何か	建築計画が教えること・教えないこと 建築計画各論の目的 生活圏とコミュニティ施設 <グループワーク>	建築計画は必要かについて検討する。(0.5時間) 予習:独立住宅の項目の読み込み (1時間)
2	居住施設の計画 1	独立住宅の計画と実例 街に対して開く・閉じる 「住宅は広ければ広いほどよい」について考えてみる。	復習:街に開いた住宅・閉じた住宅について考える (0.5時間) 予習:大量生産の住宅と建築家の作る住宅との差異 (1時間)	
3	居住施設の計画 2	集合住宅の計画(かたち、関係、しくみ)と実例 中低層から高層住宅の計画の特徴について	復習:集合住宅の計画の留意点はどこか。コミュニティの必要性はどこにあるのか。(0.5時間) 予習:住宅開発地の功罪 (1時間)	
4	居住施設の計画 3	集合住宅の計画(住宅地、住宅関連産業)と実例 住宅地開発について コミュニティについて	復習:nLDK以外の標準化はあるか。(0.5時間) 予習:大規模店舗の立地に特徴はあるか。(1時間)	
5	商業・業務施設の計画 1	店舗・SCの計画と実例 大規模店舗のメリットとデメリットについて	復習:コンセプトと形態・平面計画における差異 (0.5時間) 予習:オフィスビル計画の基本について (1時間)	
6	商業・業務施設の計画 2	オフィス・駐車場の計画と実例 中低層オフィスと高層オフィスに計画上での差異はどこか。 カーテンウォール等	復習:高層オフィスの特徴と環境負荷低減への対策 (0.5時間) 予習:新形態のホテル・宿泊施設事例 (1時間)	
7	商業・業務施設の計画 3	ホテル・宿泊研修施設の計画と実例 カプセルホテル、ビジネスホテル、リゾートホテル等	復習:民泊を含めた宿泊施設の多様化について(0.5時間) 予習:7回までの項目のまとめ (1時間)	
8	中間ふりかえり	第1回から第7回の学習内容習得状況の確認	復習:授業内容の再確認 (0.5時間) 予習:教育施設の種類について (1時間)	
9	学校・教育施設の計画	幼稚園・小学校の計画と実例 <グループワーク>	復習:教育環境の多様化 (0.5時間) 予習:祝祭空間とはなにか。(1時間)	
10	社会・文化施設の計画 1	ホール・劇場の設計と実例 音楽ホールと劇場、多目的ホールの差異について <反転授業>	復習:ホールを体験する (0.5時間) 予習:図書館の最近の動向 (1時間)	
11	社会・文化施設の計画 2	図書館の設計と実例 複合型図書館・小規模図書館 図書館の利用の仕方 <反転授業>	復習:図書館の重要性について (0.5時間) 予習:美術館の種類について (1時間)	
12	社会・文化施設の計画 3	美術館の設計と実例 美術館の歴史と現代美術館の特徴、保存改修された美術館 <反転授業・フィールドワーク>	復習:美術館の変容 (0.5時間) 予習:病院と病気について (1時間)	
13	医療・福祉施設の計画 1	病院の設計と実例 多様化する病院、総合病院 多様化する福祉施設 高齢社会への対策	復習:高度化する病院施設の現状を探る (0.5時間) 予習:福祉施設の種類について (1時間)	
14	医療・福祉施設の計画 2	ケーススタディ 福祉関連施設 <プレゼンテーション>	復習:高齢社会と福祉施設と居住施設との関係(0.5時間) 予習:14回までのまとめ (1時間)	
15	期末の振り返り	総復習 今までの内容のまとめ	復習:一つのデータにまとめる (1.5時間)	

関連科目 「建築計画基礎」、「構造力学・構造基礎」をあらかじめ修得しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築空間計画	積田 洋 他	彰国社
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題の提出状況と達成度(40%)、中間テスト(30%)、期末テスト (30%)			
学生への メッセージ	<p>色々な建物や街の環境を体験し、その場所の良さや価値（問題も含めて）が、空間・人・社会・使い方・歴史などにどのように影響しているかを考えることが重要である。</p> <p>建築計画で得た知識を元に、各自が体験し、読みとった場所を、課題を通じて報告する機会を設ける。</p>			
担当者の 研究室等	8号館3階 伊熊教授室			
備考	<p>授業の具体的な進め方については、1回目授業時に説明を行う。</p> <p>課題等はすべて返却する。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要である。</p> <p>事前事後学習として毎回1.5時間以上かけること。</p>			

科目名	建築施工	科目名 (英文)	Building Construction
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	尾崎 昌彦, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3050a0		

授業概要・目的	建築の主な構造体であるRC造、SRC造、S造で構成されている大型事務所ビルをモデルとしたイラストを多用した教科書を使用して、着工から竣工までの工事進捗に沿った工事の流れや建築用語、工法、工事管理ポイント等を学びます。 工事の流れに合わせて経験談や失敗談を交えたり、実際の工事写真等を用いて実務内容がイメージしやすいように進めます。授業担当者は、建築施工の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。 SDGs-11に該当する科目である。
到達目標	教科書のイラストとその内容説明また適時示す写真や関連資料により、各工事の概要やイメージをつかみ、建築施工とは、施工管理とは、どのようなもので何をするのかを学ぶことにより、建築施工管理技術者としての基礎知識を得ることを到達目標とします。
授業方法と留意点	授業の中で課題と小テストを実施します。 いずれも下記「評価方法」とおり、評価の対象とします。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士や一級施工管理技士の資格取得の学科試験「施工部門」に関係します。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 授業内容について、建築生産の流れ	授業内容、進め方、評価基準等に関して説明する。 概要として建築生産の流れを説明する。	シラバスを良く読み、教科書全体に目を通しておくこと
2	建築生産	工事に携わる人と組織体制、役割、建築施工の工事管理について説明する。	教科書 p14～p25, p160～p164
3	準備工事	着工までの調査、現場事務所の設置等、仮設工事を含めた準備工事を説明する。 課題①	教科書 p28～p37, p165～p167
4	地業・土工事	山留め・杭・土工事について説明する。 課題①の解説	教科書 p38～p53, p168～p171
5	鉄筋コンクリート工事 1	RC 躯体工事の流れと型枠工事について説明する。 1～4回までの小テスト①	教科書 p54～p61, p172～p174
6	鉄筋コンクリート工事 2	RC 躯体工事の流れと鉄筋工事、コンクリート工事について説明する。 小テスト①の解説	教科書 p62～p71, p174～p178
7	鉄骨工事	地上躯体部分の鉄骨造における鉄骨製作から現場作業について説明する。 課題②	教科書 p72～p83, p179～p180
8	工程表作成演習	躯体サイクル工程の作成演習と発表を行う。 課題②の解説	教科書 p54～p71, p172～p178
9	防水、カーテンウォール工事	防水、シール工事、外装カーテンウォール工事について説明する。 5～8回までの小テスト②	教科書 p84～p91, p181～p184
10	石・左官・タイル工事	各工事の概要と管理ポイントについて説明する。 小テスト②の解説	教科書 p92～p99, p184～p187
11	建具・ガラス・塗装・軽量鉄骨下地・内装・ALC	各工事の概要と管理ポイントについて説明する。 課題③	教科書 p100～p113, p187～p190
12	電気・空調・給排水設備工事	各設備工事の概要と管理ポイントについて説明する。 課題③の解説	教科書 p114～p123
13	昇降機・機械駐車設備工事・防災・建築と設備	各設備工事の概要と管理ポイント、建築と設備のかかわりについて説明する。 9～13回までの小テスト③	教科書 p124～p131
14	外構・その他工事・竣工	外構工事の概要、検査・引渡しまでの業務について説明する。 小テスト③の解説	教科書 p132～p139
15	全体 まとめ	全体的なまとめを行う。	教科書全般

関連科目 建築材料系、その他構造関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1	施工がわかるイラスト建築生産入門	日本建設業連合会編 イラスト 川崎一雄
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1		
	2			
	3			

評価方法 (基準) 小テスト30%、課題30%、期末テスト40%

学生への 建築施工は建物を造る技術で、皆さんも日々建設の現場を目にされていると思いますが、業界の特殊用語が多く、言葉や文字だけではなかなかい

メッセージ	メッセージがわかりにくいと思います。今回イラストを多用した教科書を採用しますので、事前に目を通しわからないことや特に興味を持ったことなどを整理しておいて下さい。講義ではできる限り失敗談など経験談をまじえ、建築施工の面白さをお伝えしたいと思いますので、興味を持って授業に臨んでください。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室（柳沢教授室）
備考	授業の進め方については、1回目の授業時に説明します。 事前の学習は毎回0.5時間以上かけるようにしてください。 事後の学習は毎回1時間以上かけるようにしてください。 課題等はすべて返却します。解き直し、考察し直しを自分で行うことが重要です。

科目名	構造設計	科目名 (英文)	Structural Design
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	栢尾 実, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA3052a0		

授業概要・目的	<p>[授業概要・目的] 建築物を表現する強・用・美のうち、強・用に大きく関わる構造計画を行う上で、建物の安全性を確保する構造設計の内容を理解する必要がある。本講義では、構造設計を行う上で必要不可欠な基本的考え方と方法について学ぶ。</p> <p>【目的】鉄骨造 (S 造) および鉄筋コンクリート造 (RC 造) 建物を中心に構造設計に関する以下の項目について理解し、具体的な設計能力を身につける。(1)構造設計概要・手順、(2) S 造、RC 造各種部材の設計法、(3) S 造建物の部材接合部の設計法、(4) S 造および RC 造の利点を活かした構造計画 (SDG s-11)</p>
到達目標	<p>[到達目標] 建築物を設計する上で、構造計画は空間および安全性に関わる重要な過程である。さらに、構造計画を立案する上で構造設計の内容を理解しておく必要がある。構造設計の基本である構造設計の手順、部材断面を決定する手法を理解し、S 造および RC 造の簡易な部材断面を設計できる。</p>
授業方法と留意点	配布資料および事例を用いて講義形式で授業を行い、その都度内容に沿った演習問題を課す。遅刻・欠席をしないこと。やむを得ず、欠席をした場合には配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	構造設計者、施工管理技術者を目指す者にとって必須の教科である。また、一級建築士および二級建築士資格取得のためには有益な教科である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、構造計画と構造設計概要	構造計画、構造設計の目的・意義および流れに関する講義と演習	(事前) 構造設計の流れを調べる (事後) 演習課題の復習
2	荷重、許容応力度設計	荷重、鉛直荷重および中小地震に対する設計法に関する講義と演習	(事前) 第 1 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
3	2 次設計、保有水平耐力	大地震に対して人命を守る 2 次設計に関する講義と演習	(事前) 第 2 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
4	S 造部材の設計法 1 (小梁、大梁の設計)	曲げとせん断を受ける部材 (小梁・大梁) 断面を決定する設計手法 (曲げ、せん断の許容応力度設計) の講義と演習	(事前) 第 3 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
5	S 造の設計法 2 (柱の設計)	軸力・曲げ・せん断を受ける部材 (柱) 断面を決定する設計手法 (曲げ、せん断設計) の講義と演習	(事前) 第 4 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
6	高力ボルト接合	S 造部材を接合する高力ボルト接合耐力算定および破断防止手法に関する講義と演習	(事前) 第 5 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
7	溶接接合	S 造部材を接合する溶接接合の接合耐力および必要溶接長等の算定法に関する講義と演習	(事前) 第 6 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
8	S 造建物の靱性設計法	S 造建物の靱性を向上するための設計手法に関する講義と演習	(事前) 第 7 回配布資料を読む (事後) 演習課題の復習
9	S 造建物の構造計画	S 造の利点を活かす構造計画	(事前) ここまでの範囲について演習課題を含めてよく復習すること (事後) 授業での構造計画の復習
10	RC 造部材の設計法 1 (柱梁の設計 1)	柱、梁の設計に関する講義と演習 1 長期短期の曲げモーメントに対する講義	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
11	RC 造部材の設計法 2 (柱梁の設計 2・柱梁接合部の設計)	柱、梁の設計に関する講義と演習 2 長期・短期のせん断力に対する講義、柱梁接合部の許容せん断力に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
12	RC 造部材の設計法 3 (床の設計・耐震壁の設計)	床スラブに作用する荷重と応力、変形に関する講義と演習、耐震壁のせん断抵抗に関する講義と演習、無開口開口耐震壁の設計	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
13	RC 造部材の設計法 4 (基礎の設計 1)	基礎の概要、地盤調査 直接基礎の耐力、基礎スラブの曲げ補強設計に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
14	RC 造部材の設計法 4 (基礎の設計 2)	杭基礎の設計に関する講義と演習	(事前) 教科書の該当箇所の熟読 (事後) 演習課題の復習
15	振り返り	構造設計手順および部材断面決定手法の振り返り	(事前) 第 1～14 回までの授業内容及び演習課題をよく復習すること

関連科目 鋼構造、鉄筋コンクリート構造の授業内容をよく理解していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	2020 年版 建築物に構造関係技術基準解説書	国土交通省 その他	全国官報販売協同組合
2	図説やさしい構造設計	浅野清昭	学芸出版社	
3	ひとりで学べる RC 造建築物の構造設計演習帳	栢山健二・楠 浩一	日本建築センター	

評価方法 (基準) 講義内での課題の成績 (30%) および期末試験成績 (70%) の総計で評価する。

学生へのメッセージ	必ずしも簡単な内容ではありませんが、授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、配布資料および演習課題を納得いくまで繰り返し反芻すれば、将来建築の設計・施工・審査に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。また、一級建築士あるいは二級建築士資格取得に役立ちます。 講義には必ず電卓（関数電卓）を持参すること。
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科共通準備室
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回 0.5 時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前・事後学習課題欄に示した内容について、毎回 1 時間以上かけて問題を解きなおす。また、中間試験は採点后返却するため、間違った問題は解きなおす事。 ・理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。

科目名	耐震工学・振動学	科目名 (英文)	Seismic Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	青木 和雄, 池内 淳子
ディプロマポリシー (DP)	H0		
科目ナンバリング	TDA3056a0		

授業概要・目的
わが国では、阪神・淡路大震災(1995)、東日本大震災(2011)、熊本地震 (2016)、大阪府北部地震 (2018.6月)、北海道胆振東部地震 (2018.9月)などの地震が続いた。また、近い将来に海溝型大地震も予想されている。そのような中、人命、建築、インフラなどの安全確保に社会的関心が集まっている。授業では、地震や地震動による建物の動きを理解するとともに、実設計に必要な基礎的な知識を習得する。授業担当者は建築構造の実務経験を有する。(SDGs-11)

到達目標
最近、社会的に注目されている「耐震安全性の確保」に応えられる構造設計者になるための基礎的な知識を身につけた上で専門的な知識が習得できる。

教科書と配布教材をベースとする授業を行う。

授業方法と留意点
事前・事後学習課題 : 「授業計画」欄の説明
復習: テキスト・プリントを読み返し、疑問点を積み残さないようにすること (毎回 約 1.5 時間程度)
課題: テキストの数式の数値計算 (エクセル等)、数式の誘導等展開などを行う (約 1.5 時間程度)
予習: テキストや事前に配布するプリントについてあらかじめ理解しておく (毎回 約 1 時間程度)
その他: 地震、建物の耐震性、防・減災などのニュースなどに目を通し全体的な理解度を高めること (適宜)

科目学習の効果 (資格)
地震時の建物の挙動を理解することにより、地震動に対する安全性の考え方や設計法を習得する。また、本授業の内容は一級・二級建築士の資格試験の「建築構造」の一部で必ず出題されるものである。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	第 1 章 建築振動を学ぶ	地震の歴史 地震の伝播や被害	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
2	第 2 章 地震による地盤と建物の揺れ	揺れと地盤、地震波形を見る	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
3	第 3 章 1 質点系モデルの振動	ダランペーラの原理と振動方程式	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
4	第 4 章 減衰を考慮した 1 質点系モデルの振動	減衰系の振動方程式と減衰の影響 (効果)	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
5	第 5 章 1 質点系モデルの地震応答	地震応答の数値計算法	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
6	第 5 章 1 質点系モデルの地震応答	応答ベクトルと応用	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
7	第 6 章 1 質点系モデルの調和地動入力時の応答	単純な調和地動で建物応答を探る	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
8	第 7 章 1 質点系モデルの周波数応答解析	伝達関数とフーリエ変換	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
9	第 7 章 1 質点系モデルの周波数応答解析	フーリエ変換と周波数解析	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
10	第 8 章 多質点系モデルの振動	1 質点系から多質点系の展開	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
11	第 8 章 多質点系モデルの振動	固有ベクトル・展開定理	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
12	第 8 章 多質点系モデルの振動	多質点系のまとめと、ねじれ振動	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
13	第 9 章 免震構造・制振構造	免震・制振構造の概要と計画	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
14	第 10、11 章 地盤増幅と相互作用	地盤震動 透過・反射と増幅、相互作用	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照
15	現行設計法と授業まとめ	現行の種々の設計法の説明と、授業まとめ	予習・復習・課題 (約 4 時間) : 「授業方法と留意点」欄参照

関連科目
構造力学、鋼構造、鉄筋コンクリート構造等の構造系科目および基礎的な数学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築振動を学ぶ -地震から免震・制震まで-	宮本裕司ほか	理工図書
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)
授業時の課題 (40%) と対面授業期間中に行う試験 (60%) によって、到達目標の習熟度を総合的に判断し可否を判断します。

学生へのメッセージ
耐震工学・振動学は、防災・減災の基礎として最近、特に注目されている分野で、地震時の地盤や建物の動きを、簡単な物理・数学を用いて工学的に理解する授業です。知識を身につけて、社会に出てからの設計実務や研究に役立てるとともに、さらに 制振・免震などの分野へと発展させる動機となることを願っています。同時に、地震に対して人命・財産や都市の機能を守るといった社会的使命の達成にも役立てていただきたい。

担当者の研究室等
建築学科共通準備室 (8 号館 3 階)

備考
授業に関する質疑等は、対面授業前後で直接教員に聞くこと。
事前学習には、毎回 0.5 時間以上かけること。事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。

科目名	建築設計演習 A	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Design A
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 健治, 白須 寛規, 北條 豊和, 水上 和哉, 矢田 朝士, 山口 尚之
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3061a0		

授業概要・目的
 建築設計系科目では、与えられた課題に対して自身の考えやアイデアを図式化(エスキース)しながら、成果物として建築図面(平面図、立面図、断面図等)を製図(ドローイング)し、その展示・発表・講評(プレゼンテーション)を行う。
 本演習では、小学校(教育施設)を題材に、多様な社会背景に対するリサーチに基づいた多角的な検討を重視した取り組みを通じて、設計の基本的な方法(調査手法、検討事項等)、設計に必要な知識(意匠・構造・環境・外構、各種寸法等)を学ぶ。また、各成果物の計画・制作を通じて、建築の複合的かつ総合的な設計に関する知識や技能の修得、提案表現技法を修得する。併せて、展示・発表・講評を通じて自身の考えを他者に伝えるための技法を身につける。
 なお、本演習科目は建築実務経験を有する専任教員、非常勤講師により指導を行います。《SDGs-11》

到達目標
 1) 課題を発見し、設計条件化できる
 2) 複合的な条件をもつ建築の計画・設計ができる
 3) 調査および提案に対して的確な表現ができる

授業方法と留意点
 本科目は、基本的に対面授業で行います(状況に応じて適宜、Teams による遠隔指導に切り替える場合があります)。演習は、各々が持参する作業成果をベースに少人数での対話(エスキース)を通じて進めます。また、課題の発見、設計条件化においては、グループ単位でのワークを取り入れます。

科目学習の効果(資格)
 建築士試験(実技試験)と関連がある。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	小学校(教育施設)の設計(第1回)	・課題説明 ・グループ分けおよび作業方法の説明 ・グループ別個別指導	必要な検討事項を整理し、設計からプレゼンテーションまでのプロセスを計画する。
2	小学校(教育施設)の設計(第2回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
3	小学校(教育施設)の設計(第3回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
4	小学校(教育施設)の設計(第4回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集 調査・図面・模型作成
5	小学校(教育施設)の設計(第5回)	・グループ別個別指導 ・中間発表会	社会背景を建築化する上での課題設定 調査・検討結果の表現
6	小学校(教育施設)の設計(第6回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
7	小学校(教育施設)の設計(第7回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
8	小学校(教育施設)の設計(第8回)	・グループ別個別指導	社会背景の情報収集とその建築化 調査・図面・模型作成
9	小学校(教育施設)の設計(第9回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
10	小学校(教育施設)の設計(第10回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
11	小学校(教育施設)の設計(第11回)	・グループ別個別指導	成果物(図面、模型、図表)の制作 表現方法・図面レイアウトの検討
12	小学校(教育施設)の設計(第12回)	・グループ別個別指導 ・成果発表会	成果物の制作 講評ポイントの整理、相互批評
13	展示計画1	成果物展示の検討	建築展示表現手法・展示レイアウトのレビュー
14	展示計画2	成果物展示の計画	建築展示表現手法・展示レイアウトの検討
15	展示講評会	展示に対する講評	口頭発表内容の検討 講評ポイントの整理、相互批評

関連科目
 設計演習系科目(建築基礎演習A、建築基礎演習B、建築設計製図A、建築設計製図B、建築設計演習B)および建築概論、建築計画基礎、建築計画各論、福祉すまい環境、都市・地域デザイン、建築情報処理基礎、建築情報処理応用ほか、専門科目全般が関連科目といえる。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	第4版コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善株式会社
2	初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
3	初学者の建築講座 建築製図	大野隆司監修 瀬川康秀著	市ヶ谷出版社

評価方法(基準)
 エスキースにおける提出物(グループワークの成果を含む)における提案密度と内容(20%)
 成果物(平面図、立面図、断面図を含む)における完成度と技法および提案密度と内容(80%)

学生へのメッセージ
 単体としての建築のあり方のみならず、地域や社会との関係から、これからの建築に必要な条件を設定できるか否か、さらにその条件を建築化した空間の創造ができるか、がポイントです。また、ただ「やる」ではなく「やりきる」ことができるかどうか、もポイントです。

担当者の研究室等
 8号館3階 小林准教授室

備考
 事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。外部講師による課題に関連したショートレクチャーなどを行う場合があります。
 授業の進め方については、1回目授業時に説明します。

課題等はすべて返却します。他の解釈と比較考察を自分で行うことが重要です。

科目名	建築設計演習B	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Design B
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白須 寛規, 大谷 由紀子, 小野 龍人, 武田 憲人, 西井 洋介, 堀 賢太
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3062a0		

授業概要・目的	本演習では、まず自身のリサーチ対象を選定し、リサーチ手法ならびにその表現手法を学ぶ。次に、社会情勢を背景に課題を自ら発見し、建築の設計条件として設定した上で、建築によって解決する手法を修得する。全体を通じて、建築・都市空間に関するフィールドワークを行い、そこから課題や魅力を抽出した上で都市空間に対するオリジナルな視点での分析、提案を図面や模型で魅力的に表現し、的確にプレゼンテーションできるようにすることを目的とする。なお、本演習科目は建築実務経験を有する専任教員、非常勤講師により指導を行う。【SDGs-11】
到達目標	1) 大規模で複雑な内容の施設の総合的計画技術の修得、2) 課題抽出力の修得、3) 課題分析力と提案創出力の修得、4) 図面や模型、図表での表現力 (プレゼンテーション力) の修得
授業方法と留意点	本演習は対面形式で行う。詳細については授業内で説明する。 指導方法は、少人数グループを一人の担当教員が指導するスタジオ制とする。
科目学習の効果 (資格)	建築学科での授業内容を総合的に理解することに役立つとともに、将来の建築士試験のために極めて重要である。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	リサーチ 1	・課題説明・グループわけおよび作業方法の説明、グループ別指導方針説明など teams にてオンライン授業	調査・図面・模型・図表作成
	2	リサーチ 2	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	3	リサーチ 3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	4	リサーチ 4	・リサーチ課題の提出、講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	5	スタジオ 1	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	6	スタジオ 2	・グループ別個別指導など	表現手法・レイアウトの検討
	7	スタジオ 3	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	8	スタジオ 4	・スタジオ課題の中間提出、講評	中間提出物作成
	9	スタジオ 5	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	10	スタジオ 6	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	11	スタジオ 7	・グループ別個別指導など	調査・図面・模型・図表作成
	12	スタジオ 8	・成果物の提出、講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。
	13	展示計画 1	・成果物展示計画	展示手法・レイアウトの検討
	14	展示計画 2	・成果物展示計画	展示手法・レイアウトの検討
15	展示講評会	・展示に対する講評	プレゼンテーションの方法を検討する。また他者の作品に対する批評を行う。	

関連科目 建築基礎演習 A 及び B、建築設計製図 A 及び B、建築設計演習 A や、建築計画系科目が特に関連するが、専門科目全般が関連科目と言える。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集 第4版	日本建築学会編	丸善出版
	2	初めての建築設計 ステップ・バイ・ステップ	川北健雄、三上晴久、倉知徹、水島あかね、花田佳明著	彰国社
	3			

評価方法 (基準) 提出物(エスキース課題)の評価 40%、提出図面(平面図、立面図、断面図を含む)の完成度と技法などの評価 60%で各課題毎に評価を行い総合 60%以上を合格とする。

学生へのメッセージ 最後の設計演習です。建築学科での学習の集大成のひとつとして、意匠・構造・設備に関して学んだことをフィードバックして、課題に取り組むとともに、自身の成果物の見せ方(展示手法)について、建築の展覧会等へ赴き、イメージを膨らませてください。また教員や仲間とのコミュニケーションや意見交換も積極的に行ってください。

担当者の研究室等 8号館3階

備考 事前事後学習：事前事後学習欄に示した内容について、毎回4.5時間以上取り組むこと。
課題はすべて返却する。計画内容、表現の過不足について自身で見直すことが重要である。

科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	スタンシュー アレサント ^ロ
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3435c1		

授業概要・目的	This course is designed to help students improve speaking fluency by presenting and discussing familiar topics.
到達目標	We will use an English textbook to cover several different topics. The topics are all familiar to students so this should allow them to speak confidently. Most activities will be done with a partner and/or in a small group. Students will be required to
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Introduction	1) Introduction to class & syllabus explanation. 2) Student introductions Activity	1. Prepare all necessary materials for class. 2. Submit the Introductions Activity by due date
2	Unit 1 - My Hometown	Do Unit 1 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 1 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 1 Assignment 2 by due date.
3	Unit 1 - continued	Give Unit 1 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 1 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 1 Assignment 3 by due date.
4	Unit 2 - My Favorite Music	Do Unit 2 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 2 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 2 Assignment 2 by due date.
5	Unit 2 - continued	Give Unit 2 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 2 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 2 Assignment 3 by due date.
6	Unit 5 - Travel Experiences	Do Unit 5 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 5 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 5 Assignment 2 by due date.
7	Unit 5 - continued	Give Unit 5 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 5 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 5 Assignment 3 by due date. 3. Prepare for Review Test
8	Mid-Term Review Test	Unit 1,2,5 Review Test Unit 1,2,5 Review Activity	1. Finish and submit Unit 1,2,5 Review Activity by due date.
9	Unit 6 - My School Life	Do Unit 6 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 6 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 6 Assignment 2 by due date.
10	Unit 6 - continued	Give Unit 6 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 6 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 6 Assignment 3 by due date.
11	Unit 7 - My Favorite Foods	Do Unit 7 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 7 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 7 Assignment 2 by due date.
12	Unit 7 - continued	Give Unit 7 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 7 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 7 Assignment 3 by due date.
13	Unit 8 - My Friends	Do Unit 8 Assignment 1 in class (pair/group work)	1. Finish and submit Unit 8 Assignment 1 by due date. 2. Prepare and submit Unit 8 Assignment 2 by due date.
14	Unit 8 - continued	Give Unit 8 Presentations in class (group work)	1. Finish and submit Unit 8 Presentation Listener's Task by due date. 2. Finish and submit Unit 8 Assignment 3 by due date. 3. Prepare for Review Test
15	Final Review Test	Unit 6,7,8 Review Test Unit 6,7,8 Review Activity	1. Finish and submit Unit 6,7,8 Review Activity by due date.

関連科目													
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Scraps</td> <td>Cullen</td> <td>Perceptia Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press	2			
	番号	書籍名	著者名	出版社名									
	1	Scraps	Cullen	Perceptia Press									
2													

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Attendance & Participation	30%		
	Presentations		30%	
	Assignments		20%	
	Review Tests		20%	
学生への メッセージ	<p>毎回、教科書とノートパソコンまたはタブレットを持参してください。課題は授業中に行い、TEAMS を使ってデジタルで提出する予定です。詳しくは初回の授業で詳しく説明します。</p> <p>PCの充電は必ず100%にしてから大学に来るように心がけましょう。</p> <p>コースの詳細は、初回の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>原則として、出席率 80%以上(12 回以上出席)の受講者のみを成績評価の対象とします。4 回以上休んだ場合(正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く)単位が取得できる見込みはありません。</p> <p>テキスト(教科書)を忘れた場合、また、携帯電話の使用、私語などの授業妨害行為、許可のない途中退室などの行為があった場合は、当該の授業における評価点をゼロとして扱います。</p> <p>その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講予定者は必ず出席してください。</p>			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN3436c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、「英語を話せるようになりたい」と思っている皆さんが、場面や状況に応じて自分のことを英語で説明する力を養成することを目標とします。実際の場면을想定したダイアログ練習を通して、英語での円滑なコミュニケーション能力を高めることを目指します。世界各地の都市や地域の映像を視聴して日本以外の地域への興味を高め、英会話を学ぶモチベーションの向上につながることも期待できます。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得し、会話を身につける。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。問題を解き、指名された受講者は解答を発表するなどの発言の機会があります。次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。教科書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売期間中に早めに購入してください。前期「英語基礎会話 a (VR3)」を受講した場合、教科書は同じなので新しく購入するものではありません。 1回目の授業から英和辞書 (電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの) も使用するので、教科書と併せて毎回
科目学習の効果 (資格)	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、各種課題やテストについての説明) ウォーミングアップ: 英語で自分のことをどれだけ話せるかチャレンジ/自分の課題点を知る	教科書の予習
2	India: From the Himalayas to the sea, an amazing mix of geography, peoples, languages, and customs India provides (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
3	India: From the Himalayas to the sea, an amazing mix of geography, peoples, languages, and customs India provides (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Shopping)	教科書の予習、復習
4	New Zealand: A country that is famous for its extremely living (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
5	New Zealand: A country that is famous for its extremely living (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (One Day Excursions)	教科書の予習、復習
6	Africa: The sights and sounds of one of the world's most beautiful natural environment (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
7	Africa: The sights and sounds of one of the world's most beautiful natural environment (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Running into Problems)	教科書の予習、復習
8	Cambodia: The history of Angkor (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
9	Cambodia: The history of Angkor (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Bargaining)	教科書の予習、復習
10	Egypt: Traveling back in time to discover one of the Wonders of the World (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
11	Egypt: Traveling back in time to discover one of the Wonders of the World (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Home Visit)	教科書の予習、復習
12	Italy: Visit to some of the world's most active volcanoes (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習、復習
13	Italy: Visit to some of the world's most active volcanoes (2)	スピーキング演習: 会話ロールプレイ (At a Restaurant)	教科書の予習、復習
14	Mars: Discoveries of two robot rovers	映像を見てリスニング演習スピーキング演習: 会話ロールプレイ (Saying Good-bye)	教科書の予習、復習
15	まとめテスト実施	(終了後) テストの解説	まとめテストの復習

関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Globe Trotters: Practical English with Video	Carmella Lieske	センゲージラーニング
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度（アクティビティへの積極的な参加、投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 40% ・小テスト（授業内で実施スケジュールを伝える/答えは毎回返却する）... 15% ・期末まとめテスト... 45% 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	科学技術教養C	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 俊太郎, 石田 裕子, 伊藤 譲, 久保田 誠也, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田井 政行, 水野 忠雄, 米田 昌弘
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3425a1		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画（計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会（環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学（上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 ※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養M	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 周之, 植田 芳昭, 小田 靖久, 海津 浩一, 寒川 哲夫, 諏訪 晴彦, 洞出 光洋, 堀江 昌朗, 南 久, 三宅 修吾, 山崎 達志, 渡邊 陽介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3423a1		

授業概要・目的	<p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化, 自動化を図る機械”の原理, 性能, 製作, 利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は, 機械力学, 材料力学, 熱力学, 流体力学の4力学を基軸とし, その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は, 機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより, 機械工学の全体像を俯瞰しつつ, 履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り, 機械工学と実社会への関わりを理解することができる。 ・機械工学と他分野の関わりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・各テーマごとにその歴史, 基本原理, 最先端の話題を提供する。 ・Web上で配布するテキスト(PDF)に目を通し, ポイントをまとめておく。 ・講義前に課題を配布し, スライド資料を用いた講義を行う。(60分) ・講義メモと課題を作成し, 指示に従って提出する。(30分) <p>・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。</p> <p>・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeamsを使うので, 注意しておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることが出来る。 ・機械工学と他分野との関わりに気づき, 受講者の興味や知識の幅を広げることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人類の歩みと機械の歴史 ・ものづくりの原点 ・科学技術と機械工学 ・これからの社会への機械工学の役割 	M1 テキスト第1章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
2	いろいろな機械材料	<ul style="list-style-type: none"> ・金属材料 ・高強度・機能性材料 ・新素材と高度産業社会 	M1 テキスト第3~5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
3	道具と機械	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具 	M1 テキスト第2章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
4	空間を移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術 ・深海に潜る原理と深海艇の機械技術 ・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術 	M2 テキスト第6~8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
5	精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> ・もの大きさと精密さ ・精密・超精密加工の発展 ・超精密加工の応用事例 ・超精密加工と超精密工作機械 	M1 テキスト第7章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
6	ものづくりの科学と技術	<ul style="list-style-type: none"> ・溶かして作る ・変形させて作る ・削って作る ・積み上げて作る ・工場を科学する 	M1 テキスト第6, 8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
7	作業を補助する機械	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の作業と機械 ・移動と運搬の補助 ・動力源・移動のためのメカニズム ・力を伝えるための仕組みと手段 ・シャフトとベアリング 	M1 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
8	機械をかしこくする	<ul style="list-style-type: none"> ・機械の操作と知能化技術 ・知能化のための機械設計 ・パワーアシストスーツ ・人工知能技術 	M1 テキスト第11章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
9	ミクロの機械	<ul style="list-style-type: none"> ・小型化への取り組み ・小さくなることで変わる物理特性 ・半導体製造技術 ・マイクロロボット 	M1 テキスト第12~14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
10	流れを利用する	<ul style="list-style-type: none"> ・動力と流体機械 ・流体機械の歴史 ・発電のための流体機械 ・自然エネルギーの利用 	M2 テキスト第2・3章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
11	陸上を移動する	<ul style="list-style-type: none"> ・エンジンと機械工学 ・動力機械としてのエンジン ・熱エネルギー ・旅客輸送と貨物輸送 	M2 テキスト第4・5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
12	計測する	<ul style="list-style-type: none"> ・度量衡と政治 ・もの大きさと精密さ ・センサで測る ・センシング技術 	M2 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
13	制御する	<ul style="list-style-type: none"> ・制御工学の世界 ・制御の方式 ・さまざまな機械制御技術 	M2 テキスト第11・12章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体にならう1	<ul style="list-style-type: none"> ・バイオエンジニアリングの世界 ・人間を救う・支援する機械 	M2 テキスト第13・14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間)

	15	生命・生体にならう2	<ul style="list-style-type: none"> 健康とスポーツのための機械 人間工学 	関連事項について調べる (2時間) M2 テキスト第14・15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> 毎回提出する課題 (各回10点満点) に基づき成績評価をする。 満点は150点 (講義15回分) で、これを100点満点に換算する。 			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考				

科目名	科学技術教養E	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 雅彦, 片田 喜章, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 木村 真之, 工藤 隆則, 檜橋 祥一, 西 恵理, 畠中 恵司, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3424a1		

授業概要・目的	電気・情報に関する学問分野には、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学などがある。電気工学は、発電電や送電、動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野、電子工学は、電気の高速度応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野、通信工学は、有線や無線通信、通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野、情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である。これらは、全て「電気」という共通項があり、「情報」が深くかかわる。しかし、それぞれの分野が特化し、かつ高度化したことにより、これらを全て網羅して理解することが難しくなっている。本講義では、これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しづつ学ぶことで、その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に、多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする。
---------	---

到達目標	電気情報工学全般を学ぶことで、電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり、どのような応用があるかを理解することが目標である。
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。 ・講義 13 回分はパワーポイントを用いた口述講義の動画を Moodle で視聴。各回で出される課題に解答し、Moodle で提出する。 ・講義 2 回分では研究室紹介動画視聴後にレポートを Moodle で提出する。 <p>教科書が必要となるので、入手しておくこと。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。また、どの分野においても情報の知識は欠かせない。これらの原理や特性を知ること、自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる。国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第 1 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造、発電電、送電のしくみ	第 2 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か、半導体の機能、集積回路の作成技術	第 3 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気をを用いた照明器具の発展、照明器具と消費電力、照明器具の応用	第 4 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路、能動回路と受動回路、集積回路、身近な製品の電子回路	第 5 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	第 6 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ、パソコンの内部構造、スーパーコンピュータ	第 7 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは、家電製品に組み込まれたマイコン、プログラミングの基礎	第 8 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3 原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第 9 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第 10 回課題 約 1 時間
11	電波と放送	電波と応用分野、変調と復調、衛星放送からデジタル放送へ	第 11 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史、携帯電話、通信のこれから	第 12 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつながり	インターネットのしくみ、歴史、接続方法、危険性	第 13 回課題 約 1 時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介 1	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(6つの研究室)	第 14 回レポート 約 2 時間
15	研究室紹介 2	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(5つの研究室)	第 15 回レポート 約 2 時間

関連科目	各自の学科で並行して開設されている数学、物理系科目も履修しておくことが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘, 堀内利一, 鹿間信介	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点 13 回とレポート 2 回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を 90%、レポートの評価点を 10% とする。ただし、課題とレポート提出率 80% 以上を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけでなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館4階および5階の電気電子工学科教員室 授業担当責任者 井上雅彦教授室(1号館4階)
備考	課題提供はMoodle上で行い、課題&レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題&レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養R	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy R
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3421a1		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる知識を学ぶ。 オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎を理解できる。
授業方法と留意点	ICT ツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。毎回、課題を出すので、教科書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。必ず、期日までに課題を提出すること。最終回には、まとめテストを行う。担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果 (資格)	身近な住環境から地球環境まで、デザイン、環境工学、暮らし、に関する知識と考え方、手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等 (科目の内容、授業の進め方、評価基準等の説明)	事前・事後学習課題
2	環境配慮の空間デザイン	従来から着目されている省エネルギー建物から ZEB (ゼロエネルギー建築) への展開と、近年着目されている県境配慮、知的生産性向上建物の現状について学ぶ。 また、均質で不満の少ない環境から、変化と刺激を感じる環境の提供へのパラダイムシフトによる、多様性がある人中心の環境設計の考え方について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
3	スマートウェルネスなまちづくり	環境配慮型まちづくりの世界の事例、およびスマートグリッド・スマートコミュニティや健康に配慮したまちづくりに対する、日本での取り組みを知り、今後のまちづくりについて考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
4	住環境とバシックデザイン	住環境におけるバシックデザインを建築家 (藤井厚二、小玉祐一郎) の作品を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
5	省エネルギーとバシックデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のバシックデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
6	省エネルギーとアクティブデザイン	住宅、オフィスビル等の先進のアクティブデザイン技術を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
7	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
8	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
9	生活におけるおい・かおり	住空間におけるおい対策、かおりの活用をはじめとした感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
10	地球共生デザインから考えるモノとコトのデザイン	社会問題や環境問題、人と生態系の両方に「コト」と「モノ」両方からアプローチする地球共生デザインの 在り方を実践例を通して考える。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
11	家族の変化と住まい	家族の変化と住要求の関係、時代の変化による世帯構造及び住まいの変容について学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
12	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がり、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。 まとめておくこと (1 時間)
13	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
14	野生動物との共存のデザイン	近年増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料の講義部分の予習 (45 分以上)、復習 (45 分以上) を十分に行う。
15	解説	解説およびまとめテストを実施する。	予習：講義内容の復習をして、

	まとめテスト	まとめテストを受けること (1 時間)		
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養 (R) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題 15%、まとめテスト 85%で評価する。			
学生へのメッセージ	毎回の課題提出をもって出席とします。初回の授業および 15 回目のまとめテストは、対面で行う予定です。状況によって対面が不可能な場合はオンラインに変更します。Teams の投稿欄において周知するので、注意してください。			
担当者の研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榊准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、12 号館 6 階 坂本教授室			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。			

科目名	科学技術教養V	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅 恵造, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 見坂 武彦, 島田 幸祐, 瀬溝 人生, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 西矢 芳昭, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3420a1		

授業概要・目的	本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1) 病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子 (船越)	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
3	認知症～その原因と治療法 (宮崎)	我が国は超高齢化社会へと進行し続け、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立が見つけなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ (尾山)	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
5	薬物乱用と依存性薬物 (居場)	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存性という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
6	ミトコンドリアと病気 (井尻)	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
7	くすりとタンパク質のかたち (中嶋)	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
8	機能性糖質 (大橋)	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
9	不妊のしくみ (西村)	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
10	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義

		ー (西矢)	用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	後に配布資料を復習する (1時間)。
	11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術 (松尾)	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	12	機能性食品などの新しい食品の形態 (青笹)	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	13	担当: 新任教員、内容: 未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	14	遺伝子組換え植物とその将来 (長田)	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	15	感染症とその予防 (見坂)	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生动向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。
講義メモを含む課題未提出の場合は欠席1日とする。
原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。

担当者の研究室等 1号館8階 松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室
1号館9階 尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室

備考 欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する (遅刻2回で欠席1回とみなす)。

科目名	科学技術教養 T	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3426a1		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
12	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)

			近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。																	
	14	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習(1時間)																
	15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や教に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館2階(東谷), 5号館1階(友枝・小林・東), 8号館2階(長島)]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	まちづくり論	科目名 (英文)	Town and Community Planning
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上田 正人, 白須 寛規
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TDA4031a0		

授業概要・目的	まちづくりとは、市民・行政・企業など様々な主体が協働し、ハードとソフトの両面から、まちの活力向上や身近な居住環境の改善によって、まちの魅力を高めるための活動である。昨今では、SDG s の目標にもまちづくりが位置付けられている。本講義では、まちづくりに関する概論と様々な事例紹介により、都市が抱えている課題の解決に資する幅広い知見について学習する。授業担当者が有している建築やまちづくりの実務経験を活かして、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDG s-11)
到達目標	①都市が抱えている多岐にわたる課題の包括的な理解を深める。 ②まちづくりに関連する実践的な理論・手法・技能について習得する。 ③予習や発表等を通じて、考える力、ディベート能力、プレゼン能力を高める。
授業方法と留意点	・まちづくりに関する説明・解説と、課題に対するレポートの作成・提出・発表を組み合わせる形で授業を行う。 ・ディベートを取り入れた授業と、完成した施設見学会（現地集合）を各1回予定している。 ・資料は Teams で配信、課題の提出は Moodle を使用する。
科目学習の効果 (資格)	特になし

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	まちづくりとは何か	まちづくりの定義や都市計画との違い、まちづくりを担う主体、昨今の社会情勢とまちづくりの課題との関連等について説明を行う	自分の住んでいる地域の「まちづくり」について、優れた事例や課題・問題点をまとめる。
2	SDG s ・環境共生とまちづくり	・居住実験住宅 (NEXT 21)、ZEH、ZEH-M、ZEB ・地球温暖化問題への対応、SDG s とまちづくり、レジリエンスについて ・ビジョンやコンセプトとは何か解説を行う	第2講の授業ノートを提出する
3	まちづくりビジョンと建築プロジェクトのコンセプトについて	・Creative City スペイン・ビルバオの事例をもとにまちづくりと地域活性化について考える	SDG s に配慮したまちづくり、または地域活性化をめざしたまちづくり事例を収集・分析する
4	人口減少時代のニュータウン開発、ニュータウン活性化	・彩都のまちづくり、千里ニュータウンにおける等価交換事業によるマンション建替え、団地の減築等	授業で説明するテーマに対してディベートの準備を行う
5	フローからストックを重視したまちづくり、スクラップ&ビルドからの脱却	・指定されたテーマに関連するディベートを行う ・リノベーションとコンバージョンの違いについて ・ロンドン・テートモダン美術館、NY ハイライン等の事例紹介を行う	新たなまちづくりの核となることをめざして、自分がリノベ・コンバージョンしたい建物のコンセプトを作成する
6	TOD (Transit Oriented Development) によるまちづくり	・TODとは何か、交通政策とまちづくり ・ロンドン・キングスクロス駅、ニューヨーク・WTC、オキュラス、マドリッド・アトーチャ駅等の事例紹介	先週の課題 (自分がリノベ・コンバージョンしたい建物) の改修概要を作成する
7	利用者参加型バリアフリー (BF) とユニバーサルデザイン (UD)	・利用者参加型のバリアフリー駅建設の取組み (阪急伊丹駅震災復旧事業) ・THE TOKYO TOILET、だれでもトイレ ・BF と UD の違い	第1講～第7講の復習を行う
8	中間テスト、まちづくり論の復習	・中間テストを実施する (60分) ・その後、出題された内容について解説を行う	次回テーマに関する予習を行う (事前配布資料あり)
9	QUINTBRIGE (社会実装型オープンイノベーション施設) の見学会	クイントブリッジ (京橋) は、企業・ベンチャー・自治体・大学等が学び・繋がりが共創することで、新規事業の共創や地域課題の解決をめざす施設	見学会の内容について感想をまとめる
10	歴史的価値の活用・再生、まちづくりと景観	・古い小学校を改修したホテルや地域活性化施設の事例 ・古い町家等のリノベーション、まちづくりと景観 ・歴史的建築物を保存・活用する3条その他条例	まちづくりに関連する様々な主体について、その具体的な役割をまとめる
11	鉄道会社によるまちづくり～鉄道敷設からターミナル開発まで～	・民間鉄道会社における沿線不動産開発について ・都市再生緊急整備地域での施設整備について	指定されたテーマに対してレポートを作成する
12	民間活力を導入したまちづくり/PPP・PFI事業	・公営住宅の建替え等のPPP・PFI事業 ・立体都市公園制度を利用したまちづくり ・Park-PFI、指定管理者制度について	各自が考える「まちづくりの失敗事例」について、情報収集しその内容をまとめる
13	失敗事例から学ぶこと/経済情勢の変化への対応	・新国立競技場 (旧計画)、震災復旧再開発事業での赤字等、いわゆる失敗プロジェクトからまちづくりのヒントを探す	次週のテーマについて、予習を行う
14	ポストコロナ時代のまちづくり	・建築学会 SDGs 宣言や大阪のまちづくりグランドデザイン等をもとに、これからの都市・建築・まちづくりのあり方やスマートシティについて考える	第1講、第9講～第14講の復習を行う

	15	期末テスト、総復習	<ul style="list-style-type: none"> ・期末テストを実施 (60分) ・出題された内容について解説 ・まちづくり関連の資料説明 	配布資料をもとに、授業で取り上げなかった内容について各自学習する
関連科目	建築マネジメント論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	提出物(課題) 30%、中間テスト 30%、期末テスト 40%			
学生への メッセージ	現在の社会情勢に興味を持ち、まちづくりや都市・建築のあるべき姿について自ら考え、積極的な議論を望む学生を求めます。			
担当者の 研究室等	建築学科共通準備室			
備考	事前・事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間程度取り組む			

科目名	建築実務実践	科目名 (英文)	Practices of Building Construction
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子・伊熊 昌治・奥田 泰雄・加嶋 章博・小林 健治・宮本 征一・柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TDA4032a0		

授業概要・目的	<p>これまでに学んだ建築計画分野・建築環境分野・建築設備分野・建築構造分野の基礎知識について、二級建築士および一級建築士問題を用いて確かめることで実践力を養う。特に、建築計画分野では、建物用途ごとの規定等について、建築環境・設備分野では、熱貫流率や湿度に関する実践的解法について、建築構造分野では、木材、セメント、鋼材等の材料特性や静定梁の力のつり合い、応力・変形の実践的解法について理解を深める。</p> <p>SDGs-11に該当する科目である。</p>
到達目標	1) 建築構造に関する基礎知識について説明でき、構造力学の実践的解法を修得する、2) 建築環境に関する基礎知識について説明でき、湿度・照度等の実践的解法を修得する、3) 建築計画に関する基礎知識や規定について説明できる。
授業方法と留意点	専任教員が交代で講義と演習を組み合わせる授業を行う。各回で内容が変化するため、欠席・遅刻をしないこと。やむを得ず、欠席をした場合には、配布プリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士取得・二級建築士資格取得のために役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・荷重、外力、反力	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、建物に作用する荷重と外力、反力計算	(事前) 構造力学Ⅰの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
2	力のつり合い	静定梁・ラーメン構造の断面力計算と断面力図	(事前) 構造力学Ⅰの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
3	静定トラス、断面の性質	トラス構造物の実践的解法、断面二次モーメント解法	(事前) 構造力学Ⅰの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
4	断面に作用する応力、梁の変形	軸方向力と2方向の曲げをうける梁要素の応力、梁構造・ラーメン構造のたわみ・たわみ角、	(事前) 構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
5	木材・鋼材	木材、鋼材の性質と強度	(事前) 建築材料の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
6	セメント・コンクリート	セメントの性質と強度、コンクリートの性質	(事前) 鉄筋コンクリート構造の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
7	建築環境の用語、伝熱、日射・日照、音	建築環境の用語確認、熱貫流率、湿度と結露、色彩・照明、外部環境ほか	(事前) 環境工学Ⅰ、環境工学Ⅱの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
8	建築設備の用語、空調、給排水、電気	建築設備の用語確認、空調設備、給排水衛生設備、省エネルギー	(事前) 建築設備の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
9	建築史と作品	建築物と設計者の組合せ、歴史的建築物の特徴	(事前) 建築概論の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
10	住宅・集合住宅	住宅計画一般、集合住宅の計画	(事前) 建築計画基礎の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
11	事務所・商業施設	事務所ビルの計画、商業建築の計画	(事前) 建築計画各論の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
12	教育・文化施設、公共施設	教育施設、文化施設を含む公共施設の計画	(事前) 建築計画各論の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
13	高齢・福祉施設	高齢者や身体障がい者等に配慮した建築物の計画	(事前) 福祉住まい環境の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
14	建築計画単体規定	屋根、階段、建築物の各部の勾配、窓又は扉、建築物の各部の寸法	(事前) 建築計画基礎の内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。
15	まちづくり・防災計画	まちづくり、景観法、総合設計制度、防災計画	(事前) 都市地域デザインの内容を復習する (事後) 配布プリント等を復習し、講義中に解いた演習問題を再解答する。

関連科目	これまでの学科提供必修科目すべて
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	復習課題の提出(40%)と期末試験(60%)により評価する。		
学生への メッセージ	建築分野の業務に携わるにあたり、自らの能力を向上し、実力を兼ね備えることは重要です。一方で、「資格」取得も同じくらい重要です。資格取得には、「他人があなたの実力や努力を評価しやすい利点」があるとともに、継続した勉強は。自らの知識が確認でき、新たな気づきも得られます。卒業後、社会に出てからも勉強は続きます。この科目では、これまでの学びをおさらいするとともに、卒業後の勉強方法について考え実践力をつけてください。		
担当者の 研究室等	8号館3階 各担当教員(専任)の部屋		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること ・事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて学習すること 		

科目名	商業科教育法	科目名 (英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井 宏幸
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。</p> <p>後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることが出来ます。</p>
到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
授業方法と留意点	<p>前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科・科目の構造について学びます。</p> <p>後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など)を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することが出来ます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告書の記入	
2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
4	経営学部・商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
5	経営リテラシーの構造的な理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
11	授業づくりの基礎(3)	ICTを活用する教材づくり	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(180分)
12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	〔事後〕 学習指導案の作成(240分)
13	学習指導案の作成と授業の実践(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	〔事後〕 学習指導案の作成(240分)
14	学習指導案の作成と授業の実践(2)	授業の展開での板書・説明と発問	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	
16	ガイダンス「模擬授業演習の進め方」	後期の授業の進め方及び模擬授業の進め方	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
17	総合的科目	「課題研究」「総合実践」の教育の進め方	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
18	基礎的科目	基礎的科目の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス基礎」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
19	基礎的科目	(1)「ビジネス基礎」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
20	ビジネス情報分野	ビジネス情報分野の教育の進め方	〔事後〕「情報処理」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
21	ビジネス情報分野	(1)「情報処理」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
22	会計分野	会計分野の教育の進め方	〔事後〕「簿記」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
23	会計分野	(1)「簿記」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
24	ビジネス経済分野	ビジネス経済分野の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス法規」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
25	ビジネス経済分野	(1)「ビジネス法規」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
26	マーケティング分野	マーケティング分野の教育の進め方	〔事後〕「マーケティング」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
27	マーケティング分野	(1)「マーケティング」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
28	4分野からの選択	ビジネス情報分野、会計分野、ビジネス経済分野、マーケティング分野から1分野を選択して模擬授業を行う準備	〔事後〕 模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
29	4分野からの選択	(1)模擬授業	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)

		(2)評価表の作成																	
	30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する 上記事後学習課題に要する時間も含め、総授業外学習時間は120時間である																
関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版</td> <td>文部科学省</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題レポート・ミニツツペーパー50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等)50%とし、総合的に判断して評価する。																		
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。																		
担当者の 研究室等	全学教育機構																		
備考	質問等はメール等で対応する。																		

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	小林 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して、実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。なお受講生の状況により、弱点を徹底的に補うため、進度の変更を行うことがあることを留意されたし。
科目学習の効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化、共通教科情報科と専門教科情報科について	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
3	共通教科情報科の構成	共通必修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」の内容構成	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
4	共通必修科目「情報Ⅰ」の内容	「情報Ⅰ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
5	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (1)	情報社会の問題解決の学習内容	情報社会の問題解決について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
6	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (2)	コミュニケーションと情報デザインの学習内容	コミュニケーションと情報デザインについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
7	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (3)	コンピュータとプログラミングの学習内容	コンピュータとプログラミングについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
8	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (4)	情報通信ネットワークとデータの活用の学習内容	情報通信ネットワークとデータの活用について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
9	情報教育の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	年間指導計画の作成、学習目標の明確化についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
10	情報教育の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	課題分析の方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
11	情報教育の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	評価の目的と対象についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
12	情報教育の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	学習課題に応じた評価方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
13	模擬授業：情報Ⅰ (1)	学習目標の明確化、学習指導案の書き方	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
14	模擬授業：情報Ⅰ (2)	教材研究の方法、授業分析	模擬授業の準備をする (150分) 教材研究、授業分析を行う (90分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (60分)
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半の振り返り、確認テストと解説	前半の内容を整理する (180分)
16	選択科目「情報Ⅱ」の内容	「情報Ⅱ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
17	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (1)	情報社会の進展と情報技術の学習内容	情報社会の進展と情報技術について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)

	18	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（2）	コミュニケーションとコンテンツの学習内容	コミュニケーションとコンテンツについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	19	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（3）	情報とデータサイエンスの学習内容	情報とデータサイエンスについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	20	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（4）	情報システムとプログラミングの学習内容	情報システムとプログラミングについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	21	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（5）	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求の学習内容	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	22	模擬授業：情報Ⅱ（1）	学習目標の明確化、学習指導案の作成	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	23	模擬授業：情報Ⅱ（2）	教材研究、授業分析	模擬授業の準備をする（150分） 教材研究、授業分析を行う（90分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
	24	模擬授業の展開（1）	学習目標の明確化、学習指導案の作成、教材研究	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 教材研究を行う（90分）
	25	模擬授業の展開（2）	相互評価、模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	26	専門教科情報科の構成	専門教科情報科の内容構成、教育方法、共通教科情報科との差異	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	27	魅力ある授業の展開（1）	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	28	魅力ある授業の展開（2）	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	29	魅力ある授業の展開（3）	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	30	全体のまとめと学力診断テスト	全体の振り返り、確認テストと解説、これからの教師に求められる授業力	後半の内容を整理する（180分）
関連科目	情報関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情 I 706 図説情報 I	監修：渡辺美智子	実教出版
	2	情 I 706 図説情報 I 学習ノート	実教出版編集部	実教出版
	3	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編	文部科学省	開隆堂出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-	監修：梅田恭子、齋藤ひとみ	実教出版
	2			
	3			
評価方法（基準）	学習指導案などの成果物等（50%）、学力診断テスト（40%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価 演習が中心となるため、継続的な授業への出席が必要です。			
学生へのメッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。			
担当者の研究室等	11号館8階（小林研究室）			
備考	必要に応じて資料を配布します。			

科目名	職業指導	科目名 (英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ 授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(1時間)。 事後学習:年間の学びの計画を立てること(3時間)
2	職業指導の基礎理論	・ 職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習:職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと(2時間) 事後学習:職業指導に関する資料を熟読すること(2時間)。
3	職業指導の歴史①	・ アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習:欧米の職業指導に関して調査すること(3時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(1時間)
4	日本の産業構造の変化	・ 日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習:日本の産業の変遷について市調べておくこと(3時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
5	職業指導の歴史②	・ 日本の戦後の教育改革について	事前学習:日本の戦後の教育改革について調べておくこと(2時間)。 事後学習:配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(2時間)
6	日本型雇用と職業指導	・ 日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習:日本型雇用について発表資料を作成すること(3時間)。 事後学習:発表及びディスカッションの内容を振り返ること(1時間)
7	新規高卒就職システム	・ 新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習:高卒労働市場に関して調べておくこと(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
8	高等学校における職業指導	・ 各種学校における職業指導の在り方について	事前学習:高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること(3時間) 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
9	「労働すること」を考える	・ 仕事をするものの意義を考える	事前学習:仕事をする意味について意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習:自らの労働観について考えること(2時間)。
10	職業指導の領域	・ 学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習:職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:自己について考えておくこと(2時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(2時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えておくこと(3時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(1時間)。
13	授業内容立案	・ 高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習:高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと(1時間) 事後学習:模擬授業の準備をすること(3時間)。
14	模擬授業①	・ 講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習:模擬授業の準備をすること(2時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(2時間)
15	講義の振り返り	・ 講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習:前期のレポートを作成すること(3時間)。 事後学習:講義全体を振り返ること(1時間)
16	オリエンテーション	・ 後期授業概要の説明	事前学習:本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習:後期の学習計画を立てること(3時間)
17	商業教育と職業指導	・ 商業高校における職業指導について	事前学習:商業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
18	工業教育と職業指導	・ 工業高校における職業指導について	事前学習:工業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
19	普通科高校と職業指導	・ 普通科高校における職業指導について	事前学習:普通科高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)

	20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等 備考	水野講師室（7号館3階）			

科目名	基礎数学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年度	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	関 穰慶
ディプロマポリシー(DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1001a0		

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。
到達目標	主な目標は (1) 種々の量を文字式で表現できる。 (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。 (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。
授業方法と留意点	受講者は演習教材(教科書・ワークブック)を用いて次のサイクルで講義を受講されたい： (1) 講義を受講する前に、演習教材の事前・事後学習課題として指定された範囲に取り組む(予習) (2) 講義中および講義終了後にワークブックの該当箇所を課題として提出し、教員の評価を受ける(講義)。 (3) 課題によっては再提出を指示する。各課題についての認定を教員から受けること(復習)。
科目学習の効果 (資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	教科書第1章 §1.1-§1.4 ワークブック §1.1
2	複素数と平方根	・複素数の四則演算	教科書第1章 §1.5-§1.6 ワークブック §1.2
3	文字式(1)	・文字式の展開 ・有理化 ・式の値	教科書第2章 §2.1-§2.4 ワークブック §2.1-§2.3
4	文字式(2)	・文字式の因数分解	教科書第2章 §2.5 ワークブック §2.4-§2.6
5	文字式(3): 演習	・少し複雑な文字式の展開 ・少し複雑な文字式の因数分解	教科書第2章 §2.1-§2.5 ワークブック §2.1-§2.6
6	方程式の解法(1)	・2次方程式の解放 ・平方完成と解の公式	教科書 第2章 §2.6.1-§2.6.4 ワークブック §2.7-§2.9
7	方程式の解法(2)	・高次方程式 ・因数定理	教科書 第2章 §2.6.5-§2.6.6 ワークブック §2.10
8	方程式の解法(3): 演習	・少し複雑な方程式の解法	教科書 第3章 §2.6 ワークブック §2.7-§2.9
9	1次関数	・座標平面 ・1次関数とそのグラフ ・2次関数とそのグラフ(1)	教科書 第3章 §3.1 ワークブック §3.1
10	2次関数	・2次関数とそのグラフ(2)	教科書 第3章 §3.2-§3.3 ワークブック §3.2-§3.3
11	無理関数	・無理関数のグラフ ・グラフの平行移動	教科書 第3章 §3.4 ワークブック §3.4
12	有理関数(1)	・分式式の計算 ・部分分数分解	教科書 第4章 §4.1-§4.2 ワークブック §4.1-§4.3
13	有理関数(2)	・1次分式関数のグラフ ・不等式への応用	教科書 第4章 §4.3 ワークブック §4.4-§4.5
14	関数とそのグラフ: 演習	・関数とそのグラフ ・方程式、不等式への応用	教科書 第3章、第4章 ワークブック §3.1-§4.5
15	三角関数(1)	・弧度法と一般角 ・三平方の定理 ・三角比と三角関数の定義	教科書 第5章 §5.1-§5.3 ワークブック §5.1-§5.3
16	三角関数(2)	・三角関数の性質	教科書 第5章 §5.4-§5.5 ワークブック §5.4-§5.6
17	三角関数(3)	・三角形の面積 ・正弦定理 ・余弦定理	教科書 第5章 §5.6-§5.8 ワークブック §5.7-§5.9
18	総合演習: 三角関数	三角関数に関する演習	教科書 第5章 ワークブック §5.1-§5.9
19	絶対値(1)	・絶対値の定義 ・絶対値を含む方程式、不等式	教科書 第6章 §6.1-§6.2 ワークブック §6.1-§6.2
20	絶対値(2)	・絶対値を含む関数のグラフ	教科書 第6章 §6.3-§6.2 ワークブック §6.3-§6.4
21	指数関数(1)	・指数法則 ・指数を含む方程式とその解法	教科書 第7章 §7.1 ワークブック §7.1-§7.3
22	指数関数(2)	・指数関数のグラフ	教科書 第7章 §7.2 ワークブック §7.4-§7.5
23	対数関数(1)	・対数の定義と指数法則との対応 ・底の変換	教科書 第7章 §7.3 ワークブック §7.6-§7.8
24	対数関数(2)	・対数関数のグラフ	教科書 第7章 §7.4 ワークブック §7.9-§7.11
25	総合演習: 指数関数、対数関数	・指数関数、対数関数に関する演習	教科書 第7章 ワークブック §7.1-§7.11
26	三角関数(4)	・加法定理	教科書 第8章 §8.1 ワークブック §8.1
27	三角関数(5)	・2倍角の公式	教科書 第8章 §8.2-§8.3

			・半角の公式	ワークブック §8.2-§8.3
	28	三角関数(6)	・三角関数の合成 ・加法定理の応用	教科書 第8章 §8.4-§8.5 ワークブック §8.4-§8.5
	29	三角関数(7)	・三角関数のグラフ	教科書 第8章 §8.6 ワークブック §8.6-§8.7
	30	総合演習: 三角関	・三角関数に関する演習	教科書 第8章 ワークブック §8.1-§8.7
関連科目	数式を用いるすべての科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学の基礎	摂南大学基礎理工学機構数学教室編	
	2	日々の演習	摂南大学基礎理工学機構数学教室編	
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習、小テスト、演習教材(ワークブック)で30%、中間試験35%、期末試験35%の割合で判定し評価する。			
学生への メッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。 演習は必ず講義受講前に自分で解こうと努力し、わからないところは質問する積極的な姿勢を望みます。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考	事前事後学習には、各々毎回1.5時間以上かけること。			

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大久保 勇輔
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1002a0		

授業概要・目的	微積分学は、関数の変化を理解し分析するための学問である。例えば、物体の運動や電磁場の変化のような自然界の様々な現象は関数を用いて表現され、これらの現象を深く理解するためには微積分学が必要となる。物理学や工学をはじめとする多くの自然科学分野で、微積分学は重要な役割を果たしている。この講義では主に、初等関数（整式、有理関数、無理関数、三角関数、指数・対数関数など）の微分を扱う。その際、初等関数の基本的な性質についても復習しながら講義を進める。またテイラー展開を用いて複雑な関数を多項式によって近似する方法や、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	(1) 初等関数の微分を計算することができる。 (2) 積の微分法・商の微分法・合成関数の微分法などの微分公式を扱うことができる。 (3) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (4) マクローリン展開やテイラー展開を用いて、基本的な関数の冪級数展開を求めることができる。 (5) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。 (6) 部分積分・置換積分などの積分公式を扱うことができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題・演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために、教科書や板書ノートなどを参考に予習復習も励行すること。課題の提出や返却にはMoodleを利用する予定だが、コース名や登録キーについては初回の講義で説明する。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は微積分Ⅱを習得するのに引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	講義資料の予習復習、第1章の問題
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	講義資料の予習復習、第1章の問題
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	講義資料の予習復習、第1章の問題
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	講義資料の予習復習、第1章の問題
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	講義資料の予習復習、第2章の問題
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	講義資料の予習復習、第2章の問題
7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	講義資料の予習復習、第2章の問題
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	講義資料の予習復習、第2章の問題
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	講義資料の予習復習、第2章の問題
10	指数関数	・指数法則・ネイピア数 e ・指数関数の定義	講義資料の予習復習、第3章の問題
11	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	講義資料の予習復習、第3章の問題
12	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	講義資料の予習復習、第3章の問題
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	講義資料の予習復習、第3章の問題
14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	講義資料の予習復習、第4章の問題
15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	講義資料の予習復習、第4章の問題
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	講義資料の予習復習、第5章の問題
17	高次導関数 (2)	・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	講義資料の予習復習、第5章の問題
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	講義資料の予習復習、第6章の問題
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	講義資料の予習復習、第6章の問題
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	講義資料の予習復習、第6章の問題
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	講義資料の予習復習、第6章の問題
22	関数の展開 (2)	・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化	講義資料の予習復習、第6章の問題
23	原始関数 (1)	・微分の逆演算としての不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
25	原始関数 (3)	・三角関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	講義資料の予習復習、第7章の問題

関連科目 以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められる。
微積分Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ
上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 — 理工系学生に向けて — (ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)			
学生への メッセージ	講義の時間以外にも予習・復習を行うことが重要です。積極的に講義に参加して、分からない点があれば気軽に質問してください。しっかりと基礎的な計算能力を身につけましょう。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考	事前事後学習は毎回 1.5 時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。			

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1002a0		

授業概要・目的	関数の考え方と微分法の考え方を学習する。整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、関数のテイラー近似と応用、不定積分の計算法などを習得する。
到達目標	(1) 関数の合成や逆関数が理解できる。その微分演算が理解できる。 (2) 基本的な関数の導関数を求めることができる。 (3) 高次導関数を用いる近似法によって関数の挙動を調べ、グラフの概形を描くことができる。 (4) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	授業日の 2 日前を目安に Moodle のコースに講義録を上げていきます。講義録の pdf ファイルをダウンロードして、手元の端末でファイルを開いて読めるようにする。講義録を予習して授業に臨むこと。(可能なら印刷して、書き込んだり落書きしたりしながら、予習するのがベストだと思う)。Moodle のコースには演習問題も用意しています。授業は予習してあることを前提に進めます。授業後は、講義録を読み直して理解を深めること。演習問題に必ず手を付けること。分からないところがあれば、指定教科書を開く前に、まずは高校の数 III の教科書を参照するといいでしょう。演習問題の解説・解答は次回の講義録とともに Moodle に上げます。講義録の配布や課題の出題・提出は Moodle を経由して行う予定。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は微積分 II を習得することに引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数 (1)	・関数の考え方、関数のグラフ、定義域と値域	・講義録の予習と復習 ・第 1 回演習問題
2	関数 (2)	・簡単な関数のグラフ ・連続性の定義・連続関数の性質	・講義録の予習と復習 ・第 2 回演習問題
3	関数 (3)	・合成関数と逆関数	・講義録の予習と復習 ・第 3 回演習問題
4	微分係数 (1)	・微分法の考え方 ・微分係数の定義 ・接線の方程式	・講義録の予習と復習 ・第 4 回演習問題
5	微分係数 (2)	・微分係数を求める計算技法	・講義録の予習と復習 ・第 5 回演習問題
6	導関数 (1)	・微分可能 ・導関数の定義と導関数の求め方	・講義録の予習と復習 ・第 6 回演習問題
7	導関数 (2)	・導関数の基本公式 I	・講義録の予習と復習 ・第 7 回演習問題
8	導関数 (3)	・導関数の基本公式 II	・講義録の予習と復習 ・第 8 回演習問題
9	導関数 (4)	・逆関数の導関数	・講義録の予習と復習 ・第 9 回演習問題
10	指数関数・対数関数 (1)	・高校 (数 II 相当) の指数関数の復習と整理	・講義録の予習と復習 ・第 10 回演習問題
11	指数関数・対数関数 (2)	・高校 (数 II 相当) の対数関数の復習と整理	・講義録の予習と復習 ・第 11 回演習問題
12	指数関数・対数関数 (3)	・指数関数の導関数	・講義録の予習と復習 ・第 12 回演習問題
13	指数関数・対数関数 (4)	・対数関数の導関数	・講義録の予習と復習 ・第 13 回演習問題
14	3 角関数 (1)	・高校 (数 II 相当) の 3 角関数の復習	・講義録の予習と復習 ・第 14 回演習問題
15	3 角関数 (2)	・ 3 角関数の導関数	・講義録の予習と復習 ・第 15 回演習問題
16	3 角関数 (3)	・逆 3 角関数	・講義録の予習と復習 ・第 16 回演習問題
17	3 角関数 (4)	・逆 3 角関数の導関数	・講義録の予習と復習 ・第 17 回演習問題
18	高次導関数 (1)	・高次導関数 ・基本関数の高次導関数	・講義録の予習と復習 ・第 18 回演習問題
19	高次導関数 (2)	・2 項展開とライブニッツ規則	・講義録の予習と復習 ・第 19 回演習問題
20	関数の展開 (1)	・関数のテイラー展開とマクローリン展開 ・関数値のテイラー近似とマクローリン近似	・講義録の予習と復習 ・第 20 回演習問題
21	関数の展開 (2)	・1 次のテイラー近似と関数の極大・極小 ・2 次のテイラー近似と関数の凹凸	・講義録の予習と復習 ・第 21 回演習問題
22	関数の展開 (3)	・関数のグラフの概形を求める技法の習熟	・講義録の予習と復習 ・第 22 回演習問題
23	関数の展開 (4)	・関数のグラフの概形を求める技法の習熟	・講義録の予習と復習 ・第 23 回演習問題
24	不定積分 (1)	・原始関数と不定積分 ・基本関数の不定積分	・講義録の予習と復習 ・第 24 回演習問題
25	不定積分 (2)	・置換積分法	・講義録の予習と復習 ・第 25 回演習問題
26	不定積分 (3)	・部分積分法	・講義録の予習と復習

				・第26回演習問題
	27	不定積分(4)	・有理関数の不定積分	・講義録の予習と復習 ・第27回演習問題
	28	不定積分(5)	・無理関数の不定積分	・講義録の予習と復習 ・第28回演習問題
	29	微積分Ⅰのまとめ(1)	・総合演習	総合演習
	30	微積分Ⅰのまとめ(2)	・総合演習	総合演習
関連科目	微積分Ⅱ、統計学。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 ―理工系学生に向けて―	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。			
学生への メッセージ	事前事後学習は毎回2時間以上かけること。課題レポートは返却時に解説を行う。 講義録、演習問題の配布やレポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。			
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考				

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻茂 工将
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1002a0		

授業概要・目的	整式, 有理式, 無理関数, 三角, 指数, 対数関数などの基本的な関数について, 微分の計算法, テイラー展開の求め方, 不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し, 課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養・計算能力を身につけるために, 予習復習を励行すること。
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます: 微積分 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学(確率統計)。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第 1 章の問	課題レポート
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第 1 章の問	課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第 1 章の問	課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第 1 章の問	課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第 2 章の問	課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第 2 章の問	課題レポート
7	導関数の計算方法	・積, 商の導関数	第 2 章の問	課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第 2 章の問	課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第 2 章の問	課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第 3 章の問	課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第 3 章の問	課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第 3 章の問	課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第 3 章の問	課題レポート
14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	第 4 章の問	課題レポート
15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	第 4 章の問	課題レポート
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第 5 章の問	課題レポート
17	高次導関数 (2)	・指数, 対数, 三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第 5 章の問	課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第 6 章の問	課題レポート
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大, 極小	第 6 章の問	課題レポート
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第 6 章の問	課題レポート
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第 6 章の問	課題レポート
22	関数の展開 (2)	・指数関数, 三角関数, 対数関数の展開・2 項定理の一般化	第 6 章の問	課題レポート
23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第 7 章の問	課題レポート
24	原始関数 (2)	・整式, 有理式的不定積分	第 7 章の問	課題レポート
25	原始関数 (3)	・三角関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
26	原始関数 (4)	・指数関数, 対数関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第 7 章の問	課題レポート
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第 7 章の問	課題レポート
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第 7 章の問	課題レポート

関連科目	微積分 II; 線形代数 I; II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学(確率統計)
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
-----------	----------------------------

学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問してください。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前事後学習には、各々毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	安井 幸則
ディプロマポリシー(DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1003a0		

授業概要・目的	1 変数関数の定積分, 及び多変数関数の微積分法の初歩について理解することを目的とする
到達目標	(1) 基本的な関数の定積分・広義積分が計算できる (2) 偏微分の計算ができ, 2変数関数の挙動が分かる. (3) 重積分の計算ができる.
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を計算例を中心に解説し, 理解の程度を演習や課題を通して確かめる。授業内容を確実に自分のものにするよう心掛けて欲しい。課題の提出や返却にはMoodleを利用する予定だが, コース名や登録キーについては初回の講義で説明する。
科目学習の効果(資格)	微積分は理工系科目の必須教養であり, ほぼ全ての専門科目は微積分学の知識を前提としている。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	簡単な定積分	・定数関数, 1次, 2次関数の定積分 ・不定積分と定積分 ・基本的な関数の定積分	第8章の問題
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理 ・不定積分と定積分	第8章の問題
4	定積分の計算法(2)	・置換積分 ・部分積分	第8章の問題
5	定積分の計算法(3)	・指数関数, 三角関数の定積分	第8章の問題
6	定積分の計算法(4)	・有理関数, 無理関数の定積分	第8章の問題
7	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問題
8	定積分の応用(2)	・体積の計算 ・回転体の体積	第8章の問題
9	広義積分(1)	・広義積分	第8章の問題
10	広義積分(2)	・広義積分の収束	第8章の問題
11	点列の極限	・内点, 境界 ・内部, 閉包 ・開集合, 閉集合	第9章の問題
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例 ・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問題
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面 ・グラフ上の曲線	第9章の問題
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限 ・2変数関数の連続性	第9章の問題
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問題
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の問題
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義 ・偏導関数の計算法	第9章の問題
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性 ・全微分可能性	第9章の問題
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の問題
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義 ・偏微分の順序交換	第9章の問題
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分 ・偏微分作用素の表示	第9章の問題
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開	第9章の問題
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問題
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理 ・条件付き極値問題	第9章の問題
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分 ・長方形領域上での重積分	第10章の問題
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の問題
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の問題
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の問題
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の問題
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分 ・ガンマ関数とベータ関数	第10章の問題

関連科目 本講義を履修する前に微積分Ⅰを履修し, 単位を取得しておくこと。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。			
学生への メッセージ	講義の時間以外にも予習・復習を行うことが重要です。積極的に講義に参加して、分からない点があれば気軽に質問してください。しっかりと微分積分の計算能力を身につけましょう。また、5号館1階の数学教室と2号館2階のラーニングセンターには数学教員がいますので、(授業内容に限らず)数学/自然科学に関して質問があれば気軽にお越しください。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。			

科目名	微積分 II	科目名 (英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1003a0		

授業概要・目的	定積分の概念と計算法, 2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握, 重積分の概念と計算法を説明する。
到達目標	以下の微積分の基本事項を実行する能力を有すること。 1) 基本的な関数の積分 2) 偏微分の計算 3) 2変数関数の挙動の理解 4) 重積分の計算
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し, 理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を実際に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。そのためには, 欠席をせず授業の前に 30 分でも良いから復習を重ねること。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は, 諸々の数学及び専門科目の習得に引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	定積分の定義	・面積と定積分 ・定積分の定義・定積分の性質	演習問題(1 時間)
2	簡単な定積分	・定数関数, 1 次, 2 次関数の定積分 ・基本的な関数の定積分	演習問題(1 時間)	
3	定積分の計算法 (1)	・微積分の基本定理 ・不定積分と定積分	演習問題(1 時間)	
4	定積分の計算法(2)	・置換積分	演習問題(1 時間)	
5	定積分の計算法(3)	・部分積分	演習問題(1 時間)	
6	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	演習問題(1 時間)	
7	定積分の応用(2)	・回転体の体積	演習問題(1 時間)	
8	定積分の応用(3)	・曲線の弧長	演習問題(1 時間)	
9	定積分の応用(4)	・広義積分	演習問題(1 時間)	
10	定積分の応用(5)	・ガンマ関数	演習問題(1 時間)	
11	2 変数の関数(1)	・2 変数関数の例 ・xy 平面内の領域と関数の定義域	演習問題(1 時間)	
12	2 変数の関数(2)	・2 変数関数の極限, 連続性	演習問題(1 時間)	
13	偏微分の計算(1)	・偏微分の定義 ・偏微分及び全微分可能性 ・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	演習問題(1 時間)	
14	偏微分の計算(2)	・連鎖法則, 極座標などへの応用	演習問題(1 時間)	
15	中間試験及びその解答解説	・第 1 回～第 14 回の範囲の中間試験, 及びその解答解説	演習問題(1 時間)	
16	偏微分の計算(3)	・2 次偏導関数 ・偏微分の順序交換	演習問題(1 時間)	
17	高次偏導関数(1)	・偏微分作用素の表示	演習問題(1 時間)	
18	高次偏導関数(2)	・2 変数関数のテイラー展開, 平均値の定理	演習問題(1 時間)	
19	偏微分の応用(1)	・2 変数関数の極値問題	演習問題(1 時間)	
20	偏微分の応用(2)	・2 変数関数の最大最小	演習問題(1 時間)	
21	偏微分の応用(3)	・陰関数の定理	演習問題(1 時間)	
22	偏微分の応用(4)	・条件付き極値問題	演習問題(1 時間)	
23	重積分の定義(1)	・体積と重積分 ・長方形上の重積分	演習問題(1 時間)	
24	重積分の定義(2)	・曲線で囲まれた領域上の重積分 ・重積分と立体の体積	演習問題(1 時間)	
25	重積分の計算法(1)	・ヤコビ行列式を用いた変数変換(1)	演習問題(1 時間)	
26	重積分の計算法(2)	・ヤコビ行列式を用いた変数変換(2)	演習問題(1 時間)	
27	重積分の計算法(3)	・広義重積分	演習問題(1 時間)	
28	重積分の計算法(4)	・曲面の表面積	演習問題(1 時間)	
29	重積分の計算法(5)	・回転体の表面積	演習問題(1 時間)	
30	重積分の計算法(6)	・ベータ関数とガンマ関数	演習問題(1 時間)	

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 線形代数 I 以下の科目の講義は微積分 II の知識とスキルを前提にして授業が進められる。 電気数学 II, フーリエ解析, 確率統計, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 応用数学 I, 応用数学 II 上記科目を受講する予定の学生は微積分 II を履修すること
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 - 理工系学生に向けて - (ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%で判定し評価する。			
学生への メッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。			
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。レポート課題は毎回採点して返却し、解答解説を行う。			

科目名	構造力学 I	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 奥田 泰雄, 藤本 知美
ディプロマポリシー (DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2047a0		

授業概要・目的	<p>建築物の構造的安全性を確保するための構造上の基礎的知識を修得する。他の構造関係の科目を学習する上で必要な重要科目である。構造材料の力学的性質、静力学の基礎的事項を述べ、静定骨組構造の力学的解析法について解説する。静定梁、静定ラーメン、静定トラスなど簡単な構造要素について構造物の支点反力や内部に生ずる断面力を正確に求め、断面力図を描くための演習を行う。また、静定梁の応力の解析手法を解説し、そのための演習を行う。</p> <p>授業担当者は、建築構造設計の実務経験を有し、一級建築士資格を保有している。その実務経験を生かし、就職後の業務イメージがつくような授業展開を行う</p> <p>SDGs-11 に該当する科目である</p>
到達目標	1) 静定骨組構造の断面力を求め、断面力図を描くことができる、2) 静定トラス構造の断面力を求めることができる、3) 骨組部材の断面力から応力を求めることができる
授業方法と留意点	講義形式による解説と演習を繰り返しながら進める。よって遅刻・欠席などないようにすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士資格取得のために必須である。本講義については、単位修得のために取り組むのではなく、将来の一級建築士・二級建築士受験時をみすえて取り組むこと

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンス・反力算定	授業の目的と概要、評価基準と注意事項、専門関連科目との関係、反力算定の確認・復習	(事前) 構造力学・構造基礎で学んだ反力算定の復習	(事後) 本日解いた問題を再解答する
2	静定梁の断面力 (1)	集中荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
3	静定梁の断面力 (2)	分布荷重の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
4	静定ラーメンの断面力 (1)	静定ラーメン (単純梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
5	静定ラーメンの断面力 (2)	静定ラーメン (片持ち梁) の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
6	静定ラーメンの断面力 (3)	静定ラーメンの断面力図の意味と符号の確認＝力の流れを意識する＝	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
7	ヒンジを有する静定梁の断面力	連続梁の断面力、断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
8	ヒンジを有するラーメン構造の断面力	3 ヒンジラーメン・連続梁の断面力と断面力図	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
9	断面力算定	断面力算定の確認テスト	(事前) これまで解いた問題を再解答	(事後) テストの振り返り
10	静定トラス (1)	トラスとは? トラスの種類	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
11	静定トラス (2)	トラスの解法 (接点でのつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
12	静定トラス (3)	トラスの解法 (接点法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
13	静定トラス (4)	トラスの解法 (梁のつり合い)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
14	静定トラス (5)	トラスの解法 (切断法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
15	静定力学のまとめ	反力算定から断面力算定まで、力の流れ	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いた問題を再解答する
16	中間テスト	-----	(事前) これまでの学習内容について総復習する	(事後) 本日解いたテスト問題を再解答する
17	断面の性質 (1)	断面 1 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
18	断面の性質 (2)	断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
19	断面の性質 (3)	図心軸からずれる断面 2 次モーメントについて	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
20	断面の性質 (4)	断面 2 次モーメントの算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
21	軸方向力のみを受ける梁要素	軸方向力のみをうける梁要素の応力算定手法	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
22	断面力の定義、応力ブロック	断面力と断面力に作用する応力 (応力ブロック)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
23	断面に作用する応力 (1)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合の応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
24	断面に作用する応力 (2)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
25	断面に作用する応力 (3)	軸方向力と曲げモーメントが作用する場合のラーメンの応力算定 (解法)	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する
26	断面に作用する応力 (4)	2 方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む	(事後) 本日解いた問題を再解答する

	27	断面に作用する応力 (5)	軸方向力と2方向の曲げをうける梁要素の応力	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する																
	28	許容応力度設計	梁の構造設計法について学び、応力を求めたのち、断面算定を行う。	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する																
	29	曲げに伴うせん断応力 (1) (2)	曲げに伴う梁のせん断応力を求めるまた、H型鋼のせん断力と曲げ応力を求める。	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する																
	30	振り返りと確認テスト	これまでの振り返りと確認テスト	(事前) 配布資料を読む (事後) 本日解いた問題を再解答する																
関連科目	構造力学・構造基礎、構造力学Ⅱ、構造力学Ⅲ、その他建築構造関係の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 構造力学入門</td> <td>豊田正敏、島村和夫</td> <td>東洋書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 構造力学入門	豊田正敏、島村和夫	東洋書店	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	図説 構造力学入門	豊田正敏、島村和夫	東洋書店																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	講義内に実施する中間テスト (1回) と期末試験の成績を合計して70%、また、講義内で行う確認テストや確認レポート (合計5回程度) の成績を30%とし、あわせて100%で評価を行い、60%以上を合格とする。																			
学生へのメッセージ	建築の構造安全性を考える上で、重要な基礎科目である。 この科目を履修するためには、構造力学・構造基礎で履修した知識を必要とする。特に、構造力学・構造基礎で学んだ反力の算定、断面力算定はもう一度復習すること。毎回の講義で行う演習問題を復習していくと、理解が一層進む。																			
担当者の研究室等	8号館3階 池内教授室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること 事後学習：事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて問題を解きなおす。特に授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。 レポート、小テストはすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。 																			

科目名	構造力学Ⅱ	科目名(英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	3	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 泰雄, 池内 淳子, 福井 弘久
ディプロマポリシー(DP)	H◎		
科目ナンバリング	TDA2048a0		

授業概要・目的	<p>建築構造を理解するために、あるいは実務での思考に必要な以下に示す構造力学の知識・理論および理論の適用である計算手法に関する内容を、実際の建築構造に即して実例を示しながら具体的かつ実践的に教授する。</p> <p>建物を支持する骨組はほとんどが不静定構造で構成されている。構造力学Ⅰで学んだ静定構造物は力の釣合だけを考慮して応力(断面力)を算出できた。しかし、不静定構造物の応力や変形を計算するには、力の釣合式に加えて変位とひずみに関する適合条件式を用いなければならない。本講義では不静定構造物の代表的な解法である、仮想仕事法、たわみ角法、モーメント分配法に関する理論および手法を学ぶ。(SDGs-11)</p>
到達目標	<p>仮想仕事法、たわみ角法、モーメント分配法の(1)解法の原理を説明でき、(2)簡単な骨組について方程式を立てて応力あるいは変形を計算できる。</p>
授業方法と留意点	<p>講義内容資料および演習課題を配布し、講義形式による解説と演習を組合わせて授業を進める。</p> <p>基本的に対面授業とし、授業内容に応じてオンライン(TeamsやMoodle)での授業を併用する。授業方法や使用するICTツールなどの詳細は第1回の授業で説明する。</p> <p>遅刻・欠席などないようすること。欠席した場合のプリントの再配布は行わない。また、欠席した場合の授業内容については、自己責任において回復すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>将来、建築に携わる技術者を目指す者にとって、身につけておかなければならない基本的知識に関する内容であり、必須の教科である。また、一級・二級建築士資格取得のための必須科目である。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 不静定構造の考え方(1)	授業内容・授業計画の説明 静定と不静定、力の釣合と変形の適合。 講義+演習	(事前)構造力学Ⅰの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
2	不静定構造の考え方(2)	梁の釣合微分方程式とたわみの計算。 講義+演習	(事前)前回の復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
3	不静定構造の考え方(3)	仮想仕事の原理と単位仮想荷重法。 講義+演習	(事前)前回までのプリントおよび課題の復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
4	不静定構造の考え方(4)	単純な静定構造の変位計算。 講義+演習	(事前)前回までのプリントおよび課題の復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
5	不静定構造物の考え方(5)	梁微分方程式および仮想仕事法。 講義+演習	(事前)前回までのプリントおよび課題の復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
6	中間テスト1+復習	静定トラスと静定骨組の変位計算	(事前)前回までのプリントおよび課題の総復習。 (事後)解答例を良く見直しておく。
7	たわみ角法(1)	基本仮定、たわみ角法公式。 講義+演習	(事前)第2回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
8	たわみ角法(2)	たわみ角法公式の誘導 講義+演習	(事前)第7回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
9	たわみ角法(3)	剛度と剛比、たわみ角法実用公式。 講義+演習	(事前)第7,8回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
10	たわみ角法(4)	変位の適合条件式、節点方程式。講義+演習	(事前)第7-9回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
11	たわみ角法(5)	中間荷重が作用する場合のたわみ角法 講義+演習	(事前)第7-10回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答。
12	たわみ角法(6)	中間荷重が作用する場合のたわみ角法 講義+演習	(事前)第7-11回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
13	たわみ角法(7)	せん断力、軸力の計算。 講義+演習	(事前)第7-12回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
14	たわみ角法(8)	節点移動のない場合の総復習。 講義+演習	(事前)第7-13回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
15	中間テスト2+復習	節点移動のない場合のたわみ角法	(事前)中間荷重の扱いや、層方程式の立て方を含め、たわみ角法全般をよく復習する。 (事後)解答例を良く見直しておく。
16	たわみ角法(9)	節点移動がある場合の変位と変形、部材角間の関係。 講義+演習	(事前)第7-14の総復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
17	たわみ角法(10)	層方程式。 講義+演習	(事前)第16回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
18	たわみ角法(11)	節点移動がある場合の総復習。講義+演習	(事前)第17回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。
19	中間テスト3+復習	たわみ角法全般	(事前)節点移動がある場合のたわみ角法をよく復習し、解法について総復習する。

				(事後) 解答例をよく見直しておく。																
	20	たわみ角法(12)	多層・多スパン骨組. 講義+演習	(事前)第16-18回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	21	モーメント分配法(1)	基本仮定, 解法の原理。 講義+演習	(事前)第7-9回のプリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	22	モーメント分配法(2)	節点の回転拘束と単位回転角を与える材端モーメント。 講義+演習	(事前)第21回プリントの復習する。 (事後)解答例を良く見直しておく。																
	23	モーメント分配法(3)	モーメントの分配と伝達。 講義+演習	(事前)第21,22回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	24	モーメント分配法(4)	複数節点のモーメント解放。 講義+演習	(事前)第21-23回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	25	中間試験4+復習	変位移動がない場合のモーメント分配法。	(事前)節点移動がない場合のモーメント分配法をよく復習する。 (事後)解答例を良く見直しておく。																
	26	モーメント分配法(5)	モーメント分配法の実用法。 講義+演習	(事前)第21-25回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	27	モーメント分配法(6)	モーメント分配法の総復習	(事前)第21-26回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	28	モーメント分配法(7)	多層矩形ラーメン、節点移動がある場合のモーメント分配法の応用。 講義+演習	(事前)第27回プリントの復習。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
	29	中間試験5+復習	変位移動がある場合のモーメント分配法。	(事前)モーメント分配法全般をよく復習する。 (事後)解答例を良く見直しておく。																
	30	構造力学Ⅱ総復習	全般	(事前)仮想仕事法、たわみ角法、モーメント分配法全般をよく復習する。 (事後)講義プリントの復習と演習問題の解答を見直す。																
関連科目	常に構造力学Ⅰを復習しながら進むこと。構造力学の演習では、解析により部材の断面力(応力)を得たら必ず構造力学Ⅰで学んだ方法により断面力図と変形の略図を描くこと。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>建築構造力学図説・演習Ⅱ</td> <td>中村恒善</td> <td>丸善</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	建築構造力学図説・演習Ⅱ	中村恒善	丸善	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	建築構造力学図説・演習Ⅱ	中村恒善	丸善																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	中間試験+演習課題(50%)および期末試験(50%)の総計により評価する。																			
学生へのメッセージ	授業に毎回出席し、講義にしっかりと耳を傾け、配布資料および演習課題を納得いくまで繰り返し反芻すれば、将来建築の設計・施工・審査に関連する職業において必要かつ役立つ知識や能力を必ず身につけることができます。また、1級建築士あるいは2級建築士資格取得に役立ちます。講義には必ず電卓(関数電卓)を持参すること。																			
担当者の研究室等	8号館3階 奥田教授室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回0.5時間以上の時間をかけること。 事後学習: 事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間以上かけて講義内容の復習および授業で解答した問題は必ず解きなおすこと。また、中間試験は採点后返却するので間違った問題は解きなおす事。 理解できなくなったら、早めに質問に来ること。その際は、自分が解いたノートを持参すると、より理解が深まる。 																			

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA3447a1		

授業概要・目的	<p>主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> 授業オリエンテーション 講義委でのインターンシップと民間企業が行う 1day 仕事体験の違いを理解する 学生と社会人の違いを理解する インターンシップの目的を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間) 事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> 組織の形態を知る ビジネスへの理解を深める 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間) 事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間) 	
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> 産業の分類を知る 業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間) 事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間) 	
4	企業研究を志望動機に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> 志望動機を組み立て方について考える 企業研究を志望動機に結び付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：自身の興味のある企業について調べること(0.5時間) 事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間) 	
5	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> 社会人としての心構えを知る 身だしなみ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間) 事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5時間) 	
6	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> 文書でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間) 	
7	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> 口頭でのコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間) 事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5時間) 	
8	履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> エントリーシートとは何かを知る エントリーシートを書くための前準備を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること(0.5時間) 	
9	履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> インターンシップ用の履歴書を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間) 事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間) 	
10	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> 企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える 実際にグループディスカッションに取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返ること(0.5時間) 	
11	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> 議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間) 事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること(0.5時間) 	
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> 事前訪問のマナーと準備について 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間) 事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間) 	
13	課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> インターン先を調べて、インターンシ 	<ul style="list-style-type: none"> 事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5 	

	ヨソ②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
16	直前学修① 6月22日(土) 3限(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用のこと	・事前学修: 社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
17	直前学修② 6月22日(土) 4限(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
25	事後学修① 9月14日(土) 3限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
26	事後学修② 9月14日(土) 4限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
27	事後学修③ 9月28日(土) 3限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
28	事後学修④ 9月28日(土) 4限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
29	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修: 実習記録簿を見直してこること(0.5時間)
30	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す
学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定) インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある
担当者の 研究室等	水野講師室(7号館3階)
備考	教科書・・・必要に応じてレジメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1o, E科: Ao, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。 ・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。 																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからならないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><4月6日(土) 1~3限> 第1回 「地域と私」への取り組み方; オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><4月20日(土) 1~3限> 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聞いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&ディスカッション</p> <p><5月18日(土) 1, 2限> 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p><6月1日(土) 1, 2限> 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える</p> <p><6月15日(土) 1, 2限> 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p><6月29日(土) 1~3限> 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p> <p>本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。</p>																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク) 30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理 成果物(個人ワーク) 20%</p>																		

	<p>学びのグループワークレポート 30%</p> <p>最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価)</p> <p>なお、60%で合格とする。</p>
学生へのメッセージ	<p>地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。</p>
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室</p>
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: A◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5月後半(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
	SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月12日(金) 5限 ※2回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日5限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。 2. チームビルディングワーク 3. 連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供 4. 連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション 5. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に關しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	水野武(寝屋川キャンパス7号館3階)																		
備考																			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明、鎌田 祥輝、谷口 雄一、西村 晃一、松浦 正典、吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業生を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	栄養教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Teaching II (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習は小学校・中学校の役割や組織について知り、栄養教諭としての職務を理解し、その使命感や責任感を養うことを目的とする。また、児童・生徒への理解や関係づくりや指導に関する実践力を養う。大学で学んだ理論と教育現場での実践とを結び付けてリフレクションし、栄養教諭を目指す自己の課題を見極め、さらに向上を目指して知識と技能の修得に努める。教育実習終了後には、実習の反省・問題点の整理を行い、報告会を実施することにより、今後の課題を確認し、教育実習の体験を生かし、児童・生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。																		
到達目標	① 学校運営や学級経営、指導方法について知り、栄養教諭としての係わり方について考えることができる。 ② 担任や栄養教諭の指導方法を意欲的につかもうとする。 ③ 児童・生徒と係わりながら関係を築き、指導力を養おうとする。 ④ 給食の時間に給食を教材に指導することができる。 ⑤ 研究授業をとおして、児童・生徒の食に対する関心を高めることができる。 ⑥ 教育実習を反省し、成果と課題をまとめ発表ができる。																		
授業方法と留意点	[実習場所] 枚方市内の小学校 [実習方法] 1. 栄養教育習校の管理職による講義 2. 栄養教育習校の学級担任による講義 3. 栄養教育習校の栄養教諭による講義 4. 指導案作成と学級担任、学年主任、教務主任からの指導 5. 給食の時間の参観																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事前指導 ・オリエンテーション ・事前打ち合わせ ・指導案作成 2. 実習内容 ・学校運営について学ぶ ・学級運営と児童生徒の指導について学ぶ ・生徒指導 ・学級活動参観 ・学校行事参観 ・実習校における食の全体計画と年間計画を学ぶ ・実習校における家庭・地域との連携について学ぶ ・栄養食事管理について学ぶ ・給食の時間の指導 ・給食当番の指導 ・給食の時間中の事故防止 ・給食の時間における衛生管理 ・研究授業の実施 ・食育指導案の作成 ・授業研究における授業と反省 3. 事後指導 ・報告会																		
関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ 教職実践演習 全ての教職課程必修科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食に関する指導の手引き 第二次改訂版</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房	2	別途、指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房																
2	別途、指示する																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 ・受け入れ校 50% ・実習ノート 40% ・学修への取り組み(ルーブリック評価) 10%																		
学生へのメッセージ	教育実習での体験を大学で学んだ理論と結び付け、栄養教諭として必要な知識と技能を修得するとともに、新たな発見や課題点に気づき栄養教諭としての実践力を高めましょう。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879(直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp																		
備考	事前・事後総学習時間は15時間程度である。																		

科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【重要】 第1回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2~3回たってから参加するという事もできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。</p> <p>【授業内容】 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。</p> <p>【前期】 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。</p> <p>第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います)</p> <p>【後期】 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」</p>																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみよう！																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 (寝屋川キャンパス、1号館7階)																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICT ツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度 40%、企画力 20%、コミュニケーション能力 20%、発表能力 20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。 ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。 ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。 ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体: 大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援 2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表 <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。 																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。 ・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。 ・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。 																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスについて ・調査活動 ・イベント参加 ・小冊子等作成 <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスについて：講義+演習形式 ・その他の内容：グループ活動 <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																				
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。 																				
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																				
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <table border="0"> <tr><td>4月</td><td>ご挨拶</td></tr> <tr><td>5月</td><td>企画会議</td></tr> <tr><td>6月</td><td>自主事業内容の決定および出演交渉</td></tr> <tr><td>7月</td><td>中間報告会</td></tr> <tr><td></td><td>寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼</td></tr> <tr><td>8月</td><td>チラシのデザイン作業</td></tr> <tr><td>9月</td><td>チラシの印刷・配付およびチケット作成</td></tr> <tr><td>10月</td><td>ポスターセッション チケット発売開始</td></tr> <tr><td>11月</td><td>打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)</td></tr> <tr><td>12月</td><td>最終報告会 準備および本番</td></tr> </table> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。 	4月	ご挨拶	5月	企画会議	6月	自主事業内容の決定および出演交渉	7月	中間報告会		寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼	8月	チラシのデザイン作業	9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成	10月	ポスターセッション チケット発売開始	11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)	12月	最終報告会 準備および本番
4月	ご挨拶																				
5月	企画会議																				
6月	自主事業内容の決定および出演交渉																				
7月	中間報告会																				
	寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼																				
8月	チラシのデザイン作業																				
9月	チラシの印刷・配付およびチケット作成																				
10月	ポスターセッション チケット発売開始																				
11月	打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者)																				
12月	最終報告会 準備および本番																				
関連科目	すべての科目																				
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3							
番号	書籍名	著者名	出版社名																		
1																					
2																					
3																					
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																				
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																				
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																				
備考																					

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p>【概要】 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p>【目的】 アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。 																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業計画】</p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。 																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~8月 説明会準備 9月 説明会実施 10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション</p> <p>5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ</p> <p>6~8月 説明会準備</p> <p>9月 説明会実施</p> <p>10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25%</p> <p>協調性 25%</p> <p>課題発見・解決力 25%</p> <p>プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5)</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【前期】</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>【夏季休暇期間～後期】</p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室 ・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室 																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5)</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【前期】</p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p>【夏季休暇期間～後期】</p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室 ・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室 																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																
到達目標	<p>■PBL プロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ 																
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月: 門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																
担当者の研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる ・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く ・子どもたちの非認知能力の向上に務める ・子どもたちに喜んでもらえ 																
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月: 門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																
担当者の研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会实践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也,小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。 ② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。 ③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。 ④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。 ⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。 <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 大上 雅史, 貴志 泰正, 栃尾 実, 中島 利郎, 東谷 篤志, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDA1018a0		

授業概要・目的	身近な物理現象に接しながら、理工学に必要な基礎的計測技術を身に付けるとともに、専門分野を越えた理工学全体の基礎的な考え方を身に付ける。授業担当者の多くは、現在も実務についている、または実務経験（建築構造関連）を有しており、本実験で学ぶ物理現象と建築物の関係を説明する。(SDG s-11)																
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの基礎的な計測技術を身に付ける。 (2)工学、物理学の基礎的な考え方を実験により身に付ける。 (3)ものつくりの基本である「見る、聴く、触れる、嗅ぐ、味わう」の五感を働かせることと、よく考えて予想・考察する力を身に付ける。 (4)自らの役割に主体的に取り組む、他のメンバーと協力・話し合い・働きかけて、目的を実行する能力を身に付ける。 (5)準備学習する習慣を身に付ける。																
授業方法と留意点	実験は大学にて対面形式で行う。実験は2～3名のチームで協力して行う。実験室は常時換気するとともに、作業前後に器具のアルコール消毒する。時間内に実験からレポート作成まで行う。課題演習は遠隔授業で実施することもある。なお、実験をオンライン模擬実験に変更する場合もある。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1回目・2回目：ガイダンス、歩測、単位と記号 3～14回目：下記テーマの実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す）※実験内容は授業初回時に発表 実験テーマ： (1)歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？ (2)体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。 (3)浮力 浮力のメカニズムを理解する。 (4)平面図形の重心（図心） 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？ (5)力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。 (6)フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。 (7)重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。 (8)水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。 (9)圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。 (10)仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。 (11)電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を学ぶ。オームの法則、直流と交流について調べる。 (12)電池の仕組み 金属のイオン化傾向を調べ、化学電池（乾電池）の基礎を学ぶ。次世代電池の仕組みを理解する。 (13)電流と磁場 磁石を使って電気をつくり、つくった電気で磁場中の導線を動かす。逆の現象として、磁場の力で動きを止める磁気ブレーキを体験する。 (14)光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。 (15)空気の対流 空気の対流を作り、対流内の温度差を計測することで仕組みを理解する。 (16) p HとE C 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。 (17)ピオトープの観察 ピオトープの環境を調べ、生物を観察する。 15回目：総合演習																
関連科目	構造力学・構造基礎はじめ、建築構造系科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td>摂南大学</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	理工学基礎実験	摂南大学理工学部	摂南大学														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	課題演習（50%）、レポート（50%）の割合で評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 建築を学ぶには、物理現象に興味を抱き理解しようとするのが大切です。「理工学基礎実験」を通じて工学や物理学の基礎的な考え方を知り、理解を深めるために役立ててください。 レポート、小テストは、すべて返却予定です。返却されたレポートは見直し・解き直しを行うことが重要です。 																
担当者の研究室等	8号館3階 池内教授室 8号館3階 柳沢教授室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習として、教科書を読み用紙に要約する課題を課している。毎回1時間以上をかけ、教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書き、課題を提出すること。 レポートはすべて返却するため、次のレポート点数がよくなるように見直すこと。 																

科目名	建築ゼミ I	科目名 (英文)	Seminar in Architecture I
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA1065a0		

授業概要・目的	建築学は計画・環境・構造・生産など幅広い分野からなる。建築ゼミ I では、その全貌ならびに概要を示すとともに、各分野の学び方、大学における勉強・調査・研究の仕方や倫理などを、グループワークを主とした課題の中で取り組み、そのプロセス、成果をプレゼンテーションすることを通じて、建築学に必要な多面的評価眼を育成することを目的とする。また、建築全般について、学生生活全般にわたって、教員に相談が出来る機会でもある。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供する。【SDGs-11】																
到達目標	1) 建築学の各分野の概要を把握する。2) 課題を把握し、提案、発表する能力を培う。3) 大学での勉強の仕方を身につける。																
授業方法と留意点	建築ゼミ I では、各教員に同人数となるようにゼミ分けをする。グループワークを主とした課題の指導はゼミ単位で行う。また、ここで決定するゼミ担当教員が3年次前期までの担任であり、日常的な質問や相談の窓口になる。本科目は基本的に対面授業とするが、場合によっては Teams や Moodle を併用する。よい成果をえるためには、積極的に学生同士でチームワークを発揮し、意見交換や進捗状況を相互に確認しながら、成果物を作り上げる。以下の流れに沿って、各回教員毎の9グループに分かれ、建築学科で学ぶ内容、計画・環境系および構造・生産系に関する課題を模倣的に体験し、成果を発表する。 ※状況に応じて見学会を実施。その場合はプログラムを変更する。初回授業時にアナウンスする。 (第1回) 全体ゼミ1: 建築学科で学ぶ内容 (コース概要等) について・コース申請等 (第2回) 全体ゼミ2: 建築学科で学ぶ内容 (倫理教育等) について (ファーストイヤーガイドを用いて研究不正の防止や ISO14000 の取り組みなどを知る) (第3回) 全体ゼミ3: 建築学科で学ぶ内容 (専門分野) について (第4回) 計画・環境系課題グループワーク1 (課題説明・建築模型材料の加工方法) (第5回) 計画・環境系課題グループワーク2 (グループディスカッション・課題制作) (第6回) 計画・環境系課題グループワーク3 (グループディスカッション・課題制作) (第7回) 計画・環境系課題グループワーク4 (グループディスカッション・課題制作) (第8回) 計画・環境系課題グループワーク5 (制作の仕上げ・振り返り) (第9回) 計画・環境系課題グループワーク6 (プレゼンテーション01) (第10回) 構造・生産系課題グループワーク7 (課題説明・グループディスカッション・課題制作) (第11回) 構造・生産系課題グループワーク8 (グループディスカッション・課題制作・実験) (第12回) 構造・生産系課題グループワーク9 (グループディスカッション・課題制作) (第13回) 構造・生産系課題グループワーク10 (グループディスカッション・課題制作・実験) (第14回) 構造・生産系課題グループワーク11 (グループディスカッション・考察) (第15回) 構造・生産系課題グループワーク12 (プレゼンテーション02)																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題																	
関連科目	専門科目全般																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み (チームワーク力) (75%) 作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物 (25%)																
学生へのメッセージ	ようこそ建築学科へ! この授業では、建築学科の専任教員と1年生全員が毎週集うことで授業を進めます。積極的に取り組み、発言し、建築の学びをスタートしてください。また、学科生同士の絆を作っていきましょう。																
担当者の研究室等	8号館3階 各教員の研究室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> 授業の進め方などについては初回授業で説明する 講義等の順番は変更になることがある。その場合は事前に通告するので掲示板をよく見ておくこと。 事前・事後学習: 授業テーマに即して様々な課題が提示される。毎回、最低でも事前学習 0.5 時間、事後学習 1h をかけて授業に臨むこと。成果を作成する場合はさらに時間をかけて丁寧に取り組むこと。 レポート等はすべて返却する。見直しや修正を自分で行うことが重要である。 																

科目名	建築ゼミⅡ	科目名(英文)	Seminar in Architecture II
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA2066a0		

授業概要・目的	<p>建築学は計画・環境・構造・生産など広い分野からなる。本授業では専任教員が各専門分野の概要を示すと同時に、各専門分野に関連する課題を出題する。それらを通じて、建築学各分野の領域の把握、ならびに、社会が抱える問題を理解し、調査内容を編集・プレゼンテーションする能力を高めることを目的とする。また、各専門分野ごとの課題に取り組み、全体を総括することで、多面的価値観を育成し、コミュニケーション力の向上を図る。演習課題は、計画・作業・考察・発表といったプロセスを少人数グループで取り組み、共有することで、学生間のチームワーク力向上をはかる。</p> <p>なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有し、一級建築士資格を保有している。その実務経験を生かし、授業展開を行う。SDGs-11に該当する科目である。</p>																		
到達目標	<p>1) 建築学における専門分野の概要を説明できる。 2) 課題を探索し、解決のプロセスを考え、発表できる。 3) 少人数グループ単位での活動において、チームワーク力を発揮できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>出題される課題に対して、課題解決に向けたプロセスを探索し、作品・調査分析・実験結果考察・レポート等を作り上げる。授業内容に応じて、対面での授業とオンラインでの授業を併用する。各回授業の順序、ならびに使用する ICT ツールや方法などの詳細は第一回の授業にて説明する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>第1回 全体ゼミ1 / ガイダンス・建築の専門分野 第2回 全体ゼミ2 / 各課題の概説・プレゼンテーション力・コミュニケーション力など 第3回 計画・環境系課題1 / 計画 (課題解決へ向けたプロセス) 第4回 計画・環境系課題2 / 方法 (フィールドワーク、実測、測定、制作など) 第5回 計画・環境系課題3 / 結果 (分析・考察) 第6回 計画・環境系課題4 / 発表 (プレゼンテーション) 第7回 構造・生産系課題1 / 計画 (課題解決へ向けたプロセス) 第8回 構造・生産系課題2 / 方法 (実験、実測、測定、制作など) 第9回 構造・生産系課題3 / 結果 (分析・考察) 第10回 構造・生産系課題4 / 発表 (プレゼンテーション) 第11回 総合課題1 / 計画 (課題解決へ向けたプロセス) 第12回 総合課題2 / 方法 (編集、加工、見学など) 第13回 総合課題3 / 制作 (プレゼンテーションデザイン) 第14回 総合課題4 / 発表 (プレゼンテーション) 第15回 全体ゼミ3 / 成果報告・全体総括</p>																		
関連科目	専門科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>特に指定しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	特に指定しない。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	特に指定しない。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>各課題に対する取り組み姿勢、着眼点、成果物 (70%) 授業全体を通じての積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み (チームワーク力) (30%)</p>																		
学生へのメッセージ	<p>建築学のさまざまな専門分野を知り、興味を抱くこと、また将来の職業イメージをもつことは日々の学習意欲を高めることに繋がるので、他科目などとの連携・接続を意識して授業に取り組んでください。</p>																		
担当者の研究室等	8号館3階 各教員の研究室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方などについては、1回目授業時に説明する。 ・講義等の順番は変更となる場合がある。その場合は事前に通告するので、掲示、アナウンス等をよく確認すること。 ・事前・事後学習：授業テーマに即してさまざまな課題が提示される。事前・事後併せて4.5時間程度、これらの課題に取り組み成果を振り返ること。 ・レポート等はすべて返却する。見直しや修正を自分で行うことが重要である。 																		

科目名	建築ゼミⅢ	科目名(英文)	Seminar in Architecture III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 加嶋 章博, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3067a0		

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系などの分野からなり、9人の専任教員の分野も多岐にわたる。この科目では、4年次の卒業研究を考える第1段階として、専任教員の専門分野に関連する演習にゼミ単位で取り組み、基礎的な知識を修得する。 授業担当者は建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDG s-11)																
到達目標	卒業研究に向けた専門分野選択やテーマ選定を行う上で必要な素養を身につけるため、以下のことを到達目標とする。 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる。 国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーションができる。 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる。																
授業方法と留意点	専任教員ごとの9グループ(ゼミ)に分かれ、各教員の専門に関連した演習を行う。従って、ゼミ課題は基本的にゼミごとに異なる。ゼミ分属は、各ゼミがおおよそ同人数となるよう決定する。その際に本人の希望が優先されるが、1,2年次の成績や修得単位数などを参考に人数調整が行われる場合があるので、日常的な勉学に励むこと。 本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。 授業回数の順は前後する場合がある。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【第1回】 (授業テーマ) ガイダンス (内容・方法等) 各ゼミで課題や指導方針の説明など研究者倫理に関する基礎的な解説 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</p> <p>【第2回】～【第5回】 (授業テーマ) 各ゼミの個別課題 (内容・方法等) 各教員の専門に関連した演習 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</p> <p>【第6回】～【第7回】 (授業テーマ) 卒業研究中間発表会の聴講 (内容・方法等) 4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する (事前・事後学習課題) 卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</p> <p>【第8回】～【第13回】 (授業テーマ) 各ゼミの個別課題 (内容・方法等) 各教員の専門に関連した演習 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題</p> <p>【第14回】～【第15回】 (授業テーマ) 卒業研究審査会の聴講 (内容・方法等) 4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する (事前・事後学習課題) 卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)</p>																
関連科目	建築専門科目全般、一般教養科目、特に人文系、社会科学系																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み(チームワーク力)(30%) ・学科共通レポート等の提出物(30%) ・ゼミ内の作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物(40%) 																
学生へのメッセージ	4年生の卒業研究を考えていく上で、きっかけとなる重要な科目です。																
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科専任教員の各研究室																
備考	4年生の卒業研究中間発表会および卒業研究審査会の日程は、変更の可能性がある。別途、提示する。 事前・事後学習：事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組み成果を振り返ること。 ゼミ課題は発表会や展覧会を通じてコメントや質疑応答を行う。 授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。																

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	Co, Eo, Go		
科目ナンバリング	TDA4068a0		

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系等の分野からなり、専任教員の専攻も多岐にわたる。摂南大学理工学部建築学科で学んできた学習内容を活用し、おのおのが取り組む課題・テーマを基に研究を行う。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。《SDGs-11》																		
到達目標	各専門分野の基礎知識の習得と課題解決能力を向上して、成果を適切に発表する技術を修得する。																		
授業方法と留意点	専任教員の指導の下、ゼミ方式および個別指導方式とし、中間発表会および卒業研究審査会を実施する。自分のテーマに対し積極的に取り組み、他人のテーマにも関心を持つことで、分析能力や考察能力を向上することが重要である。 本科目は、全体ゼミ、個別ゼミ、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。 対面式授業を行う場合には、COVID-19 対策を十分実施し実施する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各研究室の研究活動方針にしたがって、卒業研究を遂行する。 卒業研究は、「卒業論文」、「卒業設計」、「卒業論文および卒業設計」の中から1つ選び、各研究室の指導においては、個人またはグループごとに研究テーマを設定し、課題の分析、情報収集等を行う。 卒業研究中間発表会ならびに卒業研究審査会で、論文または設計としてまとめたものを、発表して議論する。																		
関連科目	建築学全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	中間発表会および最終審査会による梗概・プレゼンテーション・成果物などの評価 60%と、日頃の取組みなどの卒業研究活動のプロセス・提出物の評価 40%を基に総合的に判断する。60 点を合格とする。																		
学生へのメッセージ	卒業研究は学部の集大成で、答えのないものにじっくりと取り組みます。やり遂げることで必ず力がつきます。																		
担当者の研究室等	8号館3階																		
備考	研究時間を十分に確保し、中間発表会ならびに最終審査会に向けて各自がスケジュールを管理し、研究を遂行すること。																		

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボミツ サジヤト*
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TEN2439c1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習 (応用) での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の履修者を想定し、GCMP の必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。 ・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。 ・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。 ・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。 ・グローバル・シチズンシップ副専攻課 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。() 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬) ・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月) ・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上旬 (2月中下旬～3月下旬) ・事後授業5回 (成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬) <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地が必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップである ECW (English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALL の英語 e-learning サービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)、グローバル・シチズンシップ論 (応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)、Topics in Global Citizenship (EMI)、摂南大学 PBL プロジェクト I など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましよう。いけるなら二度行きましよう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましよう。																

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センター まで 教員室1（2号館2階）
備考	

科目名	建築総合演習	科目名 (英文)	Comprehensive Exercises in Architecture
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3029a0		

授業概要・目的	<p>本授業では、建築・都市分野における専門・活動領域の広がりとその意義を理解する。様々な分野や専門家の実践を知り、働くりアルを知り、職業意識の醸成とキャリア形成の支援となることを目的とする。建築学科での学びをどのように社会と繋げられるのか、自ら考え、自ら学ぶ力を向上する。</p> <p>本授業は建築学科専任教員全員で担当する。授業担当者は、建築の実務経験を有し、一級建築士資格を保有している。その実務経験を生かし、キャリアイメージがつくような授業展開を行う。SDGs-11に該当する科目である。</p>																
到達目標	<p>1) 建築・都市分野における専門分野・活動領域の役割を説明できる。</p> <p>2) 建築・都市分野に関わる進路やキャリアデザインを自ら考えていくことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>それぞれの教員が研究内容や専門領域に関連するトピックについて概説する。また、専門家を招いてレクチャーを聴講する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【第1回から第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス／キャリアデザイン 建築専門分野とキャリア、建築の仕事に関する動向 <p>【第3回から第11回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会における建築専門分野が担う役割1 ・社会における建築専門分野が担う役割2 ・社会における建築専門分野が担う役割3 ・社会における建築専門分野の広がり1 ・社会における建築専門分野の広がり2 ・社会における建築専門分野の広がり3 ・社会の発展を可能にする建築専門分野1 ・社会の発展を可能にする建築専門分野2 ・社会の発展を可能にする建築専門分野3 <p>【第12回から第14回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画／環境系分野の実践 (外部講師によるレクチャー) 当該分野に対する仮ポートフォリオの作成1 ・構造／生産系分野の実践 (外部講師によるレクチャー) 当該分野に対する仮ポートフォリオの作成2 ・その他関連分野の実践 (外部講師によるレクチャー) 当該分野に対する仮ポートフォリオの作成3 <p>【第15回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り／ポートフォリオの完成と発表 <p>*講義の順番は変更になることがある。</p> <p>(事前学習) 事前配布した資料を読み解く・前回に実施した課題について振り返る (事後学習) 課題を製作する。配布資料を読みなおし、理解を深める</p>																
関連科目	建築ゼミⅠ、建築ゼミⅡ、建築ゼミⅢ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	課題レポート、ポートフォリオなどの提出物 (100%)																
学生へのメッセージ	卒業生や外部講師がレクチャーに来てくれます！ どうぞ期待ください。																
担当者の研究室等	8号館3階各教員の研究室																
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方などについては初回授業で説明する ・講義等の順番は変更になることがある。その場合は事前に通告するので掲示板をよく見ておくこと。 ・事前・事後学習：授業テーマに即して様々な課題が提示される。毎回、最低でも事前学習0.5時間、事後学習1hをかけて授業に臨むこと。成果を作成する場合はさらに時間をかけて丁寧に取り組むこと。 ・レポート等はすべて返却する。見直しや修正を自分で行うことが重要である。 																

科目名	建築ゼミⅢ	科目名(英文)	Seminar in Architecture III
学部	理工学部	学科	建築学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 加嶋 章博, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDA3067a0		

授業概要・目的	建築学は、計画・環境・構造系などの分野からなり、9人の専任教員の分野も多岐にわたる。この科目では、4年次の卒業研究を考える第1段階として、専任教員の専門分野に関連する演習にゼミ単位で取り組み、基礎的な知識を修得する。 授業担当者は建築の実務経験を有する。この経験を活かし、受講生に実務を意識した学びを提供します。(SDG s-11)																
到達目標	卒業研究に向けた専門分野選択やテーマ選定を行う上で必要な素養を身につけるため、以下のことを到達目標とする。 建築・都市の問題点と課題の抽出方法および改善提案に結びつく調査・分析方法を学び、チームワーク力を発揮して社会の問題を解決するためのデザインを提案できる。 国内外の文献や資料から幅広い知識を獲得でき、また建築・都市工学技術者として日本語および外国語を用いたコミュニケーションができる。 建築・都市工学技術者に求められる空間表現と情報処理技術を学び効果的にプレゼンテーションができる。																
授業方法と留意点	専任教員ごとの9グループ(ゼミ)に分かれ、各教員の専門に関連した演習を行う。従って、ゼミ課題は基本的にゼミごとに異なる。ゼミ分属は、各ゼミがおおよそ同人数となるよう決定する。その際に本人の希望が優先されるが、1,2年次の成績や修得単位数などを参考に人数調整が行われる場合があるので、日常的な勉学に励むこと。 本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。 対面式授業ではCOVID-19対策として3密を避け換気のよい場所で実施する。 授業回数の順は前後する場																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【第1回】 (授業テーマ) ガイダンス (内容・方法等) 各ゼミで課題や指導方針の説明など研究者倫理に関する基礎的な解説 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題 【第2回】～【第5回】 (授業テーマ) 各ゼミの個別課題 (内容・方法等) 各教員の専門に関連した演習 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題 【第6回】～【第7回】 (授業テーマ) 卒業研究中間発表会の聴講 (内容・方法等) 4年生の卒業研究中間発表会を聴講し概要を記録する (事前・事後学習課題) 卒業研究中間発表会の聴講レポート(ゼミ間共通課題) 【第8回】～【第13回】 (授業テーマ) 各ゼミの個別課題 (内容・方法等) 各教員の専門に関連した演習 (事前・事後学習課題) 各ゼミの取り組み方法に合わせた学習課題 【第14回】～【第15回】 (授業テーマ) 卒業研究審査会の聴講 (内容・方法等) 4年生の卒業研究審査会を聴講し概要を記録する (事前・事後学習課題) 卒業研究審査会の聴講レポート(ゼミ間共通課題)																
関連科目	建築専門科目全般、一般教養科目、特に人文系、社会科学系																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対する積極性やグループワークにおける責任遂行および連携の取り組み(チームワーク力)(30%) ・学科共通レポート等の提出物(30%) ・ゼミ内の作品・実験結果・調査分析・レポート等の提出物(40%) 																
学生へのメッセージ	4年生の卒業研究を考えていく上で、きっかけとなる重要な科目です。																
担当者の研究室等	8号館3階 建築学科専任教員の各研究室																
備考	4年生の卒業研究中間発表会および卒業研究審査会の日程は、変更の可能性がある。別途、提示する。 事前・事後学習：事前・事後併せて4.5時間程度、課題に取り組み成果を振り返ること。 ゼミ課題は発表会や展覧会を通じてコメントや質疑応答を行う。 授業課題はすべて返却する。解き直しを自分で行うことが重要である。																